

社会福祉学科

社会福祉コース

1年生

(講義)	科目名:社会福祉入門	講師: 横山由里
科目概要・目標	少子高齢化の進むわが国は、ますます福祉重視型の社会をめざしている。これから社会福祉に関わる仕事をめざす学生のために、福祉の基本や福祉に関連する職業にはどのようなものがあるのか、社会的に見て福祉とは何か、そして、福祉の職業に従事するためにどのような資格があるのか、各々の福祉領域で必要不可欠な能力とは何か等を学修する。また同時に、これまでの福祉理念の変遷を概観し、急速に変化していく現代社会における、これからの福祉のあり方についても考える。	
教科書	大島侑、他『シリーズ・はじめて学ぶ社会福祉①社会福祉概論』ミネルヴァ書房。	
提出課題	【設題1】サービスの利用者を支えるためのしくみが定められた背景とそのしくみの概要について述べよ。	
学修のポイント1	わが国の社会福祉法制について	
学修のポイント2	わが国の社会保障制度の体系について	
学修のポイント3	わが国の社会福祉行財政について	
学修のポイント4	社会福祉を支える原理について	
学修のポイント5	わが国における貧困をめぐる現状について	
学修のポイント6	地域福祉の意義とその担い手について	
期末試験	後日指示	
回数	授業内容	
第1回	学修のポイント①わが国の社会福祉法制について	
第2回	学修のポイント⑤わが国における貧困をめぐる現状について	
第3回	学修のポイント②わが国における社会保障制度の体系について	
第4回	福祉サービスの利用者を支えるためのしくみ①	
第5回	福祉サービスの利用者を支えるためのしくみ②	
第6回	福祉サービスの利用者を支えるためのしくみ③	
第7回	学修のポイント③わが国の社会福祉行財政について	
第8回	学修のポイント⑥地域福祉の意義とその担い手について	
第9回	学修のポイント④社会福祉を支える原理について	
第10回	わが国の高齢者福祉について①	
第11回	わが国の高齢者福祉について②	
第12回	バリアフリーとユニバーサルデザイン①	
第13回	バリアフリーとユニバーサルデザイン②	
第14回	期末試験対策	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	20点
		30点 課題提出期限が遅れたら減点 1回5点
	授業内評価	20点 積極的な授業態度
備考	積極的に頑張りましょう。 参考文献:東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。	

(講義)	科目名:生活の中の福祉	講師: 横山由里
科目概要・目標	近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会で必要な生活の中の福祉とは何か、その考え方や対象となる様々な人々に必要な福祉にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。	
教科書	山縣文治・岡田忠克編『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房。	
提出課題	レポート設題	【設題1】少子高齢化と福祉についてまとめ、今後の福祉のあり方について述べよ。
	学修のポイント1	ライフサイクルと福祉について
	学修のポイント2	福祉の捉え方と援助について
	学修のポイント3	ナショナルミニマムについて
	学修のポイント4	ノーマライゼーションについて
	学修のポイント5	障がい者と福祉について
	学修のポイント6	低所得者と福祉について
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション	
第2回	学修のポイント①ライフサイクルと福祉について	
第3回	学修のポイント④ノーマライゼーションについて1	
第4回	学修のポイント④ノーマライゼーションについて2	
第5回	少子高齢化と福祉①	
第6回	少子高齢化と福祉②	
第7回	学修のポイント③ナショナルミニマムについて	
第8回	学修のポイント②福祉の捉え方と援助について1	
第9回	学修のポイント②福祉の捉え方と援助について2	
第10回	学修のポイント⑥低所得者と福祉について	
第11回	学修のポイント⑤障がい者と福祉について	
第12回	さまざまな福祉サービス	
第13回	さまざまな福祉施設①	
第14回	さまざまな福祉施設②	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	20点
	授業内評価	30点 課題提出期限が遅れたら減点 1回5点
		20点 積極的な授業態度
備考	積極的に頑張りましょう。 参考文献: 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。	

(演習)	科目名:フィールドワークⅠ	講師: 森奈祐
科目概要・目標	社会福祉学を学ぶために、当科目では福祉とはどのようなもののイメージをもてるようになること目的とする。まず、保健・医療・福祉の概要を学び、福祉の位置づけを確認する。次に、多様な考え方や形があり、多くの専門職の活躍からも成り立つ福祉とはどのようなものを、自ら情報を得ようとし、グループワークを通して多角的な視点でそれらをまとめることとする。さらに、フィールドワーク(外部研修)を通して、実践の現場に触れる機会を持ち、講義などで学んだものにイメージを付けていくことを目指す。	
教科書	なし	
期末試験	なごや人権啓発センター「ソレイユプラザなごや」を訪問して学んだことと私見を述べよ。	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション	
第2回	福祉に関するグループディスカッション	
第3回	福祉に関するグループディスカッション	
第4回	福祉に関する考察	
第5回	ウェルフェア見学の準備	
第6回	ウェルフェア2023見学	
第7回	ウェルフェア2023見学	
第8回	ウェルフェア2023見学	
第9回	ウェルフェア2023見学の振り返り①	
第10回	ウェルフェア2023見学の振り返り②、見学まとめ発表	
第11回	ウェルフェア2023見学のまとめ発表	
第12回	なごや人権啓発センター「ソレイユプラザなごや」の事前学習	
第13回	なごや人権啓発センター「ソレイユプラザなごや」の訪問	
第14回	なごや人権啓発センター「ソレイユプラザなごや」の訪問	
第15回	なごや人権啓発センター「ソレイユプラザなごや」の訪問	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点
		20点 授業態度、グループワーク等への参加・発言の積極性を評価する。
	授業内評価	20点 見学への参加、見学に向けた事前準備、見学の姿勢、発表に対する評価
備考	授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用、音楽等の聴取、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には、減点評価とします。	

(講義)	科目名:心理学概論	講師: 新實 千恵里
科目概要・目標	<p>現代社会が抱える様々な問題を心理学の観点からアプローチできるよう、ここでは心理学全体を見渡すことを目的とする。そこで、心理学とは何か、から始まり、心理学分野を「心の仕組み」、「心の学問を紐解く」、「心のケアと支援」という3つの大きな領域から考え、心理学の成り立ち、人の心の基本的な仕組み及び働きについて学習していく。本科目を学ぶことで、心理学とはどのような学問か、その体系を知ることができ、かつ考え方が理解できる。</p>	
教科書	社会福祉養成講座編集委員会(編)『新・社会福祉養成講座2心理学理論と心理的支援第3版』 中央法規 2018	
提出課題	レポート設題	<p>【設題1】人格形成に及ぼす環境要因について述べよ</p> <p>【設題2】各発達段階の特徴について述べよ。</p>
	学修のポイント1	人格の諸理論について述べよ。
	学修のポイント2	人間の感覚・知覚・認知の特質について述べよ。
	学修のポイント3	人間の発達課題について述べよ。
	学修のポイント4	心理的アセスメント(見立て)について述べよ。
	学修のポイント5	対人関係の発展について述べよ。
	学修のポイント6	心理療法について述べよ。
期末試験	論述試験(ノート持ち込み可・教科書可)	
回数	授業内容	
第1回	シラバス説明、レポート構成説明 心理学の歴史、発達の定義、発達段階	
第2回	人間の発達課題:発達課題、認知発達理論	
第3回	人間の発達課題:新生児期～老年期	
第4回	人間の感覚・知覚・認知の特質:基礎的な情報処理	
第5回	下書きレポート作成	
第6回	人格の諸理論:類型論と特性論	
第7回	人格の諸理論:心理検査におけるアセスメント	
第8回	心理的アセスメント:心理テストによる見立て	
第9回	対人関係の発展:対人認知、集団	
第10回	対人関係の発展:コミュニケーション	
第11回	対人関係の発展:欲求と動機付け	
第12回	学修レポート作成	
第13回	心理療法:心理療法の諸理論	
第14回	期末試験対策／科目終了試験対策	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。欠席1回事に-2点、遅刻-1点
	期末試験	30点 表記・文字数:10点 文章構成・論理展開:10点 内容・創造性:10点
		21点 提出物:7つそれぞれの締め日を過ぎた場合、1つあたり-3点
	授業内評価	19点 授業態度:グループワーク、個人ワークの積極的参加、その他態度
備考		

(講義)	科目名:アメリカの文化と言語 I		講師:米田尚美	
科 目 概 要 ・ 目 標	これからの中高生に対する対応していくためには世界的公用語である英語でのコミュニケーション能力が必要である。高校までの暗記を中心とした受験英語とは違い、表現力を重視した、読む・書く・聞く・話す、の四技能を養い、実用的な英語を使いこなすためには、日本語とは異なる英語の言語学的特徴(発音・文法・語法等)を理解することが大切である。また、英語という言語の背景にある、主にアメリカを中心とした英語圏の文化の理解にも重点を置く。			
教科書	ピーター・セラフィン、根間弘海 "Twenty American Heroes" 三修社、2017年			
提出課題	<p>レポート設題 8章「Martin Luther King, Jr.」について日本語で要約せよ。さらに、内容についてあなたの考えを述べよ。</p> <p>学修のポイント1 <ポイント>公民権運動とは1950年代のアメリカにおいて、黒人を中心に始められた人種差別撤廃運動である。Martin Luther King, Jr.はアメリカにおける人種差別において、公民権運動の指導者としてどのように貢献したか。また、彼の掲げた「非暴力」そして、不朽の名演説「私には夢がある(I Have A Dream)」は、人々にどのようなメッセージを投げかけたのか。Martin Luther King, Jr.の思想が人種差別思想や米国憲法修正に与えた影響について考察すること。</p> <p>学修のポイント2 英文を日本語で要約せよ。さらに、Elvis Presleyの作品を一つ挙げてあなたの印象を述べよ。</p> <p>学修のポイント3 <ポイント>当時のアメリカの社会状況をよく理解した上で、音楽史上におけるプレスリーのロックン・ロールの位置づけを考察する。また、あまりに早い最期を遂げたプレスリーの「有名人の孤独」についても考える。</p>			
期末試験	後日発表			
回数	授業内容		授業目標	
第1回	オリエンテーション		当時のアメリカの時代背景を理解した上でElvis Presleyの生き立ちや音楽性を理解する。	
第2回	学修のポイント1 作成 Elvis Presleyについて			
第3回				
第4回			黒人差別が起きた背景を理解した上で公民権運動(人種差別撤廃運動)について理解する。「I Have A Dream」のスピーチにおいて、キング牧師が何を伝えたかったのかを理解する。	
第5回	レポート作成指導 キング牧師について			
第6回				
第7回			Steven Spielbergの作品に描かれている"Childlike"とは何かを理解する。	
第8回	学修のポイント2 作成 Steven Spielbergについて			
第9回				
第10回	学修のポイント3 Bill Gatesについて		Bill Gatesの功績をふまえた上で、メディアリテラシーについても理解を深める。	
第11回				
第12回				
第13回	まとめ			
第14回	期末試験対策			
第15回	期末試験			
第16回	科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	
	期末試験	30点	持込み不可(教科書の内容理解を問う問題を中心とする予定)	
		20点	評価ポイント:提出物(下書きレポート・清書レポート・学修のポイント2本)の内容・提出期限を守れたか ※遅れた場合は減点	
		20点	評価ポイント:授業態度・忘れ物・授業前課題・授業内課題	
備考	本授業は英文読解とその要約が中心です。授業についていくためにも各自予習復習を行うこと。			

(講義)	科目名:ジェンダー論	講師: 佐橋寿実															
科 目 概 要 ・ 目 標	現代社会では性別役割の境目が不明瞭になってきている。どこまでが生物学的に決定された性であり、どこまでが社会的に規定された性(ジェンダー)であるかは、今後の社会を考える上で大きな問題となりうる。他の先進国における今日の男女間における価値観やライフスタイル(結婚、出産育児、労働問題など)と比較しながら、日本社会の今後の変遷を予測し、望ましい社会様式を模索する。ゲイなどのマイノリティのセクシュアリティー問題や、シングルマザーなどの人々の問題にもアプローチを試みる。																
教科書	伊藤公雄『新訂 ジェンダーの社会学』放送大学振興会。																
提出課題	<p>レポート設題 性差別と性の役割について述べよ。</p> <p>学修のポイント1 ジェンダーについて</p> <p>学修のポイント2 フェミニズム運動について</p> <p>学修のポイント3 女性の労働について</p> <p>学修のポイント4 近代家族と性役割について</p> <p>学修のポイント5 アイデンティティとジェンダーについて</p> <p>学修のポイント6 ジェンダー政策について</p>																
期末試験	後日発表する																
回数	授業内容																
第1回	ジェンダーを社会学的視点からみると																
第2回	生物学的性差とジェンダー																
第3回	セクシュアリティとジェンダー(セクシャルマイノリティについて)																
第4回	歴史の中のジェンダー(時代によって変わるジェンダー観)																
第5回	「女らしさ」「男らしさ」(ジェンダーの形成と諸問題)																
第6回	性差別とジェンダー(ジェンダー・バイアス、性差別撤廃への動き)																
第7回	レポート作成日																
第8回	文化の中のジェンダー(国や文化で変わるジェンダー観)																
第9回	家族の中のジェンダー(戦後の変容する家族、家族問題)																
第10回	労働とジェンダー(男女間格差、男性の長時間労働など)																
第11回	セクシャルハラスメントについて																
第12回	教育とジェンダー																
第13回	セクシュアリティと政策																
第14回	ジェンダー政策のゆくえ																
第15回	期末試験																
第16回	科目終了試験																
成績評価	<table border="1"> <tr> <td>出席率</td> <td>30点</td> <td>75%以上の出席を必須とする。</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>30点</td> <td>持ち込み可。論述式。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>20点</td> <td>提出物(学修のポイント3本、レポート下書き1本)期限厳守。遅れた場合は減点。</td> </tr> <tr> <td>授業内評価</td> <td>5点</td> <td>グループワーク</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15点</td> <td>授業態度(態度、発言、コメントシートの記入等から判断する)</td> </tr> </table>		出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	期末試験	30点	持ち込み可。論述式。		20点	提出物(学修のポイント3本、レポート下書き1本)期限厳守。遅れた場合は減点。	授業内評価	5点	グループワーク		15点	授業態度(態度、発言、コメントシートの記入等から判断する)
出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。															
期末試験	30点	持ち込み可。論述式。															
	20点	提出物(学修のポイント3本、レポート下書き1本)期限厳守。遅れた場合は減点。															
授業内評価	5点	グループワーク															
	15点	授業態度(態度、発言、コメントシートの記入等から判断する)															
備考																	

(講義)	科目名:文章表現	講師:仁井田 和也																														
科目概要・目標	通信教育では、レポートを書くための表現力が要求される。本科目では、レポート作成に必要な「書く」技術の基礎訓練を行う。したがって、目標とされるのは、簡潔で明快な表現法である。文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ・わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習していく。																															
教科書	古郡延治『論文・レポートの文章作法』有斐閣新書																															
提出課題	<table border="1"> <tr> <td>レポート設題</td> <td>社福・心理</td> <td>高齢者の介護は誰が担うべきか述べよ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>保育</td> <td>良い教師と悪い教師について述べよ。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>教育</td> <td>学校教育における「生きる力」の育成について述べよ。</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">このレポートは文章表現に関する論文であるから、特に論点を明確にして段落や文章校正に気を配りながら文章を書くこと。また、わかりやすい言葉で文法・文字表現などにも十分留意して書くこと。</td></tr> <tr> <td></td> <td>学修のポイント1</td> <td>「バリアフリー」と町の景観について</td> </tr> <tr> <td></td> <td>学修のポイント2</td> <td>少年犯罪について</td> </tr> <tr> <td></td> <td>学修のポイント3</td> <td>IT社会化について</td> </tr> <tr> <td></td> <td>学修のポイント4</td> <td>環境破壊について</td> </tr> <tr> <td></td> <td>学修のポイント5</td> <td>リサイクルについて</td> </tr> <tr> <td></td> <td>学修のポイント6</td> <td>高齢者介護について</td> </tr> </table>		レポート設題	社福・心理	高齢者の介護は誰が担うべきか述べよ		保育	良い教師と悪い教師について述べよ。		教育	学校教育における「生きる力」の育成について述べよ。		このレポートは文章表現に関する論文であるから、特に論点を明確にして段落や文章校正に気を配りながら文章を書くこと。また、わかりやすい言葉で文法・文字表現などにも十分留意して書くこと。			学修のポイント1	「バリアフリー」と町の景観について		学修のポイント2	少年犯罪について		学修のポイント3	IT社会化について		学修のポイント4	環境破壊について		学修のポイント5	リサイクルについて		学修のポイント6	高齢者介護について
レポート設題	社福・心理	高齢者の介護は誰が担うべきか述べよ																														
	保育	良い教師と悪い教師について述べよ。																														
	教育	学校教育における「生きる力」の育成について述べよ。																														
	このレポートは文章表現に関する論文であるから、特に論点を明確にして段落や文章校正に気を配りながら文章を書くこと。また、わかりやすい言葉で文法・文字表現などにも十分留意して書くこと。																															
	学修のポイント1	「バリアフリー」と町の景観について																														
	学修のポイント2	少年犯罪について																														
	学修のポイント3	IT社会化について																														
	学修のポイント4	環境破壊について																														
	学修のポイント5	リサイクルについて																														
	学修のポイント6	高齢者介護について																														
期末試験	後日発表																															
回数	授業内容																															
第1回	オリエンテーション 作文・レポート・論文の違いについて																															
第2回	レポート題材の調べ方																															
第3回	引用の仕方、参考文献の書き方																															
第4回	IT社会化について																															
第5回																																
第6回																																
第7回																																
第8回																																
第9回	「バリアフリー」と町の景観について																															
第10回	少年犯罪について																															
第11回	環境破壊について																															
第12回	リサイクルについて																															
第13回	幸福とは何か																															
第14回	期末試験対策																															
第15回	期末試験																															
第16回	科目修了試験																															
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。																														
	期末試験	40点 持ち込み可。論述式。																														
	授業内評価	30点 授業態度、提出物などによって評価する。																														
備考	授業中の居眠り、私語、許可のない携帯電話の使用、音楽等の聴取、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には、減点評価する。																															

(講義)	科目名:法学概論	講師: 森奈祐
科目概要・目標	社会福祉の専門家には、憲法第25条に定める生存権の保障を実現するため、様々な社会保障、社会福祉諸制度やそれにかかる行政機関への手続きのための知識が必要である。そのため、憲法、民法、行政法の基礎知識を習得することは必要である。この科目では、それらの学修に先立つていわゆる法学入門に相当する法や法学一般について学び、研究する。	
教科書	末川博士『法学入門 第6版補訂版』有斐閣双書	
提出課題	<p>レポート設題 【設題1】基本的人権の尊重について述べよ <ポイント>基本的人権の意義について考えること。基本的人権が成立した背景、さらに一般的な特色についてもまとめること。</p> <p>学修のポイント1 教育を受ける権利と義務について 学修のポイント2 親権について 学修のポイント3 契約の自由について 学修のポイント4 罪刑法定主義について 学修のポイント5 法の種類について 学修のポイント6 法の段階構造について</p>	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション/法的な考え方と法学概論を学ぶ意義	
第2回	近代市民法「契約の自由について」	
第3回	基本的人権の尊重について①(包括的基本権)	
第4回	基本的人権の尊重について②(自由権)	
第5回	基本的人権の尊重について③(能動的権利)	
第6回	基本的人権の尊重について④(まとめ)	
第7回	刑法「罪刑法定主義について」	
第8回	教育を受ける権利と義務について	
第9回	民法(家族法)親権について	
第10回	公法・私法・社会法 法の種類について	
第11回	行政法 法の段階構造について	
第12回	その他の法律①(労働法など)	
第13回	その他の法律②(国際法など)	
第14回	法学概論のまとめ	
第15回	期末試験	
第16回	科目修了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点
	授業内評価	30点 受講態度(授業態度や質疑応答など、積極的に授業を受けているか)・提出状況(レポートやポイントなど、提出期限を守っているか)
備考	授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用、音楽等の聴取、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には、減点評価とします。	

(講義)	科目名: 福祉と教育	講師: 山田哲史
科目概要・目標	これから時代に求められるのは、正解が一つではない問題を考え、課題探求できる分析力と思考力を備えた人材を教育することである。福祉の現場においても、突然生じる問題を的確に発見して捉え、福祉を必要とする人に対して、その一人ひとりのニーズに応えて、問題を解決していくことが望まれる。そのためには、これまでわが国で主流とされてきた、一方通行型、知識注入型の教育方法を改め、学生が主体となって学修に取り組める学修環境を構成していかねばならない。福祉の時代に向けて真に必要な諸能力は何かを分析し、21世紀に求められる福祉人のあり方について考察する。	
教科書	東京福祉大学編『新・社会福祉要説』(ミネルヴァ書房)、東京福祉大学編『教職科目要説－初等教育編』(ミネルヴァ書房)、東京福祉大学編『教職科目要説－中等教育編』(ミネルヴァ書房)	
提出課題	レポート設題	【設題1】「福祉と教育」を学ぶ意義について述べよ。
	学修のポイント1	日本で行われている教育方法の現状について
	学修のポイント2	これからの大学教育について
	学修のポイント3	教師の意識について
	学修のポイント4	バイスティックの7つの原則について
	学修のポイント5	これからの社会福祉と福祉教育について
期末試験	学修のポイント6	上記5つ以外の内容で、「福祉と教育」について興味や関心を持ったことについてまとめよ。
	(授業時に指示します。)	
回数	授業内容	
第1回	これからの社会福祉と福祉教育について(1)	
第2回	これからの社会福祉と福祉教育について(2)	
第3回	「福祉と教育」を学ぶ意義について(1)	
第4回	「福祉と教育」を学ぶ意義について(2)	
第5回	「福祉と教育」を学ぶ意義について(3)	
第6回	「福祉と教育」を学ぶ意義について(4)	
第7回	日本で行われている教育方法の現状について	
第8回	これからの大学教育について	
第9回	バイスティックの7つの原則について(1)	
第10回	バイスティックの7つの原則について(2)	
第11回	教師の意識について(1)	
第12回	教師の意識について(2)	
第13回	「福祉と教育」をめぐって(1)	
第14回	「福祉と教育」をめぐって(2)	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 持込み許可物件:指定の教科書、自筆のノート、授業時に配布のプリント
	授業内評価	20点 授業中態度:携帯、居眠り、私語、飲食は厳禁
		20点 課題提出状況
備考	教育の効果を高めるためにも、授業には集中力を持続して積極的に取り組むようにしてください。授業中の携帯電話の使用、居眠り、飲食や私語は禁止します。これらのルールを守ることができない学生に対しては不合格とすることがありますので注意してください。	

(実習)	科目名:地域コミュニケーションワーク		講師:山田 哲史
科 目 概 要 ・ 目 標	本科目は、問題発見能力、問題解決能力を実践を通して深めていくことを目的としている。学生ひとり一人が目的意識を持ち、互いに支え合いながら課題解決に取り組むことで学生間の意思疎通を図り、コミュニケーション能力を高めることを期待する。		
教科書	適宜配布		
期末試験	授業時に通知する。		
回数	授業内容		
第1回	心の元気づくりについて		
第2回	レクリエーション支援におけるホスピタリティについて		
第3回	人が物事に夢中になる仕組みについて		
第4回	活動そのものの楽しさについて		
第5回	達成感からもたらされる楽しさについて		
第6回	対象者との意思疎通を促進する方法について		
第7回	成功体験を楽しむ方法について		
第8回	対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法について		
第9回	アイスブレーキングについて		
第10回	アイスブレーキングが必要な場面について		
第11回	CSSプロセスについて		
第12回	プランの考案(1)		
第13回	プランの考案(2)		
第14回	プランの考案(3)		
第15回	プランの考案(4)		
第16回	期末試験		
成 績 評 価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	20点	持ち込み許可物件:授業時に配付の資料、自筆のノート等。論述式。
	授業内評価	30点	評価ポイント:授業内課題・発表内容 ※遅れた場合は減点・未提出は0点とする
		20点	評価ポイント:授業態度・学習意欲・積極性・忘れ物有無
備考	本授業は、ワークが中心となる為、進行状況によってはシラバスに変更が生じる可能性があります。より良いワークのためには受講生同士の協力が不可欠です。より良い学びとなるように自ら学ぼうとする姿勢を持って授業に臨んでください。授業形態によっては、授業内容を変更する可能性もあります。		

(実技)	科目名:情報処理基礎演習 I	講師: 高橋直子
科目概要・目標	Wordを使って、文字入力の練習といろいろな文書作成およびグラフィカルな文書を作成できるようにする。	
教科書	なし(毎回授業で使用するプリントを配布する)	
期末試験	実技試験(1枚の文書を作成し保存する。)	
回数	授業内容	
第1回	簡単な文書を作成	
第2回	定型文書の作成	
第3回	レポートや報告書の作成	
第4回	復習	
第5回	表作成の練習	
第6回	表のある文書の作成	
第7回	すこし複雑な表のある文書の作成	
第8回	画像など利用した文書の作成	
第9回	図形など利用した文書の作成	
第10回	簡単な地図のある文書の作成	
第11回	SmartArtなど利用した文書の作成	
第12回	縦書き文書の作成	
第13回	横置き文書の作成	
第14回	復習	
第15回	復習	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点
	授業内評価	30点 毎回授業で行う課題作成などを含めた授業態度
備考	飲食厳禁、私語厳禁、携帯電話などの使用禁止	

(講義)	科目名:専門研究Ⅰ	講師:花木元司
科目概要・目標	いろいろな年代や多くの人とかかわることを職業とする場合、人間の発達について学ぶことは必要不可欠の要因である。基本的知識である各発達段階の特徴を理解し、その過程を説明するさまざまな理論について学んでいく。さらに、人が生きていく上でさまざまな困難を体験するが、その心理的な背景と対応の方法について考察を進めていく。これまでの研究によって得られた知見をもとに現代社会における「発達」について考える。	
参考文献	<p>【参考資料】</p> <p>①上田礼子「生涯人間発達学」 ②無藤隆・岡本祐子・大坪治彦「よくわかる発達心理学」</p>	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	講義概要 この講義で学んでほしいこと、成長と発達	
第2回	発達の見方と主な発達理論(Erikson,Piaget,Freud)	
第3回	発達の見方と主な発達理論(比較行動学、学習理論)・個体と環境	
第4回	出生前発達と出生(胎内で聞こえる母親の声、新生児期の適応行動)	
第5回	乳児期の世界(大切なスキンシップ・反射・微細運動)	
第6回	乳児期の世界(人見知り・移行対象・認知の発達)	
第7回	幼児期前期の世界(自分に目覚める・言語、情緒の発達)	
第8回	幼児期後期の心理と発達(ごっこ遊び・認知の発達・事故予防)	
第9回	幼児期後期の心理と発達(群れ遊び・情緒、社会性の発達)	
第10回	児童期の心理と発達(具体的操作・メタ認知)	
第11回	児童期の心理と発達(友達関係の特徴・自己制御・道徳性)	
第12回	青年期の心理と発達(価値観の特徴、男女の違い)	
第13回	成人期の心理発達(情緒と社会的成熟、認知発達、ライフスタイルの選択)	
第14回	成人期の中期・後期の特徴(柔軟な対応能力、同一性と自己概念の再構築)	
第15回	老後の知恵	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 科学的に内容を理解できたか
		25点 授業態度(内容理解の深化と科学的根拠に基づいた発言)
	授業内評価	15点 学習資料の準備
備考	この講義を受け身で受講するのではなく、関係のある文献などへの関心も深め、科学的根拠に基づいた思考ができるようになってほしい。	

社会福祉学科

心理学コース

1年生

(講義)	科目名:生活の中の福祉	講師: 横山由里
科 目 概 要 ・ 目 標	近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会で必要な生活の中の福祉とは何か、その考え方や対象となる様々な人々に必要な福祉にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。	
教科書	山縣文治・岡田忠克編『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房。	
提出課題	【設題1】少子高齢化と福祉についてまとめ、今後の福祉のあり方について述べよ。	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション	
第2回	学修のポイント①ライフサイクルと福祉について	
第3回	学修のポイント④ノーマライゼーションについて1	
第4回	学修のポイント④ノーマライゼーションについて2	
第5回	少子高齢化と福祉①	
第6回	少子高齢化と福祉②	
第7回	学修のポイント③ナショナルミニマムについて	
第8回	学修のポイント②福祉の捉え方と援助について1	
第9回	学修のポイント②福祉の捉え方と援助について2	
第10回	学修のポイント⑥低所得者と福祉について	
第11回	学修のポイント⑤障がい者と福祉について	
第12回	さまざまな福祉サービス	
第13回	さまざまな福祉施設①	
第14回	さまざまな福祉施設②	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	20点
	授業内評価	30点 課題提出期限が遅れたら減点 1回5点
		20点 積極的な授業態度
備考	積極的に頑張りましょう。 参考文献: 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。	

(講義)	科目名:社会福祉入門	講師: 横山由里
科目概要・目標	少子高齢化の進むわが国は、ますます福祉重視型の社会をめざしている。これから社会福祉に関わる仕事をめざす学生のために、福祉の基本や福祉に関する職業にはどのようなものがあるのか、社会的に見て福祉とは何か、そして、福祉の職業に従事するためにはどのような資格があるのか、各々の福祉領域で必要不可欠な能力とは何か等を学修する。また同時に、これまでの福祉理念の変遷を概観し、急速に変化していく現代社会における、これからの福祉のあり方についても考える。	
教科書	大島侑、他『シリーズ・はじめて学ぶ社会福祉①社会福祉概論』ミネルヴァ書房。	
提出課題	【設題1】サービスの利用者を支えるためのしくみが定められた背景とそのしくみの概要について述べよ。 レポート設題	
学修のポイント1	わが国の社会福祉法制について	
学修のポイント2	わが国の社会保障制度の体系について	
学修のポイント3	わが国の社会福祉行財政について	
学修のポイント4	社会福祉を支える原理について	
学修のポイント5	わが国における貧困をめぐる現状について	
学修のポイント6	地域福祉の意義とその担い手について	
期末試験	後日指示	
回数	授業内容	
第1回	学修のポイント①わが国の社会福祉法制について	
第2回	学修のポイント⑤わが国における貧困をめぐる現状について	
第3回	学修のポイント②わが国における社会保障制度の体系について	
第4回	福祉サービスの利用者を支えるためのしくみ①	
第5回	福祉サービスの利用者を支えるためのしくみ②	
第6回	福祉サービスの利用者を支えるためのしくみ③	
第7回	学修のポイント③わが国の社会福祉行財政について	
第8回	学修のポイント⑥地域福祉の意義とその担い手について	
第9回	学修のポイント④社会福祉を支える原理について	
第10回	わが国の高齢者福祉について①	
第11回	わが国の高齢者福祉について②	
第12回	バリアフリーとユニバーサルデザイン①	
第13回	バリアフリーとユニバーサルデザイン②	
第14回	期末試験対策	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	20点
		30点 課題提出期限が遅れたら減点 1回5点
	授業内評価	20点 積極的な授業態度
備考	積極的に頑張りましょう。 参考文献:東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。	

(演習)	科目名:フィールドワークⅠ	講師: 森奈祐
科目概要・目標		
		社会福祉学を学ぶために、当科目では福祉とはどのようなもののイメージをもてるようになること目的とする。まず、保健・医療・福祉の概要を学び、福祉の位置づけを確認する。次に、多様な考え方や形があり、多くの専門職の活躍からも成り立つ福祉とはどのようなものかを、自ら情報を得ようとし、グループワークを通して多角的な視点でそれらをまとめることとする。さらに、フィールドワーク(外部研修)を通して、実践の現場に触れる機会を持ち、講義などで学んだものにイメージを付けていくことを目指す。
教科書	なし	
期末試験	なごや人権啓発センター「ソレイユプラザなごや」を訪問して学んだことと私見を述べよ。	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション	
第2回	福祉に関するグループディスカッション	
第3回	福祉に関するグループディスカッション	
第4回	福祉に関する考察	
第5回	ウェルフェア見学の準備	
第6回	ウェルフェア2023見学	
第7回	ウェルフェア2023見学	
第8回	ウェルフェア2023見学	
第9回	ウェルフェア2023見学の振り返り①	
第10回	ウェルフェア2023見学の振り返り②、見学まとめ発表	
第11回	ウェルフェア2023見学のまとめ発表	
第12回	なごや人権啓発センター「ソレイユプラザなごや」の事前学習	
第13回	なごや人権啓発センター「ソレイユプラザなごや」の訪問	
第14回	なごや人権啓発センター「ソレイユプラザなごや」の訪問	
第15回	なごや人権啓発センター「ソレイユプラザなごや」の訪問	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点
		20点 授業態度、グループワーク等への参加・発言の積極性を評価する。
	授業内評価	20点 見学への参加、見学に向けた事前準備、見学の姿勢、発表に対する評価
備考	授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用、音楽等の聴取、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には、減点評価とします。	

(講義)	科目名:心理学を活かしたキャリアデザイン	講師: 平石 太一													
科目概要・目標	<p>心理学部の学生は、心理学の各分野の理解を深めると共に、社会福祉、精神保健福祉、教育などの心理学近接領域におけるヒューマンサービスの実情を学び、それぞれの現場で心理学の知見を応用していくための基礎的な力を身につけることが期待されている。その背景には、心理学を学ぶ学生が、多様なキャリアを展開させることができることが想定されている。</p> <p>本科目では、改めて心理学部に入学したことを踏まえて、心理学を学ぶことの意義を考えながら、心理学を活かした職業やキャリアの多様性を学び、社会人として踏み出すための自己理解と、将来働く場についての理解を促す。</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足)</p> <p>当科目は、臨床心理士・公認心理師として医療領域・教育領域で心理的支援を行ってきた講師のもと、カウンセラー業務を通じた実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。</p>														
教科書	<p>中西大輔・今田純雄(編)『あなたの知らない心理学 大学で学ぶ心理学入門』ナカニシヤ出版。</p> <p>中島剛『キャリアデザイン入門テキスト』学事出版。</p>														
提出課題	<p>レポート設題 【設題】「エゴグラム」、「ジョハリの窓」、「シャインの3つの問い」についてのワークを実施し、自身についての分析を行い、その結果を受けて、どのような大学生活を送っていきたいか、将来、心理学を仕事にどのように活かしていきたいかについて述べよ。</p> <p>学修のポイント1 心理学を活かした援助職について述べなさい。</p> <p>学修のポイント2 心理学を学ぶことで、どのような能力を身に着けたいのかについて述べなさい。</p> <p>学修のポイント3 身近にある事柄や出来事などを心理学の観点から説明しなさい。</p> <p>学修のポイント4 自分のエゴグラムの結果について分析しなさい。</p> <p>学修のポイント5 ジョハリの窓について述べなさい。</p> <p>学修のポイント6 シャインの3つの問いについて述べなさい。</p>														
期末試験	後日発表														
回数	授業内容														
第1回	オリエンテーション														
第2回	今の自分を考える														
第3回	エゴグラム①														
第4回	エゴグラム②														
第5回	ジョハリの窓														
第6回	シャインの3つの問い														
第7回	過去・現在・未来に線を引く①														
第8回	過去・現在・未来に線を引く②														
第9回	心理学を活かした援助領域 保健・医療・福祉領域、教育領域														
第10回	心理学を活かした援助領域 労働・産業領域、司法・犯罪領域														
第11回	心理学から生活を考える①														
第12回	心理学から生活を考える②														
第13回	改めて今の自分を考える														
第14回	まとめ														
第15回	期末試験														
第16回	科目終了試験														
成績評価	<table border="1"> <tr> <td>出席率</td> <td>30点</td> <td>75%以上の出席を必須とする。</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>30点</td> <td>論述内容</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">授業内評価</td> <td>40点</td> <td>課題の提出状況、課題・授業への取り組み状況などを総合的に評価します。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>		出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	期末試験	30点	論述内容	授業内評価	40点	課題の提出状況、課題・授業への取り組み状況などを総合的に評価します。				
出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。													
期末試験	30点	論述内容													
授業内評価	40点	課題の提出状況、課題・授業への取り組み状況などを総合的に評価します。													
備考	私語等、他の学生の迷惑になると判断した場合、厳格に対応する。														

(講義)	科目名:心理学概論	講師: 新實 千恵里
科目概要・目標	現代社会が抱える様々な問題を心理学の観点からアプローチできるよう、ここでは心理学全体を見渡すことを目的とする。そこで、心理学とは何か、から始まり、心理学分野を「心の仕組み」、「心の学問を紐解く」、「心のケアと支援」という3つの大きな領域から考え、心理学の成り立ち、人の心の基本的な仕組み及び働きについて学習していく。本科目を学ぶことで、心理学とはどのような学問か、その体系を知ることができ、かつ考え方が理解できる。	
教科書	社会福祉養成講座編集委員会(編)『新・社会福祉養成講座2心理学理論と心理的支援第3版』 中央法規 2018	
提出課題	レポート課題	【設題1】人格形成に及ぼす環境要因について述べよ 【設題2】各発達段階の特徴について述べよ。
学修のポイント1	人格の諸理論について述べよ。	
学修のポイント2	人間の感覚・知覚・認知の特質について述べよ。	
学修のポイント3	人間の発達課題について述べよ。	
学修のポイント4	心理的アセスメント(見立て)について述べよ。	
学修のポイント5	対人関係の発展について述べよ。	
学修のポイント6	心理療法について述べよ。	
期末試験	論述試験(ノート持ち込み可・教科書可)	
回数	授業内容	
第1回	シラバス説明、レポート構成説明 心理学の歴史、発達の定義、発達段階	
第2回	人間の発達課題:発達課題、認知発達理論	
第3回	人間の発達課題:新生児期～老年期	
第4回	人間の感覚・知覚・認知の特質:基礎的な情報処理	
第5回	下書きレポート作成	
第6回	人格の諸理論:類型論と特性論	
第7回	人格の諸理論:心理検査におけるアセスメント	
第8回	心理的アセスメント:心理テストによる見立て	
第9回	対人関係の発展:対人認知、集団	
第10回	対人関係の発展:コミュニケーション	
第11回	対人関係の発展:欲求と動機付け	
第12回	学修レポート作成	
第13回	心理療法:心理療法の諸理論	
第14回	期末試験対策／科目終了試験対策	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。欠席1回事に-2点、遅刻-1点
	期末試験	30点 表記・文字数:10点 文章構成・論理展開:10点 内容・創造性:10点
		21点 提出物:7つそれぞれの締め日を過ぎた場合、1つあたり-3点
	授業内評価	19点 授業態度:グループワーク、個人ワークの積極的参加、その他態度
備考		

(講義)	科目名:アメリカの文化と言語 I	講師:米田尚美
科目概要・目標	これからの中高生に対する国際社会に対応していくためには、世界的公用語である英語でのコミュニケーション能力が必要である。高校までの暗記を中心とした受験英語とは違い、表現力を重視した、読む・書く・聞く・話す、の四技能を養い、実用的な英語を使いこなすためには、日本語とは異なる英語の言語学的特徴(発音・文法・語法等)を理解することが大切である。また、英語という言語の背景にある、主にアメリカを中心とした英語圏の文化の理解にも重点を置く。	
教科書	ピーター・セラフィン、根間弘海 "Twenty American Heroes" 三修社、2017年	
提出課題	<p>レポート設題 8章「Martin Luther King, Jr.」について日本語で要約せよ。さらに、内容についてあなたの考えを述べよ。</p> <p><ポイント>公民権運動とは1950年代のアメリカにおいて、黒人を中心に始められた人種差別撤廃運動である。Martin Luther King, Jr.はアメリカにおける人種差別において、公民権運動の指導者としてどのように貢献したか。また、彼の掲げた「非暴力」そして、不朽の名演説「私には夢がある(I Have A Dream)」は、人々にどのようなメッセージを投げかけたのか。Martin Luther King, Jr.の思想が人種差別思想や米国憲法修正に与えた影響について考察すること。</p> <p>学修のポイント1 英文を日本語で要約せよ。さらに、Elvis Presleyに対するあなたの印象を述べよ。</p> <p><ポイント>当時のアメリカの社会状況をよく理解した上で、音楽史上におけるプレスリーのロックン・ロールの位置づけを考察する。また、あまりに早い最期を遂げたプレスリーの「有名人の孤独」についても考える。</p> <p>学修のポイント2 英文を日本語で要約せよ。さらに、Steven Spielbergの作品を一つ挙げてあなたの印象を述べよ。</p> <p><ポイント>スピルバーグの人となりと、彼の映画製作に向かう姿勢を理解し、具体的に説明できるよう理解を深める。単純な映画の感想文に陥らないようにすること。</p> <p>学修のポイント3 英文を日本語で要約せよ。さらに、Gatesに対するあなたの印象を述べよ。</p> <p><ポイント>現在のIT社会を築き上げた功労者であり、また新しい問題点を作り出した人物でもある。パソコンとインターネットの普及から派生する諸問題に対する解決策、対応策を考えるとよい。</p>	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	授業目標
第1回	オリエンテーション	当時のアメリカの時代背景を理解した上でElvis Presleyの生い立ちや音楽性を理解する。
第2回	学修のポイント1 作成 Elvis Presleyについて	
第3回		
第4回	レポート作成指導 キング牧師について	黒人差別が起きた背景を理解した上で公民権運動(人種差別撤廃運動)について理解する。“I Have A Dream”的スピーチにおいて、キング牧師が何を伝えたかったのかを理解する。
第5回		
第6回		
第7回	学修のポイント2 作成 Steven Spielbergについて	Steven Spielbergの作品に描かれている“Childlike”とは何かを理解する。
第8回		
第9回		
第10回	学修のポイント3 Bill Gatesについて	Bill Gatesの功績をふまえた上で、メディアリテラシーについても理解を深める。
第11回		
第12回	まとめ	
第13回		
第14回		
第15回	期末試験対策	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 持込み不可(教科書の内容理解を問う問題を中心とする予定)
		20点 評価ポイント:提出物(下書きレポート・清書レポート・学修のポイント2本)の内容・提出期限を守れたか ※遅れた場合は減点
		20点 評価ポイント:授業態度・忘れ物・授業前課題・授業内課題
備考	本授業は英文読解とその要約が中心です。授業についていくためにも各自予習復習を行うこと。	

(講義)	科目名:ジェンダー論	講師: 佐橋寿実															
科目概要・目標	現代社会では性別役割の境目が不明瞭になってきている。どこまでが生物学的に決定された性であり、どこまでが社会的に規定された性(ジェンダー)であるかは、今後の社会を考える上で大きな問題となりうる。他の先進国における今日の男女間における価値観やライフスタイル(結婚、出産育児、労働問題など)と比較しながら、日本社会の今後の変遷を予測し、望ましい社会様式を模索する。ゲイなどのマイノリティのセクシュアリティー問題や、シングルマザーなどの人々の問題にもアプローチを試みる。																
教科書	伊藤公雄『新訂 ジェンダーの社会学』放送大学振興会。																
提出課題	<p>レポート設題 性差別と性の役割について述べよ。</p> <p>学修のポイント1 ジェンダーについて</p> <p>学修のポイント2 フェミニズム運動について</p> <p>学修のポイント3 女性の労働について</p> <p>学修のポイント4 近代家族と性役割について</p> <p>学修のポイント5 アイデンティティとジェンダーについて</p> <p>学修のポイント6 ジェンダー政策について</p>																
期末試験	後日発表する																
回数	授業内容																
第1回	ジェンダーを社会学的視点からみると																
第2回	生物学的性差とジェンダー																
第3回	セクシュアリティとジェンダー(セクシャルマイノリティについて)																
第4回	歴史の中のジェンダー(時代によって変わるジェンダー観)																
第5回	「女らしさ」「男らしさ」(ジェンダーの形成と諸問題)																
第6回	性差別とジェンダー(ジェンダー・バイアス、性差別撤廃への動き)																
第7回	レポート作成日																
第8回	文化の中のジェンダー(国や文化で変わるジェンダー観)																
第9回	家族の中のジェンダー(戦後の変容する家族、家族問題)																
第10回	労働とジェンダー(男女間格差、男性の長時間労働など)																
第11回	セクシャルハラスメントについて																
第12回	教育とジェンダー																
第13回	セクシュアリティと政策																
第14回	ジェンダー政策のゆくえ																
第15回	期末試験																
第16回	科目終了試験																
成績評価	<table border="1"> <tr> <td>出席率</td> <td>30点</td> <td>75%以上の出席を必須とする。</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>30点</td> <td>持ち込み可。論述式。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>20点</td> <td>提出物(学修のポイント3本、レポート下書き1本)期限厳守。遅れた場合は減点。</td> </tr> <tr> <td>授業内評価</td> <td>5点</td> <td>グループワーク</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15点</td> <td>授業態度(態度、発言、コメントシートの記入等から判断する)</td> </tr> </table>		出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	期末試験	30点	持ち込み可。論述式。		20点	提出物(学修のポイント3本、レポート下書き1本)期限厳守。遅れた場合は減点。	授業内評価	5点	グループワーク		15点	授業態度(態度、発言、コメントシートの記入等から判断する)
出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。															
期末試験	30点	持ち込み可。論述式。															
	20点	提出物(学修のポイント3本、レポート下書き1本)期限厳守。遅れた場合は減点。															
授業内評価	5点	グループワーク															
	15点	授業態度(態度、発言、コメントシートの記入等から判断する)															
備考																	

(講義)	科目名:文章表現	講師:仁井田 和也															
科目概要・目標	通信教育では、レポートを書くための表現力が要求される。本科目では、レポート作成に必要な「書く」技術の基礎訓練を行う。したがって、目標とされるのは、簡潔で明快な表現法である。文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ・わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習していく。																
教科書	古郡延治『論文・レポートの文章作法』有斐閣新書																
レポート設題	<table border="1"> <tr> <td>社福・心理</td><td>高齢者の介護は誰が担うべきか述べよ</td></tr> <tr> <td>保育</td><td>良い教師と悪い教師について述べよ。</td></tr> <tr> <td>教育</td><td>学校教育における「生きる力」の育成について述べよ。</td></tr> </table>		社福・心理	高齢者の介護は誰が担うべきか述べよ	保育	良い教師と悪い教師について述べよ。	教育	学校教育における「生きる力」の育成について述べよ。									
社福・心理	高齢者の介護は誰が担うべきか述べよ																
保育	良い教師と悪い教師について述べよ。																
教育	学校教育における「生きる力」の育成について述べよ。																
提出課題	このレポートは文章表現に関する論文であるから、特に論点を明確にして段落や文章校正に気を配りながら文章を書くこと。また、わかりやすい言葉で文法・文字表現などにも十分留意して書くこと。																
学修のポイント1	「バリアフリー」と町の景観について																
学修のポイント2	少年犯罪について																
学修のポイント3	IT社会化について																
学修のポイント4	環境破壊について																
学修のポイント5	リサイクルについて																
学修のポイント6	高齢者介護について																
期末試験	後日発表																
回数	授業内容																
第1回	オリエンテーション																
第2回	レポート題材の調べ方																
第3回	引用の仕方、参考文献の書き方																
第4回	IT社会化について																
第5回																	
第6回	高齢者の介護は誰が担うべきか																
第7回																	
第8回																	
第9回	「バリアフリー」と町の景観について																
第10回	少年犯罪について																
第11回	環境破壊について																
第12回	リサイクルについて																
第13回	幸福とは何か																
第14回	期末試験対策																
第15回	期末試験																
第16回	科目修了試験																
成績評価	<table border="1"> <tr> <td>出席率</td><td>30点</td><td>75%以上の出席を必須とする。</td></tr> <tr> <td>期末試験</td><td>40点</td><td>持ち込み可。論述式。</td></tr> <tr> <td>授業内評価</td><td>30点</td><td>授業態度、提出物などによって評価する。</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td></tr> </table>		出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	期末試験	40点	持ち込み可。論述式。	授業内評価	30点	授業態度、提出物などによって評価する。						
出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。															
期末試験	40点	持ち込み可。論述式。															
授業内評価	30点	授業態度、提出物などによって評価する。															
備考	授業中の居眠り、私語、許可のない携帯電話の使用、音楽等の聴取、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には、減点評価する。																

(講義)	科目名: 福祉と教育	講師: 山田哲史
科目概要・目標	これから時代に求められるのは、正解が一つではない問題を考え、課題探求できる分析力と思考力を備えた人材を教育することである。福祉の現場においても、突然生じる問題を的確に発見して捉え、福祉を必要とする人に対して、その一人ひとりのニーズに応えて、問題を解決していくことが望まれる。そのためには、これまでわが国で主流とされてきた、一方通行型、知識注入型の教育方法を改め、学生が主体となって学修に取り組める学修環境を構成していかねばならない。福祉の時代に向けて真に必要な諸能力は何かを分析し、21世紀に求められる福祉人のあり方について考察する。	
教科書	東京福祉大学編『新・社会福祉要説』(ミネルヴァ書房)、東京福祉大学編『教職科目要説－初等教育編』(ミネルヴァ書房)、東京福祉大学編『教職科目要説－中等教育編』(ミネルヴァ書房)	
提出課題	レポート設題	【設題1】「福祉と教育」を学ぶ意義について述べよ。
	学修のポイント1	日本で行われている教育方法の現状について
	学修のポイント2	これからの大学教育について
	学修のポイント3	教師の意識について
	学修のポイント4	バイスティックの7つの原則について
	学修のポイント5	これからの社会福祉と福祉教育について
	学修のポイント6	上記5つ以外の内容で、「福祉と教育」について興味や関心を持ったことについてまとめよ。
期末試験	(授業時に指示します。)	
回数	授業内容	
第1回	これからの社会福祉と福祉教育について(1)	
第2回	これからの社会福祉と福祉教育について(2)	
第3回	「福祉と教育」を学ぶ意義について(1)	
第4回	「福祉と教育」を学ぶ意義について(2)	
第5回	「福祉と教育」を学ぶ意義について(3)	
第6回	「福祉と教育」を学ぶ意義について(4)	
第7回	日本で行われている教育方法の現状について	
第8回	これからの大学教育について	
第9回	バイスティックの7つの原則について(1)	
第10回	バイスティックの7つの原則について(2)	
第11回	教師の意識について(1)	
第12回	教師の意識について(2)	
第13回	「福祉と教育」をめぐって(1)	
第14回	「福祉と教育」をめぐって(2)	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 持込み許可物件:指定の教科書、自筆のノート、授業時に配布のプリント
	授業内評価	20点 授業中態度:携帯、居眠り、私語、飲食は厳禁
		20点 課題提出状況
備考	教育の効果を高めるためにも、授業には集中力を持続して積極的に取り組むようにしてください。授業中の携帯電話の使用、居眠り、飲食や私語は禁止します。これらのルールを守ることができない学生に対しては不合格とすることがありますので注意してください。	

(講義)	科目名:統計学	講師: 室山俊浩
科目概要・目標	統計学と言っても本科目の内容は単なる公式の暗記のみにはとどまらない。私たちの生活の中にはさまざまな統計情報があふれている。この統計情報からどのように意味のある情報を引き出すか、さらに世の中に対してそれをどのように活かしていくかが重要である。本科目では、そのことを視野に入れつつ、統計学の基本的な事項をおさえ、将来自分でデータの収集と分析ができるような基礎を作っていく。	
教科書	松原望『わかりやすい統計学 第2版』丸善出版	
提出課題	レポート課題 【設題1】統計とは何かについて説明し、それを活用することの利点と注意点について述べよ。 学修のポイント1 ヒストグラムについて 学修のポイント2 質的変数と量的変数について 学修のポイント3 標準偏差の利用方法について 学修のポイント4 相関について 学修のポイント5 正規分布について 学修のポイント6 偏差値について	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション / 統計とはなにか	
第2回	統計を活用することの利点	
第3回	統計を活用することの注意点	
第4回	学修のポイント1 ヒストグラムについて	
第5回	平均値、中央値、最頻値について	
第6回	学修のポイント3 標準偏差の利用方法について	
第7回	学修のポイント4 相関について	
第8回	学修のポイント2 質的変数と量的変数について	
第9回	学修のポイント5 正規分布について	
第10回	学修のポイント6 偏差値について	
第11回	有意性の判断(仮説検定)	
第12回	回帰と予測	
第13回	分析方法	
第14回	期末試験対策	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点 持ち込み可。論述式
		30点 授業内課題。
	授業内評価	
備考	提出物の締切は厳守すること。遅れた日数に応じて減点。 授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁。 無断の座席移動も禁止。	

(実習)	科目名:地域コミュニケーションワーク		講師:山田 哲史
科 目 概 要 ・ 目 標	本科目は、問題発見能力、問題解決能力を実践を通して深めていくことを目的としている。学生ひとり一人が目的意識を持ち、互いに支え合いながら課題解決に取り組むことで学生間の意思疎通を図り、コミュニケーション能力を高めることを期待する。		
教科書	適宜配布		
期末試験	授業時に通知する。		
回数	授業内容		
第1回	心の元気づくりについて		
第2回	レクリエーション支援におけるホスピタリティについて		
第3回	人が物事に夢中になる仕組みについて		
第4回	活動そのものの楽しさについて		
第5回	達成感からもたらされる楽しさについて		
第6回	対象者との意思疎通を促進する方法について		
第7回	成功体験を楽しむ方法について		
第8回	対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法について		
第9回	アイスブレーキングについて		
第10回	アイスブレーキングが必要な場面について		
第11回	CSSプロセスについて		
第12回	プランの考案(1)		
第13回	プランの考案(2)		
第14回	プランの考案(3)		
第15回	プランの考案(4)		
第16回	期末試験		
成 績 評 価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	20点	持ち込み許可物件:授業時に配付の資料、自筆のノート等。論述式。
	授業内評価	30点	評価ポイント:授業内課題・発表内容 ※遅れた場合は減点・未提出は0点とする
		20点	評価ポイント:授業態度・学習意欲・積極性・忘れ物有無
備考	本授業は、ワークが中心となる為、進行状況によってはシラバスに変更が生じる可能性があります。より良いワークのためには受講生同士の協力が不可欠です。より良い学びとなるように自ら学ぼうとする姿勢を持って授業に臨んでください。授業形態によっては、授業内容を変更する可能性もあります。		

(実技)	科目名:情報処理基礎演習 I	講師: 高橋直子
科目概要・目標	Wordを使って、文字入力の練習といろいろな文書作成およびグラフィカルな文書を作成できるようにする。	
教科書	なし(毎回授業で使用するプリントを配布する)	
期末試験	実技試験(1枚の文書を作成し保存する。)	
回数	授業内容	
第1回	簡単な文書を作成	
第2回	定型文書の作成	
第3回	レポートや報告書の作成	
第4回	復習	
第5回	表作成の練習	
第6回	表のある文書の作成	
第7回	すこし複雑な表のある文書の作成	
第8回	画像など利用した文書の作成	
第9回	図形など利用した文書の作成	
第10回	簡単な地図のある文書の作成	
第11回	SmartArtなど利用した文書の作成	
第12回	縦書き文書の作成	
第13回	横置き文書の作成	
第14回	復習	
第15回	復習	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点
	授業内評価	30点 毎回授業で行う課題作成などを含めた授業態度
備考	飲食厳禁、私語厳禁、携帯電話などの使用禁止	

(講義)	科目名:専門研究Ⅰ	講師:花木元司
科目概要・目標	いろいろな年代や多くの人とかかわることを職業とする場合、人間の発達について学ぶことは必要不可欠の要因である。基本的知識である各発達段階の特徴を理解し、その過程を説明するさまざまな理論について学んでいく。さらに、人が生きていく上でさまざまな困難を体験するが、その心理的な背景と対応の方法について考察を進めていく。これまでの研究によって得られた知見をもとに現代社会における「発達」について考える。	
参考文献	<p>【参考資料】</p> <p>①上田礼子「生涯人間発達学」 ②無藤隆・岡本祐子・大坪治彦「よくわかる発達心理学」</p>	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	講義概要 この講義で学んでほしいこと、成長と発達	
第2回	発達の見方と主な発達理論(Erikson,Piaget,Freud)	
第3回	発達の見方と主な発達理論(比較行動学、学習理論)・個体と環境	
第4回	出生前発達と出生(胎内で聞こえる母親の声、新生児期の適応行動)	
第5回	乳児期の世界(大切なキンシップ・反射・微細運動)	
第6回	乳児期の世界(人見知り・移行対象・認知の発達)	
第7回	幼児期前期の世界(自分に目覚める・言語、情緒の発達)	
第8回	幼児期後期の心理と発達(ごっこ遊び・認知の発達・事故予防)	
第9回	幼児期後期の心理と発達(群れ遊び・情緒、社会性の発達)	
第10回	児童期の心理と発達(具体的操作・メタ認知)	
第11回	児童期の心理と発達(友達関係の特徴・自己制御・道徳性)	
第12回	青年期の心理と発達(価値観の特徴、男女の違い)	
第13回	成人期の心理発達(情緒と社会的成熟、認知発達、ライフスタイルの選択)	
第14回	成人期の中期・後期の特徴(柔軟な対応能力、同一性と自己概念の再構築)	
第15回	老後の知恵	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 科学的に内容を理解できたか 25点 授業態度(内容理解の深化と科学的根拠に基づいた発言)
	授業内評価	15点 学習資料の準備
	備考	この講義を受け身で受講するのではなく、関係のある文献などへの関心も深め、科学的根拠に基づいた思考ができるようになってほしい。

社会福祉学科

保育児童福祉コース

1年生

(講義)	科目名:生活の中の福祉	講師: 横山由里
科目概要・目標	近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会で必要な生活の中の福祉とは何か、その考え方や対象となる様々な人々に必要な福祉にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。	
教科書	山縣文治・岡田忠克編『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房。	
提出課題	<p>レポート設題 【設題1】少子高齢化と福祉についてまとめ、今後の福祉のあり方について述べよ。</p> <p>学修のポイント1 ライフサイクルと福祉について 学修のポイント2 福祉の捉え方と援助について 学修のポイント3 ナショナルミニマムについて 学修のポイント4 ノーマライゼーションについて 学修のポイント5 障がい者と福祉について 学修のポイント6 低所得者と福祉について</p>	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション	
第2回	学修のポイント①ライフサイクルと福祉について	
第3回	学修のポイント④ノーマライゼーションについて1	
第4回	学修のポイント④ノーマライゼーションについて2	
第5回	少子高齢化と福祉①	
第6回	少子高齢化と福祉②	
第7回	学修のポイント③ナショナルミニマムについて	
第8回	学修のポイント②福祉の捉え方と援助について1	
第9回	学修のポイント②福祉の捉え方と援助について2	
第10回	学修のポイント⑥低所得者と福祉について	
第11回	学修のポイント⑤障がい者と福祉について	
第12回	さまざまな福祉サービス	
第13回	さまざまな福祉施設①	
第14回	さまざまな福祉施設②	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	20点
	授業内評価	30点 課題提出期限が遅れたら減点 1回5点
		20点 積極的な授業態度
備考	積極的に頑張りましょう。 参考文献: 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。	

(講義)	科目名:保育者論	講師:田口早苗
科目概要・目標 保育士、幼稚園教諭の制度的位置づけ、社会的役割と必要とされる専門的能力を理解し、保育者にふさわしい資質を自ら養おうとする態度を養う。社会人としての基本的あり方、保育者の倫理観、乳幼児保育の基礎的知識・技能、保護者支援の方法、実践的学習とともに、世界的な保育の動向など幅広い視点も含め、保育の専門家としての見識を持つように学習する。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、保育士として公立保育所、障害児通園施設、児童センターで保育に従事し、園長も務めた講師の下、保育現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。		
教科書		【教科書】民秋言他「保育者論」建帛社 【参考書】武藤安子、他「発達支援―豊かな保育実践に向けてー」ななみ書房 吉川晴美、他「共に育つ一人間探求の児童学」宣協社
提出課題		
提出課題	レポート設題	保育者の専門性について、他の分野との違い、及び専門性向上のための具体的な方法を述べよ。 <ポイント> 保育者の専門性は他の分野と異なる専門性があるので、それを整理する。また、社会的変化や子どもの発達変化などに伴う保育ニーズに対応するために、専門性を向上させるためにはどのような方法があるかをまとめる。
	学修のポイント1	現代社会において求められる保育者像について <ポイント>は以下すべて別紙
	学修のポイント2	保育士資格、幼稚園教諭の制度上の定義、職務上の役割について
	学修のポイント3	保育者の倫理とはどのような内容を含むか
	学修のポイント4	次の人物の、業績、思想などについて(特に自分が興味のある1名について調べる)ルソー、ロバート・オーエン、フレーベル、倉橋惣三、野口幽香、赤沢鐘美
	学修のポイント5	子どもの豊かな生活のための保育者の在り方や子どもへの配慮について
	学修のポイント6	保育における省察の重要性について
期末試験		後日授業で指示
回数		
第1回		
保育の意味(子どもを育てる二つのコースと制度としての保育)教諭、保育士、保育教諭の役割を知る。(教科書第1章)		
第2回		
保育の現状理解と保育者の社会的役割(社会の変化と保育ニーズ)保育者の子育て支援者としての役割を学び、現代の保育問題について保育専門職として果たすべき役割を考える。(学修のポイント1)		
第3回		
保育者の役割と専門性①幼稚園教諭 幼稚園教育要領の趣旨に即応するための幼稚園教育者としての資質、能力、技術を理解する。(教科書第4章1, 2, 3節)(学修のポイント2)		
第4回		
保育者の役割と専門性②保育士、保育教諭 保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の趣旨に即応するための幼稚園教育者としての資質、能力、技術を理解する。(教科書第5章1, 2節)(学修のポイント2)		
第5回		
保育者の役割と専門性③保育者として望ましい資質 保育の専門家として必要とされる人間的要素(感性、判断力、応用力、共感性など)、専門知識、専門的态度、実践技術などをまとめる。(教科書第4章4節)(学修のポイント5)		
第6回		
レポートの書き方とポイントアドバイス 演習専門性とは何を意味するか		
第7回		
保育の専門性を向上させるためには何が必要か レポート演習とアドバイス		
第8回		
保育者と制度① 保育者の制度的地位 我が国の保育制度をまとめ保育所、幼稚園の役割を理解する。(教科書2章)		
第9回		
保育者と制度② 保育士資格取得の要件・幼稚園教諭免許取得の要件の修得すべき専門的能力の内容を理解する。(教科書2章)		
第10回		
保育者の職務と倫理 全国保育士会倫理要綱の内容を調べ保育者の職と求められる倫理を理解する。(教科書第2章)(学修のポイント3)		
第11回		
子ども観、保育観の重要性① 保育は保育者の人間性を通して行われるため、保育者の子どもの見方、保育観が重要であること、先達に学ぶことの重要性を理解する。((教科書第3章)(学修のポイント4))		
第12回		
子ども観、保育観の重要性② 西欧の思想に学ぶ。現代の保育に影響を与えた思想の流れを理解し、保育観の源流、人間教育としての保育の本質と保育者の在り方を考える。((教科書第3章)(学修のポイント4))		
第13回		
期待される保育者① 成長する保育者 保育における自己反省、職員同士によるカンファレンス、第三者評価、他機関との連携など保育者自身の向上のための方法を知る。(教科書第6章)(学修のポイント6)		
第14回		
期待される保育者② 子育ての現状をまとめ、保育ニーズの現状をまとめる。(教科書第7章)		
第15回		
期末試験		
第16回		
科目終了試験		
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 論点を正しく捉えているか。
	授業内評価	20点 学習への参加・授業態度
		20点 提出期限等

(講義)	科目名:保育原理	講師:坂 鏡子
科目概要・目標	<p>乳幼児期が人間形成の基礎としてきわめて重要な意味を持つことは、諸科学の進歩とともにますます強調されている。特に自己を主張し始める乳幼児期にあっては、保育者の側に乳幼児に対する十分な理解と洞察がなければならぬ。そして保育者が保育実践の中で何をめざしているのか目的をしっかりと持つことが重要である。本科目では、保育の歴史と現状、意義、課題、基本的原理、さまざまな保育思想などの基本知識を学びながら、確かな保育観、子ども観、あるいは発達觀を築く。</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、公立の児童センターや子育て支援センターのセンター長を経て、現在も子育て支援を行っているNPO法人の理事長を務める講師のもと、保育現場における実例を交え、保育の実践的な知識を学ぶ。</p>	
教科書	佐藤康富『新しい保育原理』大学図書出版	
提出課題	<p>レポート設題 保育における遊びの重要性について述べよ。 遊びは課題活動や仕事とどう違うのか。なぜ「子どもの生活は遊びである」と言われるのかなど、子どもの遊びの特質を明らかにする。また、子どもが遊びの中で体験、学習している事をとらえ、その上で保育が「遊びを通して行われること」の大切さを述べる。</p> <p>学修のポイント1 保育の歴史的変遷について 学修のポイント2 フレーベルの思想について 学修のポイント3 わが国の現行保育制度の概要について 学修のポイント4 保育における養護と教育について 学修のポイント5 環境を通しての教育とは 学修のポイント6 保育における人的環境について</p>	
期末試験	後日授業内にて指示	
回数	授業内容	
第1回	保育とは何か	
第2回	子ども理解	
第3回	保育の歴史-世界-	
第4回	保育の歴史-日本-	
第5回	保育の場	
第6回	保育制度	
第7回	保育環境・保育内容-養護と教育-	
第8回	保育方法	
第9回	保育計画	
第10回	子育て支援	
第11回	特別な配慮を要する子ども	
第12回	保育の記録	
第13回	保育者の専門性	
第14回	これからの保育の課題	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点
	授業内評価	15点 授業態度
		10点 レポート内容
		15点 提出状況
備考	前向きで積極的な授業態度を心がけてください。	

(実技)	科目名:音楽実技Ⅰ	講師:樋上 莊一
科目概要・目標	音楽の基礎的知識を正しく身につけることを目指す。 1. 楽譜に関する基本的知識を正確に身につけ、楽譜を読む能力を養う。 2. バイエルを中心として、保育活動に必要なピアノ演奏技能を、初步から学ぶ。 3. 幼児歌曲の指導能力を身に付けるため、歌うことなど、基礎技能に習熟するための準備を始める。	
教科書・資料	*全訳バイエルピアノ教則本 *新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門	
設題	中間テスト	*楽譜は見てよい
		第1回 バイエル No. 14, 18
		第2回 バイエル No. 19 21
	期末試験	第3回 バイエル No. 24, 26 第4回 バイエル No. 27, 31 バイエル(暗譜) No. 35, 37
日時	授業内容と、練習及び合格目標	
第1回	*ガイダンス(楽器の扱い方、授業の進め方、等) *楽譜の読み方と、ピアノの演奏法について *バイエル P. 6, 7 右手練習・左手練習・両手練習(手・指の形・指の動かし方など、大変重要)	
第2回	*バイエル P. 6, 7 右手練習・左手練習・両手練習(手・指の形・指の動かし方など、大変重要) *バイエル No.7 (左右の手が、互いに影響を受けずに、弾けること)	
第3回	*バイエル 10, 14 (No.10は左右の手が、互いに影響を受けずに、弾けること) *バイエル No.14, No.18	
第4回	*第1回中間テスト(バイエル No. 14, 18) *バイエル No. 19	
第5回	*バイエル No.19	
第6回	*バイエル No.21	
第7回	*第2回中間テスト(バイエル No. 19, 21) *バイエル No.24	
第8回	*バイエル No.24, 26	
第9回	*バイエル No.24, 26	
第10回	*第3回中間テスト(バイエル No. 24, 26) *バイエル No.27	
第11回	*バイエル No.27 *幼児歌曲	
第12回	*バイエル No.31 *幼児歌曲	
第13回	*第4回中間テスト(バイエル No.27, 31) *バイエル No.35	
第14回	*期末テスト準備(No. 35, 37) *幼児歌曲	
第15回	*期末テスト準備(No. 35, 37) *幼児歌曲	
第16回	*期末試験[最終授業日] (バイエル No.35, 37)	
成績評価	出席率	30点 75% 以上出席すること。出席不足の場合は再履修とする。
	中間テスト	20点 4(5-1)点×4
	期末テスト	10点 8(10-2)点 (バイエル 暗譜)
	配点曲	(4点×1) バイエル 右・左・両手練習(バイエル・P.6, 7)
		(3点×12) バイエル 7, 10, 14, 18, 19, 21, 24, 26, 27, 31, 35, 37
備考	大学スクーリング修了試験課題: 18, 19, 40, 49, 52	

(講義)	科目名:音楽	講師: 橋上 莊一												
科目概要・目標	本科目では、楽譜を読む、音を奏でる、リズムを打つといった音楽の基礎知識、技術を身に着け、対象者に合わせた音楽活動について考察する。また、保育・教育・福祉等の現場に即した音楽活動について体験的な学習をする。													
教科書	・新 保育者 小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門 ・保育児童福祉要説 ・プリント(授業で配布)													
提出課題	<p>レポート設題</p> <p>【設題1】わらべうた及び明治期、大正期、昭和初期、戦後のそれぞれの時期に作曲された子どもの歌の中から1~2曲ずつを取り上げ、それらの歌の特徴について、歴史的背景に触れながら述べよ。 <ポイント> 日本古来より伝承されてきたわらべ歌と、明治以降西洋の子供の歌に日本の詩をあてはめたものや、いわゆる唱歌と称される曲の特徴と変遷を、実際に曲を取り上げ、作詞者・作曲家について言及しながら考察する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽の指導に必要な基礎事項について(五線譜、音部記号と音名、音符など) 2. 基本的事項について(拍と拍子、拍子の種類と指揮棒の振り方) 3. 音程について 4. 音階と調について(長音階、短音階) 5. 主要三和音とその連結について 6. 楽譜に用いられる記号と標語について 													
期末試験	設題 : 和音構造と連結方法について													
回数	授業内容													
第1回	*ガイダンス *五線譜の読み方 (五線譜・譜表・音名・音符・休符・など) *学修のポイント①													
第2回	*五線譜の読み方②(音符・休符・リズム・拍) *拍子と拍子記号 *学修のポイント②													
第3回	*復習テスト(音符・休符について) *様々な記号と標語													
第4回	*日本古来より伝承されてきたわらべ歌と、明治以降の唱歌について *3200字レポート													
第5回	*日本古来より伝承されてきたわらべ歌と、明治以降の唱歌について② *3200字レポート													
第6回	*音楽史の大きな流れ *バロックの音楽(音楽鑑賞)													
第7回	*古典派の音楽(音楽鑑賞)													
第8回	*ロマン派の音楽(音楽鑑賞)													
第9回	*20世紀の音楽(音楽鑑賞)													
第10回	*さまざまな記号と標語 *音程 *音階と調・調号 *学修のポイント③ ④ ⑥													
第11回	*復習テスト(記号と標語)① *音階と調・調号(復習) *移調													
第12回	*さまざまな記号と標語 *和音構造について(和音とコードネーム)① *学修のポイント⑤ ⑥													
第13回	*復習テスト(記号と標語)② *主要三和音とその連結について *学修のポイント⑤													
第14回	*和音構造と連結方法について (和音とコードネーム)②													
第15回	*主要三和音とその連結について(復習) *期末試験について													
第16回	*期末試験													
成績評価	<table border="1"> <tr> <td>出席率</td> <td>30点</td> <td>75%以上の出席を必須とする。</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>20点</td> <td>持ち込み: 可(一部プリントのみ) 論述式</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>20点</td> <td>下書きにおいて評価する</td> </tr> <tr> <td>提出物</td> <td>30点</td> <td>宿題・復習テスト・音楽鑑賞感想</td> </tr> </table>		出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	期末試験	20点	持ち込み: 可(一部プリントのみ) 論述式	レポート	20点	下書きにおいて評価する	提出物	30点	宿題・復習テスト・音楽鑑賞感想
出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。												
期末試験	20点	持ち込み: 可(一部プリントのみ) 論述式												
レポート	20点	下書きにおいて評価する												
提出物	30点	宿題・復習テスト・音楽鑑賞感想												
備考	・忘れ物は減点の対象とする ・授業の進み具合により、内容が変更になることがある。													

(講義)	科目名:心理学概論	講師: 新實 千恵里
科目概要・目標	現代社会が抱える様々な問題を心理学の観点からアプローチできるよう、ここでは心理学全体を見渡すことを目的とする。そこで、心理学とは何か、から始まり、心理学分野を「心の仕組み」、「心の学問を紐解く」、「心のケアと支援」という3つの大きな領域から考え、心理学の成り立ち、人の心の基本的な仕組み及び働きについて学習していく。本科目を学ぶことで、心理学とはどのような学問か、その体系を知ることができ、かつ考え方方が理解できる。	
教科書	社会福祉養成講座編集委員会(編)『新・社会福祉養成講座2心理学理論と心理的支援第3版』 中央法規 2018	
提出課題	レポート設題	【設題1】人格形成に及ぼす環境要因について述べよ 【設題2】各発達段階の特徴について述べよ。
学修のポイント1	人格の諸理論について述べよ。	
学修のポイント2	人間の感覚・知覚・認知の特質について述べよ。	
学修のポイント3	人間の発達課題について述べよ。	
学修のポイント4	心理的アセスメント(見立て)について述べよ。	
学修のポイント5	対人関係の発展について述べよ。	
学修のポイント6	心理療法について述べよ。	
期末試験	論述試験(ノート持ち込み可・教科書可)	
回数	授業内容	
第1回	シラバス説明、レポート構成説明 心理学の歴史、発達の定義、発達段階	
第2回	人間の発達課題:発達課題、認知発達理論	
第3回	人間の発達課題:新生児期～老年期	
第4回	人間の感覚・知覚・認知の特質:基礎的な情報処理	
第5回	下書きレポート作成	
第6回	人格の諸理論:類型論と特性論	
第7回	人格の諸理論:心理検査におけるアセスメント	
第8回	心理的アセスメント:心理テストによる見立て	
第9回	対人関係の発展:対人認知、集団	
第10回	対人関係の発展:コミュニケーション	
第11回	対人関係の発展:欲求と動機付け	
第12回	学修レポート作成	
第13回	心理療法:心理療法の諸理論	
第14回	期末試験対策／科目終了試験対策	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。欠席1回事に-2点、遅刻-1点
	期末試験	30点 表記・文字数:10点 文章構成・論理展開:10点 内容・創造性:10点
		21点 提出物:7つそれぞれの締め日を過ぎた場合、1つあたり-3点
	授業内評価	19点 授業態度:グループワーク、個人ワークの積極的参加、その他態度
備考		

(講義)	科目名: 福祉と教育	講師: 山田哲史
科目概要・目標	これから時代に求められるのは、正解が一つではない問題を考え、課題探求できる分析力と思考力を備えた人材を教育することである。福祉の現場においても、突然生じる問題を的確に発見して捉え、福祉を必要とする人に対して、その一人ひとりのニーズに応えて、問題を解決していくことが望まれる。そのためには、これまでわが国で主流とされてきた、一方通行型、知識注入型の教育方法を改め、学生が主体となって学修に取り組める学修環境を構成していかねばならない。福祉の時代に向けて真に必要な諸能力は何かを分析し、21世紀に求められる福祉人のあり方について考察する。	
教科書	東京福祉大学編『新・社会福祉要説』(ミネルヴァ書房)、東京福祉大学編『教職科目要説－初等教育編』(ミネルヴァ書房)、東京福祉大学編『教職科目要説－中等教育編』(ミネルヴァ書房)	
提出課題	レポート設題	【設題1】「福祉と教育」を学ぶ意義について述べよ。
	学修のポイント1	日本で行われている教育方法の現状について
	学修のポイント2	これからの大学教育について
	学修のポイント3	教師の意識について
	学修のポイント4	バイスティックの7つの原則について
	学修のポイント5	これからの社会福祉と福祉教育について
	学修のポイント6	上記5つ以外の内容で、「福祉と教育」について興味や関心を持ったことについてまとめよ。
期末試験	(授業時に指示します。)	
回数	授業内容	
第1回	これからの社会福祉と福祉教育について(1)	
第2回	これからの社会福祉と福祉教育について(2)	
第3回	「福祉と教育」を学ぶ意義について(1)	
第4回	「福祉と教育」を学ぶ意義について(2)	
第5回	「福祉と教育」を学ぶ意義について(3)	
第6回	「福祉と教育」を学ぶ意義について(4)	
第7回	日本で行われている教育方法の現状について	
第8回	これからの大学教育について	
第9回	バイスティックの7つの原則について(1)	
第10回	バイスティックの7つの原則について(2)	
第11回	教師の意識について(1)	
第12回	教師の意識について(2)	
第13回	「福祉と教育」をめぐって(1)	
第14回	「福祉と教育」をめぐって(2)	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 持込み許可物件:指定の教科書、自筆のノート、授業時に配布のプリント
	授業内評価	20点 授業中態度:携帯、居眠り、私語、飲食は厳禁
		20点 課題提出状況
備考	教育の効果を高めるためにも、授業には集中力を持続して積極的に取り組むようにしてください。授業中の携帯電話の使用、居眠り、飲食や私語は禁止します。これらのルールを守ることができない学生に対しては不合格とすることがありますので注意してください。	

(講義)	科目名:アメリカの文化と言語 I	講師:米田尚美
科 目 概 要 ・ 目 標	これからの国際社会に対応していくためには世界的公用語である英語でのコミュニケーション能力が必要である。高校までの暗記を中心とした受験英語とは違い、表現力を重視した、読む・書く・聞く・話す、の四技能を養い、実用的な英語を使いこなすためには、日本語とは異なる英語の言語学的特徴(発音・文法・語法等)を理解することが大切である。また、英語という言語の背景にある、主にアメリカを中心とした英語圏の文化の理解にも重点を置く。	
教科書	ピーター・セラフィン、根間弘海 "Twenty American Heroes" 三修社、2017年	
提出課題	<p>レポート設題 8章「Martin Luther King, Jr.」について日本語で要約せよ。さらに、内容についてあなたの考えを述べよ。</p> <p><ポイント>公民権運動とは1950年代のアメリカにおいて、黒人を中心に始められた人種差別撤廃運動である。Martin Luther King, Jr.はアメリカにおける人種差別において、公民権運動の指導者としてどのように貢献したか。また、彼の掲げた「非暴力」そして、不朽の名演説「私には夢がある(I Have A Dream)」は、人々にどのようなメッセージを投げかけたのか。Martin Luther King, Jr.の思想が人種差別思想や米国憲法修正に与えた影響について考察すること。</p>	
	<p>学修のポイント1 英文を日本語で要約せよ。さらに、Elvis Presleyに対するあなたの印象を述べよ。</p> <p><ポイント>当時のアメリカの社会状況をよく理解した上で、音楽史上におけるプレスリーのロックン・ロールの位置づけを考察する。また、あまりに早い最期を遂げたプレスリーの「有名人の孤独」についても考える。</p>	
	<p>学修のポイント2 英文を日本語で要約せよ。さらに、Steven Spielbergの作品を一つ挙げてあなたの印象を述べよ。</p> <p><ポイント>スピルバーグの人となりと、彼の映画製作に向かう姿勢を理解し、具体的に説明できるよう理解を深める。単純な映画の感想文に陥らないようにすること。</p>	
	<p>学修のポイント3 英文を日本語で要約せよ。さらに、Gatesに対するあなたの印象を述べよ。</p> <p><ポイント>現在のIT社会を築き上げた功労者であり、また新しい問題点を作り出した人物でもある。パソコンとインターネットの普及から派生する諸問題に対する解決策、対応策を考えるとよい。</p>	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	授業目標
第1回	オリエンテーション	
第2回	学修のポイント 1 作成 Elvis Presleyについて	当時のアメリカの時代背景を理解した上でElvis Presleyの生い立ちや音楽性を理解する。
第3回		
第4回	レポート作成指導 キング牧師について	黒人差別が起きた背景を理解した上で公民権運動(人種差別撤廃運動)について理解する。“I Have A Dream”的スピーチにおいて、キング牧師が何を伝えたかったのかを理解する。
第5回		
第6回		
第7回	学修のポイント 2 作成 Steven Spielbergについて	Steven Spielbergの作品に描かれている“Childlike”とは何かを理解する。
第8回		
第9回		
第10回	学修のポイント 3 Bill Gatesについて	Bill Gatesの功績をふまえた上で、メディアリテラシーについても理解を深める。
第11回		
第12回	まとめ	
第13回		
第14回	期末試験対策	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 持込み不可(教科書の内容理解を問う問題を中心とする予定)
		評価ポイント:提出物(下書きレポート・清書レポート・学修のポイント2本)の内容・提出期限を守れたか ※遅れた場合は減点
		20点 評価ポイント:授業態度・忘れ物・授業前課題・授業内課題
備考	本授業は英文読解とその要約が中心です。授業についていくためにも各自予習復習を行うこと。	

(講義)	科目名:文章表現		講師:仁井田 和也									
科目概要・目標	<p>通信教育では、レポートを書くための表現力が要求される。本科目では、レポート作成に必要な「書く」技術の基礎訓練を行う。したがって、目標とされるのは、簡潔で明快な表現法である。</p> <p>文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ・わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習していく。</p>											
教科書	古郡延治『論文・レポートの文章作法』有斐閣新書											
提出課題	<table border="1"> <tr> <td>レポート設題</td><td>社福・心理</td><td>高齢者の介護は誰が担うべきか述べよ</td></tr> <tr> <td></td><td>保育</td><td>良い教師と悪い教師について述べよ。</td></tr> <tr> <td></td><td>教育</td><td>学校教育における「生きる力」の育成について述べよ。</td></tr> </table> <p>このレポートは文章表現に関する論文であるから、特に論点を明確にして段落や文章校正に気を配りながら文章を書くこと。また、わかりやすい言葉で文法・文字表現などにも十分留意して書くこと。</p>			レポート設題	社福・心理	高齢者の介護は誰が担うべきか述べよ		保育	良い教師と悪い教師について述べよ。		教育	学校教育における「生きる力」の育成について述べよ。
レポート設題	社福・心理	高齢者の介護は誰が担うべきか述べよ										
	保育	良い教師と悪い教師について述べよ。										
	教育	学校教育における「生きる力」の育成について述べよ。										
学修のポイント1	「バリアフリー」と町の景観について		各テーマで、自分の主張を絞り、構成を十分に考えてから作成に取り組むこと。一般論に止まらず、自分の主張を裏付ける情報などを引用することで、自分の主張に説得力を持たせるようとする。また、論理展開として、主張に一貫性があるかにも気を付けて書き、終わったら必ず読み返して、自己点検することも忘れないこと。									
学修のポイント2	少年犯罪について											
学修のポイント3	IT社会化について											
学修のポイント4	環境破壊について											
学修のポイント5	リサイクルについて											
学修のポイント6	高齢者介護について											
期末試験	後日発表											
回数	授業内容											
第1回	オリエンテーション		作文・レポート・論文の違いについて									
第2回	レポート題材の調べ方											
第3回	引用の仕方、参考文献の書き方											
第4回	IT社会化について											
第5回												
第6回												
第7回	高齢者の介護は誰が担うべきか		コースによってテーマが異なる									
第8回												
第9回	「バリアフリー」と町の景観について											
第10回	少年犯罪について											
第11回	環境破壊について											
第12回	リサイクルについて											
第13回	幸福とは何か											
第14回	期末試験対策											
第15回	期末試験											
第16回	科目修了試験											
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。									
	期末試験	40点	持ち込み可。論述式。									
	授業内評価	30点	授業態度、提出物などによって評価する。									
備考	授業中の居眠り、私語、許可のない携帯電話の使用、音楽等の聴取、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には、減点評価する。											

(講義)	科目名:法学概論	講師: 森奈祐
科目概要・目標	社会福祉の専門家には、憲法第25条に定める生存権の保障を実現するため、様々な社会保障、社会福祉諸制度やそれにかかる行政機関への手続きのための知識が必要である。そのため、憲法、民法、行政法の基礎知識を習得することは必要である。この科目では、それらの学修に先立っていわゆる法学入門に相当する法や法学一般について学び、研究する。	
教科書	末川博士『法学入門 第6版補訂版』有斐閣双書	
提出課題	<p>レポート設題 【設題1】基本的人権の尊重について述べよ <ポイント>基本的人権の意義について考えること。基本的人権が成立した背景、さらに一般的な特色についてもまとめること。</p> <p>学修のポイント1 教育を受ける権利と義務について</p> <p>学修のポイント2 親権について</p> <p>学修のポイント3 契約の自由について</p> <p>学修のポイント4 罪刑法定主義について</p> <p>学修のポイント5 法の種類について</p> <p>学修のポイント6 法の段階構造について</p>	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション/法的な考え方と法学概論を学ぶ意義	
第2回	近代市民法「契約の自由について」	
第3回	基本的人権の尊重について①(包括的基本権)	
第4回	基本的人権の尊重について②(自由権)	
第5回	基本的人権の尊重について③(能動的権利)	
第6回	基本的人権の尊重について④(まとめ)	
第7回	刑法「罪刑法定主義について」	
第8回	教育を受ける権利と義務について	
第9回	民法(家族法)親権について	
第10回	公法・私法・社会法 法の種類について	
第11回	行政法 法の段階構造について	
第12回	その他の法律①(労働法など)	
第13回	その他の法律②(国際法など)	
第14回	法学概論のまとめ	
第15回	期末試験	
第16回	科目修了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点
	授業内評価	30点 受講態度(授業態度や質疑応答など、積極的に授業を受けているか)・提出状況(レポートやポイントなど、提出期限を守っているか)
備考	授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用、音楽等の聴取、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には、減点評価とします。	

(実習)	科目名:地域コミュニケーションワーク		講師:山田 哲史
科目概要・目標	本科目は、問題発見能力、問題解決能力を実践を通して深めていくことを目的としている。学生ひとり一人が目的意識を持ち、互いに支え合いながら課題解決に取り組むことで学生間の意思疎通を図り、コミュニケーション能力を高めることを期待する。		
教科書	適宜配布		
期末試験	授業時に通知する。		
回数	授業内容		
第1回	心の元気づくりについて		
第2回	レクリエーション支援におけるホスピタリティについて		
第3回	人が物事に夢中になる仕組みについて		
第4回	活動そのものの楽しさについて		
第5回	達成感からもたらされる楽しさについて		
第6回	対象者との意思疎通を促進する方法について		
第7回	成功体験を楽しむ方法について		
第8回	対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法について		
第9回	アイスブレーキングについて		
第10回	アイスブレーキングが必要な場面について		
第11回	CSSプロセスについて		
第12回	プランの考案(1)		
第13回	プランの考案(2)		
第14回	プランの考案(3)		
第15回	プランの考案(4)		
第16回	期末試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	20点	持ち込み許可物件:授業時に配付の資料、自筆のノート等。論述式。
	授業内評価	30点	評価ポイント:授業内課題・発表内容 ※遅れた場合は減点・未提出は0点とする
		20点	評価ポイント:授業態度・学習意欲・積極性・忘れ物有無
備考	本授業は、ワークが中心となる為、進行状況によってはシラバスに変更が生じる可能性があります。より良いワークのためには受講生同士の協力が不可欠です。より良い学びとなるように自ら学ぼうとする姿勢を持って授業に臨んでください。授業形態によっては、授業内容を変更する可能性もあります。		

(実技)	科目名:情報処理基礎演習 I		講師: 高橋直子
科目概要・目標	Wordを使って、文字入力の練習といろいろな文書作成およびグラフィカルな文書を作成できるようにする。		
教科書	なし(毎回授業で使用するプリントを配布する)		
期末試験	実技試験(1枚の文書を作成し保存する。)		
回数	授業内容		
第1回	簡単な文書を作成		
第2回	定型文書の作成		
第3回	レポートや報告書の作成		
第4回	復習		
第5回	表作成の練習		
第6回	表のある文書の作成		
第7回	すこし複雑な表のある文書の作成		
第8回	画像など利用した文書の作成		
第9回	図形など利用した文書の作成		
第10回	簡単な地図のある文書の作成		
第11回	SmartArtなど利用した文書の作成		
第12回	縦書き文書の作成		
第13回	横置き文書の作成		
第14回	復習		
第15回	復習		
第16回	期末試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点	
	授業内評価	30点	毎回授業で行う課題作成などを含めた授業態度
備考	飲食厳禁、私語厳禁、携帯電話などの使用禁止		

(講義)	科目名:専門研究Ⅰ	講師:花木元司
科目概要・目標	いろいろな年代や多くの人とかかわることを職業とする場合、人間の発達について学ぶことは必要不可欠の要因である。基本的知識である各発達段階の特徴を理解し、その過程を説明するさまざまな理論について学んでいく。さらに、人が生きていくうえでさまざまな困難を体験するが、その心理的な背景と対応の方法について考察を進めていく。これまでの研究によって得られた知見をもとに現代社会における「発達」について考える。	
参考文献	<p>【参考資料】</p> <p>①上田礼子「生涯人間発達学」 ②無藤隆・岡本祐子・大坪治彦「よくわかる発達心理学」</p>	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	講義概要 この講義で学んでほしいこと、成長と発達	
第2回	発達の見方と主な発達理論 (Erikson, Piaget, Freud)	
第3回	発達の見方と主な発達理論(比較行動学、学習理論)・個体と環境	
第4回	出生前発達と出生(胎内で聞こえる母親の声、新生児期の適応行動)	
第5回	乳児期の世界(大切なスキンシップ・反射・微細運動)	
第6回	乳児期の世界(人見知り・移行対象・認知の発達)	
第7回	幼児期前期の世界(自分に目覚める・言語、情緒の発達)	
第8回	幼児期後期の心理と発達(ごっこ遊び・認知の発達・事故予防)	
第9回	幼児期後期の心理と発達(群れ遊び・情緒、社会性の発達)	
第10回	児童期の心理と発達(具体的操作・メタ認知)	
第11回	児童期の心理と発達(友達関係の特徴・自己制御・道徳性)	
第12回	青年期の心理と発達(価値観の特徴、男女の違い)	
第13回	成人期の心理発達(情緒と社会的成熟、認知発達、ライフスタイルの選択)	
第14回	成人期の中期・後期の特徴(柔軟な対応能力、同一性と自己概念の再構築)	
第15回	老後の知恵	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 科学的に内容を理解できたか
		25点 授業態度(内容理解の深化と科学的根拠に基づいた発言)
	授業内評価	15点 学習資料の準備
備考	この講義を受け身で受講するのではなく、関係のある文献などへの関心も深め、科学的根拠に基づいた思考ができるようになってほしい。	

社会福祉学科

社会福祉コース

2年生

(講義)	科目名:公的扶助論	講師:遠藤 修正
科 目 概 要 ・ 目 標	この科目では、社会保障制度において「救貧」を担う公的扶助制度に関する基礎知識を体系的に学修する。具体的には、公的扶助制度の歴史的経緯などを学ぶとともに、わが国における公的扶助制度としての生活保護制度の目的、原理、原則、実施体制、制度運用の現状と問題点、被保護者の権利及び義務に加え、近年の公的扶助制度に関する動向や課題などについて学ぶ。また、低所得者支援の制度として、生活困窮者自立支援制度や生活福祉資金貸付制度等についても学ぶ。	
	教科書	『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座4 貧困に対する支援』中央法規その他、参考資料も配付する。テキスト所持の可否はその都度伝達する。
提出課題	レポート設題	【設題1】生活保護の基本原理の一つである補足性の原理について述べなさい。 <ポイント>生活保護法の該当部分の条文を踏まえ、保護の要件とされること、保護に優先されることを中心に、現状の制度の問題点とともに論じること。
	学修のポイント1	貧困をとらえる3つのアプローチについて
	学修のポイント2	生活保護制度の2つの目的について
	学修のポイント3	生活扶助基準の構成について
	学修のポイント4	生活保護制度の動向とその背景について
	学修のポイント5	住宅に関する低所得者支援関連施策について
	学修のポイント6	生活困窮者自立支援制度について
	期末試験	講義の中で発表
第1回	オリエンテーション 講義の進め方など	
第2回	公的扶助の概念 P2~16	
第3回	貧困の概念と貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境 P18~40	
第4回	貧困の歴史 P42~64	
第5回	生活保護制度の目的・原理・原則、生活保護の種類と内容 P66~89	
第6回	生活保護の基本原理の一つである補足性の原理について述べなさい。(1)	
第7回	同 上 (2)	
第8回	貧困をとらえる3つのアプローチについて P21~25	
第9回	生活保護制度の2つの目的について P68、P207~217	
第10回	生活扶助基準の構成について P76~82	
第11回	生活保護制度の動向とその背景について P110~122	
第12回	住宅に関する低所得者支援関連施策について P134、P153、P155	
第13回	生活困窮者自立支援制度について P124~143	
第14回	期末試験/科目終了試験対策	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30 点 75%以上の出席を必須とする
	期末試験	30 点
	授業内評価	20 点 レポート、授業課題
		20 点 受講姿勢
	備考	遅刻、欠席、私語、居眠り、スマートフォン使用厳禁。

(講義)	科目名:社会保障論	講師: 原田 亘
科目概要・目標	<p>本科目では、社会保障制度全体についてくまなく概説した上で、今後社会保障制度が対応していかなければならない問題は何かを検討する。年金、医療、介護保険など各制度については、制度の詳細についても学修する。そのことにより、社会福祉の現場で働く場合に必要となる、社会保障に関する専門的かつ正確な知識を習得することになる。</p> <p>社会保障制度は頻繁に改正が行われている。教科書だけではなく、様々な文献で最新の動向を把握しながら、学修すること。(実務経験を有する講師による授業の補足)</p> <p>当科目は、社会福祉施設の管理者等を経て、社会福祉士・公認心理師として、カウンセリングとソーシャルワークの両面からの支援を続ける講師の下、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>	
教科書	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座7 社会保障』中央法規	
提出課題	<p>レポート設題</p> <p>【設題1】近年の公的年金制度改革の内容や背景、その意義について、述べなさい。 【設題2】労災保険の給付対象となる災害と、給付の内容について、述べなさい。</p>	
学修のポイント	<p>1. 社会支出の国際比較について</p> <p>2. 健康保険制度の被保険者と被扶養者について</p> <p>3. 雇用保険制度の雇用継続給付について</p> <p>4. 医療保険制度における出産に関する給付について</p> <p>5. 垂直的再分配と水平的再分配について</p> <p>6. 1980年代の社会保障制度改革について</p>	
期末試験	社会保障の必要性について、あなたの考えを述べなさい。	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション／社会保障とは何か①	
第2回	社会保障とは何か②	
第3回	国民年金制度について①	
第4回	国民年金制度について②	
第5回	厚生年金制度について	
第6回	医療保険制度について①	
第7回	医療保険制度について②	
第8回	医療保険制度について③	
第9回	労働者災害補償保険制度について	
第10回	雇用保険制度について	
第11回	社会手当について	
第12回	諸外国の社会保障制度①(DVD鑑賞)	
第13回	諸外国の社会保障制度②(DVD鑑賞)	
第14回	介護保険制度について	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	20点 持込可
		20点 提出物(学修のポイント2本、下書きレポート、清書レポート)の期限を守ること。
	授業内評価	30点 授業態度。授業は積極的に参加すること。
	備考	本科目で学んだ知識を「社会福祉実践」と「日常生活」の中で、どのように活用するのかを考えながら、受講をしていただくことを望みます。

(講義)	科目名:児童・家庭福祉論	講師: 横山由里
科目概要・目標	少子高齢社会の進行、家庭や地域における子育て機能の変化など児童や家庭をめぐる環境が著しく変化するなかで、これらの児童・家庭福祉は、子どもを健やかに生み育てられる環境づくりと家庭に対する支援を一層重視した施策の展開が求められている。このような児童・家庭福祉をめぐる環境の変化を踏まえて、少子高齢社会と次世代育支援、現代社会と子ども家庭の問題、子ども家庭福祉の理念と権利保障、子ども家庭福祉の法体系と実施体制、子ども家庭にかかる福祉・保健施策と援助活動などについて学修する。	
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』中央法規。	
提出課題	<p>レポート設題 【設題1】少子高齢化社会における子ども家庭福祉のあり方について述べよ。</p> <p>学修のポイント1 子ども家庭福祉とは何か</p> <p>学修のポイント2 少子化高齢化社会の現状と子育ち・子育てへの影響について</p> <p>学修のポイント3 子ども家庭福祉に関わる法制度について</p> <p>学修のポイント4 子ども・子育て支援法と子ども・子育て支援制度について</p> <p>学修のポイント5 児童虐待にかかる支援や対策について</p> <p>学修のポイント6 子ども家庭福祉におけるソーシャルアクションについて</p>	
期末試験	後日指示	
回数	授業内容	
第1回	学修のポイント②子ども家庭福祉とは何か	
第2回	学修のポイント⑤児童虐待対策について	
第3回	学修のポイント⑥子ども家庭福祉への援助活動について	
第4回	子ども家庭福祉にかかる専門職について	
第5回	学修のポイント①現代社会と子ども家庭について	
第6回	少子高齢化社会における子ども家庭福祉のあり方について①	
第7回	少子高齢化社会における子ども家庭福祉のあり方について②	
第8回	学修のポイント④子ども・子育て支援法と子ども・子育て支援制度について	
第9回	学修のポイント③子ども家庭福祉に関わる法制度について	
第10回	現代の子ども家庭のかかえる課題①	
第11回	現代の子ども家庭のかかえる課題②	
第12回	現代の子ども家庭のかかえる課題③	
第13回	現代の子ども家庭のかかえる課題④	
第14回	期末試験対策	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	20点
		30点 課題提出期限が遅れたら減点 1回5点
	授業内評価	20点 積極的な授業態度
備考	積極的に頑張りましょう。 参考文献:厚生労働省『厚生労働白書』。	

(講義)	科目名:精神保健学		講師名:上松勝二郎																																																			
科目概要・目標	精神保健とは、精神的健康に関する公衆衛生であり、精神障害の予防・治療・リハビリテーションから、精神的健康の保持・増進を図るための諸活動までも含んでいる。このような精神保健の基本的視点や基礎知識を学習し現代の精神保健の意義や課題を考える。具体的には、精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要精神保健の視点から見た(1) 家族の課題とアプローチ (2) 学校教育の課題とアプローチ (3) 勤労者の課題とアプローチ (4) 現代社会の課題とアプローチ、精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割、地域精神保健に関する諸活動と偏見・差別等の課題、精神保健に関する専門職種と国・都道府県・市町村・団体等の役割及び連携、諸外国の精神保健活動の現状及び対策を学ぶ。																																																					
教科書	現代の精神保健の課題と支援 中央法規																																																					
提出課題	<p>レポート設題 【設題1】ライフサイクルにおける精神保健について述べよ</p> <p>【設題2】精神保健における個別課題の取り組みについて述べよ</p> <p>学習のポイント1 認知症高齢者対策について</p> <p>学習のポイント2 アルコール関連問題について</p> <p>学習のポイント3 世界の精神保健の現状について</p> <p>学習のポイント4 思春期精神保健対策について</p> <p>学習のポイント5 地域での精神保健施策の現状と課題について</p> <p>学習のポイント6 現代社会の精神保健学的な課題と対策について</p>																																																					
期末試験	後日発表																																																					
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th colspan="2">授業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td colspan="2">現代社会と精神保健 (精神保健の意義と対策)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td colspan="2">ライフサイクルにおける精神保健 (乳児期・学童期)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td colspan="2">ライフサイクルにおける精神保健 (思春期・青年期)</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td colspan="2">ライフサイクルにおける精神保健 (成人人期)</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td colspan="2">ライフサイクルにおける精神保健 (老年期、認知症について)</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td colspan="2">わが国の精神障害対策</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td colspan="2">アルコール関連問題対策、薬物乱用防止対策について</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td colspan="2">思春期の精神保健対策</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td colspan="2">地域精神保健活動、こころの健康づくり、司法精神保健福祉対策</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td colspan="2">緩和ケアと精神保健、精神保健における技法、カウンセリングについて</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td colspan="2">家庭における精神保健、学校における精神保健</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td colspan="2">地域精神保健の現状と課題、精神保健に関する調査研究</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td colspan="2">メンタルヘルスの諸課題における関連専門職種の役割と連携</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td colspan="2">世界の精神保健</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td colspan="2">期末試験</td> </tr> <tr> <td>第16回</td> <td colspan="2">科目終了試験</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業内容		第1回	現代社会と精神保健 (精神保健の意義と対策)		第2回	ライフサイクルにおける精神保健 (乳児期・学童期)		第3回	ライフサイクルにおける精神保健 (思春期・青年期)		第4回	ライフサイクルにおける精神保健 (成人人期)		第5回	ライフサイクルにおける精神保健 (老年期、認知症について)		第6回	わが国の精神障害対策		第7回	アルコール関連問題対策、薬物乱用防止対策について		第8回	思春期の精神保健対策		第9回	地域精神保健活動、こころの健康づくり、司法精神保健福祉対策		第10回	緩和ケアと精神保健、精神保健における技法、カウンセリングについて		第11回	家庭における精神保健、学校における精神保健		第12回	地域精神保健の現状と課題、精神保健に関する調査研究		第13回	メンタルヘルスの諸課題における関連専門職種の役割と連携		第14回	世界の精神保健		第15回	期末試験		第16回	科目終了試験	
回数	授業内容																																																					
第1回	現代社会と精神保健 (精神保健の意義と対策)																																																					
第2回	ライフサイクルにおける精神保健 (乳児期・学童期)																																																					
第3回	ライフサイクルにおける精神保健 (思春期・青年期)																																																					
第4回	ライフサイクルにおける精神保健 (成人人期)																																																					
第5回	ライフサイクルにおける精神保健 (老年期、認知症について)																																																					
第6回	わが国の精神障害対策																																																					
第7回	アルコール関連問題対策、薬物乱用防止対策について																																																					
第8回	思春期の精神保健対策																																																					
第9回	地域精神保健活動、こころの健康づくり、司法精神保健福祉対策																																																					
第10回	緩和ケアと精神保健、精神保健における技法、カウンセリングについて																																																					
第11回	家庭における精神保健、学校における精神保健																																																					
第12回	地域精神保健の現状と課題、精神保健に関する調査研究																																																					
第13回	メンタルヘルスの諸課題における関連専門職種の役割と連携																																																					
第14回	世界の精神保健																																																					
第15回	期末試験																																																					
第16回	科目終了試験																																																					
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。																																																			
	期末試験	30点																																																				
	授業内評価	40点																																																				

(講義)	科目名:ソーシャルワークの基盤と専門職	講師: 森奈祐
科目概要・目標	<p>社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ(社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法)について理解した上で、ソーシャルワークの概念、基盤となる考え方(原理・理念)を学び、現代に至るまでのソーシャルワークの歴史的な形成過程について学ぶ。</p> <p>さらに、社会福祉士、精神保健福祉士、ソーシャルワーカーそれぞれの倫理綱領を読み解き、ソーシャルワークの価値規範と倫理について考究を行う。</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、社会福祉士・精神保健福祉士として障害者施設の施設長も務めた講師のもと、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>	
教科書	<p>一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規</p>	
提出課題	<p>レポート設題 1 ソーシャルワーカーの倫理綱領・行動規範を学び、ソーシャルワーク実践においてなぜ倫理綱領を遵守することが大切なのかを考察せよ。 ①社会福祉士、精神保健福祉士、ソーシャルワーカーのいずれかの倫理綱領、又は行動規範の内容をまとめ説明する。 ②ソーシャルワーク実践においてなぜ倫理綱領を遵守することが重要なのかを述べる。</p> <p>学修のポイント1 ソーシャルワーク専門職のグローバル定義</p> <p>学修のポイント2 ソーシャルワークの理念について</p> <p>学修のポイント3 ソーシャルワークの源流と基礎確立期の歴史的展開について</p> <p>学修のポイント4 ソーシャルワークの発展期について</p> <p>学修のポイント5 ソーシャルワークの展開期と統合期について</p> <p>学修のポイント6 日本におけるソーシャルワークの形成過程について</p>	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法 ソーシャルワーク専門職の国家資格、専門性、コンピテンシー	
第2回	ソーシャルワークの定義	
第3回	ソーシャルワークの構成要素	
第4回	専門職倫理の概念と倫理綱領、倫理綱領とソーシャルワーク実践について	
第5回	倫理綱領と倫理的ジレンマ	
第6回	まとめ①	
第7回	ソーシャルワークの原理、ソーシャルワークの理念	
第8回	ソーシャルワークの源流と基礎確立期、発展期	
第9回	ソーシャルワークの展開期と統合	
第10回	日本におけるソーシャルワークの形成過程	
第11回	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲	
第12回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク	
第13回	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容	
第14回	まとめ②	
第15回	期末試験	
第16回	科目修了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点
	授業内評価	30点 提出課題の理解度、指向性・創造性について評価(期限後の提出は減点) 10点 授業内での取組姿勢、授業への参加態度について評価
	備考	授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用、音楽等の聴取、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には、減点評価とします。

(演習)	科目名:ソーシャルワーク演習Ⅱ	講師名:遠藤 修正
科目概要・目標	<p>社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。特に以下の内容について、要援護者に対する専門的援助の基礎を学修する。</p> <p>ア)自己覚知 イ)基本的なコミュニケーション技術の習得 ウ)基本的な面接技術の習得</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足)</p> <p>当科目は、社会福祉協議会の職員として地域福祉事業に従事した経験のある社会福祉士の講師のもと、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>	
	<p>教科書</p> <p>はじめてのソーシャルワーク演習編集委員会編 「はじめてのソーシャルワーク演習」ミネルヴァ書房</p>	
提出課題	<p>レポート設題</p> <p>【設題1】ソーシャルワーク実践における展開過程について述べよ。 <ポイント>ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、それぞれの展開過程について整理し、求められる技術や知識について整理する。</p>	
	学修のポイント1	人を理解するための総合的な視点について
	学修のポイント2	ソーシャルワークの支援過程について
	学修のポイント3	グループワークの展開過程とソーシャルワーカーの働き
	学修のポイント4	コミュニティワークの支援過程とソーシャルワーカーの働き
	学修のポイント5	ネットワーキングについて
	学修のポイント6	ファシリテーション、ネゴシエーション、プレゼンテーション
	期末試験	講義の中で発表
回数	授業内容	
第1回	講義の進め方など	
第2回	ソーシャルワーク実践における展開過程について述べよ。 (1)	
第3回	同 上	(2)
第4回	同 上	(3)
第5回	同 上	(4)
第6回	同 上	(5)
第7回	人を理解するための総合的な視点について P68~71	
第8回	ソーシャルワークの支援過程について P18~21	
第9回	グループワークの展開過程とソーシャルワーカーの働き P142~153	
第10回	コミュニティワークの支援過程とソーシャルワーカーの働き P154~161	
第11回	ネットワーキングについて P112~115、P162~165	
第12回	ファシリテーション、ネゴシエーション、プレゼンテーション P108~111、P50、P54	
第13回	まとめ	
第14回	期末試験/科目終了試験対策	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30 点 75%以上の出席を必須とする
	期末試験	30 点
	授業内評価	20 点 レポート、授業課題
		20 点 受講姿勢
	備考	遅刻、欠席、私語、居眠り、スマートフォン使用厳禁。

(講義)	科目名:養護原理	講師: 横山由里
科目概要・目標	社会的養護は、福祉施設において、意図的・継続的に展開されている日々の支援活動を通じて行われるものである。そこで、学生は、この科目において、社会的養護および児童養護に関する考え方や理念、児童養護の歴史、児童養護の制度など、基礎的な知識の学修を行う。また、学生が実際に福祉現場で支援活動を行う際に必要とされる基礎的な知識や技術を身につけるために、児童養護に関する事例を基にして、ケースワークやグループワークなどの方法によるクライエントに対する支援の方法や解決・緩和に関する技法について学ぶ。	
教科書	小野澤昇、他『子どもの生活を支える社会的養護』ミネルヴァ書房。	
提出課題	<p>レポート設題</p> <p>【設題1】児童養護の意義と基本原理について述べよ。</p> <p>【設題2】施設で用いられる個別援助技術(ケースワーク)について述べよ。</p>	
学修のポイント1	社会的養護及び児童養護の意義と基本原理について	
学修のポイント2	児童養護の制度と社会的養護の特質について	
学修のポイント3	社会的養護と日常生活及び自立支援について	
学修のポイント4	社会的養護と親子・地域との関係調整について	
学修のポイント5	社会的養護に関わる職員の資質について	
学修のポイント6	児童支援におけるチームワークについて	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	児童養護の意義と基本原理①	
第2回	児童養護の意義と基本原理②	
第3回	施設で用いられる個別援助技術について①	
第4回	施設で用いられる個別援助技術について②	
第5回	施設で用いられる個別援助技術について③	
第6回	学修のポイント①児童養護の意義と基本原理について	
第7回	学修のポイント②社会的養護の制度と特質について	
第8回	学修のポイント③社会的養護の日常生活及び自立支援について	
第9回	学修のポイント④社会的養護における親子・地域との関係調整について	
第10回	学修のポイント⑤社会的養護に関わる職員の資質について	
第11回	学修のポイント⑥子どもの支援におけるチームワークについて	
第12回	社会的養護にあげられる課題①	
第13回	社会的養護にあげられる課題②	
第14回	期末試験対策	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	20点
	授業内評価	30点 課題提出期限が遅れたら減点 1回5点
		20点 積極的な授業態度
備考	積極的に頑張りましょう。 参考文献：山縣 文治、他『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房。	

(演習)	科目名:フィールドワークIII	講師: 森奈祐
科目概要・目標	社会福祉学を学ぶために、当科目では福祉とはどのようなものかのイメージをもてるようになること目的とする。また、保健・医療・福祉の概要を学び、福祉の位置づけを確認する。次に、多様な考え方や形があり、多くの専門職の活躍からも成り立つ福祉とはどのようなものかを、自ら情報を得ようとし、グループワークを通して多角的な視点でそれらをまとめることとする。さらに、フィールドワーク(外部研修)を通して、実践の現場に触れる機会を持ち、講義などで学んだものにイメージを付けていくことを目指す。	
教科書	なし	
期末試験	名古屋市中区社会福祉協議会を訪問して学んだことと私見を述べよ。	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション	
第2回	福祉に関するグループディスカッション	
第3回	福祉に関するグループディスカッション	
第4回	福祉に関する考察	
第5回	福祉に関する考察	
第6回	福祉に関する考察	
第7回	福祉に関する考察	
第8回	福祉に関する考察	
第9回	福祉に関する考察	
第10回	社会福祉協議会の事業①	
第11回	社会福祉協議会の事業②	
第12回	社会福祉協議会の事業③	
第13回	見学・演習【名古屋市中区社会福祉協議会】	
第14回	見学・演習【名古屋市中区社会福祉協議会】	
第15回	見学・演習【名古屋市中区社会福祉協議会】	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点
	授業内評価	20点 授業態度、グループワーク等への参加・発言の積極性を評価する。
		20点 見学への参加、見学に向けた事前準備、見学の姿勢に対する評価
備考	授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用、音楽等の聴取、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には、減点評価とします。	

(講義)	科目名:青年心理学	講師: 木村 洋太
科目概要・目標	10代半ば～20代前半はまさに青年期と呼ばれる時期に位置し、大学生の”今”が詰まった時期と言える。この授業では、これまでの自分の体験をもとに青年期を考えることから出発し、周りの友だちの体験、そして心理学の理論・データの知見を参考にしながら、青年期に深く関わるテーマ（自己・友人関係・反抗期・恋愛・勉強など）に目を向ける。授業を通して、自由な心のあり方を学び、更新されていく自分の姿を感じながら自己の理解を深めて欲しい。	
教科書	教科書は指定せず、講義レジュメと参考資料を配布する。参考文献は授業中に適宜紹介する。	
期末試験	詳細は、後日に決定する	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション 青年心理学と周辺領域	
第2回	青年期とはいつなのか？ 発達段階とはなにか	
第3回	自分の始まりについて考える：乳幼児期の発達	
第4回	児童期までの発達	
第5回	認知発達からみる 児童期～青年期の学習のつまづき	
第6回	自分探しの青年心理学1：合意形成：互いに違う価値観の理解	
第7回	自分探しの青年心理学2：現代青年のアイデンティティ	
第8回	自分探しの青年心理学3：アイデンティティの拡散	
第9回	自分探しの青年心理学4：恋愛の心理学	
第10回	自分探しの青年心理学5：アイデンティティと健康	
第11回	親子関係の発達変化 - 大人にイラつとするとき 反抗期を考える	
第12回	友人関係の発達変化 - 私たちって親友だよね	
第13回	発達障害の理解その1 学習の障害	
第14回	発達障害の理解その2 社会性の障害	
第15回	発達障害の理解その3 行動の障害	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	25点 論述式。持ち込み可。
	授業内評価	45点 毎授業提出するワークシート、授業の参加姿勢などを総合的に評価する。
備考 (メッセージ)	みなさんにとっての「あるある」が授業内に詰まっています。青年期は、ココロと身体が飛躍的に変化する時期であるゆえに、様々に苦しむ時期でもあります。いいところも悪いところも、自分の理解を深めることで、これから見通しに役立つような下地をつくりましょう。	

(講義)	科目名:精神保健福祉制度論	講師:上松勝二郎
科目概要・目標	本科目は次に掲げる内容について理解することを目的とする。① 精神障害者に関する法律の体系についての理解 ② 精神障害者の医療に関する制度(精神保健福祉法の概要及び医療観察法の概要と精神保健福祉士のやくわ、精神障害者の医療に関する課題) ③ 精神障害者の生活支援に関する制度(相談支援制度、居住支援制度就労支援制度などと精神保健福祉士の役割並びに精神障害者の生活支援に関する課題) ④ 精神障害者の経済的支援に関する制度(生活保護制度、生活困窮者自立支援制度、低所得者対策等諸制度と精神保健福祉士の役割について、及び精神障害者の経済的支援制度に関する課題)	
教科書	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 精神保健福祉士養成講座4 精神保健福祉制度論』 中央法規	
提出課題	レポート設題	【設題1】精神保健福祉法成立までの過程とその内容について記述しなさい
授業計画	回数	授業内容
	第1回	精神障害者に関する法制度、社会保障が果たす機能と役割について理解する
	第2回	精神障害者に関する制度の成立過程とその特徴と現在の問題点について
	第3回	実際の事例を通して本科目を学ぶ必要性、制度、サービスについて
	第4回	障害者の医療に関する制度、医療計画について学ぶ
	第5回	医療観察法の概要と精保士の役割について
	第6回	精神障害者の医療関連する施策について
	第7回	精神障害者の生活支援に関する制度について(基本的考え方)
	第8回	相談支援制度についての理解(相談支援の概要)
	第9回	居住支援制度及び就労支援制度について
	第10回	精神障害者の経済的支援について(経済的支援の意義と役割)
	第11回	精神障害者の経済的支援について(所得保障に関わる支援)
	第12回	精神障害者の経済的支援について(経済的負担の軽減)
	第13回	生活困窮と生活保護制度について
	第14回	生活困窮者自立支援制度、低所得者対策について
	第15回	期末試験
	第16回	科目終了試験
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点
	授業内評価	30点
	備考	

(講義)	科目名:精神保健福祉の原理	講師: 真口 良美
科 目 概 要	<p>本科目は、障害者福祉の思想と原理、理念、また歴史的展開を理解したうえで、現代の「障害」や「障害者」に関する概念について学ぶ。また、諸外国の動向を踏まえ、日本の障害に関する現状や課題、精神科医療の特異性を学習する。さらには現代社会にあって、精神保健福祉士が有るべき原理や価値、理解しておくべき根拠法(精神保健福祉士法)や倫理綱領、職域と業務内容について考究することを目的とする。具体的には次の7つの項目を学修目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み(理念・視点・関係性)について理解する。 ②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。 ③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。 ④精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的なアイデンティティの基礎を築く。 ⑤現在の精神保健福祉士の基本的枠組み(理念・視点・関係性)と倫理綱領に基づく職責について理解する。 ⑥精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。 ⑦近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。 	
教科書	<p>一般社団法人 日本ソーシャルワーカー教育学校連盟編集 『最新 精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の原理』中央法規。</p>	
レポート設題	<p>【設題1】精神障害についての概念について説明しなさい。 <ポイント>ICD-HとICFを援用した精神障害の構造を説明する。そのうえで、疾病と障害の共存について、障害の可逆性、環境因子との相互作用、体験としての障害などについて具体例を挙げながら述べること。</p>	
提出課題	<p>【設題2】明治期から現代にかけて、精神障害者の対応法の歴史的変遷について述べなさい。 <ポイント>精神病者監護法・精神病院法の戦前二法がいかなる状況で制定されたのか、またどのような内容の法令であったかを述べる。加えて、1950年成立した、精神衛生法がいかなる改正を経て現在に至っているのかについて述べること。</p>	
学修のポイント1	<p>1965年と1987年の精神衛生法改正について、その内容と改正のきっかけになった事件の内容を書きなさい。 <ポイント>1964年のライシャワー事件と1984年宇都宮病院事件発覚について、それぞれ何が問題とされたのかについて述べる。加えてそれらの問題について、法改正によって如何に対応がなされたのかについて述べること。</p>	
学修のポイント2	<p>わが国の精神科医療の特異性について述べなさい。 <ポイント>精神科医療の歴史と精神科特例・多割併用についてその概要と問題点について述べる。また、施設化した精神科病への警告としてのクラク勧告の内容、開放化運動についても学修しておくこと。</p>	
学修のポイント3	<p>精神障害者の家族が置かれている状況について述べなさい。 <ポイント>法律に規定された家族の位置づけを、法の変遷にそって述べること。まずは精神病者監護法での規定と役割、精神衛生法の改正によって幾度もその規定と役割が変わっている。その問題点と変遷についても述べること。</p>	
学修のポイント4	<p>「Y問題」について、概要とその後の影響について述べよ。 <ポイント>まず、「Y問題」というものが何かについて述べること。そのうえで、「Y問題」が示したPSWへの教訓と課題について学修すること。その後に整えられた倫理綱領への言及があるとなおよ。</p>	
学修のポイント5	<p>エンパワーメントとカバリーについて、その特徴と定義について述べよ。 <ポイント>それぞれの概念が生成された背景と定義、それらの視点を活用した実践などを述べができるように学修すること。</p>	
学修のポイント6	<p>精神保健福祉士法(*注意:精神保健福祉法ではない)について概要について述べよ。 <ポイント>精神保健福祉士法の成立とその目的について、その定義、義務規定について説明できるように学修すること。</p>	
期末試験	<p>Y問題について、概要とその影響を述べよ。</p>	
回数	授業内容	
第1回	<p>「精神保健の原理とは何か」 「障害者福祉の理念と歴史的展開」</p>	
第2回	<p>「制度における「精神障害者」の定義」 「国際生活機能分類(ICF)と精神障害の「精神特性」」</p>	
第3回	<p>「精神障害の理解と支援にかかる新たな潮流」</p>	
第4回	<p>「諸外国における排除と歴史とその後の展開」</p>	
第5回	<p>「日本における排除の歴史と構造」</p>	
第6回	<p>「日本の社会的障壁をめぐる課題とその克服への取り組み」 「精神科医療による生活への影響」</p>	
第7回	<p>「精神障害者の家族が置かれている状況」</p>	
第8回	<p>「精神障害者の社会生活の実際」</p>	
第9回	<p>「メンタルヘルスをめぐる新たな課題」</p>	
第10回	<p>「精神保健福祉士の原理が培われた足跡」 「精神保健福祉士による実践の価値・原理」</p>	
第11回	<p>「精神保健福祉士による実践の視野や視点」 「援助における関係性」</p>	
第12回	<p>「精神保健福祉士法の理解」 「精神保健福祉士の職業倫理」</p>	
第13回	<p>「精神保健福祉士の業務特性と業務指針」 「精神保健福祉士の職場・職域」</p>	
第14回	<p>「精神保健福祉士の業務内容とその特性」 まとめ</p>	
第15回	<p>期末試験</p>	
第16回	<p>科目終了試験</p>	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点
		20点 課題提出物の評価
	授業内評価	20点 授業への関心・態度・意欲
	備考	

社会福祉学科

心理学コース

2年生

(講義)	科目名:公的扶助論	講師:遠藤 修正
科 目 概 要 ・ 目 標	この科目では、社会保障制度において「救貧」を担う公的扶助制度に関する基礎知識を体系的に学修する。具体的には、公的扶助制度の歴史的経緯などを学ぶとともに、わが国における公的扶助制度としての生活保護制度の目的、原理、原則、実施体制、制度運用の現状と問題点、被保護者の権利及び義務に加え、近年の公的扶助制度に関する動向や課題などについて学ぶ。また、低所得者支援の制度として、生活困窮者自立支援制度や生活福祉資金貸付制度等についても学ぶ。	
	教科書	『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座4 貧困に対する支援』中央法規その他、参考資料も配付する。テキスト所持の可否はその都度伝達する。
提 出 課 題	レポート設題	【設題1】生活保護の基本原理の一つである補足性の原理について述べなさい。 <ポイント>生活保護法の該当部分の条文を踏まえ、保護の要件とされること、保護に優先されることを中心に、現状の制度の問題点とともに論じること。
	学修のポイント1	貧困をとらえる3つのアプローチについて
	学修のポイント2	生活保護制度の2つの目的について
	学修のポイント3	生活扶助基準の構成について
	学修のポイント4	生活保護制度の動向とその背景について
	学修のポイント5	住宅に関する低所得者支援関連施策について
	学修のポイント6	生活困窮者自立支援制度について
	期末試験	講義の中で発表
第1回	オリエンテーション 講義の進め方など	
第2回	公的扶助の概念 P2~16	
第3回	貧困の概念と貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境 P18~40	
第4回	貧困の歴史 P42~64	
第5回	生活保護制度の目的・原理・原則、生活保護の種類と内容 P66~89	
第6回	生活保護の基本原理の一つである補足性の原理について述べなさい。(1)	
第7回	同 上 (2)	
第8回	貧困をとらえる3つのアプローチについて P21~25	
第9回	生活保護制度の2つの目的について P68、P207~217	
第10回	生活扶助基準の構成について P76~82	
第11回	生活保護制度の動向とその背景について P110~122	
第12回	住宅に関する低所得者支援関連施策について P134、P153、P155	
第13回	生活困窮者自立支援制度について P124~143	
第14回	期末試験/科目終了試験対策	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成 績 評 価	出席率	30 点 75%以上の出席を必須とする
	期末試験	30 点
	授業内評価	20 点 レポート、授業課題
		20 点 受講姿勢
	備考	遅刻、欠席、私語、居眠り、スマートフォン使用厳禁。

(講義)	科目名:社会保障論	講師: 原田 亘
科目概要・目標	<p>本科目では、社会保障制度全体についてくまなく概説した上で、今後社会保障制度が対応していくなければならない問題は何かを検討する。年金、医療、介護保険など各制度については、制度の詳細についても学修する。そのことにより、社会福祉の現場で働く場合に必要となる、社会保障に関する専門的かつ正確な知識を習得することになる。</p> <p>社会保障制度は頻繁に改正が行われている。教科書だけではなく、様々な文献で最新の動向を把握しながら、学修すること。</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足)</p> <p>当科目は、社会福祉施設の管理者等を経て、社会福祉士・公認心理師として、カウンセリングとソーシャルワークの両面からの支援を続ける講師の下、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>	
教科書	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座7 社会保障』中央法規	
提出課題	レポート設題	【設題1】近年の公的年金制度改革の内容や背景、その意義について、述べなさい。 【設題2】労災保険の給付対象となる災害と、給付の内容について、述べなさい。
提出課題	学修のポイント1 学修のポイント2 学修のポイント3 学修のポイント4 学修のポイント5 学修のポイント6	社会支出の国際比較について 健康保険制度の被保険者と被扶養者について 雇用保険制度の雇用継続給付について 医療保険制度における出産に関する給付について 垂直的再分配と水平的再分配について 1980年代の社会保障制度改革について
	期末試験	社会保障の必要性について、あなたの考えを述べなさい。
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション／社会保障とは何か①	
第2回	社会保障とは何か②	
第3回	国民年金制度について①	
第4回	国民年金制度について②	
第5回	厚生年金制度について	
第6回	医療保険制度について①	
第7回	医療保険制度について②	
第8回	医療保険制度について③	
第9回	労働者災害補償保険制度について	
第10回	雇用保険制度について	
第11回	社会手当について	
第12回	諸外国の社会保障制度①(DVD鑑賞)	
第13回	諸外国の社会保障制度②(DVD鑑賞)	
第14回	介護保険制度について	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	20点 持込可
		20点 提出物(学修のポイント2本、下書きレポート、清書レポート)の期限を守ること。
	授業内評価	30点 授業態度。授業は積極的に参加すること。
備考	本科目で学んだ知識を「社会福祉実践」と「日常生活」の中で、どのように活用するのかを考えながら、受講をしていただくことを望みます。	

(講義)	科目名:精神保健学	講師名:上松勝二郎
科目概要・目標	精神保健とは、精神的健康に関する公衆衛生であり、精神障害の予防・治療・リハビリテーションから、精神的健康の保持・増進を図るための諸活動までも含んでいる。このような精神保健の基本的視点や基礎知識を学習し現代の精神保健の意義や課題を考える。具体的には、精神の健康と、精神の健康に関する要因及び精神保健の概要精神保健の視点から見た(1) 家族の課題とアプローチ (2) 学校教育の課題とアプローチ (3) 勤労者の課題とアプローチ (4) 現代社会の課題とアプローチ、精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割、地域精神保健に関する諸活動と偏見・差別等の課題、精神保健に関する専門職種と国・都道府県・市町村・団体等の役割及び連携、諸外国の精神保健活動の現状及び対策を学ぶ。	
教科書	現代の精神保健の課題と支援 中央法規	
提出課題	<p>レポート設題</p> <p>【設題1】ライフサイクルにおける精神保健について述べよ</p> <p>【設題2】精神保健における個別課題の取り組みについて述べよ</p>	
学習のポイント1	認知症高齢者対策について	
学習のポイント2	アルコール関連問題について	
学習のポイント3	世界の精神保健の現状について	
学習のポイント4	思春期精神保健対策について	
学習のポイント5	地域での精神保健施策の現状と課題について	
学習のポイント6	現代社会の精神保健学的な課題と対策について	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	現代社会と精神保健 (精神保健の意義と対策)	
第2回	ライフサイクルにおける精神保健 (乳児期・学童期)	
第3回	ライフサイクルにおける精神保健 (思春期・青年期)	
第4回	ライフサイクルにおける精神保健 (成人人期)	
第5回	ライフサイクルにおける精神保健 (老年期、認知症について)	
第6回	わが国の精神障害対策	
第7回	アルコール関連問題対策、薬物乱用防止対策について	
第8回	思春期の精神保健対策	
第9回	地域精神保健活動、こころの健康づくり、司法精神保健福祉対策	
第10回	緩和ケアと精神保健、精神保健における技法、カウンセリングについて	
第11回	家庭における精神保健、学校における精神保健	
第12回	地域精神保健の現状と課題、精神保健に関する調査研究	
第13回	メンタルヘルスの諸課題における関連専門職種の役割と連携	
第14回	世界の精神保健	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
期末試験	30点	
授業内評価	40点	

(講義)	科目名:ソーシャルワークの基盤と専門職		講師: 森奈祐
科 目 概 要 ・ 目 標	<p>社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ(社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法)について理解した上で、ソーシャルワークの概念、基盤となる考え方(原理・理念)を学び、現代に至るまでのソーシャルワークの歴史的な形成過程について学ぶ。</p> <p>さらに、社会福祉士、精神保健福祉士、ソーシャルワーカーそれぞれの倫理綱領を読み解き、ソーシャルワークの価値規範と倫理について考究を行う。</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、社会福祉士・精神保健福祉士として障害者施設の施設長も務めた講師のもと、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>		
教科書	<p>一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規</p>		
提出課題	<p>レポート設題 1 ソーシャルワーカーの倫理綱領・行動規範を学び、ソーシャルワーク実践においてなぜ倫理綱領を遵守することが大切なのかを考察せよ。 ①社会福祉士、精神保健福祉士、ソーシャルワーカーのいずれかの倫理綱領、又は行動規範の内容をまとめ説明する。 ②ソーシャルワーク実践においてなぜ倫理綱領を遵守することが重要なのかを述べる。</p> <p>学修のポイント1 ソーシャルワーク専門職のグローバル定義</p> <p>学修のポイント2 ソーシャルワークの理念について</p> <p>学修のポイント3 ソーシャルワークの源流と基礎確立期の歴史的展開について</p> <p>学修のポイント4 ソーシャルワークの発展期について</p> <p>学修のポイント5 ソーシャルワークの展開期と統合期について</p> <p>学修のポイント6 日本におけるソーシャルワークの形成過程について</p>		
期末試験	後日発表		
回数	授業内容		
第1回	社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法 ソーシャルワーク専門職の国家資格、専門性、コンピテンシー		
第2回	ソーシャルワークの定義		
第3回	ソーシャルワークの構成要素		
第4回	専門職倫理の概念と倫理綱領、倫理綱領とソーシャルワーク実践について		
第5回	倫理綱領と倫理的ジレンマ		
第6回	まとめ①		
第7回	ソーシャルワークの原理、ソーシャルワークの理念		
第8回	ソーシャルワークの源流と基礎確立期、発展期		
第9回	ソーシャルワークの展開期と統合		
第10回	日本におけるソーシャルワークの形成過程		
第11回	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲		
第12回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク		
第13回	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容		
第14回	まとめ②		
第15回	期末試験		
第16回	科目修了試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点	
		30点	提出課題の理解度、指向性・創造性について評価(期限後の提出は減点)
	授業内評価	10点	授業内での取組姿勢、授業への参加態度について評価
	備考	授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用、音楽等の聴取、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には、減点評価とします。	

(演習)	科目名:ソーシャルワーク演習Ⅱ	講師名:遠藤 修正																
科目概要・目標	<p>社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。特に以下の内容について、要援護者に対する専門的援助の基礎を学修する。</p> <p>ア)自己覚知 イ)基本的なコミュニケーション技術の習得 ウ)基本的な面接技術の習得</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足)</p> <p>当科目は、社会福祉協議会の職員として地域福祉事業に従事した経験のある社会福祉士の講師のもと、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>																	
教科書	<p>はじめてのソーシャルワーク演習編集委員会編 「はじめてのソーシャルワーク演習」ミネルヴァ書房</p>																	
提出課題	<table border="1"> <tr> <td>レポート設題</td><td> <p>【設題1】ソーシャルワーク実践における展開過程について述べよ。</p> <p><ポイント>ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、それぞれの展開過程について整理し、求められる技術や知識について整理する。</p> </td></tr> <tr> <td>学修のポイント1</td><td>人を理解するための総合的な視点について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント2</td><td>ソーシャルワークの支援過程について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント3</td><td>グループワークの展開過程とソーシャルワーカーの働き</td></tr> <tr> <td>学修のポイント4</td><td>コミュニティワークの支援過程とソーシャルワーカーの働き</td></tr> <tr> <td>学修のポイント5</td><td>ネットワーキングについて</td></tr> <tr> <td>学修のポイント6</td><td>ファシリテーション、ネゴシエーション、プレゼンテーション</td></tr> <tr> <td>期末試験</td><td>講義の中で発表</td></tr> </table>		レポート設題	<p>【設題1】ソーシャルワーク実践における展開過程について述べよ。</p> <p><ポイント>ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、それぞれの展開過程について整理し、求められる技術や知識について整理する。</p>	学修のポイント1	人を理解するための総合的な視点について	学修のポイント2	ソーシャルワークの支援過程について	学修のポイント3	グループワークの展開過程とソーシャルワーカーの働き	学修のポイント4	コミュニティワークの支援過程とソーシャルワーカーの働き	学修のポイント5	ネットワーキングについて	学修のポイント6	ファシリテーション、ネゴシエーション、プレゼンテーション	期末試験	講義の中で発表
レポート設題	<p>【設題1】ソーシャルワーク実践における展開過程について述べよ。</p> <p><ポイント>ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、それぞれの展開過程について整理し、求められる技術や知識について整理する。</p>																	
学修のポイント1	人を理解するための総合的な視点について																	
学修のポイント2	ソーシャルワークの支援過程について																	
学修のポイント3	グループワークの展開過程とソーシャルワーカーの働き																	
学修のポイント4	コミュニティワークの支援過程とソーシャルワーカーの働き																	
学修のポイント5	ネットワーキングについて																	
学修のポイント6	ファシリテーション、ネゴシエーション、プレゼンテーション																	
期末試験	講義の中で発表																	
回数	授業内容																	
第1回	講義の進め方など																	
第2回	ソーシャルワーク実践における展開過程について述べよ。 (1)																	
第3回	同 上	(2)																
第4回	同 上	(3)																
第5回	同 上	(4)																
第6回	同 上	(5)																
第7回	人を理解するための総合的な視点について P68~71																	
第8回	ソーシャルワークの支援過程について P18~21																	
第9回	グループワークの展開過程とソーシャルワーカーの働き P142~153																	
第10回	コミュニティワークの支援過程とソーシャルワーカーの働き P154~161																	
第11回	ネットワーキングについて P112~115、P162~165																	
第12回	ファシリテーション、ネゴシエーション、プレゼンテーション P108~111、P50、P54																	
第13回	まとめ																	
第14回	期末試験/科目終了試験対策																	
第15回	期末試験																	
第16回	科目終了試験																	
成績評価	<table border="1"> <tr> <td>出席率</td><td>30 点</td><td>75%以上の出席を必須とする</td></tr> <tr> <td>期末試験</td><td>30 点</td><td></td></tr> <tr> <td>授業内評価</td><td>20 点</td><td>レポート、授業課題</td></tr> <tr> <td></td><td>20 点</td><td>受講姿勢</td></tr> </table>		出席率	30 点	75%以上の出席を必須とする	期末試験	30 点		授業内評価	20 点	レポート、授業課題		20 点	受講姿勢				
出席率	30 点	75%以上の出席を必須とする																
期末試験	30 点																	
授業内評価	20 点	レポート、授業課題																
	20 点	受講姿勢																
備考	遅刻、欠席、私語、居眠り、スマートフォン使用厳禁。																	

(演習)	科目名:基礎演習Ⅱ	講師: 平石 休一
科 目 概 要 ・ 目 標	基礎演習Iで学んだことをふまえて、心理学における様々なテーマに関しての理論・方法について、基礎知識をより広げ、より深める。ここでも、基礎的な心理テストや心理実験・調査を実際にを行い、心理学における体験的理解をより確実なものにしていく。スクーリングでは、様々なテーマについて、グループディスカッションやグループワークを行い、互いの知識を教授しあうことによって、さらなる理解を深めていく。	
教科書	B.フィンドレイ『心理学 実験・研究レポートの書き方』北大路書房 大野木裕明、他『調査実験 自分ができる心理学』ナカニシヤ出版	
提出課題	レポート設題 【設題】教科書『心理学 実験・研究レポートの書き方』の2章から4章を読んで、心理学実験・研究レポートを書くにあたっての、必要な事項を述べよ。 学修のポイント1 ジェンダー・ステレオタイプについて 学修のポイント2 自分のアイデンティティについて 学修のポイント3 倾聴について 学修のポイント4 セルフ・エフィカシーについて 学修のポイント5 心理学で使う統計量について 学修のポイント6 クリティカル・シンキングについて	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	セルフ・エフィカシーについて	
第2回	心理学 実験・研究レポートの書き方①	
第3回	心理学 実験・研究レポートの書き方②	
第4回	心理学 実験・研究レポートの書き方③	
第5回	心理学 実験・研究レポートの書き方④	
第6回	心理学 実験・研究レポートの書き方⑤	
第7回	傾聴について	
第8回	自分のアイデンティティについて①	
第9回	自分のアイデンティティについて②	
第10回	クリティカル・シンキングについて①	
第11回	クリティカル・シンキングについて②	
第12回	ジェンダー・ステレオタイプについて	
第13回	心理学で使う統計量について	
第14回	まとめ	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 論述内容
		40点 課題の提出状況、課題・授業への取り組み状況などを総合的に評価します。
	授業内評価	
	備考	私語等、他の学生の迷惑になると判断した場合、厳格に対応する。

(実験)	科目名:心理学実験	講師:木村 洋太									
科目概要・目標	本科目では、心理学における実験法の意義と方法をよく理解した上で、実験計画の基本的な枠組みを具体的な実験研究から学んでいく。様々な研究を批判的に考えてみたり、実際に実験の実施もしていく。また、質問紙をベースにした実験・調査研究についても、実際に質問紙を作りながら学んでいく。このように、様々な心理分野の実験の立案、批判、実施を通して、統計に関する基礎的な知識も習得し、人間行動の問題の解決方法を探る。										
教科書	大山正。他『新心理学ライブラリ8 実験心理学への招待』サイエンス社 2012年 参考文献:三浦麻子監修『なるほど! 心理学実験法』なるほど! 心理学研究法』北大路書房 2017年										
提出課題	<p>レポート課題1 心理学実験法についてまとめ、自分の問題意識に沿った実験のテーマや方法について考察せよ</p> <p>レポート課題2 日常生活や社会問題に貢献する実験心理学研究について考察せよ</p> <p>学修のポイント1 グループ比較デザインと一事例研究について考察せよ</p> <p>学修のポイント2 実験の利点と欠点について</p> <p>学修のポイント3 感覚・知覚の一般的特性と、形やパターンの知覚について</p> <p>学修のポイント4 記憶における符号化と検索について（関連する実験も含めて）</p> <p>学修のポイント5 外発的動機づけと内発的動機づけについて（関連する実験も含めて）</p> <p>学修のポイント6 学習の正負の転移と、学習の構えについて（関連する実験も含めて）</p>										
期末試験	詳細は後日に決定する										
回数	授業内容										
第1回	オリエンテーション 「研究」「実験」とは何か 研究の骨組みを理解しよう										
第2回											
第3回	準実験とは何か 研究を批判する力、論理的な考え方を手に入れよう。実際の研究から。										
第4回											
第5回											
第6回	人の心の機能について知りたいことを実験に落とし込むには										
第7回											
第8回	まとめ・レポート作成										
第9回	動機づけの研究について										
第10回	質問紙調査の実施										
第11回	学習心理研究について										
第12回	学習心理学研究の紹介と実験の実施										
第13回	日常生活の人の営みを説明し、社会に役立つ研究とは何か										
第14回											
第15回	日常生活の人の営みを説明し、社会に役立つ研究とは何か										
第16回											
第17回	まとめ・レポート作成										
第18回											
第19回	社会心理研究について										
第20回	社会心理実験の実施										
第21回	知覚の特性について										
第22回	錯視実験の紹介と実験の実施										
第23回	記憶研究について										
第24回	記憶実験の紹介と実験の実施										
第25回	質問紙研究を行うには										
第26回	信頼性と妥当性の理解										
第27回	質問紙作成とディスカッション										
第28回											
第29回	質問紙の実施の項目分析										
第30回											
第31回	期末試験										
第32回	科目終了試験										
成績評価	<table border="1"> <tr> <td>出席率</td><td>30点</td> <td>75%以上の出席を必須とする。</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td><td>20点</td> <td>論述式。持ち込み可。</td> </tr> <tr> <td>授業内評価</td><td>50点</td> <td>授業態度、グループ討議などの取り組み態度、レポート課題への取り組み(期限厳守、添削からの修正努力)などを総合的に評価す</td> </tr> </table>		出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	期末試験	20点	論述式。持ち込み可。	授業内評価	50点	授業態度、グループ討議などの取り組み態度、レポート課題への取り組み(期限厳守、添削からの修正努力)などを総合的に評価す
出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。									
期末試験	20点	論述式。持ち込み可。									
授業内評価	50点	授業態度、グループ討議などの取り組み態度、レポート課題への取り組み(期限厳守、添削からの修正努力)などを総合的に評価す									
備考	毎週水曜日、2コマ連続開講です。実際の実験を読んでの内容の教え合い、プレゼン作成、発表、論文読解、実験実施なども行います。本授業は、実験計画立案や発表、実際の実験実施も行うため、進行状況によってはシラバスに変更が生じる場合があります。より良い実験の環境の設定には受講生同士の協力が不可欠です。欠席するとデータが取れなかったり、次回の進度に取り残されてしまう可能性があります。そのため、体調管理には気をつけていつも以上に出席に力を注いでください。										

(講義)	科目名:臨床心理学概論	講師: 平石 太一
科 目 概 要 ・ 目 標		
臨床心理学は、心理的な障害や問題に悩む人の適応や発達、自己実現を専門的に援助する実践について研究する学問である。そのため、まず、発達的観点からの臨床心理学的人間理解として、乳幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期の心理的な課題と問題について学ぶ。また、心理アセスメントの様々な側面と方法について学び、様々な臨床心理学的援助の方法についても概観する。その上で、臨床心理学的実践の様々な領域についての学修を重ね、実践における臨床心理学的な視点や思考方法を身につける。臨床心理学的援助としての心理療法の成り立ち、心理療法の代表的な理論についても理解する。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、臨床心理士・公認心理師として医療領域・教育領域で心理的支援を行ってきた講師の下、カウンセラー業務を通して実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。		
教科書		野島一彦『臨床心理学への招待』ミネルヴァ書房
提出課題		【設題1】心理療法の成り立ちについて述べよ。 【設題】心理療法の代表的な理論について述べよ。
学修のポイント1		アセスメント面接の進め方とその留意点について
学修のポイント2		保健医療分野における心理に関する支援について
学修のポイント3		福祉分野における心理に関する支援について
学修のポイント4		教育分野における心理に関する支援について
学修のポイント5		司法・矯正分野における心理に関する支援について
学修のポイント6		産業・労働分野における心理に関する支援について
期末試験		授業中の重要ポイントを中心に出題
回数		
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
出席率		
期末試験		
授業内評価		
備考		

(講義)	科目名:青年心理学	講師: 木村 洋太
科目概要・目標	10代半ば～20代前半はまさに青年期と呼ばれる時期に位置し、大学生の”今”が詰まった時期と言える。この授業では、これまでの自分の体験をもとに青年期を考えることから出発し、周りの友だちの体験、そして心理学の理論・データの知見を参考しながら、青年期に深く関わるテーマ（自己・友人関係・反抗期・恋愛・勉強など）に目を向ける。授業を通して、自由な心のあり方を学び、更新されていく自分の姿を感じながら自己の理解を深めて欲しい。	
教科書	教科書は指定せず、講義レジュメと参考資料を配布する。参考文献は授業中に適宜紹介する。	
期末試験	詳細は、後日に決定する	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション 青年心理学と周辺領域	
第2回	青年期とはいつなのか？ 発達段階とはなにか	
第3回	自分の始まりについて考える：乳幼児期の発達	
第4回	児童期までの発達	
第5回	認知発達からみる 児童期～青年期の学習のつまづき	
第6回	自分探しの青年心理学1：合意形成：互いに違う価値観の理解	
第7回	自分探しの青年心理学2：現代青年のアイデンティティ	
第8回	自分探しの青年心理学3：アイデンティティの拡散	
第9回	自分探しの青年心理学4：恋愛の心理学	
第10回	自分探しの青年心理学5：アイデンティティと健康	
第11回	親子関係の発達変化 - 大人にイラっとするとき 反抗期を考える	
第12回	友人関係の発達変化 - 私たちって親友だよね	
第13回	発達障害の理解その1 学習の障害	
第14回	発達障害の理解その2 社会性の障害	
第15回	発達障害の理解その3 行動の障害	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	25点 論述式。持ち込み可。
	授業内評価	45点 毎授業提出するワークシート、授業の参加姿勢などを総合的に評価する。
備考 (メッセージ)	みなさんにとっての「あるある」が授業内に詰まっています。青年期は、ココロと身体が飛躍的に変化する時期であるゆえに、様々に苦しむ時期でもあります。いいところも悪いところも、自分の理解を深めることで、これから見通しに役立つような下地をつくりましょう。	

(講義)	科目名:精神保健福祉制度論		講師:上松勝二郎
科目概要・目標	本科目は次に掲げる内容について理解することを目的とする。① 精神障害者に関する法律の体系についての理解 ② 精神障害者の医療に関する制度(精神保健福祉法の概要及び医療観察法の概要と精神保健福祉士のやくわ、精神障害者の医療に関する課題) ③ 精神障害者の生活支援に関する制度(相談支援制度、居住支援制度就労支援制度などと精神保健福祉士の役割並びに精神障害者の生活支援に関する課題) ④ 精神障害者の経済的支援に関する制度(生活保護制度、生活困窮者自立支援制度、低所得者対策等諸制度と精神保健福祉士の役割について、及び精神障害者の経済的支援制度に関する課題)		
教科書	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 精神保健福祉士養成講座4 精神保健福祉制度論』 中央法規		
提出課題	レポート設題	【設題1】精神保健福祉法成立までの過程とその内容について記述しなさい	
授業計画	回数	授業内容	
	第1回	精神障害者に関する法制度、社会保障が果たす機能と役割について理解する	
	第2回	精神障害者に関する制度の成立過程とその特徴と現在の問題点について	
	第3回	実際の事例を通して本科目を学ぶ必要性、制度、サービスについて	
	第4回	障害者の医療に関する制度、医療計画について学ぶ	
	第5回	医療観察法の概要と精保士の役割について	
	第6回	精神障害者の医療関連する施策について	
	第7回	精神障害者の生活支援に関する制度について(基本的考え方)	
	第8回	相談支援制度についての理解(相談支援の概要)	
	第9回	居住支援制度及び就労支援制度について	
	第10回	精神障害者の経済的支援について(経済的支援の意義と役割)	
	第11回	精神障害者の経済的支援について(所得保障に関わる支援)	
	第12回	精神障害者の経済的支援について(経済的負担の軽減)	
	第13回	生活困窮と生活保護制度について	
	第14回	生活困窮者自立支援制度、低所得者対策について	
	第15回	期末試験	
	第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点	
	授業内評価	30点	
	備考		

(講義)	科目名:精神保健福祉の原理	講師: 真口 良美
科 目 概 要	本科目は、障害者福祉の思想と原理、理念、また歴史的展開を理解したうえで、現代の「障害」や「障害者」に関する概念について学ぶ。また、諸外国の動向を踏まえ、日本の障害に関する現状や課題、精神科医療の特異性を学習する。さらには現代社会にあって、精神保健福祉士が有るべき原理や価値、理解しておくべき根拠法(精神保健福祉士法)や倫理綱領、職域と業務内容について考究することを目的とする。具体的には次の7つの項目を学修目標とする。 ①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み(理念・視点・関係性)について理解する。 ②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。 ③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。 ④精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。 ⑤現在の精神保健福祉士の基本的枠組み(理念・視点・関係性)と倫理綱領に基づく職責について理解する。 ⑥精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。 ⑦近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。	
教科書	一般社団法人 日本ソーシャルワーカー教育学校連盟編集 『最新 精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の原理』中央法規。	
レポート設題	【設題1】精神障害についての概念について説明しなさい。 <ポイント>ICIDHとICFを援用した精神障害の構造を説明する。そのうえで、疾病と障害の共存について、障害の可逆性、環境因子との相互作用、体験としての障害などについて具体例を挙げながら述べること。	
学修のポイント1	【設題2】明治期から現代にかけて、精神障害者の対応法の歴史的変遷について述べなさい。 <ポイント>精神病者監護法・精神病院法の戦前二法がいかなる状況で制定されたのか、またどのような内容の法令であったかを述べる。加えて、1950年成立した、精神衛生法がいかなる改正を経て現在に至っているのかについて述べること。	
提出課題	学修のポイント1 1965年と1987年の精神衛生法改正について、その内容と改正のきっかけになった事件の内容を書きなさい。 <ポイント>1964年のライシャワー事件と1984年宇都宮病院事件発覚について、それぞれ何が問題とされたのかについて述べる。加えてこれらの問題について、法改正によって如何に対応がなされたのかについて述べること。 学修のポイント2 <ポイント>精神科医療の特異性について述べなさい。 学修のポイント3 <ポイント>精神障害者の家族が置かれている状況について述べなさい。 学修のポイント4 <Y問題>について、概要とその後の影響について述べよ。 <ポイント>まず、「Y問題」というものが何かについて述べること。そのうえで、「Y問題」が示したPSWへの教訓と課題について学修すること。その後に整えられた倫理綱領への言及があるとなおよい。 学修のポイント5 <エンパワメントトリカハリーについて、その特徴と定義について述べよ。 <ポイント>それぞれの概念が生成された背景と定義、それらの視点を活用した実践などを述べができるように学修すること。 学修のポイント6 精神保健福祉士法(*注意:精神保健福祉法ではない)について概要について述べよ。 <ポイント>精神保健福祉士法の成立とその目的について、その定義、義務規定について説明できるように学修すること。	
期末試験	Y問題について、概要とその影響を述べよ。	
回数	授業内容	
第1回	「精神保健の原理とは何か」 「障害者福祉の理念と歴史的展開」	
第2回	「制度における「精神障害者」の定義」 「国際生活機能分類(ICF)と精神障害」「精神障害の「精神特性」」	
第3回	「精神障害の理解と支援にかかる新たな潮流」	
第4回	「諸外国における排除と歴史とその後の展開」	
第5回	「日本における排除の歴史と構造」	
第6回	「日本の社会的障壁をめぐる課題とその克服への取り組み」	
第7回	「精神科医療による生活への影響」 「精神障害者の家族が置かれている状況」	
第8回	「精神障害者の社会生活の実際」	
第9回	「メンタルヘルスをめぐる新たな課題」	
第10回	「精神保健福祉士の原理が培われた足跡」 「精神保健福祉士による実践の価値・原理」	
第11回	「精神保健福祉士による実践の視野や視点」 「援助における関係性」	
第12回	「精神保健福祉士法の理解」 「精神保健福祉士の職業倫理」	
第13回	「精神保健福祉士の業務特性と業務指針」 「精神保健福祉士の職場・職域」	
第14回	「精神保健福祉士の業務内容とその特性」 まとめ	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点
	授業内評価	20点 課題提出物の評価
		20点 授業への関心・態度・意欲
備考		

(演習)	科目名:フィールドワークIII	講師: 森奈祐
科目概要・目標	社会福祉学を学ぶために、当科目では福祉とはどのようなものかのイメージをもてるようになること目的とする。また、保健・医療・福祉の概要を学び、福祉の位置づけを確認する。次に、多様な考え方や形があり、多くの専門職の活躍からも成り立つ福祉とはどのようなものかを、自ら情報を得ようとし、グループワークを通して多角的な視点でそれらをまとめることとする。さらに、フィールドワーク(外部研修)を通して、実践の現場に触れる機会を持ち、講義などで学んだものにイメージを付けていくことを目指す。	
教科書	なし	
期末試験	名古屋市中区社会福祉協議会を訪問して学んだことと私見を述べよ。	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション	
第2回	福祉に関するグループディスカッション	
第3回	福祉に関するグループディスカッション	
第4回	福祉に関する考察	
第5回	福祉に関する考察	
第6回	福祉に関する考察	
第7回	福祉に関する考察	
第8回	福祉に関する考察	
第9回	福祉に関する考察	
第10回	社会福祉協議会の事業①	
第11回	社会福祉協議会の事業②	
第12回	社会福祉協議会の事業③	
第13回	見学・演習【名古屋市中区社会福祉協議会】	
第14回	見学・演習【名古屋市中区社会福祉協議会】	
第15回	見学・演習【名古屋市中区社会福祉協議会】	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点
		20点 授業態度、グループワーク等への参加・発言の積極性を評価する。
	授業内評価	20点 見学への参加、見学に向けた事前準備、見学の姿勢に対する評価
備考	授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用、音楽等の聴取、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には、減点評価とします。	

(講義)	科目名:児童・家庭福祉論	講師: 横山由里
科目概要・目標	少子高齢社会の進行、家庭や地域における子育て機能の変化など児童や家庭をめぐる環境が著しく変化するなかで、これらの児童・家庭福祉は、子どもを健やかに生み育てられる環境づくりと家庭に対する支援を一層重視した施策の展開が求められている。このような児童・家庭福祉をめぐる環境の変化を踏まえて、少子高齢社会と次世代育支援、現代社会と子ども家庭の問題、子ども家庭福祉の理念と権利保障、子ども家庭福祉の法体系と実施体制、子ども家庭にかかわる福祉・保健施策と援助活動などについて学修する。	
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』中央法規。	
提出課題	【設題1】少子高齢化社会における子ども家庭福祉のあり方について述べよ。 レポート設題	
学修のポイント1	子ども家庭福祉とは何か	
学修のポイント2	少子化高齢化社会の現状と子育ち・子育てへの影響について	
学修のポイント3	子ども家庭福祉に関わる法制度について	
学修のポイント4	子ども・子育て支援法と子ども・子育て支援制度について	
学修のポイント5	児童虐待にかかわる支援や対策について	
学修のポイント6	子ども家庭福祉におけるソーシャルアクションについて	
期末試験	後日指示	
回数	授業内容	
第1回	学修のポイント②子ども家庭福祉とは何か	
第2回	学修のポイント⑤児童虐待対策について	
第3回	学修のポイント⑥子ども家庭福祉への援助活動について	
第4回	子ども家庭福祉にかかわる専門職について	
第5回	学修のポイント①現代社会と子ども家庭について	
第6回	少子高齢化社会における子ども家庭福祉のあり方について①	
第7回	少子高齢化社会における子ども家庭福祉のあり方について②	
第8回	学修のポイント④子ども・子育て支援法と子ども・子育て支援制度について	
第9回	学修のポイント③子ども家庭福祉に関わる法制度について	
第10回	現代の子ども家庭のかかえる課題①	
第11回	現代の子ども家庭のかかえる課題②	
第12回	現代の子ども家庭のかかえる課題③	
第13回	現代の子ども家庭のかかえる課題④	
第14回	期末試験対策	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	20点
		30点 課題提出期限が遅れたら減点 1回5点
	授業内評価	20点 積極的な授業態度
備考	積極的に頑張りましょう。 参考文献:厚生労働省『厚生労働白書』。	

社会福祉学科

保育児童福祉コース

2年生

(講義)	科目名:児童・家庭福祉論	講師: 横山由里
科 目 概 要 ・ 目 標	少子高齢社会の進行、家庭や地域における子育て機能の変化など児童や家庭をめぐる環境が著しく変化するなかで、これらの児童・家庭福祉は、子どもを健やかに生み育てられる環境づくりと家庭に対する支援を一層重視した施策の展開が求められている。このような児童・家庭福祉をめぐる環境の変化を踏まえて、少子高齢社会と次世代育支援、現代社会と子ども家庭の問題、子ども家庭福祉の理念と権利保障、子ども家庭福祉の法体系と実施体制、子ども家庭にかかわる福祉・保健施策と援助活動などについて学修する。	
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』中央法規。	
提出課題	【設題1】少子高齢化社会における子ども家庭福祉のあり方について述べよ。 レポート設題	
学修のポイント1	子ども家庭福祉とは何か	
学修のポイント2	少子化高齢化社会の現状と子育ち・子育てへの影響について	
学修のポイント3	子ども家庭福祉に関わる法制度について	
学修のポイント4	子ども・子育て支援法と子ども・子育て支援制度について	
学修のポイント5	児童虐待にかかる支援や対策について	
学修のポイント6	子ども家庭福祉におけるソーシャルアクションについて	
期末試験	後日指示	
回数	授業内容	
第1回	学修のポイント②子ども家庭福祉とは何か	
第2回	学修のポイント⑤児童虐待対策について	
第3回	学修のポイント⑥子ども家庭福祉への援助活動について	
第4回	子ども家庭福祉にかかる専門職について	
第5回	学修のポイント①現代社会と子ども家庭について	
第6回	少子高齢化社会における子ども家庭福祉のあり方について①	
第7回	少子高齢化社会における子ども家庭福祉のあり方について②	
第8回	学修のポイント④子ども・子育て支援法と子ども・子育て支援制度について	
第9回	学修のポイント③子ども家庭福祉に関わる法制度について	
第10回	現代の子ども家庭のかかえる課題①	
第11回	現代の子ども家庭のかかえる課題②	
第12回	現代の子ども家庭のかかえる課題③	
第13回	現代の子ども家庭のかかえる課題④	
第14回	期末試験対策	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	20点
		30点 課題提出期限が遅れたら減点 1回5点
	授業内評価	20点 積極的な授業態度
備考	積極的に頑張りましょう。 参考文献:厚生労働省『厚生労働白書』。	

(講義)	科目名:精神保健学	講師名:上松勝二郎																																		
科 目 概 要 ・ 目 標	精神保健とは、精神的健康に関する公衆衛生であり、精神障害の予防・治療・リハビリテーションから、精神的健康の保持・増進を図るための諸活動までも含んでいる。このような精神保健の基本的視点や基礎知識を学習し現代の精神保健の意義や課題を考える。具体的には、精神の健康と、精神の健康に関する要因及び精神保健の概要精神保健の視点から見た(1) 家族の課題とアプローチ (2) 学校教育の課題とアプローチ (3) 勤労者の課題とアプローチ (4) 現代社会の課題とアプローチ、精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割、地域精神保健に関する諸活動と偏見・差別等の課題、精神保健に関する専門職種と国・都道府県・市町村・団体等の役割及び連携、諸外国の精神保健活動の現状及び対策を学ぶ。																																			
教科書	現代の精神保健の課題と支援 中央法規																																			
提出課題	<p>レポート課題</p> <p>【設題1】ライフサイクルにおける精神保健について述べよ</p> <p>【設題2】精神保健における個別課題の取り組みについて述べよ</p> <p>学習のポイント1 認知症高齢者対策について</p> <p>学習のポイント2 アルコール関連問題について</p> <p>学習のポイント3 世界の精神保健の現状について</p> <p>学習のポイント4 思春期精神保健対策について</p> <p>学習のポイント5 地域での精神保健施策の現状と課題について</p> <p>学習のポイント6 現代社会の精神保健学的な課題と対策について</p>																																			
期末試験	後日発表																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>現代社会と精神保健 (精神保健の意義と対策)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>ライフサイクルにおける精神保健 (乳児期・学童期)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>ライフサイクルにおける精神保健 (思春期・青年期)</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>ライフサイクルにおける精神保健 (成人期)</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>ライフサイクルにおける精神保健 (老年期、認知症について)</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>わが国の精神障害対策</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>アルコール関連問題対策、薬物乱用防止対策について</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>思春期の精神保健対策</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>地域精神保健活動、こころの健康づくり、司法精神保健福祉対策</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>緩和ケアと精神保健、精神保健における技法、カウンセリングについて</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>家庭における精神保健、学校における精神保健</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>地域精神保健の現状と課題、精神保健に関する調査研究</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>メンタルヘルスの諸課題における関連専門職種の役割と連携</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>世界の精神保健</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>期末試験</td> </tr> <tr> <td>第16回</td> <td>科目終了試験</td> </tr> </tbody> </table>		回数	授業内容	第1回	現代社会と精神保健 (精神保健の意義と対策)	第2回	ライフサイクルにおける精神保健 (乳児期・学童期)	第3回	ライフサイクルにおける精神保健 (思春期・青年期)	第4回	ライフサイクルにおける精神保健 (成人期)	第5回	ライフサイクルにおける精神保健 (老年期、認知症について)	第6回	わが国の精神障害対策	第7回	アルコール関連問題対策、薬物乱用防止対策について	第8回	思春期の精神保健対策	第9回	地域精神保健活動、こころの健康づくり、司法精神保健福祉対策	第10回	緩和ケアと精神保健、精神保健における技法、カウンセリングについて	第11回	家庭における精神保健、学校における精神保健	第12回	地域精神保健の現状と課題、精神保健に関する調査研究	第13回	メンタルヘルスの諸課題における関連専門職種の役割と連携	第14回	世界の精神保健	第15回	期末試験	第16回	科目終了試験
回数	授業内容																																			
第1回	現代社会と精神保健 (精神保健の意義と対策)																																			
第2回	ライフサイクルにおける精神保健 (乳児期・学童期)																																			
第3回	ライフサイクルにおける精神保健 (思春期・青年期)																																			
第4回	ライフサイクルにおける精神保健 (成人期)																																			
第5回	ライフサイクルにおける精神保健 (老年期、認知症について)																																			
第6回	わが国の精神障害対策																																			
第7回	アルコール関連問題対策、薬物乱用防止対策について																																			
第8回	思春期の精神保健対策																																			
第9回	地域精神保健活動、こころの健康づくり、司法精神保健福祉対策																																			
第10回	緩和ケアと精神保健、精神保健における技法、カウンセリングについて																																			
第11回	家庭における精神保健、学校における精神保健																																			
第12回	地域精神保健の現状と課題、精神保健に関する調査研究																																			
第13回	メンタルヘルスの諸課題における関連専門職種の役割と連携																																			
第14回	世界の精神保健																																			
第15回	期末試験																																			
第16回	科目終了試験																																			
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。																																		
	期末試験	30点																																		
	授業内評価	40点																																		

(講義)	科目名:保育の心理学	講師: 内山 世璃奈
科目概要・目標	心の機能は、感覚・知覚・認知、社会性、気質・性格、感情などさまざまな側面を見せながら、人に一生を通じて変化していく。発達は、個々に異なる様相をみせると同時に、乳児期、幼児期、学童期、青年期、成人期、壮年期、老年期など各ライフステージにおける普遍的な特徴をもつ。本科目では、発達の概念および各ライフステージにおける心理及び行動の特長について学び、人間理解の基礎を培う。	
教科書	本郷一夫「シードブック保育の心理学Ⅰ・Ⅱ」健帛社	
提出課題	<p>レポート設題 【設題1】エリクソンの発達段階のうちどれかを選び、その特徴をまとめ、その段階に起りがちな危機を1つ挙げて、その対応について述べよ。</p> <p>学修のポイント1 「発達」の今日的意味について</p> <p>学修のポイント2 発達を規定する要因について</p> <p>学修のポイント3 各発達段階(ライフステージ)の特徴とエリクソンの心理社会的危機について</p> <p>学修のポイント4 身体・運動の発達について</p> <p>学修のポイント5 認知・言語・感情の発達について</p> <p>学修のポイント6 子どもの発達における今日的課題について</p>	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	オリテン/GP2 発達を規定する要因	
第2回	GP1「発達」の今日的意味	
第3回	GP1「発達」の今日的意味について 作成	
第4回	GP3 各発達段階の特徴とエリクソンの心理社会的危機について	
第5回	GP3 各発達段階の特徴とエリクソンの心理社会的危機について 作成	
第6回	R1:乳幼児期	
第7回	R1:児童期・青年期	
第8回	R1:成人期・老年期	
第9回	R1 作成	
第10回	GP6 子どもの発達における今日的課題について	
第11回	GP6 子どもの発達における今日的課題について	
第12回	GP5 認知・言語・感情の発達について	
第13回	GP4 身体・運動の発達について	
第14回	期末試験対策	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点 指定の用紙のみ持ち込み可 論述式(自分の意見や考えが述べられているか)
	授業内評価	①提出物の期限を守れているか。 ②下記のことを守れているか。
備考	授業には積極的に参加し、理解し考えようとする力・姿勢を身につけてください。 授業中の居眠り、私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁です。 何度も注意しても直らない場合は、受講は認めず退出していただきます。	

(講義)	科目名:養護原理/社会的養護Ⅰ	講師: 横山由里
科目概要・目標	社会的養護は、福祉施設において、意図的・継続的に展開されている日々の支援活動を通じて行われるものである。そこで、学生は、この科目において、社会的養護および児童養護に関する考え方や理念、児童養護の歴史、児童養護の制度など、基礎的な知識の学修を行う。また、学生が実際に福祉現場で支援活動を行う際に必要とされる基礎的な知識や技術を身につけるために、児童養護に関する事例を基にして、ケースワークやグループワークなどの方法によるクライエントに対する支援の方法や解決・緩和に関する技法について学ぶ。	
教科書	小野澤昇、他『子どもの生活を支える社会的養護』ミネルヴァ書房。	
提出課題	<p>レポート設題</p> <p>【設題1】児童養護の意義と基本原理について述べよ。</p> <p>【設題2】施設で用いられる個別援助技術(ケースワーク)について述べよ。</p>	
学修のポイント1	社会的養護及び児童養護の意義と基本原理について	
学修のポイント2	児童養護の制度と社会的養護の特質について	
学修のポイント3	社会的養護と日常生活及び自立支援について	
学修のポイント4	社会的養護と親子・地域との関係調整について	
学修のポイント5	社会的養護に関わる職員の資質について	
学修のポイント6	児童支援におけるチームワークについて	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	児童養護の意義と基本原理①	
第2回	児童養護の意義と基本原理②	
第3回	施設で用いられる個別援助技術について①	
第4回	施設で用いられる個別援助技術について②	
第5回	施設で用いられる個別援助技術について③	
第6回	学修のポイント①児童養護の意義と基本原理について	
第7回	学修のポイント②社会的養護の制度と特質について	
第8回	学修のポイント③社会的養護の日常生活及び自立支援について	
第9回	学修のポイント④社会的養護における親子・地域との関係調整について	
第10回	学修のポイント⑤社会的養護に関わる職員の資質について	
第11回	学修のポイント⑥子どもの支援におけるチームワークについて	
第12回	社会的養護にあげられる課題①	
第13回	社会的養護にあげられる課題②	
第14回	期末試験対策	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	20点
		30点 課題提出期限が遅れたら減点 1回5点
	授業内評価	20点 積極的な授業態度
備考	積極的に頑張りましょう。 参考文献: 山縣 文治、他『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房。	

(講義)	科目名 : 子どもの保健	戎 弘志
科 目 概 要 ・ 目 標	<p>子どもの心身の健康増進を図るために保健活動の意義を理解する。子どもの運動機能及び生理機能の発達と保健について理解する。また、子どもの健康状態、心身の不調時の観察方法、発育・発達の把握と健康診断を具体的に学ぶ。子どもの疾患についての病態生理、その予防方法と保育者としての適切な対処方法について学ぶ。現代社会における子どもの健康に関する現状と課題を学び、虐待の防止方法、早期発見、対応方法、保護者との連携や、地域との連携を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)子どもの形態的発育、機能的発達、精神機能の発達について学び、説明することができるようになる。 2)小児期の発育・発達に必要な栄養、ことに母乳哺育について学び、説明することができるようになる。 3)子どもの生活リズムについて学び、説明することができるようになる。 4)子どもによくみられる疾病とその対処法について学び、説明することができるようになる。 5)小児期の事故と安全教育、保育環境について学び、説明することができるようになる。 6)母子保健の現状と課題について学び、説明することができるようになる。 	
教科書・資料	保育・教育ネオシリーズ21 子どもの保健 一理論と実際一 同文書院	
提出課題	<p>レポート設題 小児期に多い感染症と感染対策について述べよ。 <ポイント>小児期に多い感染症の種類、病原体、感染経路、症状、合併症、治療法と予防方法について理解する。</p> <p>学修のポイント1 1. 健康の概念と現代の小児保健における問題点について</p> <p>学修のポイント2 2. 健康状態の観察について</p> <p>学修のポイント3 3. 子どもの身体的、精神的、発達及び運動発達について</p> <p>学修のポイント4 4. 小児期に多い感染症について</p> <p>学修のポイント5 5. 小児期に多い消化器の疾患について</p> <p>学修のポイント6 6. 保健活動と虐待防止について</p>	
期末試験	授業中での重要なポイントを中心に出題	
回数	授業内容	
第1回	小児の臓器と機能発達	
第2回	胎児・新生児の血液循環について	
第3回	小児の生理機能について	
第4回	乳幼児の体温調節について	
第5回	人口動態統計と死亡率	
第6回	わが国と諸外国の新生児死亡率の推移	
第7回	小児に多い疾病	
第8回	小児の疾病的特徴	
第9回	小児の健康増進とその実践・栄養と食生活	
第10回	離乳について	
第11回	小児の疾病とその予防対策	
第12回	小児の疾病とその予防対策	
第13回	事故と安全対策	
第14回	児童福祉施設における保健対策	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率 30点	75%以上出席すること。不足した場合は再履修とする。
	期末試験 40点	持ち込み: 不可 (選択・記述) ※ただし、各授業ごとに試験のポイントを発表する。
	授業態度 30点	(例:学習意欲、提出期限、授業中の姿勢等、総合的に評価する。)
備考	改訂・保育士養成編集委員会 改訂・保育士養成講座 小児保健 社会福祉法人全国社会福祉協議会	

(講義)	科目名:乳児保育Ⅰ	講師:鈴木みどり															
科目概要・目標	<p>わが国における乳児保育の発展の経緯と現状を確認し、保育所や乳児院の役割を理解する。また乳児の発達・発育を留意した、乳児保育の担当者として求められる役割および理論や知識・技術の基本を理解し、保育現場での課題解決方法を理解する。</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、保育士として公立保育所で主任も務めた講師のもと、保育現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>																
教科書	大阪保育研究所『テキスト乳児保育』フォーラム・A																
提出課題	<p>レポート設題 乳児保育の担当保育者としての資質について述べよ</p> <p>学修のポイント1 乳幼児期における身体の発育と運動面の発達について 学修のポイント2 乳児の情緒安定と「抱っこ」の関係について 学修のポイント3 乳幼児の集団保育の意義について 学修のポイント4 乳児保育のもつ現代的な課題について 学修のポイント5 乳児保育と保育所の制度について 学修のポイント6 乳児保育における保育者の配慮または留意点について</p>																
期末試験	乳児保育における保育者の配慮または留意点について																
回数	授業内容																
第1回	オリエンテーション 乳児保育の課題	教科書163~214															
第2回	乳児保育のもつ現代的な課題について	教科書163~214															
第3回	乳児保育と保育所の制度について	教科書163~214															
第4回	乳児保育と保育所の制度について	教科書163~214															
第5回	乳児保育における保育者の配慮または留意点について	教科書91~162															
第6回	乳児保育における保育者の配慮または留意点について	教科書91~162															
第7回	乳児保育の担当保育者としての資質について	教科書91~162															
第8回	乳児保育の担当保育者としての資質について	教科書91~162															
第9回	乳児保育の担当保育者としての資質について	教科書91~162															
第10回	乳児の情緒安定と「抱っこ」の関係について	教科書11~144															
第11回	乳幼児期における身体の発育と運動面の発達について	教科書11~162															
第12回	乳幼児の集団保育の意義について	教科書125~144															
第13回	乳児保育のもつ現代的な課題について	教科書163~214															
第14回	乳児保育における保育者の配慮または留意点について	教科書91~162															
第15回	期末試験																
第16回	科目終了試験																
成績評価	<table border="1"> <tr> <td>出席率</td> <td>30点</td> <td>75%以上の出席を必須とする。</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>20点</td> <td>持ち込み可。論述式。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>20点</td> <td>レポート内容、提出状況</td> </tr> <tr> <td>授業内評価</td> <td>20点</td> <td>授業態度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>10点</td> <td>実践の取り組み</td> </tr> </table>		出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	期末試験	20点	持ち込み可。論述式。		20点	レポート内容、提出状況	授業内評価	20点	授業態度		10点	実践の取り組み
出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。															
期末試験	20点	持ち込み可。論述式。															
	20点	レポート内容、提出状況															
授業内評価	20点	授業態度															
	10点	実践の取り組み															
備考	乳児の発達段階をふまえた手遊びや絵本読み聞かせ、エプロンシアターの実践する。																

(講義)	科目名:保育内容(環境)	講師:高木芳子
科目概要・目標 保育内容を構成する「環境」のねらいと内容について理解し、子どもを取り巻く環境について学び、環境と子どもの活動・保育における環境及び環境設定について理解する。保育の全体構造における環境に関する総合的に指導・援助が行えるような理論や知識を習得する。また、演習形式で学ぶことにより、「環境」で習得した理論や知識への理解をさらに深め、実際の保育現場での指導につながる実践力を養う。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、保育士として保育所で保育に従事していた講師の下、保育現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。		
教科書		谷田貝公昭『コンパクト版 保育内容シリーズ3 環境』一藝社
提出課題	レポート設題	保育内容を構成する環境のねらいの意義をふまえ、保育者の援助および環境構成のあり方について述べよ。 環境のねらいについてふれながら、実際に具体的な例を挙げて援助のあり方を示すこと。
	学修のポイント1	保育内容を構成する環境について
	学修のポイント2	「積極的にかかわる」「生活に取り入れる」などの活動への援助について
	学修のポイント3	子どもにとって自然とかかわることの意義について
	学修のポイント4	保育における環境構成について
	学修のポイント5	子どもを取り巻く身近な環境の理解について
	学修のポイント6	乳幼児の安全な環境について
期末試験		五感(視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚)を使って自然を体験することで、保育ができる子どもの内面に向けた援助にはどの様なものがあるか考えて述べよ。
回数		
第1回	授業内容 保育内容「環境」の意義	
第2回	領域「環境」の概要	
第3回	様々な「環境」	
第4回	子どもの発達と環境	
第5回	子どもと環境の関わり	
第6回	自然に親しむ	
第7回	数量や文字などへの興味	
第8回	生活と関係する行事・文化	
第9回	子どもを取り巻く情報機器	
第10回	身近な社会との関わり	
第11回	指導計画と評価	
第12回	0, 1, 2歳児の保育と環境(安全面)	
第13回	3, 4, 5歳児の保育と環境	
第14回	多様性のある保育環境	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点
		30点 授業ごとに内容を要約し提出する。
	授業内評価	
備考		授業の要約は授業内で20~30分程度の時間を使ってまとめる。

(実技)	科目名: 幼児体育	講師: 山口 榮三
科目概要	保育士・幼稚園教諭は、子どもたちの運動遊びや身体表現の場において、言語による指導・助言のみに頼るのではなく保育者自身が視覚教材となりうるような動作やしぐさを身につけなければならないことを理解してほしい。したがって、身体運動に関する基本的な知識(幼児期に体得すべき基礎的動作・基本的運動を含む)の理解を深めるとともに、自身の運動能力を高めるためのプログラム、遊びの要素を取り入れながら幼児体育で取り扱う運動遊び・身体的表現等に関する教材研究を行う必要がある。また、運動遊びにおける安全管理および安全教育に必要な知識を学習する。	
教科書参考文献	井上勝子『すこやかな子どもの心と体を育む運動遊び』建帛社 河田隆編著『幼児体育教本』同文書院ほか	
設題	<p>【設題1】幼児期の運動遊びの必要性について述べよ。 <ポイント>次の点を踏まえて述べること。</p> <p>①スキヤモンの発育曲線から何を読み取るか。 ②幼児期から児童期の遊びとその効果 ③体力の分類</p> <p>1 幼児体育の必要性について 2 鉄棒・跳び箱・マット遊びの指導とその効果、および注意点について 3 安全管理や緊急時の対応について</p> <p>期末試験 (後日連絡します) 上記の科目終了試験1~3の設題から1つ</p>	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション・幼児体育の意義について(幼児体育の必要性・スキヤモンの発育曲線)	
第2回	幼児期の運動遊びについて(特に昭和期初期から戦後)	
第3回	遊びの必要性について①(遊びが乳幼児に与える影響、運動能力測定とその活用)	
第4回	遊びの必要性について②(固定遊具の遊び方を考える、幼児への影響、安全管理)	
第5回	指導計画①(対象に合わせた指導案作成～体育遊び)	
第6回	指導計画①(対象に合わせた指導案作成～マット・鉄棒・跳び箱遊び)	
第7回	模擬保育①(対象に合わせた指導案作成)	
第8回	模擬保育①(対象に合わせた指導案実践)	
第9回	乳幼児の安全教育(事故の実態と原因、安全管理、安全教育)	
第10回	乳幼児の運動遊びの実際①(人と関わる・自然と関わる)	
第11回	乳幼児の運動遊びの実際②(物と関わる・遊具と関わる)	
第12回	乳幼児の運動遊びの実際③(素材と関わる)	
第13回	表現あそび(リズム遊び、音楽を使った遊び)	
第14回	創作リズム体操(創作・練習・発表会リハーサル・発表会)	
第15回	期末試験	
第16回	科目修了試験	
成績評価	出席率	30点
	期末試験	30点 持ち込み: 可 論述式
	レポート	20点 提出期限までに作成できたか、自分の言葉でまとめられているかで判断します。
	実技	10点 すすんで授業に参加しているか、体を動かしての行動等で判断します。
	授業態度	10点 本学のルール、マナーにそって、意欲的に授業を受けていたかどうかで判断します。
備考	授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。 遅刻は15分まで。その後は欠席となります。遅刻3回で欠席1回。天候等で予定を変更する場合があります。	

(講義)	科目名:保育内容総論	講師: 鈴木みどり
科目概要・目標	<p>保育内容の5つの領域(保育所は「養護」的内容が加わる)は保育実践では分断されて行われるものではない。具体的な生活や遊びの中では、それらが丸ごと含まれているので、実践の中で総合的に捉える視点をもつるようにし、保育を進めていけるように学ぶ。</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、保育士として公立保育所で主任も務めた講師の下、保育現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>	
教科書	関口はづ江、岸井慶子『実践理解のための保育内容総論』大学図書出版	
提出課題	レポート設題	なぜ、子どもの活動を総合的活動として5領域から捉えるのか、その意義と問題について述べよ。 <ポイント> 子どもの意識や構え等に着目すること。活動の中に含まれる5領域のあり方、相互性等に着目すること。
学修のポイント1	保育内容を捉える視点「領域」について	
学修のポイント2	生活と遊びの関係について	
学修のポイント3	保育ニーズへの対応について	
学修のポイント4	道徳性の芽生えの指導について	
学修のポイント5	情報化社会と保育内容の展開と工夫について	
学修のポイント6	保育の中での子どもの発達を捉える際の留意点について	
期末試験	保育の中での子どもの発達を捉える際の留意点について	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション 保育の基本	教科書P7~22
第2回	保育内容を捉える視点「領域」について	教科書P7~22
第3回	保育ニーズへの対応について	教科書P44~47
第4回	保育ニーズへの対応について	教科書P44~47
第5回	保育の中での子どもの発達を捉える際の留意点について教科書P51	
第6回	保育の中での子どもの発達を捉える際の留意点について教科書P51	
第7回	保育内容5領域について	教科書P7~149
第8回	保育内容5領域について	教科書P7~149
第9回	保育内容と指導計画	教科書P38~125
第10回	道徳性の芽生えの指導について	教科書P51
第11回	生活と遊びの関係について	教科書P58
第12回	情報化社会と保育内容の展開と工夫について	
第13回	保育の中での子どもの発達を捉える際の留意点について	
第14回	学校教育の基礎としての保育	教科書P126
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	20点 持ち込み可、論述式。
		20点 レポート内容、提出状況。
	授業内評価	20点 授業態度。
		10点 実践の取り組み。
備考	5領域の保育内容を学び、発達に即した制作、リズム遊び、保育実践をする。	

(講義)	科目名:保育実習事前指導 I (保育所・施設)	講師: 田口 早苗
科 目 概 要 ・ 目 標	<p>保育実習の意義・目的・内容・方法を理解する。実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。保育演習を通して、保育場面のなかでの留意すべき事柄を確認する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.保育実習の意義・目的を理解する。 2.保育所をはじめとする児童福祉施設における保育士の役割を理解する。 3.保育者としての心構えや態度を学ぶ。 4.保育技術を習得する。 5.実習記録の記入方法・内容を理解する。 6.指導案を理解し、立案する。(主として部分実習) 	
教科書	<p>関口はつ江、他「学びをいかす保育実習ハンドブック」大学図書出版 駒井美智子「施設実習ガイド-保育者として成長するための事前事後学習」萌文書林</p>	
参考文献	<p>河邊貴子、他『保育・教育実習 フィールドで遊ぼう』同文書院 鈴木みゆき、他『最新・保育実習まるごとBook』小学館 久富陽子『幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方』萌文書林</p>	
期末試験	授業内で発表	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション 保育実習の意義や目的を理解する(教科書第1章)	
第2回	保育者としての心構えや実習生の立場について(教科書第2・3章)	
第3回	施設の種類と機能、社会的役割について(施設実習ガイド)	
第4回	保育所実習における目標や課題・一日の流れについて(教科書第3章)	
第5回	実習日誌の書き方について(1)(教科書第4章)	
第6回	実習日誌の書き方について(2)(教科書第4章)	
第7回	保育に必要な技術を練習し、自分のものにする(1)(教科書第4章)	
第8回	保育に必要な技術を練習し、自分のものにする(2)(教科書第4章)	
第9回	保育演習 手遊び、絵本、紙芝居、エプロンシアター、等	
第10回	指導案作成(1)	
第11回	指導案作成(2)	
第12回	自身の立てた指導案をもとに実際に模擬保育を行う。	
第13回	自身の立てた指導案をもとに実際に模擬保育を行う。	
第14回	模擬保育演習振り返り	
第15回	実習に向けての準備について	
第16回	期末試験	
成 績 評 価	出席率(30点)	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験(30点)	持ち込み不可 設題は後日発表。理論的に私見を述べることができているか、誤字脱字はないか、読みやすいよう丁寧に記述してあるか、など評価対象にします。
	授業内評価(40点)	学習意欲、授業態度、確認テスト等(20点) 提出物(制作等)(20点)
備考	<p>授業で必要な物品等があります。各自で用意してください。 実習に向けて、日常生活から自律を心がけましょう。保育者として子どもの前に立って恥ずかしくないような生活を送ってください。</p>	

(実技)	科目名: 器楽	講師:霞真実子
科目概要・目標	様々な状況に応じて音楽を楽しみ、仲間と協力し、応用できるような体験をする。	
教科書	プリント	
期末試験	後日発表	
第1回	リズム(手拍子、曲の中で楽器を用いて)	
第2回	リズム(〃)	リズムテスト①
第3回	伴奏	手拍子②
第4回	コードをつけて伴奏する	
第5回	〃	
第6回	〃	
第7回	〃 (伴奏形を考える)	伴奏付き③
第8回	ふりつけをする	楽譜を書く④
第9回	〃	
第10回	〃	
第11回	〃	ふりつけ⑤
第12回	連弾	
第13回	〃	
第14回	〃	
第15回	〃	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	10点
授業内評価	10点	平常点
	50点	中間発表(提出含む)
備考	授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。	

(実技)	科目名:図画工作Ⅱ	講師: 山田 大空
科目概要・目標	保育内容を展開する上で必要とされる、保育における造形活動の事例を例証・傍証して取り上げ、具体的な考察を行い、造形活動の題材系列や指導・援助に必要な個人の素養と、保育実践に必要な知識や技能を習得する。	
教科書	花村内哲二、他『保育内容 造形表現の指導』建帛社。	
提出課題	<p>レポート設題 【設題1】幼児の生き生きとした造形活動を促すための「指導者の役割」と「指導過程」のポイントを、制作の実体験を踏まえ具体例を交えながら述べよ。</p> <p>学修のポイント1 領域(表現)における造形活動の指導について</p> <p>学修のポイント2 幼児の成長発達と造形表現について</p> <p>学修のポイント3 指導計画の必要性とその意義について</p> <p>学修のポイント4 望ましい指導のあり方について</p> <p>学修のポイント5 指導の過程(指導の段階)について</p> <p>学修のポイント6 造形表現と材料・用具について</p>	
期末試験	実技試験(内容は後日発表)	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション・【座学】学修ポイント作成指導	
第2回	【共同作品】空き箱の街	
第3回	【紙の造形】こいのぼり	
第4回	【座学】レポート作成指導	
第5回	【紙の造形】幾何学立体	
第6回	【木工】虫を作ろう	
第7回	【木工】木つ端の塔	
第8回	【廃材工作】太鼓	
第9回	【廃材工作】コマ	
第10回	【廃材工作】木箱の街	
第11回	【粘土】色粘土遊び	
第12回	【粘土】粘土のヘビ	
第13回	【粘土】粘土のカタツムリ	
第14回	【空間作品】室内の木	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	15点 実技試験
	授業内評価	40点 作品課題
		15点 レポート
	備考	

(実技)	科目名:音楽実技 I C	講師: 樋上 莊一
授業概要・目標	<p>音楽の基礎的知識を正しく身につけることを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 楽譜に関する基本的知識を正確に身につけ、楽譜を読む能力を養う。 2. バイエルを中心として、保育活動に必要なピアノ演奏技能を、初步から学ぶ。 2. 幼児歌曲の指導能力を身に付けるため、歌うことなど、基礎技能に習熟するための準備を始める。 	
教科書・資料	<p>*標準バイエルピアノ教則本 *こどものうた名曲アルバム</p>	
設題	中間テスト	*楽譜は見てよい
		第1回 バイエル No.55, 60 第2回 バイエル No.65, 66 第3回 幼児歌曲の弾き歌い(2曲準備する) 第4回 伴奏付け(コード伴奏/2曲準備する)
期末試験	*暗譜演奏。	第1回 バイエル(暗譜) No.75 第2回 幼児歌曲の弾き歌い(2曲準備する)
回数	授業内容、練習及び合格目標	
第1回	<p>*ガイダンス(楽器の扱い方、授業の進め方の確認) *バイエル No.55, 60 *幼児歌曲</p>	
第2回	<p>*バイエル No.55, 60 *幼児歌曲</p>	
第3回	<p>*第1回中間テスト(バイエル No.55, 60) *バイエル No.65</p>	
第4回	<p>*バイエル No.65, 66 *幼児歌曲</p>	
第5回	<p>*バイエル No.65, 66 *幼児歌曲</p>	
第6回	<p>*第2回中間テスト(バイエル No.65, 66) *幼児歌曲 *バイエル No.73</p>	
第7回	<p>*幼児歌曲</p>	
第8回	<p>*コードネームについて *幼児歌曲</p>	
第9回	<p>*第3回中間テスト(幼児歌曲 2曲)</p>	
第10回	<p>*コードネームについて *幼児歌曲</p>	
第11回	<p>*コードネームについて *幼児歌曲</p>	
第12回	<p>*第4回中間テスト(コード伴奏 2曲) *バイエル No.75</p>	
第13回	<p>*期末試験準備 (バイエル No.75, 幼児歌曲 2曲)</p>	
第14回	<p>*期末試験準備 (バイエル No.75, 幼児歌曲 2曲)</p>	
第15回	<p>*第1回 期末試験 (バイエル No.75)</p>	
第16回	<p>*第2回 期末試験 (幼児歌曲 2曲)</p>	
成績評価	出席率	30点 75% 以上出席すること。出席不足の場合は再履修とする。
	中間テスト	20点 4(5-1)点×2(バイエル), 5点×2(幼児歌曲)
	期末テスト	20点 8(10-2)点(バイエル) 10点(幼児歌曲 2曲)
	配点曲	14点 バイエル : (2点×4) 55, 60, 65, 75 / (3点×2) 66, 73
		16点(2点×8) 幼児歌曲 5曲 / 伴奏付け(コード伴奏) 3曲
備考		<p>*各テストの日程・課題は、授業の進度等により、変更される場合がある。 *大学スクーリング修了試験課題：バイエル 18, 19, 40, 49, 52</p>

社会福祉学科

社会福祉コース

3年生

(講義)	科目名:障害者福祉論		講師: 逆瀬川 浩二		
科 目 概 要 ・ 目 標					
今日、障害者福祉の考え方は、国連の人権宣言やノーマライゼーションの理念に基づいて発展してきている。本科目ではまず、障害者福祉の理念と考え方、歴史的変遷、法体系、障害者運動の展開、障害の種類の多様性とニーズの多様性など、障害者に関する基礎知識を学修する。そして、福祉現場に出たときに必要な援助方法について、障害別に事例ケースを基に紹介する。障害者福祉に関する施策は近年多くの変化を見せつつあるが、これを単に知識として理解するのではなく、実践と結びつけながら、現場で活ける理解を深める。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、社会福祉士として障害者施設の管理者を務める講師のもと、福祉の現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。					
教科書	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座8 障害者福祉』中央法規				
提 出 課 題	レポート課題	障害者の自立支援の現状と課題について述べてください。 (障害者の社会参加を支援するための法整備や施策について整理し、今後のあり方について自分なりに考察すること)			
	学修のポイント1	障害者福祉の基本理念について			
	学修のポイント2	障害の概念について			
	学修のポイント3	ノーマライゼーションの理念について			
	学修のポイント4	障害者福祉の法体系とサービス内容について			
	学修のポイント5	障害者権利条約について			
	学修のポイント6	障害者福祉分野における多職種連携・ネットワーキングについて			
期末試験	後日発表				
回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション				
第2回	障害者の定義と特性、国際生活機能分類(ICIDH・ICF)について				
第3回	障害者の統計、歴史について				
第4回	DVD鑑賞(アイアムサム)				
第5回	DVD鑑賞(アイアムサム)				
第6回	障害者に対する法制度①(身体障害、知的障害、精神障害)				
第7回	障害者に対する法制度②(児童福祉法、発達障害者支援法、障害児、児童相談所)				
第8回	障害者に対する法制度③(障害者総合支援法:法の概要を理解し理念・考え方、支給決定のプロセス、障害福祉サービス等を理解する)				
第9回	障害者に対する法制度④(障害者総合支援法:自立支援医療、補装具、地域生活支援事業、障害福祉計画等)				
第10回	障害者に対する法制度⑤(障害者虐待防止法、障害者差別解消法、バリアフリー法、障害者雇用促進法、障害者優先調達推進法)				
第11回	DVD鑑賞(こんな夜更けにバナナかよ)				
第12回	DVD鑑賞(こんな夜更けにバナナかよ)				
第13回	障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割について(行政機関、労働機関、教育機関、医療機関、スクールソーシャルワーカー、サービス管理責任者等)				
第14回	障害者と家族等に対する支援の実際について ~事例を通して~				
第15回	期末試験				
第16回	科目終了試験				
成 績 評 価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点	後日発表		
	授業内評価	20点	提出物		
備考	参考資料: よくわかる障害者福祉 第7版 小澤 温 編				

(講義)	科目名:精神疾患とその治療	講師: 平石 太一
科目概要・目標	<p>精神医学は、こころの病の学問であるが、最近急速に脳科学との関連性が解明されてきている。その一方で、精神医学を理解するためには、人やこころの理解、人間社会についての知識も不可欠である。患者の生育歴、生活環境、人間関係、心理状態、文化風習など、さまざまな側面を切り離しては、病の本質が見えてこない。</p> <p>本科目では、精神疾患やこころの在り方の分析・治療の基本を学ぶ。まず脳神経細胞の生理的理論を知り、次に精神医学の概念として疾患の成因や分類について学ぶ。そして代表的な精神疾患である器質性精神障害・認知症・アルコールや薬物による精神や行動の障害・統合失調症・気分障害・神経症性障害などについての知識を獲得し、精神疾患総論(代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む)、向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化、医療機関との連携について理解する。</p>	
教科書	『精神保健福祉士養成セミナー 1 第6版 精神医学 一精神疾患とその治療一』へるす出版	
提出課題	<p>レポート設題</p> <p>【設題1】統合失調症の症状、病因、治療、対応(個別での対応、地域での対応、地域精神医療も含む)について述べよ。</p> <p>【設題2】気分(感情)障害及び神経症性障害について、それぞれの種類、症状、成因、治療、対応について述べよ。</p>	
学修のポイント1	統合失調症について	
学修のポイント2	気分(感情)障害について	
学修のポイント3	神経症性障害、ストレス関連性障害、心身症について	
学修のポイント4	認知症、てんかんについて	
学修のポイント5	地域精神医療について	
学修のポイント6	精神疾患の身体療法(向精神薬)について	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	精神医学の歴史・概念・診断、病院精神医療と地域精神医療	
第2回	統合失調症①	
第3回	統合失調症②	
第4回	気分障害①	
第5回	気分障害②	
第6回	神経症障害、ストレス関連障害および身体表現性障害①	
第7回	神経症障害、ストレス関連障害および身体表現性障害②	
第8回	成人のパーソナリティおよび行動の障害	
第9回	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	
第10回	知的障害、心理的発達の障害等	
第11回	器質性精神障害、神経系の疾患	
第12回	精神作用物質使用による精神および行動の障害	
第13回	精神疾患の治療	
第14回	まとめ	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点
	授業内評価	30点 授業態度、レポート等により評価する。
備考	私語等、他の学生の迷惑になると判断した場合、厳格に対応する。	

(講義)	科目名:ソーシャルワークの理論と方法 I		講師: 堀田 利恵
科 目 概 要 ・ 目 標	<p>本科目では、個人、家族、集団、また地域社会といったクライエント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。特に、ソーシャルワーク実践に不可欠なソーシャルワークプロセス(相談援助の展開過程)と、様々な実践モデル及びアプローチについての理解を軸に、その過程において必要とされる面接技術や記録技術を学修し、ケアマネジメントや集団を活用した支援、コミュニケーションやコンサルテーションの専門知識と技術についての理解を深める。</p> <p>(※実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、司法福祉の保護観察官、社会福祉の生活保護CW、児童虐待防止推進員、学校福祉の教育委員会SSWr等に従事した経験があり、社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師資格の講師のもと、複合的、重層的な支援例を交えて実践知識を学びます。</p>		
教科書	<p>一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法』中央法規</p>		
提出課題	<p>レポート設題</p> <p>【設題1】ソーシャルワークにおける、人と環境との交互作用に関する視点と理論について述べよ。 <ポイント>ソーシャルワークにおいて、人と環境との交互作用に関する視点がどのように位置づけられているのかを理解し、ソーシャルワーク実践の目的と特徴を説明することが求められる</p> <p>【設題2】ソーシャルワークの展開過程と各段階の特徴、ソーシャルワーカーの役割について述べよ。 <ポイント>ソーシャルワークの展開過程について、一連の流れを把握し、ソーシャルワークの方法・技術を理解することが必要である。</p> <p>学修のポイント1 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて、それぞれの対象と目的、方法について述べよ。</p> <p>学修のポイント2 ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて、それぞれの考え方と方法、特徴を述べよ。</p> <p>学修のポイント3 ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について述べよ。</p> <p>学修のポイント4 グループワークの概念とその展開方法をまとめ、実際の事例をもとにグループの意義とソーシャルワーカーの役割について述べよ。</p> <p>学修のポイント5 ソーシャルワークにおける面接の意義と目的・技法について説明したうえで、ソーシャルワーカーに求められる専門的态度について述べよ。</p> <p>学修のポイント6 ソーシャルワークにおけるスーパービジョンの意義と目的、課題について述べよ。</p>		
期末試験	後日発表する		
回数	授業内容		
第1回	人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク(1) ソーシャルワーカーが学ぶ理論について理解する。教科書の第1章第1節～第3節を参照すること。		
第2回	人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク(2) バイオ・サイコ・ソーシャルモデルとミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークを理解する。教科書の第1章第4節～第6節を参照すること。		
第3回	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ(1) ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方、様々な実践モデルを理解する。教科書の第7章第1節を参照すること。		
第4回	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ(2) ソーシャルワークの様々なアプローチを理解する。教科書の第7章第2節を参照すること。		
第5回	ソーシャルワークの過程(1) ケースの発見、エンゲージメント(インテーク)、アセスメントについて理解する。 教科書の第2章・第3章を参照すること。」		
第6回	ソーシャルワークの過程(2) プランニング、支援の実施とモニタリングについて理解する。教科書の第4章・第5章を参照すること。		
第7回	ソーシャルワークの過程(3) 支援の終結と結果評価、アフターケアについて理解する。教科書の第6章を参照すること。		
第8回	ソーシャルワークの面接 面接の意義と目的、面接の方法と実際を理解する。教科書の第8章を参照すること。		
第9回	ソーシャルワークの記録 記録の意義と目的、記録の内容とフォーマットについて理解する。教科書の第9章を参照すること。		
第10回	ケアマネジメント(ケースマネジメント) ケアマネジメント(ケースマネジメント)の原則、意義と方法について理解する。教科書の第10章を参照すること。		
第11回	グループを活用した支援 グループの意義と目的、グループワークの展開過程、セルフヘルプグループについて理解する。教科書の第11章を参照すること。		
第12回	スーパービジョンとコンサルテーション スーパービジョンとコンサルテーションの意義と目的、方法について理解する。教科書の第15章を参照すること。		
第13回	ソーシャルアドミニストレーション ソーシャルアドミニストレーションの概念と意義、組織介入・組織改善の実践モデル、組織運営における財源確保について理解する。教科書の第13章を参照すること。		
第14回	ソーシャラクション ソーシャラクションの概念と意義、コミュニティ・オーガナイジングについて理解する。教科書の第14章を参照すること。		
第15回	期末試験		
第16回	科目終了試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする
	期末試験	40点	
	授業内評価	30点	受講態度(授業態度や質疑応答など、積極的に授業を受けているか)・提出状況(レポートやポイントなど、提出期限を守っているか)
	備考	積極的な質問、建設的な発言を大いに評価します。逆に、授業中の許可のない私語、携帯電話の使用等、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は減点評価となります。	

(演習)	科目名:ソーシャルワーク演習IV	講師:遠藤 修正
科目概要・目標	<p>個別・集団の両援助技術と関連援助技術について、具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行う。</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、社会福祉協議会の職員として地域福祉事業に従事した経験のある社会福祉士の講師のもと、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>	
	教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集「最新社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習(社会専門)」、及び「最新社会福祉士養成講座 12 ソーシャルワーク理論と方法(共通科目)」中央法規
提出課題	レポート設題	<p>【設題1】地域における課題の解消と軽減に向け、必要なアプローチの方法について述べよ。</p> <p><ポイント>地域へのアウトリーチとアセスメント、また把握された課題に対する計画とその計画の実践のための社会資源の活用等についてまとめる。</p>
	学修のポイント1	生活モデルについて
	学修のポイント2	問題解決アプローチについて
	学修のポイント3	行動変容アプローチ
	学修のポイント4	ナラティブアプローチについて
	学修のポイント5	地域福祉課題の把握と計画の作成について
	学修のポイント6	地域福祉課題の解決に向けた取り組みについて
	期末試験	講義の中で発表
回数	授業内容	
第1回	講義の進め方など	
第2回	地域における課題の解消と軽減に向け、必要なアプローチの方法について述べよ。(1)	
第3回	同	上 (2)
第4回	同	上 (3)
第5回	同	上 (4)
第6回	同	上 (5)
第7回	同	上 (6)
第8回	生活モデルについて 12 P126~128	
第9回	問題解決アプローチについて 12 P134~137	
第10回	行動変容アプローチ 12 P142~145	
第11回	ナラティブアプローチについて 12 P160~165	
第12回	地域福祉課題の把握と計画の作成について 12 P286~289	
第13回	地域福祉課題の解決に向けた取り組みについて 12 P.289~294	
第14回	期末試験/科目終了試験対策	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする
	期末試験	30点
	授業内評価	20点 レポート、授業課題
		20点 受講姿勢
	備考	遅刻、欠席、私語、居眠り、スマートフォン使用厳禁。

(講義)	科目名 : ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	講師名: 戎 弘志
ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。 ソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、実習実施、また実践に必要なソーシャルワーク及び関連技術について学習するとともに、ソーシャルワーク実習の実施に向けて課題の明確化、また課題達成に必要な知識及び技術について学習する。		
(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、障害者施設や特別養護老人ホームの施設長を経て、長年にわたりソーシャルワークの実習指導に携わってきた社会福祉士の講師の下、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。		
教科書・資料 社会福祉士相談援助実習 中央法規出版 ・ 実習ノート		
提出課題	レポート 設題	【設題1】自分が実習を予定(希望)している施設(種別)では、どのような援助が提供されているか具体的に述べよ。 (ポイント)以下の内容を反映させ、具体的に論術する。 ①根拠法を参考にまとめる。 ②利用者に提供される支援について、具体的にまとめる。 ③制度や運用の現状と課題について、具体的にまとめる。 ・「施設の一員として課題提起するソーシャルワーカー」の立場に留意し、一方的な批判や根拠のない私論ではなく、建設的に論じる。 ・文献や新聞記事など、適切な方法を選んで情報を収集する。 【提出における注意事項】提出期間は実習申込み手続きを実施した後から、予定する実習期間に定められる実習基礎資格科目の履修期限までとする。提出されない場合、実習の履修開始は認められない。
	学修のポイント1	相談援助実習の仕組み
期末試験	学修のポイント2	実習計画の意義について
	学修のポイント3	支援計画の作成について
	学修のポイント4	ソーシャルワーカーとしての社会福祉について
	学修のポイント5	実習記録ノートの内容について
	学修のポイント6	評価の意味について
	回数	授業内容
第1回	相談援助実習のあり方を理解する	
第2回	配属先決定後から実習開始までの流れを理解する	
第3回	配属先実習機関・施設の概要、支援内容について情報収集する	
第4回	施設概要の作成	
第5回	実習計画の作成	
第6回	実習計画書を作成する	
第7回	事前訪問の目的と意義について理解する	
第8回	基本的な態度と訪問時の注意事項について理解する	
第9回	基本的なコミュニケーション、円滑な人間関係形成、利用者理解、利用者の需要把握、支援計画の作成について理解する	
第10回	実習記録の意義、書き方、取扱い等について	
第11回	チームアプローチの実際、社会福祉士としての職業倫理、施設・職員などに関する規程と責任について理解する	
第12回	利用者や家族との人間関係の形成、権利擁護、支援と評価について理解する	
第13回	実習評価の意義について理解を深める	
第14回	実習先機関・施設の経営やサービスの管理運営、地域社会の一員としての実習先機関・施設、実習で何をどこまで経験するのかについて理解する	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75% 以上出席すること。不足した場合は再履修とする。
	期末試験	40点 持ち込み: 可 (選択・記述) ※ただし、各授業ごとに試験のポイントを発表する。
	授業内評価	30点 (例: 学習意欲、提出期限、授業中の姿勢等、総合的に評価する。)
備考	参考文献 新・社会福祉士養成講座 中央法規出版	

(講義)	科目名:介護概論		講師: 原田 亘
科目概要・目標	高齢化が進むわが国において、介護を必要とする人々は増加の一途を辿っている。本科目では、介護の概念、対象、理念などの総論を学んだ上で、介護予防、自立に向けた介護、認知症ケア、終末期ケアなどの概要について理解を深める。		
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座第13巻 高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規		
提出課題	<p>レポート設題 【設題1】介護の概念、対象、理念について述べよ。</p> <p>学修のポイント1 介護過程について</p> <p>学修のポイント2 認知症ケアについて</p> <p>学修のポイント3 介護予防について</p> <p>学修のポイント4 自立に向けた介護について</p> <p>学修のポイント5 介護における終末期ケアについて</p> <p>学修のポイント6 高齢者を支援する専門職の連携について</p>		
期末試験	あなたが「介護」において大切にしたいこと		
回数	授業内容		
第1回	オリエンテーション/介護の概念と範囲①		
第2回	介護の概念と範囲②		
第3回	介護の理念①		
第4回	介護の理念②		
第5回	介護の対象①		
第6回	介護の対象②/レポート作成		
第7回	介護過程		
第8回	介護における専門職の役割と連携		
第9回	自立に向けた介護		
第10回	生活介護と身体介護の実際		
第11回	認知症ケア		
第12回	終末期ケア		
第13回	介護予防		
第14回	演習 実際の介護場面における対応		
第15回	期末試験		
第16回	科目終了試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	20点	持込可
		20点	提出物(学修のポイント3本、下書きレポート、清書レポート)の期限を守ること。
	授業内評価	30点	授業態度。授業は積極的に参加すること。
備考	自らの「介護観」と専門職としての「介護観」の共通点や違いについて、意識しながら学びを深めていただこうことを期待しています。		

(講義)	科目名:家族福祉論	講師: 佐橋寿実
科 目 概 要 ・ 目 標	この家族福祉論では、現代の多様化した家族の状況や抱える様々な問題や課題を提示し検討する。また、それらの問題や課題の解決・緩和を遂行するために必要なサービスやアプローチ、ネットワークなどについて学修する。加えて、この科目では、多彩なクライエントの選択や生き方などを尊重し、それらについて理解した上で環境を整え(エンパワメント)、彼らの健康的な領域を発見するとともに強化(ストレングス)し、より望ましい形で支援を提供するにはどうすればよいかについて考える力を養い、柔軟な思考や問題や課題ができるように学修する。	
教科書	橋本真紀、山縣文治『よくわかる家庭支援論』ミネルヴァ書房。	
提出課題	<p>レポート設題 1 わが国の現代家庭が抱える問題や課題について述べ、その背景となった要因について記述せよ。</p> <p>レポート設題 2 少子化を解消するための福祉サービスやプランなどを具体的に挙げ、その効果について検討するとともに、家庭支援や保育所の特別事業などについて注目して、その効果や課題についてテキストや参考文献などを活用して記述せよ。</p>	
学修のポイント1	主体的である子どものおかれた状況について把握する。	
学修のポイント2	DVや虐待などが子どもに及ぼす影響について考察する。	
学修のポイント3	育児の外部化が子どもや親に及ぼす影響について検討する。	
学修のポイント4	少子化の進行が社会や国に及ぼす影響について理解を深める。	
学修のポイント5	家庭支援や子育て支援を行う際に、チームアプローチやネットワーク力が必要不可欠であることを認識する。	
学修のポイント6	社会資源の充実および開発・人材の育成および配置について把握する。	
期末試験	後日発表する	
回数	授業内容	
第1回	家族とはなにか	
第2回	家族を取り巻く問題①児童虐待	
第3回	家族を取り巻く問題②ドメスティック・バイオレンス	
第4回	家族を取り巻く問題③離婚とひとり親家庭	
第5回	家族を取り巻く問題④子どもの貧困	
第6回	少子化の現状と課題	
第7回	少子化に関する施策	
第8回	家庭への支援にかかる法と制度	
第9回	家庭を支援する社会資源と社会福祉施設(1)	
第10回	要保護児童とその家庭支援	
第11回	家庭を支援する社会資源と社会福祉施設(2)	
第12回	ソーシャルワーカーによる家庭支援	
第13回	家族問題を理解するモデル	
第14回	まとめ	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 持ち込み可。論述式。
		25点 提出物(学修のポイント3本、レポート下書き2本)期限厳守。遅れた場合は減点。
	授業内評価	15点 授業態度(態度、発言、コメントシートへの記入、グループワークの様子などから判断する)
	備考	

(講義)	科目名:福祉教養演習Ⅰ(共通)		講師:堀田利恵
授業概要・目標	本科目は社会福祉士・精神保健福祉士国家試験に合格することを目標とする。3年次は共通科目を実施し、4年次では共通科目の残りと各専門科目を実施する。		
教科書	配布資料によって授業を行う。テキスト(参考書・過去問題集)を購入しますが、当面は、配布資料を使うので、忘れないで持参してください。また、ノートも持参すること。		
回数	授業内容		
第1回	オリエンテーション		
第2回	医学概論①		
第3回	医学概論②		
第4回	医学概論③		
第5回	医学概論④		
第6回	医学概論⑤		
第7回	医学概論⑥		
第8回	確認テスト		
第9回	心理学と心理的支援①		
第10回	心理学と心理的支援②		
第11回	心理学と心理的支援③		
第12回	心理学と心理的支援④		
第13回	心理学と心理的支援⑤		
第14回	心理学と心理的支援⑥		
第15回	確認テスト		
第16回	医学概論、心理学と心理的支援 「一問一答」		
第17回	医学概論、心理学と心理的支援 「一問一答」		
第18回	医学概論、心理学と心理的支援 総まとめ 確認テスト		
第19回	障害者福祉①		
第20回	障害者福祉②		
第21回	障害者福祉③		
第22回	障害者福祉④		
第23回	確認テスト		
第24回	障害者福祉「一問一答」		
第25回	障害者福祉「一問一答」		
第26回	障害者福祉 総まとめ 確認テスト		
第27回	社会福祉調査の基礎①		
第28回	社会福祉調査の基礎②		
第29回	社会福祉調査の基礎③		
第30回	前期末試験対策①		
第31回	前期末試験(1科目と1科目半)	医学概論と心理学(半分)	
第32回	前期末試験(1科目と1科目半)	心理学(半分)と障害者福祉	
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点	前期末試験
	授業態度	20点	講義→暗記(自宅学習)→確認テスト→合格点に達しない場合は再テスト。最後に「総まとめテスト(これのみ提出)」この流れで授業を実施する。
	復習テスト	20点	
備考	国家試験に合格するのだ、という強い気持ちを持って授業に臨みましょう。そして、復習もしっかりとていきましょう。		

(講義)	科目名:社会・集団・家族心理学(社会・集団)	講師: 土田 和弘
科目概要・目標	<p>社会心理学の研究対象は、「社会的認知」、「社会的影響」、「対人行動と対人相互作用」、「個人と集団」、「マス」などの多岐にわたる。本講義では、実験や調査データに基づきながら、社会心理学について学び、対人関係や集団における人の意識・態度と行動についての心の過程について考え、日常生活における自己や他者を理解するための視点を獲得することを目的とする。</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、臨床心理士・公認心理師として児童相談所や精神科クリニックでカウンセラーを務める講師のもと、カウンセラー業務を通した実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。</p>	
教科書	山田一成、他『よくわかる社会心理学』ミネルヴァ書房	
提出課題	<p>レポート設題</p> <p>【設題1】個人が他者や集団から受ける影響について述べよ。</p> <p>【設題2】集団間葛藤について述べよ。</p>	
学修のポイント1	対人認知に影響を及ぼす様々な要因について	
学修のポイント2	フェステインガーの認知的不協和理論における態度の変容について	
学修のポイント3	マスコミュニケーションが、情報の受け手に与える影響について	
学修のポイント4	援助行動の生起過程と抑制要因について	
学修のポイント5	囚人のジレンマと社会的ジレンマについて	
学修のポイント6	社会関係資本の正の側面と負の側面について	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション、レポート①他者からの影響	
第2回	レポート①集団からの影響	
第3回	レポート①事例検討とまとめ、3200字作成	
第4回	レポート②集団のメリット、デメリット	
第5回	レポート②集団間葛藤について	
第6回	レポート②集団間葛藤の解消方法について	
第7回	レポート②事例検討とまとめ、3200字作成	
第8回	対人認知に影響を及ぼす様々な要因	
第9回	フェステインガーの認知的不協和理論における態度の変容	
第10回	マスコミュニケーションが、情報の受け手に与える影響	
第11回	援助行動の生起過程と抑制要因	
第12回	囚人のジレンマと社会的ジレンマ	
第13回	社会関係資本の正の側面と負の側面	
第14回	試験対策	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点
	授業内評価	40点 課題の提出
	備考	

(実技)	科目名:レクリエーションワーク	講師: 山口 榮三
科目概要・目標	社会福祉の援助技術に関する課題としてのレクリエーションについて学修する。まず、ライフステージ(幼児・児童・青年・老年・障害者)に対応したレクリエーション援助の意義について理解する。そして、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション援助の技術(個別・グループ・環境)を、実践を通して身につける。	
教科書・資料	①レクリエーション支援の理論と方法 楽しさをとおした心の元気づくり 公益財団法人日本レクリエーション協会 レクリエーション・インストラクターテキスト ②各種レク財冊子 ③県内実施の事業	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション・レクリエーション支援とは/現場実習について 実技体験	
第2回	レクリエーション支援の展開方法(1) 個別及び集団レクリエーション支援方法とその実践	
第3回	アイスブレーキングゲーム支援の実際(1) 実技体験	
第4回	アイスブレーキングゲーム支援の実際(2) 実技体験	
第5回	レクリエーション支援実習1	
第6回	レクリエーション支援実習2	
第7回	レクリエーション支援実習3	
第8回	レクリエーション支援実習4	
第9回	レクリエーション支援実習5	
第10回	レクリエーション支援実習6	
第11回	レクリエーション支援実習7	
第12回	レクリエーション支援実習8	
第13回	レクリエーション支援実習9	
第14回	レクリエーション支援実習10	
第15回	期末試験	
第16回	まとめ	
成績評価	出席率	30点
	期末試験	30点 持ち込み:可 論述式
	課題提出	30点 支援計画案の提出及びその内容で評価します。
	授業態度	10点 本学園におけるルール、マナーにそって、授業を受けていたかどうかで判断します
備考	授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。	

(実技)	科目名:情報処理基礎演習III		講師: 高橋直子
科目概要・目標	パワーントの使い方を学習する。 特に、図を用いて表現することを学習する。		
教科書	なし(毎回授業で使用するプリントを配布する)		
期末試験	実技試験(パワーポイントで1つの資料を作成し保存する。)		
回数	授業内容		
第1回	パワーポイントの基本		
第2回	いろいろなスライドの作成		
第3回	効果(画面切り替え、アニメーションなど)の利用		
第4回	リンク機能の利用		
第5回	グラフのスライドの作成		
第6回	グラフィカルな機能を使ったスライドの作成		
第7回	図解のパターンを理解するスライドの作成		
第8回	マスターの利用		
第9回	図解の復習		
第10回	複雑な図解のスライドの作成		
第11回	自由にアレンジしたスライドの作成		
第12回	話の流れを考える		
第13回	資料を作る		
第14回	復習		
第15回	復習		
第16回	期末試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点	
	授業内評価	30点	毎回授業で行う課題作成などを含めた授業態度
備考	飲食厳禁、私語厳禁、携帯電話などの使用禁止		

(講義)	科目名:教養基礎演習Ⅱ	講師: 室山俊浩
科目概要・目標	<p>本科目では、広く基礎科目を学習することにより、大学卒業程度の深い教養を身につけ、公務員および一般の就職対策や大学院入試などに対応できる、一般教養の学力をつけることをめざす。教養試験の類型は、多くの地方自治体・施設等における採用試験に取り入れられているため、福祉・保育・教育関連の資格職、公務員や地方上級公務員試験対策はもとより、一般的な就職採用試験対策にも効果的である。また幅広い教養を身につけられることから、就職以外の進路を考えている学生にとっても有効である。</p>	
教科書	東京アカデミー『セサミノート②一般教養』	
提出課題	<p>レポート設題 【設題1】環境問題と環境保護のための取り組みについて述べよ。</p> <p>学修のポイント1 次の出来事を年代順に並べ替え、どのような出来事が簡単に説明せよ。 (a.南北ベトナムの統一、b.ベルリンの壁の崩壊、c.湾岸戦争、d.昭和天皇の崩御、e.沖縄返還)</p> <p>学修のポイント2 東京が4月3日の午後8時のとき、サンフランシスコ(西経120度)は何日の何時か。理由も説明せよ。</p> <p>学修のポイント3 AB型とAB型の両親から産まれる子どものもつ血液型の確率を血液型ごとに求めなさい。理由も説明する事。</p> <p>学修のポイント4 日本の四季の天気の特徴を説明せよ。</p> <p>学修のポイント5 高さ19.6mからボールを水平に初速度20m/sで投げた時、ボールが地面に着くのは何秒後か。また、ボールは水平方向に何m進むか。それぞれ説明せよ。ただし、重力加速度を9.8m/s²とする。</p> <p>学修のポイント6 「世界遺産」とは何か説明せよ。また、世界遺産リストに登録されている日本の文化遺産と自然遺産の主なもの1点ずつ取り上げて紹介せよ。さらに、「無形文化遺産」についても説明し、日本の例を1点紹介せよ。</p>	
期末試験	後日発表する	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション／環境問題について	
第2回	環境保護のための取り組みについて	
第3回	環境問題にどのように取り組むべきか	
第4回	学修のポイント1	
第5回	学修のポイント2	
第6回	学修のポイント3	
第7回	学修のポイント4	
第8回	学修のポイント5	
第9回	学修のポイント6	
第10回	問題演習	
第11回	問題演習	
第12回	問題演習	
第13回	問題演習	
第14回	問題演習	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点 持ち込み可 論述式
		30点 提出物・授業内課題など
	授業内評価	
備考	提出物の締切は厳守すること。期限を守れなかった場合は謝罪文を添付して提出すること。授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁。無断の座席移動も禁止。	

(講義)	科目名:ソーシャルワークの理論と方法(専門)	講師: 森奈祐
科目概要・目標	精神障害者及び精神保健福祉の設題に対するソーシャルワークの過程や、家族への支援方法を理解し、多職種連携の方法と精神保健福祉士の役割を理解する。 ソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロを踏まえて理解する。	
教科書	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 精神保健福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法[精神専門]』中央法規	
提出課題	<p>レポート設題</p> <p>【設題1】精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義について述べよ。</p> <p>【設題2】エコロジカルアプローチ及びエンパワメントアプローチについて、実践にどのように活用されているか述べよ。</p>	
学修のポイント1	精神障害および精神保健福祉の設題に対するソーシャルワークの過程	
学修のポイント2	精神障害および精神保健福祉の設題を持つ人と家族の関係と家族への支援方法について	
学修のポイント3	精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・他機関連携の留意点について	
学修のポイント4	精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法	
学修のポイント5	個別支援からソーシャルアクションへの実践展開について	
学修のポイント6	精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開について	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	ソーシャルワークの基本的視点、ミクロ・メゾ・マクロ展開について	
第2回	コミュニティワークの意義について①	
第3回	コミュニティワークの意義について②	
第4回	まとめ	
第5回	インテーク、アセスメント、グループワーク等について	
第6回	家族支援の実際、精神障害者家族の問題、家族理解の変遷、家族支援の方法	
第7回	人、環境へのアプローチ、ケアマネジメントについて	
第8回	チームアプローチの意義と目的、留意点について	
第9回	連携における精神保健福祉士の役割について	
第10回	ソーシャルアクションの基本的視点について	
第11回	チームビルディング、チームの形成と特徴について	
第12回	連携における精神保健福祉士の役割について	
第13回	ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義と展開方法	
第14回	学校・教育、産業、司法、災害分野について	
第15回	期末試験	
第16回	科目修了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点
	授業内評価	10点 授業内での取組姿勢、授業への参加態度について評価
		20点 提出設題の理解度、指向性・創造性について評価
	10点 設題の提出期限の厳守	
備考	授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用、音楽等の聴取、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には、減点評価とします。	

(講義)	科目名:精神保健福祉援助実習指導II	講師名:上松勝二郎
科目概要・目標	この科目では、実習の事前学習として、実際に実習を行う予定の実習機関(利用者理解を含む)と、施設、事業者、、団体、地域社会に関する基本的理解を身につける。スクーリングでは、実習に関わる個別及び集団指導を通して、精神保健福祉現場での相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術など体得することを目標とする。実習先と指導教員との指導のもとで実習計画を作成する。	
教科書	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 精神保健福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習[精神専門]』 中央法規	
提出課題	レポート設題 【設題1】精神障害者の困難と生活課題について考察し、自分が予定(希望)している施設(種別)では、どのような支援が提供されているか具体的に述べよ	
学修のポイント1	1. 病院と診療所の違いについて	
学修のポイント2	2. 精神科医療機関の入院形態について	
学修のポイント3	3. 精神障害者を支援する公的機関とその概要について	
学修のポイント4	4. 障害者福祉サービス事業所について	
学修のポイント5	5. 精神保健福祉における他職種連携とチームアプローチについて	
学修のポイント6	6. 精神障害者の家族支援について	
期末試験	後日指示	
授業内容	回数 授業内容	
第1回	実習施設・機関の概要 ① 医療機関	
第2回	実習施設・機関の概要 ② 障害福祉サービス事業所の概要目的	
第3回	実習施設・機関の概要 ③ 行政機関等	
第4回	実習経験と課題 精神科病院における援助・課題	
第5回	実習経験と課題 精神科診療所における援助・課題	
第6回	実習経験と課題 サービス事業所における援助・課題	
第7回	精神保健福祉における他職種連携とチームアプローチ	
第8回	精神保健福祉における他職種連携とチームアプローチ 精保土の役割	
第9回	精神保健福祉士としての職業倫理と法的責務	
第10回	組織の一員としての精神保健福祉士の役割と責任	
第11回	地域社会の中の実習施設・機関とアウトリーチ	
第12回	実習指導計画の基本モデル	
第13回	実習計画・施設概要の作成 ①	
第14回	実習計画・施設概要の作成 ②	
第15回	期末試験	
第16回	科目修了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点
	授業内評価	30点

(講義)	科目名:精神障害リハビリテーション論	講師: 真口 良美
科目概要・目標	<p>以下の①～③を目標に、下記の学修内容を学んでいく。</p> <p>①精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。 ②精神障害リハビリテーションプログラムの知識を援助場面で活用できる。 ③精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解し、援助場面で活用できる。</p>	
教科書	<p>一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 精神保健福祉士養成講座3 精神生涯リハビリテーション論』中央法規。</p>	
レポート設題	<p>【設題1】精神障害リハビリテーションの価値背景に影響を与えた実践や考え方を説明し、精神障害(精神科)リハビリテーションの原則と特性を述べなさい。 <ポイント>リカバリー、ストレングスマodel、エンパワメントアプローチ、レジリエンス、他職種連携などの考え方について各々説明し、アンソニーなどが唱えた精神科リハビリテーションの原則、あるいは共通する原則を述べ、精神障害リハビリテーションの特性(①当事者の参加、②個別性の重視、③生活環境への適応、④技能の育成、⑤環境面への介入、⑥他職種・当事者・市民との協働、⑦希望、⑧自尊心の回復、⑨化学的根拠に基づいた支援・協働)を自分の言葉で説明する。</p>	
学修のポイント1	<p>精神障害リハビリテーションの原則について述べなさい <ポイント>当事者の参加と関与(自主性の尊重)、治療的な人間関係、意思決定の共有、技能開発(スキルアップ)と環境的開発、臨機応変さ、希望を持つ、リカバリー、ストレングスマodel、エンパワメントアプローチ、レジリエンス</p>	
学修のポイント2	<p>精神障害リハビリテーションのプロセスについて述べなさい <ポイント>インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、リカバリー、ストレングスマodel、エンパワメントアプローチ、レジリエンス、多職種連携</p>	
学修のポイント3	<p>医学的な精神障害リハビリテーションプログラムの代表的なものを5つ以上挙げ、それぞれを説明しなさい <ポイント>認知(行動)療法、作業療法、健康自己管理プログラム、依存症回復プログラム、ディケアプログラム</p>	
学修のポイント4	<p>職業的な精神障害リハビリテーションプログラムの代表的なものを5つ挙げ、それぞれを説明しなさい <ポイント>就労準備プログラム、援助付雇用プログラム、IPS モデル、復職支援プログラム、就労定着プログラム</p>	
学修のポイント5	<p>社会的な精神障害リハビリテーションプログラムの代表的なものを5つ挙げ、それぞれを説明しなさい <ポイント>SST、心理教育プログラム、WRAP、生活訓練プログラム、地域移行プログラム</p>	
学修のポイント6	<p>①家族支援プログラム、および②当事者や家族を主体としたリハビリテーションについて説明しなさい <ポイント>①心理教育プログラム、EE(感情表出)、集団による家族心理教育、 ②家族による家族支援、ピアサポートグループとピア活動、ピアスタッフ、当事者研究</p>	
期末試験	<p>精神障害リハビリテーションの原則について述べなさい。</p>	
回数	授業内容	
第1回	精神障害者リハビリテーションとソーシャルワーク	
第2回	精神障害リハビリテーションの理念と定義 医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション	
第3回	精神障害リハビリテーションの基本原則 地域およびリカバリー概念を基盤としたリハビリテーションの意義	
第4回	精神障害リハビリテーションの対象	
第5回	チームアプローチ	
第6回	精神科リハビリテーションのプロセス	
第7回	医学的リハビリテーションプログラム	
第8回	職業的リハビリテーションプログラム	
第9回	社会的リハビリテーションプログラム	
第10回	教育的リハビリテーションプログラム	
第11回	家族支援プログラム	
第12回	リハビリテーションに用いられるその他の手法・プログラム	
第13回	精神障害当事者や家族を主体としたリハビリテーション	
第14回	依存症のリハビリテーション	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点
	授業内評価	20点 課題提出物の評価 20点 授業への関心・態度・意欲
備考		

(演習)	科目名:精神保健福祉演習Ⅰ	講師: 齊藤晋治
科目概要・目標		
		精神保健福祉演習Ⅰは、精神保健福祉演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと連続して学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。 精神保健福祉演習Ⅰは、精神保健福祉援助の事例(集団に対する事例を含む。)を活用し、ソーシャルワークの過程を通じた援助、個別面接、グループワークの展開やリハビリテーションプログラムの実践、また社会福祉調査や普及啓発活動といった間接的なソーシャルワーク実践について総合的にその技術を習得する。また、すべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する方法を学ぶ。 精神保健福祉演習Ⅰが終了した時点で、精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、取り巻く状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識・技術・価値)の基礎を獲得することが期待される。
教科書		一般社団法人日本ソーシャルワーク学校教育連携編集 『最新 精神保健福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習(精神専門)』中央法規出版
提出課題	レポート設題 1	ソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性について述べよ。
	学修のポイント1	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取る方法について述べよ。
	学修のポイント2	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のアセスメントについて述べる。
	学修のポイント3	ケア会議や関係者会議のコーディネートとマネジメントについて述べよ。
	学修のポイント4	社会福祉調査について述べよ。
	学修のポイント5	コミュニティソーシャルワークについて述べよ。
	学修のポイント6	ソーシャルワーク専門職の記録について述べよ。
期末試験		コミュニティソーシャルワークについて述べよ。
授業内容		
回数		
第1回	オリエンテーション、精神保健福祉士の固有性、専門性	
第2回	ソーシャルワークの過程を通じた援助(支援の実施と終結を踏まえ、インテーク、アセスメント、プランニングの実践モニタリング、事後評価の実施、アフターケア方法の検討)	
第3回	産業・労働分野における事例:個別面接	
第4回	高齢者福祉施設における事例:グループワークの展開	
第5回	デイケアにおける事例:リハビリテーションプログラムの実施	
第6回	教育機関における事例:ケア会議や関係者会議のコーディネートとマネジメント	
第7回	社会福祉調査①:社会福祉調査の実施、計画策定、評価	
第8回	社会福祉調査②:資源創出と政策提言	
第9回	社会福祉協議会の事例①:アウトーチ、コミュニティソーシャルワークの展開(設題5番指導)	
第10回	社会福祉協議会の事例②:アウトーチ、コミュニティソーシャルワークの展開	
第11回	障害福祉サービス事業所における事例:普及啓発活動と人材育成	
第12回	記録①:個別支援記録、業務(日誌・月報等)の記録作成	
第13回	記録②:公文書作成、スーパーバイジョンのためのレポート作成	
第14回	まとめ	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点
	授業内評価	10点 ①授業内での取り組み姿勢、授業への参加態度について
		20点 ②提出課題の理解度、思考性・創造性について評価
		10点 ③課題の提出期限の厳守
備考		授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。

(演習)	科目名:精神保健福祉演習Ⅰ	講師: 齊藤晋治
科目概要・目標 精神保健福祉演習Ⅰは、精神保健福祉演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと連続して学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。 精神保健福祉演習Ⅰは、精神保健福祉援助の事例(集団に対する事例を含む。)を活用し、ソーシャルワークの過程を通じた援助、個別面接、グループワークの展開やリハビリテーションプログラムの実践、また社会福祉調査や普及啓発活動といった間接的なソーシャルワーク実践について総合的にその技術を習得する。また、すべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する方法を学ぶ。 精神保健福祉演習Ⅰが終了した時点で、精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、取り巻く状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識・技術・価値)の基礎を獲得することが期待される。		
教科書		一般社団法人日本ソーシャルワーク学校教育連携編集 『最新 精神保健福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習(精神専門)』中央法規出版
提出課題	レポート設題 1	ソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性について述べよ。
	学修のポイント1	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取る方法について述べよ。
	学修のポイント2	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のアセスメントについて述べる。
	学修のポイント3	ケア会議や関係者会議のコーディネートとマネジメントについて述べよ。
	学修のポイント4	社会福祉調査について述べよ。
	学修のポイント5	コミュニティソーシャルワークについて述べよ。
	学修のポイント6	ソーシャルワーク専門職の記録について述べよ。
期末試験		コミュニティソーシャルワークについて述べよ。
授業内容		
回数		
第1回	オリエンテーション、精神保健福祉士の固有性、専門性	
第2回	ソーシャルワークの過程を通じた援助(支援の実施と終結を踏まえ、インテーク、アセスメント、プランニングの実践モニタリング、事後評価の実施、アフターケア方法の検討)	
第3回	産業・労働分野における事例:個別面接	
第4回	高齢者福祉施設における事例:グループワークの展開	
第5回	デイケアにおける事例:リハビリテーションプログラムの実施	
第6回	教育機関における事例:ケア会議や関係者会議のコーディネートとマネジメント	
第7回	社会福祉調査①:社会福祉調査の実施、計画策定、評価	
第8回	社会福祉調査②:資源創出と政策提言	
第9回	社会福祉協議会の事例①:アウトーチ、コミュニティソーシャルワークの展開(設題5番指導)	
第10回	社会福祉協議会の事例②:アウトーチ、コミュニティソーシャルワークの展開	
第11回	障害福祉サービス事業所における事例:普及啓発活動と人材育成	
第12回	記録①:個別支援記録、業務(日誌・月報等)の記録作成	
第13回	記録②:公文書作成、スーパーバイジョンのためのレポート作成	
第14回	まとめ	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点
	授業内評価	10点 ①授業内での取り組み姿勢、授業への参加態度について
		20点 ②提出課題の理解度、思考性・創造性について評価
		10点 ③課題の提出期限の厳守
備考	授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。	

社会福祉学科

心理学コース

3年生

(講義)	科目名:障害者福祉論		講師: 逆瀬川 浩二																					
科目概要・目標	<p>今日、障害者福祉の考え方は、国連の人権宣言やノーマライゼーションの理念に基づいて発展してきている。本科目ではまず、障害者福祉の理念と考え方、歴史的変遷、法体系、障害者運動の展開、障害の種類の多様性とニーズの多様性など、障害者に関する基礎知識を学修する。そして、福祉現場に出たときに必要な援助方法について、障害別に事例ケースを基に紹介する。障害者福祉に関する施策は近年多くの変化を見せつつあるが、これを単に知識として理解するのではなく、実践と結びつけながら、現場で活ける理解を深める。</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、社会福祉士として障害者施設の管理者を務める講師のもと、福祉の現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>																							
教科書	<p>一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座8 障害者福祉』中央法規</p>																							
提出課題	<table border="1"> <tr> <td>レポート設題</td><td colspan="2">障害者の自立支援の現状と課題について述べてください。 (障害者の社会参加を支援するための法整備や施策について整理し、今後のあり方について自分なりに考察すること)</td></tr> <tr> <td>学修のポイント1</td><td colspan="2">障害者福祉の基本理念について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント2</td><td colspan="2">障害の概念について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント3</td><td colspan="2">ノーマライゼーションの理念について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント4</td><td colspan="2">障害者福祉の法体系とサービス内容について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント5</td><td colspan="2">障害者権利条約について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント6</td><td colspan="2">障害者福祉分野における多職種連携・ネットワーキングについて</td></tr> </table>			レポート設題	障害者の自立支援の現状と課題について述べてください。 (障害者の社会参加を支援するための法整備や施策について整理し、今後のあり方について自分なりに考察すること)		学修のポイント1	障害者福祉の基本理念について		学修のポイント2	障害の概念について		学修のポイント3	ノーマライゼーションの理念について		学修のポイント4	障害者福祉の法体系とサービス内容について		学修のポイント5	障害者権利条約について		学修のポイント6	障害者福祉分野における多職種連携・ネットワーキングについて	
レポート設題	障害者の自立支援の現状と課題について述べてください。 (障害者の社会参加を支援するための法整備や施策について整理し、今後のあり方について自分なりに考察すること)																							
学修のポイント1	障害者福祉の基本理念について																							
学修のポイント2	障害の概念について																							
学修のポイント3	ノーマライゼーションの理念について																							
学修のポイント4	障害者福祉の法体系とサービス内容について																							
学修のポイント5	障害者権利条約について																							
学修のポイント6	障害者福祉分野における多職種連携・ネットワーキングについて																							
期末試験	後日発表																							
回数	授業内容																							
第1回	オリエンテーション																							
第2回	障害者の定義と特性、国際生活機能分類(ICIDH・ICF)について																							
第3回	障害者の統計、歴史について																							
第4回	DVD鑑賞(アイアムサム)																							
第5回	DVD鑑賞(アイアムサム)																							
第6回	障害者に対する法制度①(身体障害、知的障害、精神障害)																							
第7回	障害者に対する法制度②(児童福祉法、発達障害者支援法、障害児、児童相談所)																							
第8回	障害者に対する法制度③(障害者総合支援法:法の概要を理解し理念・考え方、支給決定のプロセス、障害福祉サービス等を理解する)																							
第9回	障害者に対する法制度④(障害者総合支援法:自立支援医療、補装具、地域生活支援事業、障害福祉計画等)																							
第10回	障害者に対する法制度⑤(障害者虐待防止法、障害者差別解消法、バリアフリー法、障害者雇用促進法、障害者優先調達推進法)																							
第11回	DVD鑑賞(こんな夜更けにバナナかよ)																							
第12回	DVD鑑賞(こんな夜更けにバナナかよ)																							
第13回	障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割について(行政機関、労働機関、教育機関、医療機関、スクールソーシャルワーカー、サービス管理責任者等)																							
第14回	障害者と家族等に対する支援の実際について ~事例を通して~																							
第15回	期末試験																							
第16回	科目終了試験																							
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。																					
	期末試験	20点	後日発表																					
	授業内評価	20点	提出物																					
備考	参考資料: よくわかる障害者福祉 第7版 小澤 溫 編																							

(講義)	科目名:精神疾患とその治療	講師: 平石 太一															
科目概要・目標	<p>精神医学は、こころの病の学問であるが、最近急速に脳科学との関連性が解明されてきている。その一方で、精神医学を理解するためには、人やこころの理解、人間社会についての知識も不可欠である。患者の生育歴、生活環境、人間関係、心理状態、文化風習など、さまざまな側面を切り離しては、病の本質が見えてこない。</p> <p>本科目では、精神疾患やこころの在り方の分析・治療の基本を学ぶ。まず脳神経細胞の生理的理論を知り、次に精神医学の概念として疾患の成因や分類について学ぶ。そして代表的な精神疾患である器質性精神障害・認知症・アルコールや薬物による精神や行動の障害・統合失調症・気分障害・神経症性障害などについての知識を獲得し、精神疾患総論(代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む)、向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化、医療機関との連携について理解する。</p>																
教科書	『精神保健福祉士養成セミナー 1 第6版 精神医学 -精神疾患とその治療-』へるす出版																
提出課題	<p>レポート設題</p> <p>【設題1】統合失調症の症状、病因、治療、対応(個別での対応、地域での対応、地域精神医療も含む)について述べよ。</p> <p>【設題2】気分(感情)障害及び神経症性障害について、それぞれの種類、症状、成因、治療、対応について述べよ。</p>																
学修のポイント1	統合失調症について																
学修のポイント2	気分(感情)障害について																
学修のポイント3	神経症性障害、ストレス関連性障害、心身症について																
学修のポイント4	認知症、てんかんについて																
学修のポイント5	地域精神医療について																
学修のポイント6	精神疾患の身体療法(向精神薬)について																
期末試験	後日発表																
回数	授業内容																
第1回	精神医学の歴史・概念・診断、病院精神医療と地域精神医療																
第2回	統合失調症①																
第3回	統合失調症②																
第4回	気分障害①																
第5回	気分障害②																
第6回	神経症障害、ストレス関連障害および身体表現性障害①																
第7回	神経症障害、ストレス関連障害および身体表現性障害②																
第8回	成人のパーソナリティおよび行動の障害																
第9回	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群																
第10回	知的障害、心理的発達の障害等																
第11回	器質性精神障害、神経系の疾患																
第12回	精神作用物質使用による精神および行動の障害																
第13回	精神疾患の治療																
第14回	まとめ																
第15回	期末試験																
第16回	科目終了試験																
成績評価	<table border="1"> <tr> <td>出席率</td> <td>30点</td> <td>75%以上の出席を必須とする。</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>40点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業内評価</td> <td>30点</td> <td>授業態度、レポート等により評価する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	期末試験	40点		授業内評価	30点	授業態度、レポート等により評価する。						
出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。															
期末試験	40点																
授業内評価	30点	授業態度、レポート等により評価する。															
備考	私語等、他の学生の迷惑になると判断した場合、厳格に対応する。																

(講義)	科目名:ソーシャルワークの理論と方法 I		講師: 堀田 利恵
科目概要・目標	<p>本科目では、個人、家族、集団、また地域社会といったクライエント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。特に、ソーシャルワーク実践に不可欠なソーシャルワークプロセス(相談援助の展開過程)と、様々な実践モデル及びアプローチについての理解を軸に、その過程において必要とされる面接技術や記録技術を学修し、ケアマネジメントや集団を活用した支援、コミュニケーションやコンサルテーションの専門知識と技術についての理解を深める。</p> <p>(※実務経験を有する講師による授業の補足)</p> <p>当科目は、司法福祉の保護観察官、社会福祉の生活保護CW、児童虐待防止推進員、学校福祉の教育委員会SSWr等に従事した経験があり、社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師資格の講師のもと、複合的、重層的な支援例を交えて実践知識を学びます。</p>		
教科書	<p>一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法』中央法規</p>		
提出課題	<p>レポート設題</p> <p>【設題1】ソーシャルワークにおける、人と環境との交互作用に関する視点と理論について述べよ。 <ポイント>ソーシャルワークにおいて、人と環境との交互作用に関する視点がどのように位置づけられているのかを理解し、ソーシャルワーク実践の目的と特徴を説明することが求められる</p> <p>【設題2】ソーシャルワークの展開過程と各段階の特徴、ソーシャルワーカーの役割について述べよ。 <ポイント>ソーシャルワークの展開過程について、一連の流れを把握し、ソーシャルワークの方法・技術を理解することが必要である。</p> <p>学修のポイント1 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて、それぞれの対象と目的、方法について述べよ。</p> <p>学修のポイント2 ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて、それぞれの考え方と方法、特徴を述べよ。</p> <p>学修のポイント3 ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について述べよ。</p> <p>学修のポイント4 グループワークの概念とその展開方法をまとめ、実際の事例をもとにグループの意義とソーシャルワーカーの役割について述べよ。</p> <p>学修のポイント5 ソーシャルワークにおける面接の意義と目的・技法について説明したうえで、ソーシャルワーカーに求められる専門的態度について述べよ。</p> <p>学修のポイント6 ソーシャルワークにおけるスーパービジョンの意義と目的、課題について述べよ。</p>		
期末試験	後日発表する		
回数	授業内容		
第1回	人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク(1) ソーシャルワーカーが学ぶ理論について理解する。教科書の第1章第1節～第3節を参照すること。		
第2回	人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク(2) バイオ・サイコ・ソーシャルモデルとミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークを理解する。教科書の第1章第4節～第6節を参照すること。		
第3回	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ(1) ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方、様々な実践モデルを理解する。教科書の第7章第1節を参照すること。		
第4回	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ(2) ソーシャルワークの様々なアプローチを理解する。教科書の第7章第2節を参照すること。		
第5回	ソーシャルワークの過程(1) ケースの発見、エンゲージメント(インテーク)、アセスメントについて理解する。 教科書の第2章・第3章を参照すること。」		
第6回	ソーシャルワークの過程(2) プランニング、支援の実施とモニタリングについて理解する。教科書の第4章・第5章を参照すること。		
第7回	ソーシャルワークの過程(3) 支援の終結と結果評価、アフターケアについて理解する。教科書の第6章を参照すること。		
第8回	ソーシャルワークの面接 面接の意義と目的、面接の方法と実際を理解する。教科書の第8章を参照すること。		
第9回	ソーシャルワークの記録 記録の意義と目的、記録の内容とフォーマットについて理解する。教科書の第9章を参照すること。		
第10回	ケアマネジメント(ケースマネジメント) ケアマネジメント(ケースマネジメント)の原則、意義と方法について理解する。教科書の第10章を参照すること。		
第11回	グループを活用した支援 グループの意義と目的、グループワークの展開過程、セルフヘルプグループについて理解する。教科書の第11章を参照すること。		
第12回	スーパービジョンとコンサルテーション スーパービジョンとコンサルテーションの意義と目的、方法について理解する。教科書の第15章を参照すること。		
第13回	ソーシャルアドミニストレーション ソーシャルアドミニストレーションの概念と意義、組織介入・組織改善の実践モデル、組織運営における財源確保について理解する。教科書の第13章を参照すること。		
第14回	ソーシャルアクション ソーシャルアクションの概念と意義、コミュニティ・オーガナイジングについて理解する。教科書の第14章を参照すること。		
第15回	期末試験		
第16回	科目終了試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする
	期末試験	40点	
	授業内評価	30点	受講態度(授業態度や質疑応答など、積極的に授業を受けているか)・提出状況(レポートやポイントなど、提出期限を守っているか)
	備考	積極的な質問、建設的な発言を大いに評価します。逆に、授業中の許可のない私語、携帯電話の使用等、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は減点評価となります。	

(講義)	科目名:家族福祉論	講師: 佐橋寿実
科目概要・目標	この家族福祉論では、現代の多様化した家族の状況や抱える様々な問題や課題を提示し検討する。また、それらの問題や課題の解決・緩和を遂行するために必要なサービスやアプローチ、ネットワークなどについて学修する。加えて、この科目では、多彩なグライエントの選択や生き方などを尊重し、それらについて理解した上で環境を整え(エンパワメント)、彼らの健康的な領域を発見するとともに強化(ストレングス)し、より望ましい形で支援を提供するにはどうすればよいかについて考える力を養い、柔軟な思考や問題や課題ができるように学修する。	
教科書	橋本真紀、山縣文治『よくわかる家庭支援論』ミネルヴァ書房。	
提出課題	<p>レポート設題 1 わが国の現代家庭が抱える問題や課題について述べ、その背景となった要因について記述せよ。</p> <p>レポート設題 2 少子化を解消するための福祉サービスやプランなどを具体的に挙げ、その効果について検討するとともに、家庭支援や保育所の特別事業などについて注目して、その効果や課題についてテキストや参考文献などを活用して記述せよ。</p> <p>学修のポイント1 主体的である子どものおかれた状況について把握する。</p> <p>学修のポイント2 DVや虐待などが子どもに及ぼす影響について考察する。</p> <p>学修のポイント3 育児の外部化が子どもや親に及ぼす影響について検討する。</p> <p>学修のポイント4 少子化の進行が社会や国に及ぼす影響について理解を深める。</p> <p>学修のポイント5 家庭支援や子育て支援を行う際に、チームアプローチやネットワーク力が必要不可欠であることを認識する。</p> <p>学修のポイント6 社会資源の充実および開発・人材の育成および配置について把握する。</p>	
期末試験	後日発表する	
回数	授業内容	
第1回	家族とはなにか	
第2回	家族を取り巻く問題①児童虐待	
第3回	家族を取り巻く問題②ドメスティック・バイオレンス	
第4回	家族を取り巻く問題③離婚とひとり親家庭	
第5回	家族を取り巻く問題④子どもの貧困	
第6回	少子化の現状と課題	
第7回	少子化に関する施策	
第8回	家庭への支援にかかる法と制度	
第9回	家庭を支援する社会資源と社会福祉施設(1)	
第10回	要保護児童とその家庭支援	
第11回	家庭を支援する社会資源と社会福祉施設(2)	
第12回	ソーシャルワーカーによる家庭支援	
第13回	家族問題を理解するモデル	
第14回	まとめ	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 持ち込み可。論述式。
		25点 提出物(学修のポイント3本、レポート下書き2本)期限厳守。遅れた場合は減点。
	授業内評価	15点 授業態度(態度、発言、コメントシートへの記入、グループワークの様子などから判断する)
備考		

(講義)	科目名:心理的アセスメント	講師: 内山 世璃奈
科目概要・目標	事例理解のために、性格テストや知能検査など各種の心理検査がどのように役立つかを知り、心理的アセスメントの目的及び倫理、心理的アセスメントの方法(観察、面接及び心理検査)、適切な記録及び報告について学修し、各種の心理検査の基本となる考え方について理解を深める。	
教科書	渡部洋 「心理検査法入門」福村出版、2016	
提出課題	<p>レポート設題</p> <p>【設題1】以下の6種の心理検査の中から、好きなものを1種選択し、選択した心理検査について、その特徴を述べよ。 「ウェクスター式知能検査」「Y-G性格検査」「ティラー不安検査」「VPI職業興味検査」「新版K式発達検査」「ロールシャッハテスト」</p> <p>【設題2】以下の6種の心理検査の中から、【設題1】で選択したもの以外で好きなものを1種選択し、選択した心理検査について、その特徴を述べよ。 「ウェクスター式知能検査」「Y-G性格検査」「ティラー不安検査」「VPI職業興味検査」「新版K式発達検査」「ロールシャッハテスト」</p>	
学修のポイント1	信頼性について	
学修のポイント2	妥当性について	
学修のポイント3	個別式検査の長所と短所について	
学修のポイント4	質問紙法の長所と短所について	
学修のポイント5	投影法の長所と短所について	
学修のポイント6	作業検査法の長所と短所について	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション／GP③、R1、R2	
第2回	GP④ 質問紙法について GP③(1000字作成)	
第3回	レポート設題①②「ウェクスター式知能検査」について	
第4回	レポート設題①②「Y-G性格検査」について 概要説明・実施 GP④作成	
第5回	レポート設題「Y-G性格検査」について 検査結果・考察・まとめ	
第6回	レポート設題①②「VPI職業興味検査」について 概要説明・実施	
第7回	R1 作成	
第8回	学修のポイント⑥(1000字作成)	
第9回	ティラー不安検査 概要説明・実施・考察	
第10回	「ロールシャッハテスト」について 概要説明	
第11回	学修のポイント⑥「クレペリン作業検査」	
第12回	クレペリン作業検査実施	
第13回	クレペリン作業検査実施・考察・まとめ	
第14回	期末試験対策	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点 指定の用紙のみ持ち込み可 論述式(自分の意見や考えが述べられているか)
	授業内評価	30点 ①提出期限を守っているか ②下記のことを守っているか
備考	授業には積極的に参加し、理解し考えようとする力・姿勢を身につけてください。 授業中の居眠り、私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁です。 何度も注意しても直らない場合(指定座席に座っていない場合も)は、受講は認めず退出していただきます。	

(実技)	科目名:レクリエーションワーク	講師: 山口 榮三
科目概要・目標	社会福祉の援助技術に関する課題としてのレクリエーションについて学修する。まず、ライフステージ(幼児・児童・青年・老年・障害者)に対応したレクリエーション援助の意義について理解する。そして、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション援助の技術(個別・グループ・環境)を、実践を通して身につける。	
教科書・資料	①レクリエーション支援の理論と方法 楽しさをとおした心の元気づくり 公益財団法人日本レクリエーション協会 レクリエーション・インストラクター教科書 ②各種レク財冊子 ③県内実施の事業	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション・レクリエーション支援とは/現場実習について 実技体験	
第2回	レクリエーション支援の展開方法(1) 個別及び集団レクリエーション支援方法とその実践	
第3回	アイスブレーキングゲーム支援の実際(1) 実技体験	
第4回	アイスブレーキングゲーム支援の実際(2) 実技体験	
第5回	レクリエーション支援実習1	
第6回	レクリエーション支援実習2	
第7回	レクリエーション支援実習3	
第8回	レクリエーション支援実習4	
第9回	レクリエーション支援実習5	
第10回	レクリエーション支援実習6	
第11回	レクリエーション支援実習7	
第12回	レクリエーション支援実習8	
第13回	レクリエーション支援実習9	
第14回	レクリエーション支援実習10	
第15回	期末試験	
第16回	まとめ	
成績評価	出席率	30点
	期末試験	30点 持ち込み:可 論述式
	課題提出	30点 支援計画案の提出及びその内容で評価します。
	授業態度	10点 本学園におけるルール、マナーにそって、授業を受けていたかどうかで判断します
備考	授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。	

(実技)	科目名:情報処理基礎演習Ⅲ		講師: 高橋直子
科目概要・目標	パワーントの使い方を学習する。 特に、図を用いて表現することを学習する。		
教科書	なし(毎回授業で使用するプリントを配布する)		
期末試験	実技試験(パワーントで1つの資料を作成し保存する。)		
回数	授業内容		
第1回	パワーントの基本		
第2回	いろいろなスライドの作成		
第3回	効果(画面切り替え、アニメーションなど)の利用		
第4回	リンク機能の利用		
第5回	グラフのスライドの作成		
第6回	グラフィカルな機能を使ったスライドの作成		
第7回	図解のパターンを理解するスライドの作成		
第8回	マスターの利用		
第9回	図解の復習		
第10回	複雑な図解のスライドの作成		
第11回	自由にアレンジしたスライドの作成		
第12回	話の流れを考える		
第13回	資料を作る		
第14回	復習		
第15回	復習		
第16回	期末試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点	
	授業内評価	30点	毎回授業で行う課題作成などを含めた授業態度
備考	飲食厳禁、私語厳禁、携帯電話などの使用禁止		

(講義)	科目名:教養基礎演習Ⅱ	講師: 室山俊浩												
科 目 概 要 ・ 目 標	本科目では、広く基礎科目を学習することにより、大学卒業程度の深い教養を身につけ、公務員および一般の就職対策や大学院入試などに対応できる、一般教養の学力をつけることをめざす。教養試験の類型は、多くの地方自治体・施設等における採用試験に取り入れられており、福祉・保育・教育関連の資格職、公務員や地方上級公務員試験対策はもとより、一般的な就職採用試験対策にも効果的である。また幅広い教養を身につけられることから、就職以外の進路を考えている学生にとっても有効である。													
教科書	東京アカデミー『セサミノート②一般教養』													
提出課題	<p>レポート設題 【設題1】環境問題と環境保護のための取り組みについて述べよ。</p> <p>学修のポイント1 次の出来事を年代順に並べ替え、どのような出来事が簡単に説明せよ。 (a.南北ベトナムの統一、b.ベルリンの壁の崩壊、c.湾岸戦争、d.昭和天皇の崩御、e.沖縄返還)</p> <p>学修のポイント2 東京が4月3日の午後8時のとき、サンフランシスコ(西経120度)は何日の何時か。理由も説明せよ。</p> <p>学修のポイント3 AB型とAB型の両親から産まれる子どものもつ血液型の確率を血液型ごとに求めなさい。理由も説明する事。</p> <p>学修のポイント4 日本の四季の天気の特徴を説明せよ。</p> <p>学修のポイント5 高さ19.6mからボールを水平に初速度20m/sで投げた時、ボールが地面に着くのは何秒後か。また、ボールは水平方向に何m進むか。それぞれ説明せよ。ただし、重力加速度を9.8m/s²とする。</p> <p>学修のポイント6 「世界遺産」とは何か説明せよ。また、世界遺産リストに登録されている日本の文化遺産と自然遺産の主なもの1点ずつ取り上げて紹介せよ。さらに、「無形文化遺産」についても説明し、日本の例を1点紹介せよ。</p>													
期末試験	後日発表する													
回数	授業内容													
第1回	オリエンテーション / 環境問題について													
第2回	環境保護のための取り組みについて													
第3回	環境問題にどのように取り組むべきか													
第4回	学修のポイント1													
第5回	学修のポイント2													
第6回	学修のポイント3													
第7回	学修のポイント4													
第8回	学修のポイント5													
第9回	学修のポイント6													
第10回	問題演習													
第11回	問題演習													
第12回	問題演習													
第13回	問題演習													
第14回	問題演習													
第15回	期末試験													
第16回	科目終了試験													
成績評価	<table border="1"> <tr> <td>出席率</td> <td>30点</td> <td>75%以上の出席を必須とする。</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>40点</td> <td>持ち込み可 論述式</td> </tr> <tr> <td></td> <td>30点</td> <td>提出物・授業内課題など</td> </tr> <tr> <td>授業内評価</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	期末試験	40点	持ち込み可 論述式		30点	提出物・授業内課題など	授業内評価		
出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。												
期末試験	40点	持ち込み可 論述式												
	30点	提出物・授業内課題など												
授業内評価														
備考	提出物の締切は厳守すること。期限を守れなかった場合は謝罪文を添付して提出すること。授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁。無断の座席移動も禁止。													

(講義)	科目名:福祉教養演習Ⅰ(共通)	講師:堀田利恵
授業概要・目標	本科目は社会福祉士・精神保健福祉士国家試験に合格することを目標とする。3年次は共通科目を実施し、4年次では共通科目の残りと各専門科目を実施する。	
教科書	配布資料によって授業を行う。テキスト(参考書・過去問題集)を購入しますが、当面は、配布資料を使うので、忘れないで持参してください。また、ノートも持参すること。	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション	
第2回	医学概論①	
第3回	医学概論②	
第4回	医学概論③	
第5回	医学概論④	
第6回	医学概論⑤	
第7回	医学概論⑥	
第8回	確認テスト	
第9回	心理学と心理的支援①	
第10回	心理学と心理的支援②	
第11回	心理学と心理的支援③	
第12回	心理学と心理的支援④	
第13回	心理学と心理的支援⑤	
第14回	心理学と心理的支援⑥	
第15回	確認テスト	
第16回	医学概論、心理学と心理的支援 「一問一答」	
第17回	医学概論、心理学と心理的支援 「一問一答」	
第18回	医学概論、心理学と心理的支援 総まとめ 確認テスト	
第19回	障害者福祉①	
第20回	障害者福祉②	
第21回	障害者福祉③	
第22回	障害者福祉④	
第23回	確認テスト	
第24回	障害者福祉「一問一答」	
第25回	障害者福祉「一問一答」	
第26回	障害者福祉 総まとめ 確認テスト	
第27回	社会福祉調査の基礎①	
第28回	社会福祉調査の基礎②	
第29回	社会福祉調査の基礎③	
第30回	前期末試験対策①	
第31回	前期末試験(1科目と1科目半)	医学概論と心理学(半分)
第32回	前期末試験(1科目と1科目半)	心理学(半分)と障害者福祉
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 前期末試験
	授業態度	20点 講義→暗記(自宅学習)→確認テスト→合格点に達しない場合は再テスト。最後に「総まとめテスト(これのみ提出)」この流れで授業を実施する。
	復習テスト	20点
備考	国家試験に合格するのだ、という強い気持ちを持って授業に臨みましょう。そして、復習もしっかりとていきましょう。	

(演習)	科目名:ソーシャルワーク演習IV	講師:遠藤 修正	
科目概要・目標	<p>個別・集団の両援助技術と関連援助技術について、具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行う。</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、社会福祉協議会の職員として地域福祉事業に従事した経験のある社会福祉士の講師のもと、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>		
	<p>教科書</p> <p>一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集「最新社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習(社会専門)」、及び「最新社会福祉士養成講座 12 ソーシャルワーク理論と方法(共通科目)」中央法規</p>		
	<p>レポート設題</p> <p>【設題1】地域における課題の解消と軽減に向け、必要なアプローチの方法について述べよ。 <ポイント>地域へのアウトリーチとアセスメント、また把握された課題に対する計画とその計画の実践のための社会資源の活用等についてまとめる。</p>		
提出課題	学修のポイント1	生活モデルについて	
	学修のポイント2	問題解決アプローチについて	
	学修のポイント3	行動変容アプローチ	
	学修のポイント4	ナラティブアプローチについて	
	学修のポイント5	地域福祉課題の把握と計画の作成について	
	学修のポイント6	地域福祉課題の解決に向けた取り組みについて	
	期末試験	講義の中で発表	
回数	授業内容		
第1回	講義の進め方など		
第2回	地域における課題の解消と軽減に向け、必要なアプローチの方法について述べよ。(1)		
第3回	同	上 (2)	
第4回	同	上 (3)	
第5回	同	上 (4)	
第6回	同	上 (5)	
第7回	同	上 (6)	
第8回	生活モデルについて	12 P126~128	
第9回	問題解決アプローチについて	12 P134~137	
第10回	行動変容アプローチ	12 P142~145	
第11回	ナラティブアプローチについて	12 P160~165	
第12回	地域福祉課題の把握と計画の作成について	12 P286~289	
第13回	地域福祉課題の解決に向けた取り組みについて	12 P.289~294	
第14回	期末試験/科目終了試験対策		
第15回	期末試験		
第16回	科目終了試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする
	期末試験	30点	
	授業内評価	20点	レポート、授業課題
		20点	受講姿勢
備考		遅刻、欠席、私語、居眠り、スマートフォン使用厳禁。	

(講義)	科目名 : ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	講師名: 戎 弘志												
科目・目標	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、実習実施、また実践に必要なソーシャルワーク及び関連技術について学習するとともに、ソーシャルワーク実習の実施に向けて課題の明確化、また課題達成に必要な知識及び技術について学習する。</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足)</p> <p>当科目は、障害者施設や特別養護老人ホームの施設長を経て、長年にわたりソーシャルワークの実習指導に携わってきた社会福祉士の講師の下、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>													
教科書・資料	社会福祉士相談援助実習 中央法規出版													
提出課題	<p>【設題1】自分が実習を予定(希望)している施設(種別)では、どのような援助が提供されているか具体的に述べよ。 <ポイント>以下の内容を反映させ、具体的に論術する。</p> <p>①根拠法を参考にまとめる。 ②利用者に提供される支援について、具体的にまとめる。 ③制度や運用の現状と課題について、具体的にまとめる。 ・「施設の一員として課題提起するソーシャルワーカー」の立場に留意し、一方的な批判や根拠のない私論ではなく、建設的に論じる。 ・文献や新聞記事など、適切な方法を選んで情報を収集する。 【提出における注意事項】提出期間は実習申込み手続きを実施した後から、予定する実習期間に定められる実習基礎資格科目の履修期限までとする。提出されない場合、実習の履修開始は認められない。</p> <table border="1"> <tr> <td>学修のポイント1</td><td>相談援助実習の仕組み</td></tr> <tr> <td>学修のポイント2</td><td>実習計画の意義について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント3</td><td>支援計画の作成について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント4</td><td>ソーシャルワーカーとしての社会福祉について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント5</td><td>実習記録ノートの内容について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント6</td><td>評価の意味について</td></tr> </table>		学修のポイント1	相談援助実習の仕組み	学修のポイント2	実習計画の意義について	学修のポイント3	支援計画の作成について	学修のポイント4	ソーシャルワーカーとしての社会福祉について	学修のポイント5	実習記録ノートの内容について	学修のポイント6	評価の意味について
学修のポイント1	相談援助実習の仕組み													
学修のポイント2	実習計画の意義について													
学修のポイント3	支援計画の作成について													
学修のポイント4	ソーシャルワーカーとしての社会福祉について													
学修のポイント5	実習記録ノートの内容について													
学修のポイント6	評価の意味について													
期末試験	後日発表													
回数	授業内容													
第1回	相談援助実習のあり方を理解する													
第2回	配属先決定後から実習開始までの流れを理解する													
第3回	配属先実習機関・施設の概要、支援内容について情報収集する													
第4回	施設概要の作成													
第5回	実習計画の作成													
第6回	実習計画書を作成する													
第7回	事前訪問の目的と意義について理解する													
第8回	基本的な態度と訪問時の注意事項について理解する													
第9回	基本的なコミュニケーション、円滑な人間関係形成、利用者理解、利用者の需要把握、支援計画の作成について理解する													
第10回	実習記録の意義、書き方、取扱い等について													
第11回	チームアプローチの実際、社会福祉士としての職業倫理、施設・職員などに関する規程と責任について理解する													
第12回	利用者や家族との人間関係の形成、権利擁護、支援と評価について理解する													
第13回	実習評価の意義について理解を深める													
第14回	実習先機関・施設の経営やサービスの管理運営、地域社会の一員としての実習先機関・施設、実習で何をどこまで経験するのかについて理解する													
第15回	期末試験													
第16回	科目終了試験													
成績評価	出席率	30点 75% 以上出席すること。不足した場合は再履修とする。												
	期末試験	40点 持ち込み: 可 (選択・記述) ※ただし、各授業ごとに試験のポイントを発表する。												
	授業内評価	30点 (例: 学習意欲、提出期限、授業中の姿勢等、総合的に評価する。)												
備考	参考文献 新・社会福祉士養成講座 中央法規出版													

(講義)	科目名:ソーシャルワークの理論と方法(専門)	講師: 森奈祐
科目概要・目標	<p>精神障害者及び精神保健福祉の設題に対するソーシャルワークの過程や、家族への支援方法を理解し、多職種連携の方法と精神保健福祉士の役割を理解する。</p> <p>ソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロを踏まえて理解する。</p>	
教科書	<p>一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 精神保健福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法[精神専門]』中央法規</p>	
提出課題	<p>レポート設題</p> <p>【設題1】精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義について述べよ。</p> <p>【設題2】エコロジカルアプローチ及びエンパワメントアプローチについて、実践にどのように活用されているか述べよ。</p>	
学修のポイント1	精神障害および精神保健福祉の設題に対するソーシャルワークの過程	
学修のポイント2	精神障害および精神保健福祉の設題を持つ人と家族の関係と家族への支援方法について	
学修のポイント3	精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・他機関連携の留意点について	
学修のポイント4	精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法	
学修のポイント5	個別支援からソーシャルアクションへの実践展開について	
学修のポイント6	精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開について	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	ソーシャルワークの基本的視点、ミクロ・メゾ・マクロ展開について	
第2回	コミュニティワークの意義について①	
第3回	コミュニティワークの意義について②	
第4回	まとめ	
第5回	インテーク、アセスメント、グループワーク等について	
第6回	家族支援の実際、精神障害者家族の問題、家族理解の変遷、家族支援の方法	
第7回	人、環境へのアプローチ、ケアマネジメントについて	
第8回	チームアプローチの意義と目的、留意点について	
第9回	連携における精神保健福祉士の役割について	
第10回	ソーシャルアクションの基本的視点について	
第11回	チームビルディング、チームの形成と特徴について	
第12回	連携における精神保健福祉士の役割について	
第13回	ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義と展開方法	
第14回	学校・教育、産業、司法、災害分野について	
第15回	期末試験	
第16回	科目修了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点
	授業内評価	10点 授業内での取組姿勢、授業への参加態度について評価
		20点 提出設題の理解度、指向性・創造性について評価
		10点 設題の提出期限の厳守
備考	授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用、音楽等の聴取、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には、減点評価とします。	

(講義)	科目名:精神保健福祉援助実習指導II	講師名:上松勝二郎
科目概要・目標	この科目では、実習の事前学習として、実際に実習を行う予定の実習機関(利用者理解を含む)と、施設、事業者、団体、地域社会に関する基本的理解を身につける。スクーリングでは、実習に関わる個別及び集団指導を通して、精神保健福祉現場での相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術など体得することを目標とする。実習先と指導教員との指導のもとで実習計画を作成する。	
教科書	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 精神保健福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習[精神専門]』中央法規	
提出課題	レポート設題	【設題】精神障害者の困難と生活課題について考察し、自分が予定(希望)している施設(種別)では、どのような支援が提供されているか具体的に述べよ
学修のポイント1	1. 病院と診療所の違いについて	
学修のポイント2	2. 精神科医療機関の入院形態について	
学修のポイント3	3. 精神障害者を支援する公的機関とその概要について	
学修のポイント4	4. 障害者福祉サービス事業所について	
学修のポイント5	5. 精神保健福祉における他職種連携とチームアプローチについて	
学修のポイント6	6. 精神障害者の家族支援について	
期末試験	後日指示	
授業内容	回数	
第1回	実習施設・機関の概要 ① 医療機関	
第2回	実習施設・機関の概要 ② 障害福祉サービス事業所の概要目的	
第3回	実習施設・機関の概要 ③ 行政機関等	
第4回	実習経験と課題 精神科病院における援助・課題	
第5回	実習経験と課題 精神科診療所における援助・課題	
第6回	実習経験と課題 サービス事業所における援助・課題	
第7回	精神保健福祉における他職種連携とチームアプローチ	
第8回	精神保健福祉における他職種連携とチームアプローチ 精保士の役割	
第9回	精神保健福祉士としての職業倫理と法的責務	
第10回	組織の一員としての精神保健福祉士の役割と責任	
第11回	地域社会の中の実習施設・機関とアウトリーチ	
第12回	実習指導計画の基本モデル	
第13回	実習計画・施設概要の作成 ①	
第14回	実習計画・施設概要の作成 ②	
第15回	期末試験	
第16回	科目修了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点
	授業内評価	30点

(講義)	科目名:精神障害リハビリテーション論	講師: 真口 良美
科 目 概 要 ・ 目 標	以下の①～③を目標に、下記の学修内容を学んでいく。 ①精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。 ②精神障害リハビリテーションプログラムの知識を援助場面で活用できる。 ③精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解し、援助場面で活用できる。	
教科書	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 精神保健福祉士養成講座3 精神生涯リハビリテーション論』中央法規。	
提出課題	<p>レポート設題</p> <p>【設題1】精神障害リハビリテーションの価値背景に影響を与えた実践や考え方を説明し、精神障害(精神科)リハビリテーションの原則と特性を述べなさい。 <ポイント>リカバリー、ストレングスモデル、エンパワメントアプローチ、レジリエンス、他職種連携などの考え方について各々説明し、アンソニーなどが唱えた精神科リハビリテーションの原則、あるいは共通する原則を述べ、精神障害リハビリテーションの特性(①当事者の参加、②個別性の重視、③生活環境への適応、④技能の育成、⑤環境面への介入、⑥他職種・当事者・市民との協働、⑦希望、⑧自尊心の回復、⑨化学的根拠に基づいた支援・協働)を自分の言葉で説明する。</p> <p>学修のポイント1</p> <p>精神障害リハビリテーションの原則について述べなさい <ポイント>当事者の参加と関与(自主性の尊重)、治療的な人間関係、意思決定の共有、技能開発(スキルアップ)と環境的開発、臨機応変さ、希望を持つ、リカバリー、ストレングスモデル、エンパワメントアプローチ、レジリエンス</p> <p>学修のポイント2</p> <p>精神障害リハビリテーションのプロセスについて述べなさい <ポイント>インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、リカバリー、ストレングスモデル、エンパワメントアプローチ、レジリエンス、多職種連携</p> <p>学修のポイント3</p> <p>医学的な精神障害リハビリテーションプログラムの代表的なものを5つ以上挙げ、それぞれを説明しなさい <ポイント>認知(行動)療法、作業療法、健康自己管理プログラム、依存症回復プログラム、ディケアプログラム</p> <p>学修のポイント4</p> <p>職業的な精神障害リハビリテーションプログラムの代表的なものを5つ挙げ、それぞれを説明しなさい <ポイント>就労準備プログラム、援助付雇用プログラム、IPS モデル、復職支援プログラム、就労定着プログラム</p> <p>学修のポイント5</p> <p>社会的な精神障害リハビリテーションプログラムの代表的なものを5つ挙げ、それぞれを説明しなさい <ポイント>SST、心理教育プログラム、WRAP、生活訓練プログラム、地域移行プログラム</p> <p>学修のポイント6</p> <p>①家族支援プログラム、および②当事者や家族を主体としたリハビリテーションについて説明しなさい <ポイント>①心理教育プログラム、EE(感情表出)、集団による家族心理教育、 ②家族による家族支援、ピアサポートグループとピア活動、ピアスタッフ、当事者研究</p>	
期末試験	精神障害リハビリテーションの原則について述べなさい。	
回数	授業内容	
第1回	精神障害者リハビリテーションヒソーシャルワーク	
第2回	精神障害リハビリテーションの理念と定義 医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション	
第3回	精神障害リハビリテーションの基本原則 地域およびリカバリー概念を基盤としたリハビリテーションの意義	
第4回	精神障害リハビリテーションの対象	
第5回	チームアプローチ	
第6回	精神科リハビリテーションのプロセス	
第7回	医学的リハビリテーションプログラム	
第8回	職業的リハビリテーションプログラム	
第9回	社会的リハビリテーションプログラム	
第10回	教育的リハビリテーションプログラム	
第11回	家族支援プログラム	
第12回	リハビリテーションに用いられるその他の手法・プログラム	
第13回	精神障害当事者や家族を主体としたリハビリテーション	
第14回	依存症のリハビリテーション	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点
	授業内評価	20点 課題提出物の評価
		20点 授業への関心・態度・意欲
備考		

(演習)	科目名:精神保健福祉演習Ⅰ	講師: 齊藤晋治
科目概要・目標 精神保健福祉演習Ⅰは、精神保健福祉演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと連続して学習する構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。 精神保健福祉演習Ⅰは、精神保健福祉援助の事例(集団に対する事例を含む。)を活用し、ソーシャルワークの過程を通じた援助、個別面接、グループワークの展開やリハビリテーションプログラムの実践、また社会福祉調査や普及啓発活動といった間接的なソーシャルワーク実践について総合的にその技術を習得する。また、すべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する方法を学ぶ。 精神保健福祉演習Ⅰが終了した時点で、精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、取り巻く状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識・技術・価値)の基礎を獲得することが期待される。		
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク学校教育連携編集 『最新 精神保健福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習(精神専門)』中央法規出版	
提出課題	レポート設題 1	ソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性について述べよ。
	学修のポイント1	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取る方法について述べよ。
	学修のポイント2	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のアセスメントについて述べる。
	学修のポイント3	ケア会議や関係者会議のコーディネートとマネジメントについて述べよ。
	学修のポイント4	社会福祉調査について述べよ。
	学修のポイント5	コミュニティソーシャルワークについて述べよ。
	学修のポイント6	ソーシャルワーク専門職の記録について述べよ。
	期末試験	コミュニティソーシャルワークについて述べよ。
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション、精神保健福祉士の固有性、専門性	
第2回	ソーシャルワークの過程を通じた援助(支援の実施と終結を踏まえ、インテーク、アセスメント、プランニングの実践モニタリング、事後評価の実施、アフターケア方法の検討)	
第3回	産業・労働分野における事例:個別面接	
第4回	高齢者福祉施設における事例:グループワークの展開	
第5回	デイケアにおける事例:リハビリテーションプログラムの実施	
第6回	教育機関における事例:ケア会議や関係者会議のコーディネートとマネジメント	
第7回	社会福祉調査①:社会福祉調査の実施、計画策定、評価	
第8回	社会福祉調査②:資源創出と政策提言	
第9回	社会福祉協議会の事例①:アウトリーチ、コミュニティソーシャルワークの展開(設題5番指導)	
第10回	社会福祉協議会の事例②:アウトリーチ、コミュニティソーシャルワークの展開	
第11回	障害福祉サービス事業所における事例:普及啓発活動と人材育成	
第12回	記録①:個別支援記録、業務(日誌・月報等)の記録作成	
第13回	記録②:公文書作成、スーパービジョンのためのレポート作成	
第14回	まとめ	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点
	授業内評価	10点 ①授業内での取り組み姿勢、授業への参加態度について 20点 ②提出課題の理解度、思考性・創造性について評価 10点 ③課題の提出期限の厳守
	備考	授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。

(講義)	科目名:精神保健福祉援助演習Ⅱ	講師: 森奈祐
科目概要・目標	1.具体的な課題別的精神保健福祉援助の事例(集団に対する事例を含む)を活用し、現実に向けた精神保健福祉課題を理解し、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。 2.事例を題材として、具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行う。	
教科書	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 精神保健福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習[精神専門]』中央法規	
提出課題	<p>レポート設題</p> <p>【設題1】本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際に必要な要素について述べよ。</p> <p><ポイント>精神疾患や精神障害の課題のある人のための関係機関や職種の役割について触れ、それら関係者をコーディネートしながら、本人中心のチーム連携の在り方について述べる。また、コーディネート役として求められることにも触れる。</p> <p>学修のポイント1 精神科医療機関で働く精神保健福祉士として理解しておくべき精神保健及び精神障害者福祉に関する法律のポイントを述べよ。</p> <p>学修のポイント2 障害者総合支援法について述べよ。</p> <p>学修のポイント3 介護保険法について述べよ。</p> <p>学修のポイント4 障害者虐待防止法について述べよ。</p> <p>学修のポイント5 医療観察法について述べよ。</p> <p>学修のポイント6 障害者雇用促進法について述べよ。</p>	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション	
第2回	チームアプローチについて	
第3回	精神保健福祉士の役割など	
第4回	障害者総合支援法について	
第5回	精神科医療機関における事例	
第6回	医療観察法の理解	
第7回	依存症支援における事例:アルコール依存症	
第8回	障害者雇用促進法について	
第9回	精神科デイケア、パーソナリティ障害の事例	
第10回	相談支援事業所における危機介入の事例	
第11回	生活困窮者への地域生活支援の事例	
第12回	メンタルヘルス課題のある中学生への多職種・他機関連携による支援の事例	
第13回	医療観察法に基づく社会復帰調整官を中心とした多職種連携による支援の事例	
第14回	まとめ	
第15回	期末試験	
第16回	科目修了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点
	授業内評価	10点 授業内での取組姿勢、授業への参加態度について評価 20点 提出課題の理解度、指向性・創造性について評価 10点 課題の提出期限の厳守
備考	授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用、音楽等の聴取、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には、減点評価とします。	

社会福祉学科

社会福祉コース

4年生

(講義)	科目名:権利擁護と成年後見	講師: 中嶋 洋
科目概要・目標	日常的に何らかの援助を必要とする人々に接することが多い専門職として、鋭い人権感覚を身につけておくことは重要である。相談援助と法(日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む)との関わり、成年後見制度(後見人等の役割を含む)、日常生活自立支援事業について学修する。そして、社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。	
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会『新社会福祉士養成講座19 権利擁護と成年後見制度』中央法規	
提出課題	レポート設題	【設題1】ソーシャルワーカーとして成年後見活動を行う上での留意点について権利擁護の視点から具体的に述べよ。
	学修のポイント1	法定後見制度について
	学修のポイント2	任意後見制度について
	学修のポイント3	成年後見人等の義務と責任について
	学修のポイント4	成年後見制度の最近の動向と課題について
	学修のポイント5	日常生活自立支援事業と成年後見制度との連携について
	学修のポイント6	権利擁護にかかわる組織・団体について
期末試験	後日連絡する	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション、相談援助の活動と法	
第2回	日本国憲法、行政法、民法、社会福祉関連法の理解	
第3回	学修のポイント1・3対策(法定後見制度について)	
第4回	レポート対策(社会福祉士、精神保健福祉士)	
第5回	レポート対策(成年後見制度の義務と責任、身上監護とは何か)	
第6回	レポート対策(成年後見制度と成年後見活動)	
第7回	レポート対策(成年後見制度の流れと審判)	
第8回	学修のポイント2対策(任意後見制度について)	
第9回	学修のポイント4対策(成年後見制度の最近の動向と課題)	
第10回	学修のポイント5対策(日常生活自立支援事業について)	
第11回	学修のポイント5・6対策(日常生活自立支援事業と成年後見制度との連携)	
第12回	学修のポイント4対策(成年後見制度の将来展望と他分野との関連)	
第13回	学修のポイント6対策(権利擁護にかかわる組織・団体について)	
第14回	学修のポイント6対策(権利擁護にかかわる組織・団体について)	
第15回	期末試験	
第16回	科目修了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 後日連絡する。
授業内評価	提出物	30点 提出物(学修のポイント3本、下書きレポート・清書レポート・課題レポート)の提出状況。
	授業態度	10点 授業態度(私語、居眠り等は厳禁)。
備考	遅刻、欠席、私語、居眠り、スマートフォン使用厳禁。	

(講義)	科目名:福祉行財政と福祉計画		講師: 中嶌 洋
科目概要・目標	現代の社会福祉サービス支援は国が基本的な政策方針を示すものの、市町村をベースとし、行政担当者とサービス利用者である地域住民及び事業者が参加して計画立案に基づき、実施することが求められている。このことから、社会福祉の法制度の展開や福祉計画との関連、さらに、国と地方自治体との関係、行政の仕組み、財政の仕組みなどについて学ぶ必要がある。また、福祉計画の意義とその技法について学修するとともに、福祉計画の事例を通して計画策定過程、技法を学修する。		
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座10 福祉行財政と福祉計画』中央法規出版、2018年。		
提出課題	レポート設題	【設題1】福祉計画と福祉行財政について述べよ。	
提出課題	学修のポイント1	福祉の法制度の展開について	
提出課題	学修のポイント2	福祉行政の組織について	
提出課題	学修のポイント3	地方自治体の財政と民生費の動向について	
提出課題	学修のポイント4	福祉行政の専門機関及び地域の相談機関について	
提出課題	学修のポイント5	福祉計画について	
提出課題	学修のポイント6	福祉計画における住民参加の方法について	
期末試験	後日連絡する		
回数	授業内容		
第1回	オリエンテーション、福祉行財政と福祉計画の基礎		
第2回	福祉と制度 福祉を実現する主体と機能、社会福祉の捉え方、社会保障との違いを学修する。		
第3回	福祉の法制度の展開		
第4回	福祉計画の概要		
第5回	行政の骨格と社会福祉の法制度		
第6回	福祉行政の組織(中央及び地方政府を中心に)		
第7回	第1セクター(民間)と第2セクター(行政)の類似点と相違点について学修する。		
第8回	社会福祉基礎構造改革と利用契約制度		
第9回	地方自治体と福祉財政		
第10回	国の財政と社会福祉		
第11回	福祉行政の専門機関と専門職		
第12回	福祉計画の基本的視点		
第13回	福祉計画におけるニーズ把握・評価		
第14回	福祉計画の事例研究の視点と種類		
第15回	期末試験		
第16回	科目終了試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
成績評価	期末試験	30点	後日連絡する。
成績評価	授業提出物	30点	提出物(学修のポイント3本、下書きレポート・清書レポート・課題レポート)の提出状況。
成績評価	授業態度	10点	授業態度(私語、居眠り等は厳禁)。
備考	遅刻、欠席、私語、居眠り、スマートフォン使用厳禁。		

(講義)	科目名:社会福祉運営管理論	講師: 原田 亘
科目概要・目標	<p>少子高齢社会の到来により、福祉サービスの新たなニーズが増加し、わが国の社会福祉制度を根幹から改革しなければならない時代が到来した。規制緩和によるさまざまな主体の参入に連携と競合が生まれたことにより、経営の必要性が増大した。このことから、福祉サービスにおける組織と経営管理について、社会福祉法人や特定非営利活動法人などの組織や団体の活動内容、経営の基礎的な概念・戦略などを学修する。また、福祉サービスの視点からの管理運営(人事・労務・財務・情報管理等)の方法を学修する。</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、社会福祉施設の管理者等を経て、社会福祉士・公認心理師として、カウンセリングとソーシャルワークの両面からの支援を続ける講師のもと、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>	
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座11 福祉サービスの組織と経営』中央法規	
提出課題	<p>レポート設題 【設題】福祉サービスにおける組織と経営について述べよ。</p> <p>学修のポイント1 福祉サービスに関わる組織と団体について</p> <p>学修のポイント2 福祉サービスの組織と経営の基本理論について</p> <p>学修のポイント3 福祉分野におけるサービスマネジメントについて</p> <p>学修のポイント4 福祉サービスにおける苦情対応とリスクマネジメントについて</p> <p>学修のポイント5 福祉サービスにおける人材の評価について</p> <p>学修のポイント6 福祉サービスにおける人材の育成について</p>	
期末試験	演習から学んだこと	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション/福祉サービスにおける組織と経営①	
第2回	福祉サービスにおける組織と経営②	
第3回	福祉サービスにおける組織や団体①	
第4回	福祉サービスにおける組織や団体②	
第5回	福祉サービスの組織と経営の基礎理論①	
第6回	福祉サービスの組織と経営の基礎理論②/レポート作成	
第7回	演習 福祉サービス事業所を立ち上げよう①	
第8回	福祉サービスの管理運営の方法 サービス管理①	
第9回	福祉サービスの管理運営の方法 サービス管理②	
第10回	福祉サービスの管理運営の方法 人事管理と労務管理①	
第11回	福祉サービスの管理運営の方法 人事管理と労務管理②	
第12回	福祉サービスの管理運営の方法 会計管理と財務管理	
第13回	福祉サービスの管理運営の方法 情報管理と戦略的広報	
第14回	演習 福祉サービス事業所を立ち上げよう②	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	20点 持込可
	授業内評価	20点 提出物(学修のポイント3本、下書きレポート・清書レポート)の期限を守ること。
		30点 授業は積極的に参加すること。演習ではチームワークの形成を心がけること。
備考	自分自身のキャリアプランの中で、本講での学びを活用できるように、主体的に取り組んでいただこうことを期待します。	

(講義)	科目名:リハビリテーション論	講師: 吉田真二
科目概要・目標		
リハビリテーションは障害者への総合的対策・技術であり、身体的のみならず、精神的、社会的、経済的、職業的に可能な限りの回復を図る援助過程である。その意味では、障害者の基本的人権の具体化をめざす総合的援助体系であるともいえる。本科目では、医学的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、社会的リハビリテーションの理論と実践をバランスよく学ぶことで、総合的な援助体系としてのリハビリテーションの本質についての理解を深める。		
(実務経験を有する講師による授業の補足)		
当科目は、病院で社会福祉士・理学療法士として、高齢者や障害を抱える患者の相談支援やリハビリにあたっている講師のもと、具体的な支援の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。		
教科書	浅野大喜『リハビリテーションテキスト 人間発達学』メジカルビュー社	
提出課題	レポート設題	【設題1】リハビリテーションの理念について述べよ。
	学修のポイント1	職業リハビリテーションについて
	学修のポイント2	社会リハビリテーションについて
	学修のポイント3	地域リハビリテーションについて
	学修のポイント4	リハビリテーションの専門機関と専門職について
	学修のポイント5	教育リハビリテーションについて
	学修のポイント6	社会福祉とリハビリテーションについて
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション	
第2回	リハビリテーションの理念①	
第3回	リハビリテーションの理念②	
第4回	リハビリテーションの理念のまとめ	
第5回	レポート作成	
第6回	ICF(国際生活機能分類)とリハビリテーション・アプローチ	
第7回	リハビリテーション医学・医療	
第8回	社会福祉とリハビリテーション①	
第9回	社会福祉とリハビリテーション②	
第10回	学修ポイント⑥作成	
第11回	社会リハビリテーション①	
第12回	社会リハビリテーション②	
第13回	学修ポイント②作成	
第14回	まとめ	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点
		20点 授業態度
	授業内評価	20点 学修のポイントにおける2回の提出課題の提出状況と内容を評価する。
備考	当科目はオンラインによる集中講義です。日程・時限にご注意ください。	

(講義)	科目名:社会福祉学概論	講師: 佐橋寿実
科目概要・目標	私たちが生きている社会について、それがあるがままに観察し、その仕組みについて分析するのが社会学である。また、社会学からは様々な社会問題が提起されている。この科目では社会学の考え方やその対象、社会問題等について幅広く学修する。	
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編『新社会福祉士養成講座3 社会理論と社会システム』中央法規出版。	
提出課題	レポート設題	産業化とそれによる社会の変化について述べよ。
	学修のポイント1	社会変動の要因について
	学修のポイント2	家族の構造と機能について
	学修のポイント3	社会システムについて
	学修のポイント4	少子高齢化の要因と社会への影響について
	学修のポイント5	社会集団とその分類について
	学修のポイント6	社会学成立の時代的背景について
期末試験	後日発表する	
回数	授業内容	
第1回	社会学とは	
第2回	日常生活と相互行為(1)概念	
第3回	日常生活と相互行為(2)実践	
第4回	社会生活と社会集団(1)自己の形成の場としての社会集団	
第5回	社会生活と社会集団(2)社会集団の類型	
第6回	現代家族の変容と課題	
第7回	社会構成とは	
第8回	社会変動とは	
第9回	レポート作成日	
第10回	組織と官僚制	
第11回	社会システム	
第12回	都市化と地域社会	
第13回	社会問題の社会学	
第14回	情報化社会	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	35点 持ち込み可。論述式。
		20点 提出物(学修のポイント3本、下書きレポート1本)期限厳守。遅れた場合は減点。
	授業内評価	15点 授業態度(態度、発言、コメントシートへの記入、グループワークの様子などから判断する)
備考		

(実技)	科目名:情報処理演習Ⅱ	講師: 室山俊浩
科目概要・目標	<p>情報処理演習Ⅰの内容は、情報の利用者側(受け手)の観点の内容が主であったが、本講義は、情報の作成、加工、発信に関する内容を取り扱う。</p> <p>マルチメディア情報の作成や、Web技術等は、現代社会の様々な局面で必要とされており、かつ、一部の専門家が、これを担うのではなく、広く一般の人々が行うようになってきている。講義では、実習を通して、情報発信者、あるいはコンテンツの作成者としての基礎的な素養を身に付ける。</p>	
教科書	奥村晴彦、他 『基礎からわかる情報リテラシー』 技術評論社	
提出課題	<p>【設題1】情報化社会におけるコンピュータについて述べ、今後の電子メディアについて述べよ</p> <p>【設題2】インターネット時代のセキュリティについて、具体的な例を挙げて、自由に論じよ</p>	
期末試験	実技試験（科目終了試験を兼ねる）	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション / レポート対策 設題1「情報化社会と電子メディアの今後」	
第2回	インターネットを使用した情報検索 / レポート下書き作成	
第3回	インターネットを使用した情報検索 / レポート下書き作成	
第4回	レポート対策 設題2「インターネットのセキュリティ」 / レポート下書き作成	
第5回	インターネットを使用した情報検索 / レポート下書き作成	
第6回	インターネットを使用した情報検索 / レポート下書き作成	
第7回	実技指導	
第8回	実技指導	
第9回	実技指導	
第10回	実技指導	
第11回	実技指導	
第12回	実技指導	
第13回	実技指導	
第14回	実技指導	
第15回	期末試験対策(実技復習)	
第16回	期末試験・スクーリング終了試験(科目終了試験を兼ねる)	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点 科目終了試験を兼ねる。 持ち込み不可 実技試験
	授業内評価	30点 実技課題の作成状況、内容
	備考	下書き・清書ともWORDを用いて作成すること。手書き不可。

(講義)	科目名:専門研究Ⅲ	講師:内山 世璃奈
科目概要・目標	SDGs AICHI EXPO2023に参加することを目標にまずはSDGsとは何か基礎を学び、自分の身の回りからSDGsの取り組めるものはないか考えて行動をする。自分の取り組みがどのようにSDGsに貢献できているのかをまとめる。	
教科書	配布するプリントを毎回持参すること。	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	SDGsって何?	
第2回	取り組み①(案)	
第3回	取り組み②	
第4回	取り組み③	
第5回	取り組み④	
第6回	取り組み⑤	
第7回	取り組み⑥	
第8回	取り組み⑦	
第9回	取り組み⑧	
第10回	取り組み⑨	
第11回	取り組み⑩(まとめ)	
第12回	取り組み⑪(まとめ)	
第13回	取り組み⑫(まとめ)	
第14回	取り組み⑬(まとめ)	
第15回	SDGs 総まとめ	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点
	授業内評価	30点 ①授業態度 ②下記のことを守れているか
備考	授業には積極的に参加し、理解し考えようとする力・姿勢を身につけてください。 授業中の居眠り、私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁です。 何度も注意しても直らない場合は、受講は認めず退出していただきます。	

(講義)	科目名:教養演習III	講師:室山 俊浩・山田 哲史
科目概要・目標	公務員試験、就職試験対策として、様々な問題演習を行う。	
教科書	適宜プリントを配布する。	
期末試験	後日、告知する。	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション / 問題演習	
第2回	問題演習1-①	
第3回	問題演習1-②	
第4回	問題演習1-③	
第5回	学習課題①	
第6回	学習課題②	
第7回	問題演習2-①	
第8回	問題演習2-②	
第9回	問題演習2-③	
第10回	学習課題③	
第11回	学習課題④	
第12回	問題演習3-①	
第13回	問題演習3-②	
第14回	学習課題⑤	
第15回	問題演習⑥	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点
	授業内評価	30点
備考		

社会福祉学科

心理学コース

4 年生

(講義)	科目名:権利擁護と成年後見	講師: 中嶋 洋
科目概要・目標		
	日常的に何らかの援助を必要とする人々に接することが多い専門職として、鋭い人権感覚を身につけておくことは重要である。相談援助と法(日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む)との関わり、成年後見制度(後見人等の役割を含む)、日常生活自立支援事業について学修する。そして、社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。	
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会『新社会福祉士養成講座19 権利擁護と成年後見制度』中央法規	
提出課題	レポート設題 【設題1】ソーシャルワーカーとして成年後見活動を行う上での留意点について権利擁護の視点から具体的に述べよ。 学修のポイント1 学修のポイント2 学修のポイント3 学修のポイント4 学修のポイント5 学修のポイント6	
期末試験	後日連絡する	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション、相談援助の活動と法	
第2回	日本国憲法、行政法、民法、社会福祉関連法の理解	
第3回	学修のポイント1・3対策(法定後見制度について)	
第4回	レポート対策(社会福祉士、精神保健福祉士)	
第5回	レポート対策(成年後見制度の義務と責任、身上監護とは何か)	
第6回	レポート対策(成年後見制度と成年後見活動)	
第7回	レポート対策(成年後見制度の流れと審判)	
第8回	学修のポイント2対策(任意後見制度について)	
第9回	学修のポイント4対策(成年後見制度の最近の動向と課題)	
第10回	学修のポイント5対策(日常生活自立支援事業について)	
第11回	学修のポイント5・6対策(日常生活自立支援事業と成年後見制度との連携)	
第12回	学修のポイント4対策(成年後見制度の将来展望と他分野との関連)	
第13回	学修のポイント6対策(権利擁護にかかる組織・団体について)	
第14回	学修のポイント6対策(権利擁護にかかる組織・団体について)	
第15回	期末試験	
第16回	科目修了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 後日連絡する。
	提出物	30点 提出物(学修のポイント3本、下書きレポート・清書レポート・課題レポート)の提出状況。
	授業態度	10点 授業態度(私語、居眠り等は厳禁)。
備考	遅刻、欠席、私語、居眠り、スマートフォン使用厳禁。	

(講義)	科目名:福祉行財政と福祉計画		講師: 中嶌 洋		
科目概要・目標	<p>現代の社会福祉サービス支援は国が基本的な政策方針を示すものの、市町村をベースとし、行政担当者とサービス利用者である地域住民及び事業者が参加して計画立案に基づき、実施することが求められている。このことから、社会福祉の法制度の展開や福祉計画との関連、さらに、国と地方自治体との関係、行政の仕組み、財政の仕組みなどについて学ぶ必要がある。また、福祉計画の意義とその技法について学修するとともに、福祉計画の事例を通して計画策定過程、技法を学修する。</p>				
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座10 福祉行財政と福祉計画』中央法規出版、2018年。				
提出課題	レポート設題	【設題1】福祉計画と福祉行財政について述べよ。			
提出課題	学修のポイント1	福祉の法制度の展開について			
提出課題	学修のポイント2	福祉行政の組織について			
提出課題	学修のポイント3	地方自治体の財政と民生費の動向について			
提出課題	学修のポイント4	福祉行政の専門機関及び地域の相談機関について			
提出課題	学修のポイント5	福祉計画について			
提出課題	学修のポイント6	福祉計画における住民参加の方法について			
期末試験	後日連絡する				
回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション、福祉行財政と福祉計画の基礎				
第2回	福祉と制度 福祉を実現する主体と機能、社会福祉の捉え方、社会保障との違いを学修する。				
第3回	福祉の法制度の展開				
第4回	福祉計画の概要				
第5回	行政の骨格と社会福祉の法制度				
第6回	福祉行政の組織(中央及び地方政府を中心に)				
第7回	第1セクター(民間)と第2セクター(行政)の類似点と相違点について学修する。				
第8回	社会福祉基礎構造改革と利用契約制度				
第9回	地方自治体と福祉財政				
第10回	国の財政と社会福祉				
第11回	福祉行政の専門機関と専門職				
第12回	福祉計画の基本的視点				
第13回	福祉計画におけるニーズ把握・評価				
第14回	福祉計画の事例研究の視点と種類				
第15回	期末試験				
第16回	科目終了試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	後日連絡する。		
評業内	提出物	30点	提出物(学修のポイント3本、下書きレポート・清書レポート・課題レポート)の提出状況。		
	授業態度	10点	授業態度(私語、居眠り等は厳禁)。		
備考		遅刻、欠席、私語、居眠り、スマートフォン使用厳禁。			

(講義)	科目名:知覚・認知心理学		講師: 木村 洋太
科 目 概 要 ・ 目 標	認知心理学のうち、注意、パターン認知、作動記憶、長期記憶、思考などの領域に関して理解する。また、認知心理学における実験の計画・実施方法などについて学修し、人の感覚・知覚等のメカニズム及びその障害、人の認知・思考などのメカニズムおよびその障害について理解する。		
教科書	道又爾、『認知心理学―知のアーキテクチャを探る』有斐閣。 文献:森敏昭、他『認知心理学キーワード』有斐閣。御領謙『最新認知心理学への招待』サイエンス社		参考
提出課題	<p>レポート設題 1 短期記憶、長期記憶、作動記憶という用語を用いて、人間の記憶の仕組みとその特徴について述べよ。 <ポイント> まず、人間の持つさまざまな記憶の特徴と役割をまとめた上で、それぞれの記憶の間にどのような関係があるかをまとめること。さらに、人間の記憶がなぜ重要なのか、その意義が考察されるとなお良い。</p> <p>レポート設題 2 人の感覚・知覚などの機序、人の認知・思考の機序について、いずれかを選択して述べよ。</p> <p>学修のポイント1 認知心理学の成立と展開について</p> <p>学修のポイント2 知覚と注意について</p> <p>学修のポイント3 知識と表象について</p> <p>学修のポイント4 長期記憶の特徴について</p> <p>学修のポイント5 概念と言語について</p> <p>学修のポイント6 問題解決と推論の過程について</p>		
期末試験	詳細は後日に決定する		
回数	授業内容		
第1回	認知心理学の成立と展開について 認知心理学の誕生の経緯		
第2回	認知心理学の成立と展開について その後の発展について		
第3回	記憶の分類について 1 長期記憶の種類と記憶に影響を与える所要因について 記録方略含む		
第4回	記憶の分類について 2 短期記憶と作動記憶の違い 二重貯蔵モデルと系列位置効果		
第5回	記憶の忘却と健忘		
第6回	注意のメカニズムについて		
第7回	感覚・知覚のメカニズムについて 1 物体知覚		
第8回	感覚・知覚のメカニズムについて 2 立体知覚		
第9回	感覚・知覚のメカニズムについて 3 色知覚と感覚統合		
第10回	スキーマの定義と構造、知識と表象について		
第11回	認知心理学: 思考のクセについて、バイアスの理解		
第12回	認知心理学: 問題解決		
第13回	認知心理学: 推論		
第14回	表象と概念・知識の構造について		
第15回	期末試験		
第16回	科目終了試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	25点	論述式。持ち込み可。
	授業内評価	45点	授業態度、レポート課題への取り組み(期限厳守、添削からの修正努力)などを総合的に評価す
	備考	認知には、見たり聞いたりといった感じで知覚する領域と、取り入れた情報を覚え、知識にしたり、それを使って考えたりする領域に別れます。当たり前過ぎたり、目に見えないためにとっつきにくいですが、私たちの思考がどのように生まれるのか深く考えるきっかけにして下さい。	

(講義)	科目名:神経・生理心理学	講師: 橋井大輔
科目概要・目標		
		生理心理学は心理学と生理学にまたがる学問領域である。心を直接観察することができないが、それに関連した生理的活動は観察可能であり、生理心理学においては心理的機能と生理的機能の対応関係が研究されている。この科目では、そのような生理学的变化を支える脳の働きを中心に据えながら、心理的機能と生理的機能の関係性についての知見を学修し、脳神経系の構造及び機能、記憶、感情等の生理学的反応の機序、高次脳機能障害の概要を理解する。
教科書		『生理心理学—脳のはたらきから見た心の世界』 サイエンス社
提出課題		レポート設題 【設題1】生理心理学の観点から見た向精神薬の働きについて述べよ。 学修のポイント1 生理心理学の研究方法について 学修のポイント2 人間の脳の構造と神経細胞の情報伝達について 学修のポイント3 視知覚の神経機構について 学修のポイント4 学習・記憶に関する神經生理学的背景について 学修のポイント5 心理・精神の疾患と脳機能について 学修のポイント6 情動の生理機構と情動が精神的・身体的健康に及ぼす影響について
期末試験		後日発表
回数		
第1回		
生理心理学とは、生理心理学の研究方法(学習ポイント①)		
第2回		
人間の脳の構造と神経細胞の伝達について(学習ポイント②)		
第3回		
心理・精神の疾患と脳機能について(学習ポイント⑤, レポート)		
第4回		
第5回		
第6回		
生理心理学の観点から見た向精神薬の働きについて(レポート)		
第7回		
第8回		
情動の生理機構と情動が精神的・身体的健康に及ぼす影響について(学習ポイント⑥)		
第9回		
第10回		
演習 脈拍、心拍の測定を通じて、感情と自律神経の関係を探る		
第11回		
視知覚の神経機構について(学習ポイント③)		
第12回		
学習・記憶に関する神經生理学的背景について(学習ポイント④)		
第13回		
第14回		
まとめ		
第15回		
期末試験		
第16回		
科目終了試験		
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 後日連絡する
		20点 提出物による評価
		20点 受講態度による評価
備考		緊張したときに心臓の鼓動が速くなるというようなことを誰しもが体験すると思います。生理心理学はこのような心と体の関係を探る学問です。

(講義)	科目名:感情・人格心理学	講師: 橋本 景子
科目概要・目標		<p>感情・人格心理学とは、個人の内側から人間の行動の法則をみようとするものである。なお、人格とは、性格とほぼ同じ意味で用いられるが、態度、興味、価値観並びに知的理窟度などを含んだ全体的な特徴を指す。ここでは人格と性格とを分けない考え方に対し、様々な観点から人格の特徴を明らかにしていく。</p> <p>本科目では、人間とは何か、人間の本質を理解し、自己理解だけでなく、他者を理解し、人を見る目を養成することが目標である。人を見るときに、様々なバイアスがかかるが、それがなぜかということを理解し、説明できるようになることも学修目標の一つである。具体的には以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 性格とは何か、その研究史からも理解できる。 2. 性格に関する諸理論が分かり、多面的に人の行動を見ることができる。 3. 性格の診断の仕方が理解できる。 4. 性格の形成のされ方が分かる。 5. 性格の正常・異常について様々な観点から理解できる。 6. 感情に関する理論を理解し、感情喚起の機序並びに感情の行動への影響について説明できる。 <p>(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、臨床心理士として、中学校、高等学校、市役所等でカウンセリングを行ってきた講師のもと、業務を通じた実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。</p>
教科書		『性格心理学への招待(改訂版)』 詫摩武俊、他 サイエンス出版
提出課題		<p>レポート課題</p> <p>【設題1】精神分析における人格理論について述べよ。 (ポイント)次のものを必ずキーワードとして考えること。①精神分析での心の発達、②心的構造論、③防衛機制論、④コンプレックス論</p>
学修のポイント		<p>1. 類型論を1つ挙げ説明せよ。</p> <p>2. 特性論とはどのようなものか説明せよ。</p> <p>3. 人格の歪みと適応障害について述べよ。</p> <p>4. 人格研究法としての観察法について述べよ。</p> <p>5. 人格はいかに形成されるか述べよ。</p> <p>6. 自己概念と適応との関係について述べよ。</p>
期末試験		後日指示
授業内容		
回数		
第1回	性格の定義・性格の研究史	
第2回	性格の諸理論(1)	
第3回	性格の諸理論(2)	
第4回	性格理解の方法【P.4】	
第5回	性格の類型論・特性論【P.1・2】	
第6回	性格の発達【P.5】	
第7回	人間のライフサイクル	
第8回	家族関係と性格	
第9回	人間関係と性格	
第10回	コミュニケーションに現れる性格【P.3】	
第11回	適性とは何か	
第12回	問題行動と性格	
第13回	性格の正常・異常【P.6】	
第14回	文化とパーソナリティ	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする
	期末試験	40点
	授業内評価	10点 授業への取り組み(発表等)
		20点 期限内提出(4本の提出があるので期限内提出者には+5点)
備考		「学習のポイント」の提出日は、授業で行った翌週となります。

(演習)	科目名:心理学研究演習 I	講師: 橋本 景子
科目概要・目標	<p>心理学は人間の心や行動を科学的に研究し、人間を幸せにする学問である。そこで、人間の心理と行動をどのように調べるか、診断するか、具体的に人間はどのような時にどのような行動をとるのか、日常生活の中での具体例を調べてみる。</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、臨床心理士として、中学校、高等学校、市役所等でカウンセリングを行ってきた講師の下、業務を通した実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。</p>	
教科書	森正義彦 編著 『心理学の切り口』 培風館	
期末試験	後日指示	
回数	授業内容	
第1回	無気力をもたらすものは何か?	
第2回	制御能力を高める学習の進め方	
第3回	外向性・内向性で何がわかるか?	
第4回	オオカミ少女は本物か	
第5回	気になる子どもの正体	
第6回	なぜ漢字の「ど忘れ」は起こるのか	
第7回	なぜ大金を振り込んでしまうのか	
第8回	なぜ虐待をしてしまうのか	
第9回	なぜ「うつ状態」になり死を急ぐのか	
第10回	心と身体の健康を考える	
第11回	人を見る目を養う	
第12回	因果関係を確認する	
第13回	見えないものを数字で表す	
第14回	よい意思決定について考える	
第15回	まとめ	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	50点
	授業内評価	20点 授業への取り組み(発言、発表などを含む)
備考	後期の「研究」に繋げるため、様々な世の中の出来事など、ビデオを通して広い知識を心理学コースのみなさんには吸収し、視野を広げていって欲しいと思います。	

(講義)	科目名:発達相談		講師: 木村 洋太		
科 目 概 要 ・ 目 標					
		乳幼児期における子育ての問題、発達障害の問題、いじめや不登校(園)、キレる・むかつく子どもの問題など、現代の親がかかえる様々な子育て上の問題について考察するとともに、育児に悩む親への相談技法についてカウンセリング技法をベースに学修する。			
教科書		平山諭、他『発達の臨床からみた心の教育相談』ミネルヴァ書房。 参考文献:川畠隆、他『発達相談と援助』ミネルヴァ書房。大日向雅美『育児不安』日本評論社。柏木恵子『子育て支援を考える』岩波書店。			
提出課題		【設題1】乳幼児の子育てをしている親の心理をベースとして、その支援について述べよ。<ポイント> ①エリクソンのライフサイクルの考え方から乳幼児並びに親の心理について ②子育て支援とは何かについて			
学修のポイント1		乳幼児におこりやすい心の問題について取り上げ、対応策を説明せよ。			
学修のポイント2		不登校のタイプと対応について			
学修のポイント3		親が抱える育児不安はなぜもたらされるのかについて			
学修のポイント4		乱暴な子どもへの対応について			
学修のポイント5		問題を抱える親子のアセスメントとは何か。またその留意点も併せて述べよ。			
学修のポイント6		発達障害とはいかなる障害かその特徴について述べよ。			
期末試験		詳細は後日に決定する			
回数					
授業内容					
第1回		子どもの発達の特徴（1）：乳児期から幼児期の発達について知る 一エリクソンの理論と照らし合わせながら			
第2回		育児をする保護者の心理と子育て支援について考える			
第3回		子育て家庭をとりまく現状、育児不安についての理解			
第4回		子どもの心の問題とその対応について1-1：主に習癖問題から（指しゃぶり、夜泣き、などなど）			
第5回		子どもの心の問題とその対応について1-2：主に神経症的問題から（吃音、チック、場面緘默、などなど）			
第6回		子どもの心の問題まとめとレポート作成			
第7回		子どもの心の問題とその対応について 2：主に神経症的問題から（うつ、PTSD、自傷行為、自殺などなど）			
第8回		子どもの心の問題とその対応について 3：主に反社会的行為について考える。			
第9回		気になる保護者についての理解			
第10回		愛着の形成について			
第11回		発達障害の理解（1）学習障害について ADHDについて			
第12回		発達障害の理解（2）自閉症スペクトラムについて			
第13回		子どもの理解と合理的配慮について			
第14回		子どもの発達と相談：子どもの心を的確に捉え、親の心理状況を的確に捉えるために、その方法や心理検査についても学ぶ。			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	25点	論述式。持ち込み可。		
	授業内評価	45点	授業態度、レポート課題への取り組み(期限厳守、添削からの修正努力)などを総合的に評価す		
備考		子どもでも保護者でも、人の相談にのるというのは、何か特別な対応ができるようになると考えがちですが、何よりもその人を理解するというのが前提です。紙面の文章だけではわからない子どもの姿を提供できるような授業ができればと思います。			

(講義)	科目名:社会福祉学概論	講師: 佐橋寿実
科目概要・目標	私たちが生きている社会について、それがあるがままに観察し、その仕組みについて分析するのが社会学である。また、社会学からは様々な社会問題が提起されている。この科目では社会学の考え方やその対象、社会問題等について幅広く学修する。	
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編『新社会福祉士養成講座3 社会理論と社会システム』中央法規出版。	
提出課題	<p>レポート設題 産業化とそれによる社会の変化について述べよ。</p> <p>学修のポイント1 社会変動の要因について</p> <p>学修のポイント2 家族の構造と機能について</p> <p>学修のポイント3 社会システムについて</p> <p>学修のポイント4 少子高齢化の要因と社会への影響について</p> <p>学修のポイント5 社会集団とその分類について</p> <p>学修のポイント6 社会学成立の時代的背景について</p>	
期末試験	後日発表する	
回数	授業内容	
第1回	社会学とは	
第2回	日常生活と相互行為(1)概念	
第3回	日常生活と相互行為(2)実践	
第4回	社会生活と社会集団(1)自己の形成の場としての社会集団	
第5回	社会生活と社会集団(2)社会集団の類型	
第6回	現代家族の変容と課題	
第7回	社会構成とは	
第8回	社会変動とは	
第9回	レポート作成日	
第10回	組織と官僚制	
第11回	社会システム	
第12回	都市化と地域社会	
第13回	社会問題の社会学	
第14回	情報化社会	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	35点 持ち込み可。論述式。
		20点 提出物(学修のポイント3本、下書きレポート1本)期限厳守。遅れた場合は減点。
	授業内評価	15点 授業態度(態度、発言、コメントシートへの記入、グループワークの様子などから判断する)
	備考	

(実技)	科目名:情報処理演習Ⅱ	講師: 室山俊浩
科目概要・目標	<p>情報処理演習Ⅰの内容は、情報の利用者側(受け手)の観点の内容が主であったが、本講義は、情報の作成、加工、発信に関する内容を取り扱う。</p> <p>マルチメディア情報の作成や、Web技術等は、現代社会の様々な局面で必要とされており、かつ、一部の専門家が、これを担うのではなく、広く一般の人々が行うようになってきている。講義では、実習を通して、情報発信者、あるいはコンテンツの作成者としての基礎的な素養を身に付ける。</p>	
教科書	奥村晴彦、他『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社	
提出課題	<p>【設題1】情報化社会におけるコンピュータについて述べ、今後の電子メディアについて述べよ</p> <p>【設題2】インターネット時代のセキュリティについて、具体的な例を挙げて、自由に論じよ</p>	
期末試験	実技試験（科目終了試験を兼ねる）	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション / レポート対策 設題1「情報化社会と電子メディアの今後」	
第2回	インターネットを使用した情報検索 / レポート下書き作成	
第3回	インターネットを使用した情報検索 / レポート下書き作成	
第4回	レポート対策 設題2「インターネットのセキュリティ」 / レポート下書き作成	
第5回	インターネットを使用した情報検索 / レポート下書き作成	
第6回	インターネットを使用した情報検索 / レポート下書き作成	
第7回	実技指導	
第8回	実技指導	
第9回	実技指導	
第10回	実技指導	
第11回	実技指導	
第12回	実技指導	
第13回	実技指導	
第14回	実技指導	
第15回	期末試験対策(実技復習)	
第16回	期末試験・スクーリング終了試験(科目終了試験を兼ねる)	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点 科目終了試験を兼ねる。 持ち込み不可 実技試験
		30点 実技課題の作成状況、内容
	授業内評価	
備考	下書き・清書ともWORDを用いて作成すること。手書き不可。	

(講義)	科目名:専門研究Ⅲ	講師:内山 世璃奈
科目概要・目標	SDGs AICHI EXPO2023に参加することを目標にまずはSDGsとは何か基礎を学び、自分の身の回りからSDGsの取り組めるものはないか考えて行動をする。自分の取り組みがどのようにSDGsに貢献できているのかをまとめる。	
教科書	配布するプリントを毎回持参すること。	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	SDGsって何?	
第2回	取り組み①(案)	
第3回	取り組み②	
第4回	取り組み③	
第5回	取り組み④	
第6回	取り組み⑤	
第7回	取り組み⑥	
第8回	取り組み⑦	
第9回	取り組み⑧	
第10回	取り組み⑨	
第11回	取り組み⑩(まとめ)	
第12回	取り組み⑪(まとめ)	
第13回	取り組み⑫(まとめ)	
第14回	取り組み⑬(まとめ)	
第15回	SDGs 総まとめ	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点
	授業内評価	30点 ①授業態度 ②下記のことを守れているか
備考	授業には積極的に参加し、理解し考えようとする力・姿勢を身につけてください。 授業中の居眠り、私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁です。 何度も注意しても直らない場合は、受講は認めず退出していただきます。	

(講義)	科目名:教養演習Ⅲ	講師:室山 俊浩・山田 哲史
科目概要・目標	公務員試験、就職試験対策として、様々な問題演習を行う。	
教科書	適宜プリントを配布する。	
期末試験	後日、告知する。	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション / 問題演習	
第2回	問題演習1-①	
第3回	問題演習1-②	
第4回	問題演習1-③	
第5回	学習課題①	
第6回	学習課題②	
第7回	問題演習2-①	
第8回	問題演習2-②	
第9回	問題演習2-③	
第10回	学習課題③	
第11回	学習課題④	
第12回	問題演習3-①	
第13回	問題演習3-②	
第14回	学習課題⑤	
第15回	問題演習⑥	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点
	授業内評価	30点
備考		

(講義)	科目名:福祉教養演習Ⅲ(共通)		講師 : 堀田 利恵
科目概要・目標	本科目は、精神保健福祉士国家試験に合格することを目標とする。共通科目を実施する。		
教科書	○曜日の大学・国試対策で模擬問題集を購入しますが、ここでは過去問題集と配布資料を中心使うので、忘れないで持参してください。 ノートも持参すると良い。		
回数	授業内容		
第1回	人体の構造と機能及び疾病①		
第2回	人体の構造と機能及び疾病②		
第3回	人体の構造と機能及び疾病③		
第4回	人体の構造と機能及び疾病④		
第5回	人体の構造と機能及び疾病・確認テスト		
第6回	心理学理論と心理的支援①		
第7回	心理学理論と心理的支援②		
第8回	心理学理論と心理的支援③		
第9回	心理学理論と心理的支援④		
第10回	心理学理論と心理的支援・確認テスト		
第11回	障害者に対する支援と障害者自立支援制度①		
第12回	障害者に対する支援と障害者自立支援制度②		
第13回	障害者に対する支援と障害者自立支援制度③		
第14回	障害者に対する支援と障害者自立支援制度④		
第15回	障害者に対する支援と障害者自立支援制度・確認テスト		
第16回	期末試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点	前期末試験
		20点	積極的な授業への関与や発言を評価する。
	授業内評価	20点	確認テスト
備考	講義→暗記（自宅学習）→確認テスト→合格点に達しない場合は再テスト。この流れで授業を実施する。		

(講義)	科目名:福祉教養演習IV(専門)	講師 : 堀田 利恵
科目概要・目標	本科目は、精神保健福祉士国家試験に合格することを目標とする。専門科目を実施する。	
教科書	大学・国試対策で模擬問題集を購入しますが、ここでは過去問題集と配布資料を中心に使うので、忘れないで持参してください。 ノートも持参すると良い。	
回数	授業内容	
第1回	精神疾患とその治療①	
第2回	精神疾患とその治療②	
第3回	精神疾患とその治療③	
第4回	精神保健の課題と支援①	
第5回	精神保健の課題と支援②	
第6回	精神保健の課題と支援③	
第7回	精神疾患とその治療、精神保健の課題と支援 各確認テスト	
第8回	精神保健福祉相談援助の基盤①	
第9回	精神保健福祉相談援助の基盤②	
第10回	精神保健福祉相談援助の基盤③	
第11回	精神保健福祉の理論と相談援助の展開①	
第12回	精神保健福祉の理論と相談援助の展開②	
第13回	精神保健福祉の理論と相談援助の展開③	
第14回	精神保健福祉の理論と相談援助の展開④(残り⑤⑥事例は後期へ)	
第15回	精神保健福祉相談援助の基盤、精神保健福祉の理論と相談援助の展開 各確認テスト	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 前期末試験
		20点 積極的な授業への関与や発言を評価する。
	授業内評価	20点 確認テスト
備考	講義→暗記(自宅学習)→確認テスト→合格点に達しない場合は再テスト。この流れで授業を実施する。	

(講義)	科目名:リハビリテーション論	講師: 吉田真二															
科目概要・目標	<p>リハビリテーションは障害者への総合的対策・技術であり、身体的のみならず、精神的、社会的、経済的、職業的に可能な限りの回復を図る援助過程である。その意味では、障害者の基本的人権の具体化をめざす総合的援助体系であるともいえる。本科目では、医学的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、社会的リハビリテーションの理論と実践をバランスよく学ぶことで、総合的な援助体系としてのリハビリテーションの本質についての理解を深める。</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、病院で社会福祉士・理学療法士として、高齢者や障害を抱える患者の相談支援やリハビリにあたっている講師のもと、具体的な支援の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>																
教科書	浅野大喜『リハビリテーションテキスト 人間発達学』メジカルビュー社																
提出課題	<table border="1"> <tr><td>レポート設題</td><td>【設題1】リハビリテーションの理念について述べよ。</td></tr> <tr><td>学修のポイント1</td><td>職業リハビリテーションについて</td></tr> <tr><td>学修のポイント2</td><td>社会リハビリテーションについて</td></tr> <tr><td>学修のポイント3</td><td>地域リハビリテーションについて</td></tr> <tr><td>学修のポイント4</td><td>リハビリテーションの専門機関と専門職について</td></tr> <tr><td>学修のポイント5</td><td>教育リハビリテーションについて</td></tr> <tr><td>学修のポイント6</td><td>社会福祉とリハビリテーションについて</td></tr> </table>		レポート設題	【設題1】リハビリテーションの理念について述べよ。	学修のポイント1	職業リハビリテーションについて	学修のポイント2	社会リハビリテーションについて	学修のポイント3	地域リハビリテーションについて	学修のポイント4	リハビリテーションの専門機関と専門職について	学修のポイント5	教育リハビリテーションについて	学修のポイント6	社会福祉とリハビリテーションについて	
レポート設題	【設題1】リハビリテーションの理念について述べよ。																
学修のポイント1	職業リハビリテーションについて																
学修のポイント2	社会リハビリテーションについて																
学修のポイント3	地域リハビリテーションについて																
学修のポイント4	リハビリテーションの専門機関と専門職について																
学修のポイント5	教育リハビリテーションについて																
学修のポイント6	社会福祉とリハビリテーションについて																
期末試験	後日発表																
回数	授業内容																
第1回	オリエンテーション																
第2回	リハビリテーションの理念①																
第3回	リハビリテーションの理念②																
第4回	リハビリテーションの理念のまとめ																
第5回	レポート作成																
第6回	ICF(国際生活機能分類)とリハビリテーション・アプローチ																
第7回	リハビリテーション医学・医療																
第8回	社会福祉とリハビリテーション①																
第9回	社会福祉とリハビリテーション②																
第10回	学修ポイント⑥作成																
第11回	社会リハビリテーション①																
第12回	社会リハビリテーション②																
第13回	学修ポイント⑦作成																
第14回	まとめ																
第15回	期末試験																
第16回	科目終了試験																
成績評価	<table border="1"> <tr><td>出席率</td><td>30点</td><td>75%以上の出席を必須とする。</td></tr> <tr><td>期末試験</td><td>30点</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>20点</td><td>授業態度</td></tr> <tr><td>授業内評価</td><td>20点</td><td>学修のポイントにおける2回の提出課題の提出状況と内容を評価する。</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>		出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	期末試験	30点			20点	授業態度	授業内評価	20点	学修のポイントにおける2回の提出課題の提出状況と内容を評価する。			
出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。															
期末試験	30点																
	20点	授業態度															
授業内評価	20点	学修のポイントにおける2回の提出課題の提出状況と内容を評価する。															
備考	当科目はオンラインによる集中講義です。日程・時限にご注意ください。																

社会福祉学科

保育児童福祉コース

4年生

(講義)	科目名:子ども家庭支援論	講師: 定行加保里
科 目 概 要 ・ 目 標		
		子育て家庭に対する支援の意義と役割について理解し、保育士の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について、子どもの育ちの喜びを保護者と共有することや保護者自身の子育て実践力の向上に資する支援の重要性、保育士に求められる倫理観や受容的共感的関わりの在り方などについて習得する。さらに、社会資源の活用や関係諸機関との連携、子育て家庭のニーズに応じた様々な支援の展開、近年の子育て支援の体制や施策についても理解を深める。これらの学習を通じて、保育の現場で働く者が「家庭」を理解し、子どもの生活環境や生活状況の多様性を理解しつつ、子どもの最善の利益を尊重した柔軟な支援を行っていける力を養う。
	教科書	【教科書】松原康夫、他『子ども家庭支援論』中央法規
	レポート設題 1	【設題1】子ども家庭支援の背景と意義及び支援内容について述べよ。 【ポイント】子ども家庭支援がなぜ必要になってきたのか、①その社会的背景について説明する。また、②その意義と構造③具体的な支援内容について説明を行う。
提 出 課 題	学修のポイント1	1.子ども・子育て関連3法について
	学修のポイント2	2.子育て家庭の福祉を図るための社会資源について
	学修のポイント3	3.保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義について
	学修のポイント4	4.子どもの育ちの喜びの共有について
	学修のポイント5	5.子ども家庭支援 の対象と内容について
	学修のポイント6	6.要保護児童及びその家庭に対する支援について
	期末試験	授業内で発表
	回数	授業内容
	第1回	☆子どもの育ちの喜びの共有について(学修のポイント4)
	第2回	☆子ども家庭支援の内容と対象(学修のポイント5)
	第3回	☆要保護児童及びその家庭に対する支援について(学修のポイント6)
	第4回	子ども家庭支援の意義と必要性
	第5回	子ども家庭支援の目的と機能
	第6回	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義(学修のポイント3)
	第7回	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援
	第8回	保育士に求められる基本的態度
	第9回	次世代育成支援施策の推進(学修のポイント1)
	第10回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源について(学修のポイント2)
	第11回	家庭の状況に応じた支援
	第12回	保育所などを利用する子どもの家庭への支援
	第13回	地域資源の活用・地域の子育て家庭への支援
	第14回	まとめ・子育て支援に関する課題と展望
	第15回	期末試験
	第16回	科目終了試験
成 績 評 価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	20点 論点を正しく捉えているか。
	授業内評価	30点 学修への参加・授業態度
		20点 提出期限等
	備考	子ども家庭支援のための具体的なプログラムも考えてみましょう

(実技)	科目名:音楽実践演習	講師: 樋上 莊一
科目概要・目標	<p>「音楽」で学んだ基本的な音楽理論'（楽典、和声法）、鍵盤楽器の基本的奏法を駆使して、より実践力を高めるための演習を行う。「音楽」では、演奏するために必要な知識や技術を実践を通して学ぶが、「音楽実践演習」ではさらに発展的に様々な曲を学ぶことで技術を確かなものにする。さらに読譜力を養うと同時に歌を歌うための発声法を学ぶ。「音楽Ⅱ」で学ぶリズム活動など、保育現場での音楽活動に関わる演奏に発展する保育実践に焦点を当てた演奏力を身に着ける。</p>	
教科書	<p>・新 保育者、小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門 ・保育児童福祉要説 ・「標準バイエルピアノ教則本」 ・プリント(授業で配布)</p>	
提出課題	<p>レポート設題</p> <p>【設題1】日本の音楽教育において、明治以降『音楽』が取り入れられ発展してきた過程を、具体的な曲名と作曲者、作詞者について取り上げながら記述せよ。 <ポイント> 日本古来より伝承されてきたわらべ歌ではなく、明治以降西洋の子供の歌に日本の詩をあてはめたものや、西洋音楽理論に則って作られてきたいわゆる唱歌と称される局の特徴と変遷を、実際に曲を取り上げ、作詞者、作曲者に言及しながら考察する。</p> <p>【コードについて】<ポイント></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コードとは何か、なぜコードネームについて学習するのか。 2. コードネーム(メジャーコードとマイナーコード)とその転回形について。 3. 子供の歌のメロディーにコードを付けてみる。 	
設題	中間テスト	メロディーが書かれた五線譜譜に、コード伴奏を記入する。
	期末テスト	コードネームについて (記述式) コード伴奏での弾き歌い。(1曲)
回数	授業内容と、練習及び合格目標	
第1回	*ガイダンス (楽器の扱い方、授業の進め方の確認) *バイエル・幼児歌曲を中心に、練習	
第2回	*バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する	
第3回	*同上／音楽実践演習：学習のポイント ①コードとは何か、なぜコードネームについて学習するのか	
第4回	*同上／音楽実践演習：学修のポイント ②コードネームとその転回形について	
第5回	*同上／音楽実践演習：学修のポイント ③子供の歌のメロディーにコードをつけてみる	
第6回	* 中間テスト： 伴奏付け(メロディーが書かれた五線譜に、コード伴奏を記入する。)	
第7回	* 同上／音楽実践演習：レポート／日本の学校教育において、明治以降『音楽』が取り入れられ…	
第8回	* 同上／音楽実践演習：レポート／日本の学校教育において、明治以降『音楽』が取り入れられ…	
第9回	*バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する	
第10回	*バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する	
第11回	*期末テスト I：伴奏付け (コード伴奏による弾き歌い)	
第12回	*バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する	
第13回	*バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する	
第14回	*同上／音楽実践演習：学修のポイント ②コードネームとその転回形について	
第15回	*同上／音楽実践演習：学修のポイント ③子供の歌のメロディーにコードをつけてみる	
第16回	*期末テスト II：コードとは何か／伴奏付け(コード伴奏による弾き歌い)	
成績評価	出席率	30点 75% 以上出席すること。出席不足の場合は再履修とする。
	レポート	20点 下書きにおいて評価する
	中間テスト	20点 コード伴奏付け(記譜)
	期末テスト	30点 コードとは何か／コード伴奏による弾き歌い (1曲)
	備考	

(実技)	科目名:音楽実技III	講師: 樋上 莊一	
科目概要・目標	1. 「音楽 I・II」で習得した音楽理論や、音楽表現における基礎技能をさらに磨き、音楽教育を実践する上で必要とされる、音楽の知識・技能を、習熟させる。幼児歌曲の弾き歌いを中心いて授業を進める。 2. 別紙の幼児歌曲のリストの中から(一部例外は認める。)、前期のテストで演奏しなかった曲目を練習する。 3. ピアノは、バイエル(備考を参照)・ツェルニー・ソナチネなどの中から、各自の力に応じた曲目を練習する。		
教科書・資料	*標準バイエルピアノ教則本 *こどものうた名曲アルバム		
設題	中間テスト 備考:バイエルの曲目は、下記 備考欄から、また、幼児歌曲は原則として幼児歌曲リストの中から、選択する。	中間テスト 第1回 第2回 期末試験	
期末試験			
回数	授業内容と、練習及び合格目標		
第1回	*ガイダンス(楽器の扱い方、授業の進め方の確認) *バイエル・幼児歌曲を中心に、練習		
第2回	*バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する		
第3回	*バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する		
第4回	*バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する		
第5回	*バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する		
第6回	*第1回中間テスト(バイエル・幼児歌曲)		
第7回	*バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する		
第8回	*バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する		
第9回	*バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する		
第10回	*バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する		
第11回	*第2回中間テスト(バイエル・幼児歌曲)		
第12回	*バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する		
第13回	*バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する		
第14回	*バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する		
第15回	*バイエル・幼児歌曲を中心に、各自練習する		
第16回	*期末試験(バイエル・幼児歌曲)		
成績評価	出席率 30点 75% 以上出席すること。出席不足の場合は再履修とする。 中間テスト 30点 15点×2回 A:5点(バイエル), B:10点(幼児歌曲 2曲) 期末テスト 20点 A: 10点 (ピアノ曲・1曲) B : 10点 (幼児歌曲 2曲)		
配点曲	20点 2点×10(幼児歌曲)		
備考	試験課題	バイエル [No.80~82, 88~91, 93, 94, 96~102, 104] 幼児歌曲	

(講義)	科目名:特別ニーズ教育論	講師:花木元司														
科目概要・目標	<p>障害の有無に関わらず特別の教育的ニーズのある児童を理解するために、(1)インクルーシブ教育の理念とシステム構築の具体化の模索、(2)わが国の特別支援教育の理念、制度及び展開、(3)特別支援学校や特別支援学級、通級による指導、地域連携支援などの特別支援教育の各形態の現状と課題、についてそれぞれ講述する。</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、特別支援学校で障害児の教育にあたってきた講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>															
参考文献	<p>【教科書】玉村公二彦、他『新版 キーワードブック 特別支援教育』クリエイツかもがわ。</p> <p>【参考資料】石部元雄・上田征三・高橋実・柳本雄次編 「よくわかる障害児教育」ミネルヴァ書房</p>															
提出課題	<table border="1"> <tr> <td>レポート設題</td><td>【設題1】現代の学校は、発達障害・母国語・貧困などの問題への様々な教育的ニーズに対応しなければならない。現在の学校教育が抱える問題について、インクルーシブ教育の視点から整理し、その解決についてあなたの考える方策を述べよ。</td></tr> <tr> <td>学修のポイント1</td><td>インクルーシブ教育の理念について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント2</td><td>特別支援教育とインクルーシブ教育について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント3</td><td>障害の理解について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント4</td><td>特別支援学校の学習指導要領と教育課程について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント5</td><td>障害児の教育課程について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント6</td><td>特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりについて</td></tr> </table>		レポート設題	【設題1】現代の学校は、発達障害・母国語・貧困などの問題への様々な教育的ニーズに対応しなければならない。現在の学校教育が抱える問題について、インクルーシブ教育の視点から整理し、その解決についてあなたの考える方策を述べよ。	学修のポイント1	インクルーシブ教育の理念について	学修のポイント2	特別支援教育とインクルーシブ教育について	学修のポイント3	障害の理解について	学修のポイント4	特別支援学校の学習指導要領と教育課程について	学修のポイント5	障害児の教育課程について	学修のポイント6	特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりについて
レポート設題	【設題1】現代の学校は、発達障害・母国語・貧困などの問題への様々な教育的ニーズに対応しなければならない。現在の学校教育が抱える問題について、インクルーシブ教育の視点から整理し、その解決についてあなたの考える方策を述べよ。															
学修のポイント1	インクルーシブ教育の理念について															
学修のポイント2	特別支援教育とインクルーシブ教育について															
学修のポイント3	障害の理解について															
学修のポイント4	特別支援学校の学習指導要領と教育課程について															
学修のポイント5	障害児の教育課程について															
学修のポイント6	特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりについて															
期末試験	講義の中で発表する。															
回数	授業内容															
第1回	インクルーシブ教育とは															
第2回	インクルーシブ教育の理念について ポイント①															
第3回	現在の特別支援教育の現状と課題															
第4回	特別支援教育とインクルーシブ教育について ポイント②															
第5回	我が国の障害児教育															
第6回	特別支援教育の歴史															
第7回	障害の理解について 視覚障害・聴覚障害 ポイント③															
第8回	障害の理解について 知的障害・肢体不自由・病弱 ポイント③															
第9回	障害の理解について 重度重複障害児 ポイント③															
第10回	障害の理解について 学習障害(読み書き障害)・ADHD ポイント③															
第11回	障害の理解について 自閉症(ASD) ポイント③															
第12回	特別支援学校の学習指導要領と教育課程について ポイント④															
第13回	障害児の教育課程について ポイント⑤															
第14回	特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり ポイント⑥															
第15回	期末試験															
第16回	科目修了試験															
成績評価	<table border="1"> <tr> <td>出席率</td><td>30点 75%以上の出席を必須とする。</td></tr> <tr> <td>期末試験</td><td>30点 的確に課題の意図を捉えているか</td></tr> <tr> <td></td><td>20点 積極的に授業に臨んだか</td></tr> <tr> <td>授業内評価</td><td>20点 提出物(期限内に提出できたか)</td></tr> </table>		出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。	期末試験	30点 的確に課題の意図を捉えているか		20点 積極的に授業に臨んだか	授業内評価	20点 提出物(期限内に提出できたか)						
出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。															
期末試験	30点 的確に課題の意図を捉えているか															
	20点 積極的に授業に臨んだか															
授業内評価	20点 提出物(期限内に提出できたか)															
備考	講義の内容を理解することのみに終始するのではなく、積極的に障害児・外国人などとのかかわりの機会を持ち、自分の感性で感じ取る努力をすること。															

(講義)	科目名:算数	講師: 松村久美子
科目概要・目標	<p>算数・数学科は、積み重ねの学修があるので、最も習得が難しい教科であることを認識することが必要である。同様に、指導も難しく、指導する段になって初めて、正確で広範な知識習得が必須であることに気づかされる。</p> <p>この科目を学ぶことにより、指導者が必ず習得しておかなければならない①学習指導要領の重点と概要、②算数・数学科の教育内容と教育方法について高い理解に到達し、初等数学の指導にあたるための基礎を習得することができる。</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足)</p> <p>当科目は、小学校での教職経験をもち、大学院では各教科の教育方法を学び、長年障害児療育・学習支援に携わってきた講師のもと、教育現場の実際を踏まえた実践的な知識を学ぶ。</p>	
教科書	<p>①文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説算数編』日本文教出版社 ②土屋修・佐々木隆宏『算数教育の基礎がわかる本』学術図書出版社</p>	
提出課題	<p>レポート設題 【設題1】「学習指導要領」における数学的活動について、導入の経緯とその充実や内容に関して述べよ。 <ポイント>数学的活動を通して、主体的・対話的で深い学びを実現させるためには、どのような点に留意することが必要か考えること。</p> <p>学修のポイント1 第1・2学年での数学的活動を通した学習活動について</p> <p>学修のポイント2 第3～6学年での数学的活動を通した学習活動について</p> <p>学修のポイント3 「数と計算」領域の指導内容について</p> <p>学修のポイント4 「図形」領域の指導内容について</p> <p>学修のポイント5 「測定」(1～3年)、「変化と関係」(4～6年)領域の指導内容について</p> <p>学修のポイント6 「データの活用」領域の指導の内容について</p>	
期末試験	保育・幼児教育あるいは小学校教育で子どもに育てるべき算数力とは	
回数	授業内容	
第1回	算数科の目標①21②10数学的活動とは①23-29	
第2回	数学的活動の導入の経緯 ①71-72	
第3回	第1学年での数学的活動を通した学習活動について①76- 96-101	
第4回	第2学年での数学的活動を通した学習活動について①102- 127-133	
第5回	第3学年での数学的活動を通した学習活動について①134- 172-178	
第6回	第4学年での数学的活動を通した学習内容について①179- 224-231	
第7回	第5学年での数学的活動を通した学習活動について①232- 276-283	
第8回	第6学年での数学的活動を通した学習活動について①284- 314-321	
第9回	学習活動の見解 保②61 70 96 118 161 小②41-107-144-173-203- レポートCまとめ	
第10回	「数と計算」領域の指導内容について	
第11回	↓ ①42-49 ②104-105	
第12回	「図形」領域の指導内容について ①50-56 ②142-143	
第13回	「測定」「変化と対応」領域の指導内容について①61-66 ②200-202	
第14回	「データの活用」領域の活動内容について ①67-71 ②229-230	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点
授業内評価	20点	教科書等の持ち物 提出物の期限遵守
	20点	授業態度 発言・発表
備考	ポイント・レポートでは、指定教科書の内容を理解した上で、教科書の内容を超えた創造的な数学的活動の授業構想がポイント・レポートに書き込まれることを期待します。	

(講義)	科目名: 生活	講師: 小河直子												
科 目 概 要 ・ 目 標	<p>幼児期から児童期へのスムーズな活動の移行を意図して、教科「生活」が設定された。「生活」では、幼児からの連續を踏まえて、具体的な活動や体験を通して自分と身近な環境とのかかわりを大切にしながら実感的に学んで知的な気づきを深めたり、自分自身や自分の生活について考えたり、基本的な生活習慣を身につけたりする。したがって、本科目では、「生活」の趣旨や目標および内容について学ぶ際に、幼児保育との関連を重視する。</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足)</p> <p>当科目は、小学校で教員として学校教育にあたった講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>													
教科書	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 生活編													
レポート設題	【設題1】幼児保育の基本と、教科「生活」の目標や内容との関連や連続について具体的に考察して述べよ。													
【ポイント】	<p>「生活」は子どもの実感を伴った気づきを重視する。したがって、子どもの身近な環境との情緒的なかかわりが学びの第一歩となる。子どもの心と頭と身体活動が一体となった学びの姿を見出すようにすること。</p>													
提出課題	<table border="1"> <tr> <td>学修のポイント1</td><td>教科「生活」の内容と特色について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント2</td><td>目標や内容が2学年まとめて示されることについて</td></tr> <tr> <td>学修のポイント3</td><td>幼児の集団保育と「生活」の基本的な生活習慣を重視する。事の関連について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント4</td><td>幼児の「探検遊び」と「生活」の学習との関連について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント5</td><td>「生活」と他教科等の学習との関連について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント6</td><td>「生活」の特質と気付きの質を高める事の関連について</td></tr> </table>		学修のポイント1	教科「生活」の内容と特色について	学修のポイント2	目標や内容が2学年まとめて示されることについて	学修のポイント3	幼児の集団保育と「生活」の基本的な生活習慣を重視する。事の関連について	学修のポイント4	幼児の「探検遊び」と「生活」の学習との関連について	学修のポイント5	「生活」と他教科等の学習との関連について	学修のポイント6	「生活」の特質と気付きの質を高める事の関連について
学修のポイント1	教科「生活」の内容と特色について													
学修のポイント2	目標や内容が2学年まとめて示されることについて													
学修のポイント3	幼児の集団保育と「生活」の基本的な生活習慣を重視する。事の関連について													
学修のポイント4	幼児の「探検遊び」と「生活」の学習との関連について													
学修のポイント5	「生活」と他教科等の学習との関連について													
学修のポイント6	「生活」の特質と気付きの質を高める事の関連について													
期末試験	後日発表													
回数	授業内容													
第1回	オリエンテーション・シラバス・レポートの課題について理解する。自己紹介ゲームを通して生活の特質を知る。文字を書くことについて													
第2回	生活科の内容の特色について教科目標に触れながら理解する。学修のポイント①文字遊び3層の内容構成を考える													
第3回	幼小の連携の重要性について知り、幼児教育と生活科の共通する点を「生活」内容と特質を踏まえて考察する。													
第4回	スタートカリキュラム2 アサガオの栽培、種の観察と種蒔													
第5回	学修ポイント④なつだあそぼうの单元について													
第6回	学修ポイント⑥幼児の「ごっこ遊び」と「生活」の学習との関連について													
第7回	学修ポイント⑧幼児の「ごっこ遊び」と「生活」学習との関連について													
第8回	スタートカリキュラムの役割生活科の教科書を通して													
第9回	学校探検の役割と意義・自分の成長についての実際について													
第10回	幼児の「ごっこ遊び」と「生活」学習との関連について													
第11回	学修ポイント②目標や内容が2学年まとめて示されることについて													
第12回	学修ポイント⑤生活科と他教科等のつながりについて考える。													
第13回	学校の施設と幼児教育の施設を較べる。振り返りシートをまとめる													
第14回	まとめとテスト対策													
第15回	期末試験													
第16回	科目終了試験													
成績評価	<table border="1"> <tr> <td>出席率</td><td>30点 75%以上の出席を必須とする。</td></tr> <tr> <td>期末試験</td><td>30点 課題意識を持ち分かりやすく論述できたか。</td></tr> <tr> <td>授業内評価</td><td>20点 レポート・学修ポイントの提出期限を守れたか。</td></tr> <tr> <td></td><td>20点 積極的に授業に参加できた。</td></tr> </table>		出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。	期末試験	30点 課題意識を持ち分かりやすく論述できたか。	授業内評価	20点 レポート・学修ポイントの提出期限を守れたか。		20点 積極的に授業に参加できた。				
出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。													
期末試験	30点 課題意識を持ち分かりやすく論述できたか。													
授業内評価	20点 レポート・学修ポイントの提出期限を守れたか。													
	20点 積極的に授業に参加できた。													
備考	実習に必要なハサミのりは常時持ってくる。													

(講義)	科目名:社会福祉学概論		講師: 佐橋寿実
科目概要・目標			
	私たちが生きている社会について、それがあるがままに観察し、その仕組みについて分析するのが社会学である。また、社会学からは様々な社会問題が提起されている。この科目では社会学の考え方やその対象、社会問題等について幅広く学修する。		
提出課題	教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編『新社会福祉士養成講座3 社会理論と社会システム』中央法規出版。	
	レポート設題	産業化とそれによる社会の変化について述べよ。	
	学修のポイント1	社会変動の要因について	
	学修のポイント2	家族の構造と機能について	
	学修のポイント3	社会システムについて	
	学修のポイント4	少子高齢化の要因と社会への影響について	
	学修のポイント5	社会集団とその分類について	
授業内容	学修のポイント6	社会学成立の時代的背景について	
	期末試験	後日発表する	
	回数	授業内容	
	第1回	社会学とは	
	第2回	日常生活と相互行為(1)概念	
	第3回	日常生活と相互行為(2)実践	
	第4回	社会生活と社会集団(1)自己の形成の場としての社会集団	
	第5回	社会生活と社会集団(2)社会集団の類型	
	第6回	現代家族の変容と課題	
	第7回	社会構成とは	
	第8回	社会変動とは	
	第9回	レポート作成日	
	第10回	組織と官僚制	
	第11回	社会システム	
	第12回	都市化と地域社会	
成績評価	第13回	社会問題の社会学	
	第14回	情報化社会	
	第15回	期末試験	
	第16回	科目終了試験	
	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
成績評価	期末試験	35点	持ち込み可。論述式。
	授業内評価	20点	提出物(学修のポイント3本、下書きレポート1本)期限厳守。遅れた場合は減点。
		15点	授業態度(態度、発言、コメントシートへの記入、グループワークの様子などから判断する)
備考			

(実技)	科目名:情報処理演習Ⅱ	講師: 室山俊浩
科 目 概 要 ・ 目 標	<p>情報処理演習Ⅰの内容は、情報の利用者側(受け手)の観点の内容が主であったが、本講義は、情報の作成、加工、発信に関する内容を取り扱う。</p> <p>マルチメディア情報の作成や、Web技術等は、現代社会の様々な局面で必要とされており、かつ、一部の専門家が、これを担うのではなく、広く一般の人々が行うようになってきている。講義では、実習を通して、情報発信者、あるいはコンテンツの作成者としての基礎的な素養を身に付ける。</p>	
教科書	奥村晴彦、他『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社	
提出課題	レポート設題	<p>【設題1】情報化社会におけるコンピュータについて述べ、今後の電子メディアについて述べよ</p> <p>【設題2】インターネット時代のセキュリティについて、具体的な例を挙げて、自由に論じよ</p>
期末試験	実技試験（科目終了試験を兼ねる）	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション / レポート対策 設題1「情報化社会と電子メディアの今後」	
第2回	インターネットを使用した情報検索 / レポート下書き作成	
第3回	インターネットを使用した情報検索 / レポート下書き作成	
第4回	レポート対策 設題2「インターネットのセキュリティ」 / レポート下書き作成	
第5回	インターネットを使用した情報検索 / レポート下書き作成	
第6回	インターネットを使用した情報検索 / レポート下書き作成	
第7回	実技指導	
第8回	実技指導	
第9回	実技指導	
第10回	実技指導	
第11回	実技指導	
第12回	実技指導	
第13回	実技指導	
第14回	実技指導	
第15回	期末試験対策(実技復習)	
第16回	期末試験・スクーリング終了試験(科目終了試験を兼ねる)	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点 科目終了試験を兼ねる。 持ち込み不可 実技試験
	授業内評価	30点 実技課題の作成状況、内容
備考	下書き・清書ともWORDを用いて作成すること。手書き不可。	

(講義)	科目名:専門研究Ⅲ		講師:内山 世璃奈
科目概要・目標	SDGs AICHI EXPO2023に参加することを目標にまずはSDGsとは何か基礎を学び、自分の身の回りからSDGsの取り組めるものはないか考えて行動をする。自分の取り組みがどのようにSDGsに貢献できているのかをまとめる。		
教科書	配布するプリントを毎回持参すること。		
期末試験	後日発表		
回数	授業内容		
第1回	SDGsって何?		
第2回	取り組み①(案)		
第3回	取り組み②		
第4回	取り組み③		
第5回	取り組み④		
第6回	取り組み⑤		
第7回	取り組み⑥		
第8回	取り組み⑦		
第9回	取り組み⑧		
第10回	取り組み⑨		
第11回	取り組み⑩(まとめ)		
第12回	取り組み⑪(まとめ)		
第13回	取り組み⑫(まとめ)		
第14回	取り組み⑬(まとめ)		
第15回	SDGs 総まとめ		
第16回	期末試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点	
	授業内評価	30点	①授業態度 ②下記のことを守れているか
備考	授業には積極的に参加し、理解し考えようとする力・姿勢を身につけてください。 授業中の居眠り、私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁です。 何度も注意しても直らない場合は、受講は認めず退出していただきます。		

(講義)	科目名:教養演習Ⅲ		講師:室山 俊浩・山田 哲史
科目概要・目標	公務員試験、就職試験対策として、様々な問題演習を行う。		
教科書	適宜プリントを配布する。		
期末試験	後日、告知する。		
回数	授業内容		
第1回	オリエンテーション / 問題演習		
第2回	問題演習1-①		
第3回	問題演習1-②		
第4回	問題演習1-③		
第5回	学習課題①		
第6回	学習課題②		
第7回	問題演習2-①		
第8回	問題演習2-②		
第9回	問題演習2-③		
第10回	学習課題③		
第11回	学習課題④		
第12回	問題演習3-①		
第13回	問題演習3-②		
第14回	学習課題⑤		
第15回	問題演習⑥		
第16回	期末試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点	
	授業内評価	30点	
備考			

(講義)	科目名:保育教養演習IV			講師:山田哲史・内山世璃奈
科目概要・目標	保育採用試験は一般的に一般教養科目と専門科目から出題される。保育に関する専門的な知識を有することは、保育士資格を取得する上でも必要なことである。本授業では専門的な知識を習得し、保育者としての専門性を高めるとともに、就職試験に備える。			
教科書	スイスイわかる保育士採用 専門試験 一ツ橋書店			
参考書	これまで使用した保育科目的教科書			
回数	授業内容			
第1回				
第2回	社会的養護 こども家庭福祉			
第3回				
第4回				
第5回				
第6回	社会福祉			
第7回				
第8回				
第9回				
第10回	子どもの保健 子どもの食と栄養			
第11回				
第12回				
第13回				
第14回	子育て家庭支援論 障害児保育			
第15回				
第16回	期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	
	授業内評価	30点	期末試験(持ち込み不可)	
		40点	授業態度・小テスト・忘れ物など	
備考				

教育学科

教育学 ICT コース

1 年生

(講義)	科目名:教師論	講師: 奥村 一成														
科目概要・目標	<p>変化の激しい今日の社会において、学校教育においても様々な課題が生じている。この課題を解決するために、学校教育の主たる担い手である教員の役割が今まで以上に重要になっている。本科目では、教職とは何か、これから教員に求められる資質は何か、教員の仕事と役割はどのようなものか、教員の権利や義務(服務・研修・身分保障などを含む)はどのように規定されているのかなど、教職を志す学生があらかじめ知っておく必要のある事項について考察する。</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>															
教科書	教職問題研究会編『教職論[第2版]』ミネルバ書房															
提出課題	<table border="1"> <tr> <td>レポート課題</td><td>【設題】これからの教員に求められる資質能力について、具体例を挙げて述べよ。</td></tr> <tr> <td>学修のポイント1</td><td>教員は、聖職者か、労働者か、専門職か。</td></tr> <tr> <td>学修のポイント2</td><td>教員の役割と職務内容について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント3</td><td>教員の服務と身分保障について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント4</td><td>教員の研修について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント5</td><td>教員の適性について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント6</td><td>教職をめぐる諸問題について</td></tr> </table>		レポート課題	【設題】これからの教員に求められる資質能力について、具体例を挙げて述べよ。	学修のポイント1	教員は、聖職者か、労働者か、専門職か。	学修のポイント2	教員の役割と職務内容について	学修のポイント3	教員の服務と身分保障について	学修のポイント4	教員の研修について	学修のポイント5	教員の適性について	学修のポイント6	教職をめぐる諸問題について
レポート課題	【設題】これからの教員に求められる資質能力について、具体例を挙げて述べよ。															
学修のポイント1	教員は、聖職者か、労働者か、専門職か。															
学修のポイント2	教員の役割と職務内容について															
学修のポイント3	教員の服務と身分保障について															
学修のポイント4	教員の研修について															
学修のポイント5	教員の適性について															
学修のポイント6	教職をめぐる諸問題について															
期末試験	(授業中に指示します。)															
回数	授業内容															
第1回	教師の歴史と教職観について 学修のポイント1 教員は、聖職者か、労働者か、専門職か。															
第2回	教職制度と教員に求められる資質について①															
第3回	教職制度と教員に求められる資質について②															
第4回	学校を取り巻く環境と教職の課題について①															
第5回	学校を取り巻く環境と教職の課題について② 学修のポイント6 教職をめぐる諸問題について															
第6回	教員の種類と職階について 学修のポイント2 教員の役割と職務内容について															
第7回	学修のポイント3 教員の服務と身分保障について															
第8回	学修のポイント4 教員の研修について															
第9回	教員の法規について															
第10回	学修のポイント5 教員の適性について															
第11回	保護者・地域・関係機関と教員について															
第12回	教育相談・進路指導と教員について															
第13回	学習指導要領について															
第14回	教科指導と教科外指導について 期末試験対策															
第15回	期末試験															
第16回	科目終了試験															
成績評価	<table border="1"> <tr> <td>出席率</td><td>30点</td><td>75%以上の出席を必須とする。</td></tr> <tr> <td>期末試験</td><td>30点</td><td>授業中に指示 持ち込み可 論述式</td></tr> <tr> <td>授業内評価</td><td>提出物</td><td>20点 課題(レポート・学修のポイント) 期日厳守(提出期限に遅れた場合は減点)</td></tr> <tr> <td></td><td>授業態度</td><td>20点 誠実で積極的な授業態度重視</td></tr> </table>		出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	期末試験	30点	授業中に指示 持ち込み可 論述式	授業内評価	提出物	20点 課題(レポート・学修のポイント) 期日厳守(提出期限に遅れた場合は減点)		授業態度	20点 誠実で積極的な授業態度重視		
出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。														
期末試験	30点	授業中に指示 持ち込み可 論述式														
授業内評価	提出物	20点 課題(レポート・学修のポイント) 期日厳守(提出期限に遅れた場合は減点)														
	授業態度	20点 誠実で積極的な授業態度重視														
備考	私語・居眠り厳禁。携帯電話の電源は切っておくこと。授業態度が悪く、改善が認められないときは、不合格とします。															

(講義)	科目名:音楽	講師: 橋上 莊一
科目概要・目標	本科目では、楽譜を読む、音を奏でる、リズムを打つといった音楽の基礎知識、技術を身に着け、対象者に合わせた音楽活動について考察する。また、保育・教育・福祉等の現場に即した音楽活動について体験的な学習をする。	
教科書	・新 保育者、小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門 ・保育児童福祉要説 ・プリント(授業で配布)	
提出課題	レポート設題 【設題1】わらべうた及び明治期、大正期、昭和初期、戦後のそれぞれの時期に作曲されたこどもの歌の中から1~2曲ずつを取り上げ、それらの歌の特徴について、歴史的背景に触れながら述べよ。 <ポイント> 日本古来より伝承されてきたわらべ歌と、明治以降西洋の子供の歌に日本の詩をあてはめたものや、いわゆる唱歌と称される曲の特徴と変遷を、実際に曲を取り上げ、作詞者・作曲家について言及しながら考察する。	
期末試験	設題 : 和音構造と連結方法について	
回数	授業内容	
第1回	*ガイダンス *五線譜の読み方 (五線譜・譜表・音名・音符・休符など) *学修のポイント①	
第2回	*五線譜の読み方②(音符・休符・リズム・拍) *拍子と拍子記号 *学修のポイント②	
第3回	*復習テスト(音符・休符について) *様々な記号と標語	
第4回	*日本古来より伝承されてきたわらべ歌と、明治以降の唱歌について *3200字レポート	
第5回	*日本古来より伝承されてきたわらべ歌と、明治以降の唱歌について② *3200字レポート	
第6回	*音楽史の大きな流れ *バロックの音楽(音楽鑑賞)	
第7回	*古典派の音楽(音楽鑑賞)	
第8回	*ロマン派の音楽(音楽鑑賞)	
第9回	*20世紀の音楽(音楽鑑賞)	
第10回	*さまざまな記号と標語 *音程 *音階と調・調号 *学修のポイント③④⑥	
第11回	*復習テスト(記号と標語)① *音階と調・調号(復習) *移調	
第12回	*さまざまな記号と標語 *和音構造について(和音とコードネーム)① *学修のポイント⑤⑥	
第13回	*復習テスト(記号と標語)② *主要三和音とその連結について *学修のポイント⑤	
第14回	*和音構造と連結方法について (和音とコードネーム)②	
第15回	*主要三和音とその連結について(復習) *期末試験について	
第16回	*期末試験	
成績評価	出席率 30点 75%以上の出席を必須とする。 期末試験 20点 持ち込み: 可(一部プリントのみ) 論述式 レポート 20点 下書きにおいて評価する 提出物 30点 宿題・復習テスト・音楽鑑賞感想	
備考	・忘れ物は減点の対象とする ・授業の進み具合により、内容が変更になることがある。	

(実技)	科目名:音楽実技Ⅰ	講師:樋上 莊一	
科目概要・目標	音楽の基礎的知識を正しく身につけることを目指す。		
	1. 楽譜に関する基本的知識を正確に身につけ、楽譜を読む能力を養う。 2. バイエルを中心として、保育活動に必要なピアノ演奏技能を、初歩から学ぶ。 3. 幼児歌曲の指導能力を身に付けるため、歌うことなど、基礎技能に習熟するための準備を始める。		
教科書・資料 *全訳バイエルピアノ教則本 *新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門			
設題	中間テスト	*楽譜は見てよい	第1回 バイエル No. 14, 18
			第2回 バイエル No. 19 21
			第3回 バイエル No. 24, 26
	期末試験	暗譜演奏	第4回 バイエル No. 27, 31 バイエル(暗譜) No. 35, 37
日時	授業内容と、練習及び合格目標		
第1回	*ガイダンス(楽器の扱い方、授業の進め方、等) *楽譜の読み方と、ピアノの演奏法について *バイエル P. 6, 7 右手練習・左手練習・両手練習(手・指の形・指の動かし方など、大変重要)		
第2回	*バイエル P. 6, 7 右手練習・左手練習・両手練習(手・指の形・指の動かし方など、大変重要) *バイエル No.7 (左右の手が、互いに影響を受けずに、弾けること)		
第3回	*バイエル 10, 14 (No.10は左右の手が、互いに影響を受けずに、弾けること) *バイエル No.14, No.18		
第4回	*第1回中間テスト(バイエル No. 14, 18) *バイエル No. 19		
第5回	*バイエル No.19		
第6回	*バイエル No.21		
第7回	*第2回中間テスト(バイエル No. 19, 21) *バイエル No.24		
第8回	*バイエル No.24, 26		
第9回	*バイエル No.24, 26		
第10回	*第3回中間テスト(バイエル No. 24, 26) *バイエル No.27		
第11回	*バイエル No.27 *幼児歌曲		
第12回	*バイエル No.31 *幼児歌曲		
第13回	*第4回中間テスト (バイエル No.27, 31) *バイエル No.35		
第14回	*期末テスト準備(No. 35, 37) *幼児歌曲		
第15回	*期末テスト準備(No. 35, 37) *幼児歌曲		
第16回	*期末試験[最終授業日] (バイエル No.35, 37)		
成績評価	出席率	30点 75% 以上出席すること。出席不足の場合は再履修とする。	
	中間テスト	20点 4(5-1)点×4	
	期末テスト	10点 8(10-2)点 (バイエル 暗譜)	
	配点曲	(4点×1) バイエル 右・左・両手練習(バイエル・P.6, 7)	
		(3点×12) バイエル 7, 10, 14, 18, 19, 21, 24, 26, 27, 31, 35, 37	
備考	大学スクーリング修了試験課題 : 18, 19, 40, 49, 52		

(実技)	科目名:情報処理基礎演習 I	講師: 高橋直子
科目概要・目標	Wordを使って、文字入力の練習といろいろな文書作成およびグラフィカルな文書を作成できるようにする。	
教科書	なし(毎回授業で使用するプリントを配布する)	
期末試験	実技試験(1枚の文書を作成し保存する。)	
回数	授業内容	
第1回	簡単な文書を作成	
第2回	定型文書の作成	
第3回	レポートや報告書の作成	
第4回	復習	
第5回	表作成の練習	
第6回	表のある文書の作成	
第7回	すこし複雑な表のある文書の作成	
第8回	画像など利用した文書の作成	
第9回	図形など利用した文書の作成	
第10回	簡単な地図のある文書の作成	
第11回	SmartArtなど利用した文書の作成	
第12回	縦書き文書の作成	
第13回	横置き文書の作成	
第14回	復習	
第15回	復習	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点
	授業内評価	30点 毎回授業で行う課題作成などを含めた授業態度
備考	飲食厳禁、私語厳禁、携帯電話などの使用禁止	

(講義)	科目名:ICT基礎 I		講師:室山俊浩・黄賀
科 目 概 要 ・ 目 標	情報系科目を教えるためのコンピュータ・ネットワークに関する基礎的な知識を学ぶ。 その一環として、ITパスポートの取得を目指すためのさまざまな学修を行う。		
教科書	よくわかるマスター 令和4-5年度版 ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集 FOM出版		
期末試験	後日通知する。		
回数	授業内容		
第1回	オリエンテーション 基礎理論		
第2回	基礎理論		
第3回	基礎理論		
第4回	コンピュータシステム		
第5回	コンピュータシステム		
第6回	コンピュータシステム		
第7回	技術要素		
第8回	技術要素		
第9回	企業活動		
第10回	法務		
第11回	経営戦略マネジメント		
第12回	経営戦略マネジメント		
第13回	経営戦略マネジメント		
第14回	技術戦略マネジメント		
第15回	技術戦略マネジメント		
第16回	期末試験		
成 績 評 価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点	
	授業内評価	30点	授業内課題、受講態度など
備考			

(講義)	科目名:心理学概論	講師: 新實 千恵里
科目概要・目標	現代社会が抱える様々な問題を心理学の観点からアプローチできるよう、ここでは心理学全体を見渡すことを目的とする。そこで、心理学とは何か、から始まり、心理学分野を「心の仕組み」、「心の学問を紐解く」、「心のケアと支援」という3つの大きな領域から考え、心理学の成り立ち、人の心の基本的な仕組み及び働きについて学習していく。本科目を学ぶことで、心理学とはどのような学問か、その体系を知ることができ、かつ考え方方が理解できる。	
教科書	社会福祉養成講座編集委員会(編)『新・社会福祉養成講座2心理学理論と心理的支援第3版』 中央法規 2018	
提出課題	<p>レポート設題</p> <p>【設題1】人格形成に及ぼす環境要因について述べよ</p> <p>【設題2】各発達段階の特徴について述べよ。</p>	
学修のポイント1	人格の諸理論について述べよ。	
学修のポイント2	人間の感覚・知覚・認知の特質について述べよ。	
学修のポイント3	人間の発達課題について述べよ。	
学修のポイント4	心理的アセスメント(見立て)について述べよ。	
学修のポイント5	対人関係の発展について述べよ。	
学修のポイント6	心理療法について述べよ。	
期末試験	論述試験(ノート持ち込み可・教科書可)	
回数	授業内容	
第1回	シラバス説明、レポート構成説明 心理学の歴史、発達の定義、発達段階	
第2回	人間の発達課題:発達課題、認知発達理論	
第3回	人間の発達課題:新生児期～老年期	
第4回	人間の感覚・知覚・認知の特質:基礎的な情報処理	
第5回	下書きレポート作成	
第6回	人格の諸理論:類型論と特性論	
第7回	人格の諸理論:心理検査におけるアセスメント	
第8回	心理的アセスメント:心理テストによる見立て	
第9回	対人関係の発展:対人認知、集団	
第10回	対人関係の発展:コミュニケーション	
第11回	対人関係の発展:欲求と動機付け	
第12回	学修レポート作成	
第13回	心理療法:心理療法の諸理論	
第14回	期末試験対策／科目終了試験対策	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。欠席1回事に-2点、遅刻-1点
	期末試験	30点 表記・文字数:10点 文章構成・論理展開:10点 内容・創造性:10点
		21点 提出物:7つそれぞれの締め日を過ぎた場合、1つあたり-3点
	授業内評価	19点 授業態度:グループワーク、個人ワークの積極的参加、その他態度
	備考	

(講義)	科目名: 文章表現	講師: 仁井田 和也																														
科目概要・目標	<p>通信教育では、レポートを書くための表現力が要求される。本科目では、レポート作成に必要な「書く」技術の基礎訓練を行う。したがって、目標とされるのは、簡潔で明快な表現法である。</p> <p>文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ・わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習していく。</p>																															
教科書	古郡延治『論文・レポートの文章作法』有斐閣新書																															
提出課題	<table border="1"> <tr> <td>レポート設題</td> <td>社福・心理</td> <td>高齢者の介護は誰が担うべきか述べよ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>保育</td> <td>良い教師と悪い教師について述べよ。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>教育</td> <td>学校教育における「生きる力」の育成について述べよ。</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">このレポートは文章表現に関する論文であるから、特に論点を明確にして段落や文章校正に気を配りながら文章を書くこと。また、わかりやすい言葉で文法・文字表現などにも十分留意して書くこと。</td></tr> <tr> <td>学修のポイント1</td><td colspan="2">「バリアフリー」と町の景観について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント2</td><td colspan="2">少年犯罪について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント3</td><td colspan="2">IT社会化について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント4</td><td colspan="2">環境破壊について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント5</td><td colspan="2">リサイクルについて</td></tr> <tr> <td>学修のポイント6</td><td colspan="2">高齢者介護について</td></tr> </table>		レポート設題	社福・心理	高齢者の介護は誰が担うべきか述べよ		保育	良い教師と悪い教師について述べよ。		教育	学校教育における「生きる力」の育成について述べよ。		このレポートは文章表現に関する論文であるから、特に論点を明確にして段落や文章校正に気を配りながら文章を書くこと。また、わかりやすい言葉で文法・文字表現などにも十分留意して書くこと。		学修のポイント1	「バリアフリー」と町の景観について		学修のポイント2	少年犯罪について		学修のポイント3	IT社会化について		学修のポイント4	環境破壊について		学修のポイント5	リサイクルについて		学修のポイント6	高齢者介護について	
レポート設題	社福・心理	高齢者の介護は誰が担うべきか述べよ																														
	保育	良い教師と悪い教師について述べよ。																														
	教育	学校教育における「生きる力」の育成について述べよ。																														
	このレポートは文章表現に関する論文であるから、特に論点を明確にして段落や文章校正に気を配りながら文章を書くこと。また、わかりやすい言葉で文法・文字表現などにも十分留意して書くこと。																															
学修のポイント1	「バリアフリー」と町の景観について																															
学修のポイント2	少年犯罪について																															
学修のポイント3	IT社会化について																															
学修のポイント4	環境破壊について																															
学修のポイント5	リサイクルについて																															
学修のポイント6	高齢者介護について																															
期末試験	後日発表																															
回数	授業内容																															
第1回	オリエンテーション																															
第2回	レポート題材の調べ方																															
第3回	引用の仕方、参考文献の書き方																															
第4回	IT社会化について																															
第5回																																
第6回																																
第7回	高齢者の介護は誰が担うべきか																															
第8回																																
第9回	「バリアフリー」と町の景観について																															
第10回	少年犯罪について																															
第11回	環境破壊について																															
第12回	リサイクルについて																															
第13回	幸福とは何か																															
第14回	期末試験対策																															
第15回	期末試験																															
第16回	科目修了試験																															
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。																														
	期末試験	40点 持ち込み可。論述式。																														
	授業内評価	30点 授業態度、提出物などによって評価する。																														
備考	授業中の居眠り、私語、許可のない携帯電話の使用、音楽等の聴取、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には、減点評価する。																															

(講義)	科目名: 法学概論	講師: 森奈祐
科目概要・目標	<p>社会福祉の専門家には、憲法第25条に定める生存権の保障を実現するため、様々な社会保障、社会福祉諸制度やそれにかかる行政機関への手続きのための知識が必要である。そのため、憲法、民法、行政法の基礎知識を習得することは必要である。</p> <p>この科目では、それらの学修に先立っていわゆる法学入門に相当する法や法学一般について学び、研究する。</p>	
教科書	末川博士『法学入門 第6版補訂版』有斐閣双書	
提出課題	<p>レポート設題</p> <p>【設題1】基本的人権の尊重について述べよ <ポイント>基本的人権の意義について考えること。基本的人権が成立した背景、さらに一般的な特色についてもまとめること。</p> <p>学修のポイント1 教育を受ける権利と義務について 学修のポイント2 親権について 学修のポイント3 契約の自由について 学修のポイント4 罪刑法定主義について 学修のポイント5 法の種類について 学修のポイント6 法の段階構造について</p>	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション/法的な考え方と法学概論を学ぶ意義	
第2回	近代市民法「契約の自由について」	
第3回	基本的人権の尊重について①(包括的基本権)	
第4回	基本的人権の尊重について②(自由権)	
第5回	基本的人権の尊重について③(能動的権利)	
第6回	基本的人権の尊重について④(まとめ)	
第7回	刑法「罪刑法定主義について」	
第8回	教育を受ける権利と義務について	
第9回	民法(家族法)親権について	
第10回	公法・私法・社会法 法の種類について	
第11回	行政法 法の段階構造について	
第12回	その他の法律①(労働法など)	
第13回	その他の法律②(国際法など)	
第14回	法学概論のまとめ	
第15回	期末試験	
第16回	科目修了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点
	授業内評価	30点 受講態度(授業態度や質疑応答など、積極的に授業を受けているか)・提出状況(レポートやポイントなど、提出期限を守っているか)
備考	授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用、音楽等の聴取、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には、減点評価とします。	

(講義)	科目名: 統計学	講師: 室山俊浩
科目概要・目標		
		統計学と言つても本科目の内容は単なる公式の暗記のみにはとどまらない。私たちの生活の中にはさまざまな統計情報があふれている。この統計情報からどのように意味のある情報を引き出すか、さらに世の中に対してそれをどのように活かしていくかが重要である。本科目では、そのことを視野に入れつつ、統計学の基本的な事項をおさえ、将来自分でデータの収集と分析ができるような基礎を作っていく。
教科書		松原望『わかりやすい統計学 第2版』丸善出版
提出課題		【設題1】統計とは何かについて説明し、それを活用することの利点と注意点について述べよ。
学修のポイント1		ヒストグラムについて
学修のポイント2		質的変数と量的変数について
学修のポイント3		標準偏差の利用方法について
学修のポイント4		相関について
学修のポイント5		正規分布について
学修のポイント6		偏差値について
期末試験		後日発表
回数		
授業内容		
第1回	オリエンテーション / 統計とはなにか	
第2回	統計を活用することの利点	
第3回	統計を活用することの注意点	
第4回	学修のポイント1 ヒストグラムについて	
第5回	平均値、中央値、最頻値について	
第6回	学修のポイント3 標準偏差の利用方法について	
第7回	学修のポイント4 相関について	
第8回	学修のポイント2 質的変数と量的変数について	
第9回	学修のポイント5 正規分布について	
第10回	学修のポイント6 偏差値について	
第11回	有意性の判断(仮説検定)	
第12回	回帰と予測	
第13回	分析方法	
第14回	期末試験対策	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価		
出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
期末試験	40点	持ち込み可。論述式
授業内評価	30点	授業内課題。
備考	提出物の締切は厳守すること。遅れた日数に応じて減点。 授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁。 無断の座席移動も禁止。	

(講義)	科目名: 福祉と教育	講師: 山田哲史
科目概要・目標	これから時代に求められるのは、正解が一つではない問題を考え、課題探求できる分析力と思考力を備えた人材を教育することである。福祉の現場においても、突然生じる問題を的確に発見して捉え、福祉を必要とする人に対して、その一人ひとりのニーズに応えて、問題を解決していくことが望まれる。そのためには、これまでわが国で主流とされてきた、一方通行型、知識注入型の教育方法を改め、学生が主体となって学修に取り組める学修環境を構成していかねばならない。福祉の時代に向けて真に必要な諸能力は何かを分析し、21世紀に求められる福祉人のあり方について考察する。	
教科書	東京福祉大学編『新・社会福祉要説』(ミネルヴァ書房)、東京福祉大学編『教職科目要説－初等教育編』(ミネルヴァ書房)、東京福祉大学編『教職科目要説－中等教育編』(ミネルヴァ書房)	
提出課題	<p>レポート設題 【設題1】「福祉と教育」を学ぶ意義について述べよ。</p> <p>学修のポイント1 日本で行われている教育方法の現状について</p> <p>学修のポイント2 これからの大学教育について</p> <p>学修のポイント3 教師の意識について</p> <p>学修のポイント4 バイステイックの7つの原則について</p> <p>学修のポイント5 これからの社会福祉と福祉教育について</p> <p>学修のポイント6 上記5つ以外の内容で、「福祉と教育」について興味や関心を持ったことについてまとめよ。</p>	
期末試験	(授業時に指示します。)	
回数	授業内容	
第1回	これからの社会福祉と福祉教育について(1)	
第2回	これからの社会福祉と福祉教育について(2)	
第3回	'福祉と教育'を学ぶ意義について(1)	
第4回	'福祉と教育'を学ぶ意義について(2)	
第5回	'福祉と教育'を学ぶ意義について(3)	
第6回	'福祉と教育'を学ぶ意義について(4)	
第7回	日本で行われている教育方法の現状について	
第8回	これからの大学教育について	
第9回	バイステイックの7つの原則について(1)	
第10回	バイステイックの7つの原則について(2)	
第11回	教師の意識について(1)	
第12回	教師の意識について(2)	
第13回	'福祉と教育'をめぐって(1)	
第14回	'福祉と教育'をめぐって(2)	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 持込み許可物件:指定の教科書、自筆のノート、授業時に配布のプリント
	授業内評価	20点 授業中態度:携帯、居眠り、私語、飲食は厳禁
		20点 課題提出状況
備考	教育の効果を高めるためにも、授業には集中力を持続して積極的に取り組むようにしてください。授業中の携帯電話の使用、居眠り、飲食や私語は禁止します。これらのルールを守ることができない学生に対しては不合格とすることがありますので注意してください。	

(講義)	科目名:生活の中の福祉	講師: 横山由里
科目概要・目標	近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会で必要な生活の中の福祉とは何か、その考え方や対象となる様々な人々に必要な福祉にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。	
教科書	山縣文治・岡田忠克編『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房。	
提出課題	<p>レポート課題</p> <p>【設題1】少子高齢化と福祉についてまとめ、今後の福祉のあり方について述べよ。</p>	
学修のポイント1	ライフサイクルと福祉について	
学修のポイント2	福祉の捉え方と援助について	
学修のポイント3	ナショナルミニマムについて	
学修のポイント4	ノーマライゼーションについて	
学修のポイント5	障がい者と福祉について	
学修のポイント6	低所得者と福祉について	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション	
第2回	学修のポイント①ライフサイクルと福祉について	
第3回	学修のポイント④ノーマライゼーションについて1	
第4回	学修のポイント④ノーマライゼーションについて2	
第5回	少子高齢化と福祉①	
第6回	少子高齢化と福祉②	
第7回	学修のポイント③ナショナルミニマムについて	
第8回	学修のポイント②福祉の捉え方と援助について1	
第9回	学修のポイント②福祉の捉え方と援助について2	
第10回	学修のポイント⑥低所得者と福祉について	
第11回	学修のポイント⑤障がい者と福祉について	
第12回	さまざまな福祉サービス	
第13回	さまざまな福祉施設①	
第14回	さまざまな福祉施設②	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	20点
		30点 課題提出期限が遅れたら減点 1回5点
	授業内評価	20点 積極的な授業態度
備考	積極的に頑張りましょう。 参考文献: 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。	

(実習)	科目名:地域コミュニケーションワーク	講師:山田 哲史
科目概要・目標	本科目は、問題発見能力、問題解決能力を実践を通して深めていくことを目的としている。学生ひとり一人が目的意識を持ち、互いに支え合いながら課題解決に取り組むことで学生間の意思疎通を図り、コミュニケーション能力を高めることを期待する。	
教科書	適宜配布	
期末試験	授業時に通知する。	
回数	授業内容	
第1回	心の元気づくりについて	
第2回	レクリエーション支援におけるホスピタリティについて	
第3回	人が物事に夢中になる仕組みについて	
第4回	活動そのものの楽しさについて	
第5回	達成感からもたらされる楽しさについて	
第6回	対象者との意思疎通を促進する方法について	
第7回	成功体験を楽しむ方法について	
第8回	対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法について	
第9回	アイスブレーキングについて	
第10回	アイスブレーキングが必要な場面について	
第11回	CSSプロセスについて	
第12回	プランの考案(1)	
第13回	プランの考案(2)	
第14回	プランの考案(3)	
第15回	プランの考案(4)	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	20点 持ち込み許可物件:授業時に配付の資料、自筆のノート等。論述式。
	授業内評価	30点 評価ポイント:授業内課題・発表内容 ※遅れた場合は減点・未提出は0点とする
		20点 評価ポイント:授業態度・学習意欲・積極性・忘れ物有無
備考	本授業は、ワークが中心となる為、進行状況によってはシラバスに変更が生じる可能性があります。より良いワークのためには受講生同士の協力が不可欠です。より良い学びとなるように自ら学ぼうとする姿勢を持って授業に臨んでください。授業形態によっては、授業内容を変更する可能性もあります。	

(講義)	科目名:専門研究 I	講師:花木元司
科目概要・目標	いろいろな年代や多くの人とかかわることを職業とする場合、人間の発達について学ぶことは必要不可欠の要因である。基本的知識である各発達段階の特徴を理解し、その過程を説明するさまざまな理論について学んでいく。さらに、人が生きていくうえでさまざまな困難を体験するが、その心理的な背景と対応の方法について考察を進めていく。これまでの研究によって得られた知見をもとに現代社会における「発達」について考える。	
参考文献	<p>【参考資料】</p> <p>①上田礼子「生涯人間発達学」 ②無藤隆・岡本祐子・大坪治彦「よくわかる発達心理学」</p>	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	講義概要 この講義で学んでほしいこと、成長と発達	
第2回	発達の見方と主な発達理論(Erikson,Piaget,Freud)	
第3回	発達の見方と主な発達理論(比較行動学、学習理論)・個体と環境	
第4回	出生前発達と出生(胎内で聞こえる母親の声、新生児期の適応行動)	
第5回	乳児期の世界(大切なスキンシップ・反射・微細運動)	
第6回	乳児期の世界(人見知り・移行対象・認知の発達)	
第7回	幼児期前期の世界(自分に目覚める・言語、情緒の発達)	
第8回	幼児期後期の心理と発達(ごっこ遊び・認知の発達・事故予防)	
第9回	幼児期後期の心理と発達(群れ遊び・情緒、社会性の発達)	
第10回	児童期の心理と発達(具体的操作・メタ認知)	
第11回	児童期の心理と発達(友達関係の特徴・自己制御・道徳性)	
第12回	青年期の心理と発達(価値観の特徴、男女の違い)	
第13回	成人期の心理発達(情緒と社会的成熟、認知発達、ライフスタイルの選択)	
第14回	成人期の中期・後期の特徴(柔軟な対応能力、同一性と自己概念の再構築)	
第15回	老後の知恵	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 科学的に内容を理解できたか
		25点 授業態度(内容理解の深化と科学的根拠に基づいた発言)
	授業内評価	15点 学習資料の準備
備考	この講義を受け身で受講するのではなく、関係のある文献などへの関心も深め、科学的根拠に基づいた思考ができるようになってほしい。	

教育学科

教育学認定心理コース

1 年生

(講義)	科目名:教師論	講師: 奥村 一成												
科目概要・目標	<p>変化の激しい今日の社会において、学校教育においても様々な課題が生じている。この課題を解決するために、学校教育の主たる担い手である教員の役割が今まで以上に重要になっている。本科目では、教職とは何か、これから教員に求められる資質は何か、教員の仕事と役割はどのようなものか、教員の権利や義務(服務・研修・身分保障などを含む)はどのように規定されているのかなど、教職を志す学生があらかじめ知っておく必要のある事項について考察する。</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>													
教科書	教職問題研究会編『教職論(第2版)』ミネルバ書房													
提出課題	<p>レポート設題 【設題】これからの教員に求められる資質能力について、具体例を挙げて述べよ。</p> <p>学修のポイント1 教員は、聖職者か、労働者か、専門職か。</p> <p>学修のポイント2 教員の役割と職務内容について</p> <p>学修のポイント3 教員の服務と身分保障について</p> <p>学修のポイント4 教員の研修について</p> <p>学修のポイント5 教員の適性について</p> <p>学修のポイント6 教職をめぐる諸問題について</p>													
期末試験	(授業中に指示します。)													
回数	授業内容													
第1回	教師の歴史と教職観について 学修のポイント1 教員は、聖職者か、労働者か、専門職か。													
第2回	教職制度と教員に求められる資質について①													
第3回	教職制度と教員に求められる資質について②													
第4回	学校を取り巻く環境と教職の課題について①													
第5回	学校を取り巻く環境と教職の課題について② 学修のポイント6 教職をめぐる諸問題について													
第6回	教員の種類と職階について 学修のポイント2 教員の役割と職務内容について													
第7回	学修のポイント3 教員の服務と身分保障について													
第8回	学修のポイント4 教員の研修について													
第9回	教員の法規について													
第10回	学修のポイント5 教員の適性について													
第11回	保護者・地域・関係機関と教員について													
第12回	教育相談・進路指導と教員について													
第13回	学習指導要領について													
第14回	教科指導と教科外指導について 期末試験対策													
第15回	期末試験													
第16回	科目終了試験													
成績評価	<table border="1"> <tr> <td>出席率</td> <td>30点</td> <td>75%以上の出席を必須とする。</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>30点</td> <td>授業中に指示 持ち込み可 論述式</td> </tr> <tr> <td>授業内評価</td> <td>提出物</td> <td>20点 課題(レポート・学修のポイント) 期日厳守(提出期限に遅れた場合は減点)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>授業態度</td> <td>20点 誠実で積極的な授業態度重視</td> </tr> </table>		出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	期末試験	30点	授業中に指示 持ち込み可 論述式	授業内評価	提出物	20点 課題(レポート・学修のポイント) 期日厳守(提出期限に遅れた場合は減点)		授業態度	20点 誠実で積極的な授業態度重視
出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。												
期末試験	30点	授業中に指示 持ち込み可 論述式												
授業内評価	提出物	20点 課題(レポート・学修のポイント) 期日厳守(提出期限に遅れた場合は減点)												
	授業態度	20点 誠実で積極的な授業態度重視												
備考	私語・居眠り厳禁。携帯電話の電源は切っておくこと。授業態度が悪く、改善が認められないときは、不合格とします。													

(講義)	科目名:音楽	講師: 樋上 莊一												
科目概要・目標	本科目では、楽譜を読む、音を奏でる、リズムを打つといった音楽の基礎知識、技術を身に着け、対象者に合わせた音楽活動について考察する。また、保育・教育・福祉等の現場に即した音楽活動について体験的な学習をする。													
教科書	・新 保育者、小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門 ・保育児童福祉要説 ・プリント(授業で配布)													
提出課題	<p>レポート設題</p> <p>【設題1】わらべうた及び明治期、大正期、昭和初期、戦後のそれぞれの時期に作曲されたこどもの歌の中から1~2曲ずつを取り上げ、それらの歌の特徴について、歴史的背景に触れながら述べよ。</p> <p><ポイント> 日本古来より伝承されてきたわらべ歌と、明治以降西洋の子供の歌に日本の詩をあてはめたものや、いわゆる唱歌と称される曲の特徴と変遷を、実際に曲を取り上げ、作詞者・作曲家について言及しながら考察する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽の指導に必要な基礎事項について(五線譜、音部記号と音名、音符など) 2. 基本的事項について(拍と拍子、拍子の種類と指揮棒の振り方) 3. 音程について 4. 音階と調について(長音階、短音階) 5. 主要三和音とその連結について 6. 楽譜に用いられる記号と標語について 													
期末試験	設題 : 和音構造と連結方法について													
回数	授業内容													
第1回	*ガイダンス *五線譜の読み方 (五線譜・譜表・音名・音符・休符・など) *学修のポイント①													
第2回	*五線譜の読み方②(音符・休符・リズム・拍) *拍子と拍子記号 *学修のポイント②													
第3回	*復習テスト(音符・休符について) *様々な記号と標語													
第4回	*日本古来より伝承されてきたわらべ歌と、明治以降の唱歌について *3200字レポート													
第5回	*日本古来より伝承されてきたわらべ歌と、明治以降の唱歌について② *3200字レポート													
第6回	*音楽史の大きな流れ *バロックの音楽(音楽鑑賞)													
第7回	*古典派の音楽(音楽鑑賞)													
第8回	*ロマン派の音楽(音楽鑑賞)													
第9回	*20世紀の音楽(音楽鑑賞)													
第10回	*さまざまな記号と標語 *音程 *音階と調・調号 *学修のポイント③ ④ ⑥													
第11回	*復習テスト(記号と標語)① *音階と調・調号(復習) *移調													
第12回	*さまざまな記号と標語 *和音構造について(和音とコードネーム)① *学修のポイント⑤ ⑥													
第13回	*復習テスト(記号と標語)② *主要三和音とその連結について *学修のポイント⑤													
第14回	*和音構造と連結方法について (和音とコードネーム)②													
第15回	*主要三和音とその連結について(復習) *期末試験について													
第16回	*期末試験													
成績評価	<table border="1"> <tr> <td>出席率</td> <td>30点</td> <td>75%以上の出席を必須とする。</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>20点</td> <td>持ち込み: 可(一部プリントのみ) 論述式</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>20点</td> <td>下書きにおいて評価する</td> </tr> <tr> <td>提出物</td> <td>30点</td> <td>宿題・復習テスト・音楽鑑賞感想</td> </tr> </table>		出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	期末試験	20点	持ち込み: 可(一部プリントのみ) 論述式	レポート	20点	下書きにおいて評価する	提出物	30点	宿題・復習テスト・音楽鑑賞感想
出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。												
期末試験	20点	持ち込み: 可(一部プリントのみ) 論述式												
レポート	20点	下書きにおいて評価する												
提出物	30点	宿題・復習テスト・音楽鑑賞感想												
備考	・忘れ物は減点の対象とする ・授業の進み具合により、内容が変更になることがある。													

(実技)	科目名:音楽実技Ⅰ	講師:樋上 莊一													
科目概要・目標	<p>音楽の基礎的知識を正しく身につけることを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 楽譜に関する基本的知識を正確に身につけ、楽譜を読む能力を養う。 2. バイエルを中心として、保育活動に必要なピアノ演奏技能を、初步から学ぶ。 3. 幼児歌曲の指導能力を身に付けるため、歌うことなど、基礎技能に習熟するための準備を始める。 														
教科書・資料	<p>*全訳バイエルピアノ教則本 *新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門</p>														
設題	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="3" style="width: 15%;">中間テスト</td> <td rowspan="3" style="width: 60%; text-align: center;">*楽譜は見てよい</td> <td>第1回 バイエル No. 14, 18</td> </tr> <tr> <td>第2回 バイエル No. 19 21</td> </tr> <tr> <td>第3回 バイエル No. 24, 26</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="width: 15%;">期末試験</td> <td rowspan="2" style="width: 60%; text-align: center;">暗譜演奏</td> <td>第4回 バイエル No. 27, 31</td> </tr> <tr> <td>バイエル(暗譜) No. 35, 37</td> </tr> </table>		中間テスト	*楽譜は見てよい	第1回 バイエル No. 14, 18	第2回 バイエル No. 19 21	第3回 バイエル No. 24, 26	期末試験	暗譜演奏	第4回 バイエル No. 27, 31	バイエル(暗譜) No. 35, 37				
中間テスト	*楽譜は見てよい	第1回 バイエル No. 14, 18													
		第2回 バイエル No. 19 21													
		第3回 バイエル No. 24, 26													
期末試験	暗譜演奏	第4回 バイエル No. 27, 31													
		バイエル(暗譜) No. 35, 37													
日時	授業内容と、練習及び合格目標														
第1回	<p>*ガイダンス(楽器の扱い方、授業の進め方、等) *楽譜の読み方と、ピアノの演奏法について *バイエル P. 6, 7 右手練習・左手練習・両手練習(手・指の形・指の動かし方など、大変重要)</p>														
第2回	<p>*バイエル P. 6, 7 右手練習・左手練習・両手練習(手・指の形・指の動かし方など、大変重要) *バイエル No. 7 (左右の手が、互いに影響を受けずに、弾けること)</p>														
第3回	<p>*バイエル 10, 14 (No.10は左右の手が、互いに影響を受けずに、弾けること) *バイエル No.14, No.18</p>														
第4回	*第1回中間テスト(バイエル No. 14, 18) *バイエル No. 19														
第5回	*バイエル No.19														
第6回	*バイエル No.21														
第7回	*第2回中間テスト(バイエル No. 19, 21) *バイエル No.24														
第8回	*バイエル No.24, 26														
第9回	*バイエル No.24, 26														
第10回	*第3回中間テスト(バイエル No. 24, 26) *バイエル No.27														
第11回	*バイエル No.27 *幼児歌曲														
第12回	*バイエル No.31 *幼児歌曲														
第13回	*第4回中間テスト (バイエル No.27, 31) *バイエル No.35														
第14回	*期末テスト準備(No. 35, 37) *幼児歌曲														
第15回	*期末テスト準備(No. 35, 37) *幼児歌曲														
第16回	*期末試験[最終授業日] (バイエル No.35, 37)														
成績評価	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">出席率</td> <td style="width: 15%;">30点</td> <td>75% 以上出席すること。出席不足の場合は再履修とする。</td> </tr> <tr> <td>中間テスト</td> <td>20点</td> <td>4(5-1)点×4</td> </tr> <tr> <td>期末テスト</td> <td>10点</td> <td>8(10-2)点 (バイエル 暗譜)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">配点曲</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">40点</td> <td>(4点×1) バイエル 右・左・両手練習(バイエル・P.6, 7)</td> </tr> <tr> <td>(3点×12) バイエル 7, 10, 14, 18, 19, 21, 24, 26, 27, 31, 35, 37</td> </tr> </table>		出席率	30点	75% 以上出席すること。出席不足の場合は再履修とする。	中間テスト	20点	4(5-1)点×4	期末テスト	10点	8(10-2)点 (バイエル 暗譜)	配点曲	40点	(4点×1) バイエル 右・左・両手練習(バイエル・P.6, 7)	(3点×12) バイエル 7, 10, 14, 18, 19, 21, 24, 26, 27, 31, 35, 37
出席率	30点	75% 以上出席すること。出席不足の場合は再履修とする。													
中間テスト	20点	4(5-1)点×4													
期末テスト	10点	8(10-2)点 (バイエル 暗譜)													
配点曲	40点	(4点×1) バイエル 右・左・両手練習(バイエル・P.6, 7)													
		(3点×12) バイエル 7, 10, 14, 18, 19, 21, 24, 26, 27, 31, 35, 37													
備考	大学スクーリング修了試験課題 : 18, 19, 40, 49, 52														

(講義)	科目名:心理学概論	講師: 新實 千恵里
科目概要・目標	現代社会が抱える様々な問題を心理学の観点からアプローチできるよう、ここでは心理学全体を見渡すことを目的とする。そこで、心理学とは何か、から始まり、心理学分野を「心の仕組み」、「心の学問を紐解く」、「心のケアと支援」という3つの大きな領域から考え、心理学の成り立ち、人の心の基本的な仕組み及び働きについて学習していく。本科目を学ぶことで、心理学とはどのような学問か、その体系を知ることができ、かつ考え方が理解できる。	
教科書	社会福祉養成講座編集委員会(編)『新・社会福祉養成講座2心理学理論と心理的支援第3版』 中央法規 2018	
提出課題	<p>レポート設題</p> <p>【設題1】人格形成に及ぼす環境要因について述べよ</p> <p>【設題2】各発達段階の特徴について述べよ。</p>	
学修のポイント1	人格の諸理論について述べよ。	
学修のポイント2	人間の感覚・知覚・認知の特質について述べよ。	
学修のポイント3	人間の発達課題について述べよ。	
学修のポイント4	心理的アセスメント(見立て)について述べよ。	
学修のポイント5	対人関係の発展について述べよ。	
学修のポイント6	心理療法について述べよ。	
期末試験	論述試験(ノート持ち込み可・教科書可)	
回数	授業内容	
第1回	シラバス説明、レポート構成説明 心理学の歴史、発達の定義、発達段階	
第2回	人間の発達課題:発達課題、認知発達理論	
第3回	人間の発達課題:新生児期～老年期	
第4回	人間の感覚・知覚・認知の特質:基礎的な情報処理	
第5回	下書きレポート作成	
第6回	人格の諸理論:類型論と特性論	
第7回	人格の諸理論:心理検査におけるアセスメント	
第8回	心理的アセスメント:心理テストによる見立て	
第9回	対人関係の発展:対人認知、集団	
第10回	対人関係の発展:コミュニケーション	
第11回	対人関係の発展:欲求と動機付け	
第12回	学修レポート作成	
第13回	心理療法:心理療法の諸理論	
第14回	期末試験対策／科目終了試験対策	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。欠席1回事に-2点、遅刻-1点
	期末試験	30点 表記・文字数:10点 文章構成・論理展開:10点 内容・創造性:10点
	授業内評価	21点 提出物:7つそれぞれの締め日を過ぎた場合、1つあたり-3点
		19点 授業態度:グループワーク、個人ワークの積極的参加、その他態度
	備考	

(講義)	科目名:文章表現	講師:仁井田 和也		
科目概要・目標	通信教育では、レポートを書くための表現力が要求される。本科目では、レポート作成に必要な「書く」技術の基礎訓練を行う。したがって、目標とされるのは、簡潔で明快な表現法である。文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ・わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習していく。			
教科書	古郡延治『論文・レポートの文章作法』有斐閣新書			
提出課題	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">レポート設題</td> <td style="width: 90%;"> 社福・心理 高齢者の介護は誰が担うべきか述べよ 保育 良い教師と悪い教師について述べよ。 教育 学校教育における「生きる力」の育成について述べよ。 このレポートは文章表現に関する論文であるから、特に論点を明確にして段落や文章校正に気を配りながら文章を書くこと。また、わかりやすい言葉で文法・文字表現などにも十分留意して書くこと。 </td> </tr> </table>		レポート設題	社福・心理 高齢者の介護は誰が担うべきか述べよ 保育 良い教師と悪い教師について述べよ。 教育 学校教育における「生きる力」の育成について述べよ。 このレポートは文章表現に関する論文であるから、特に論点を明確にして段落や文章校正に気を配りながら文章を書くこと。また、わかりやすい言葉で文法・文字表現などにも十分留意して書くこと。
レポート設題	社福・心理 高齢者の介護は誰が担うべきか述べよ 保育 良い教師と悪い教師について述べよ。 教育 学校教育における「生きる力」の育成について述べよ。 このレポートは文章表現に関する論文であるから、特に論点を明確にして段落や文章校正に気を配りながら文章を書くこと。また、わかりやすい言葉で文法・文字表現などにも十分留意して書くこと。			
学修のポイント1	「バリアフリー」と町の景観について			
学修のポイント2	少年犯罪について			
学修のポイント3	IT社会化について			
学修のポイント4	環境破壊について			
学修のポイント5	リサイクルについて			
学修のポイント6	高齢者介護について			
期末試験	後日発表			
回数	授業内容			
第1回	オリエンテーション 作文・レポート・論文の違いについて			
第2回	レポート題材の調べ方			
第3回	引用の仕方、参考文献の書き方			
第4回	IT社会化について			
第5回				
第6回				
第7回	高齢者の介護は誰が担うべきか			
第8回				
第9回	「バリアフリー」と町の景観について			
第10回	少年犯罪について			
第11回	環境破壊について			
第12回	リサイクルについて			
第13回	幸福とは何か			
第14回	期末試験対策			
第15回	期末試験			
第16回	科目修了試験			
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点 持ち込み可。論述式。		
	授業内評価	30点 授業態度、提出物などによって評価する。		
備考	授業中の居眠り、私語、許可のない携帯電話の使用、音楽等の聴取、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には、減点評価する。			

(講義)	科目名: 法学概論	講師: 森奈祐
科目概要・目標	<p>社会福祉の専門家には、憲法第25条に定める生存権の保障を実現するため、様々な社会保障、社会福祉諸制度やそれにかかる行政機関への手続きのための知識が必要である。そのため、憲法、民法、行政法の基礎知識を習得することは必要である。</p> <p>この科目では、それらの学修に先立つていわゆる法学入門に相当する法や法学一般について学び、研究する。</p>	
教科書	末川博士『法学入門 第6版補訂版』有斐閣双書	
提出課題	<p>レポート設題</p> <p>【設題1】基本的人権の尊重について述べよ <ポイント>基本的人権の意義について考えること。基本的人権が成立した背景、さらに一般的な特色についてもまとめること。</p>	
学修のポイント1	教育を受ける権利と義務について	
学修のポイント2	親権について	
学修のポイント3	契約の自由について	
学修のポイント4	罪刑法定主義について	
学修のポイント5	法の種類について	
学修のポイント6	法の段階構造について	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション/法的な考え方と法学概論を学ぶ意義	
第2回	近代市民法「契約の自由について」	
第3回	基本的人権の尊重について①(包括的基本権)	
第4回	基本的人権の尊重について②(自由権)	
第5回	基本的人権の尊重について③(能動的権利)	
第6回	基本的人権の尊重について④(まとめ)	
第7回	刑法「罪刑法定主義について」	
第8回	教育を受ける権利と義務について	
第9回	民法(家族法)親権について	
第10回	公法・私法・社会法 法の種類について	
第11回	行政法 法の段階構造について	
第12回	その他の法律①(労働法など)	
第13回	その他の法律②(国際法など)	
第14回	法学概論のまとめ	
第15回	期末試験	
第16回	科目修了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点
	授業内評価	
		30点 受講態度(授業態度や質疑応答など、積極的に授業を受けているか)・提出状況(レポートやポイントなど、提出期限を守っているか)
備考	授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用、音楽等の聴取、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には、減点評価とします。	

(講義)	科目名:統計学	講師: 室山俊浩
科目概要・目標	統計学と言つても本科目の内容は単なる公式の暗記のみにはとどまらない。私たちの生活の中にはさまざまな統計情報があふれている。この統計情報からどのように意味のある情報を引き出すか、さらに世の中に対してそれをどのように活かしていくかが重要である。本科目では、そのことを視野に入れつつ、統計学の基本的な事項をおさえ、将来自分でデータの収集と分析ができるような基礎を作っていく。	
教科書	松原望『わかりやすい統計学 第2版』丸善出版	
提出課題	レポート設題	【設題1】統計とは何かについて説明し、それを活用することの利点と注意点について述べよ。
提出課題	学修のポイント1	ヒストグラムについて
提出課題	学修のポイント2	質的変数と量的変数について
提出課題	学修のポイント3	標準偏差の利用方法について
提出課題	学修のポイント4	相関について
提出課題	学修のポイント5	正規分布について
提出課題	学修のポイント6	偏差値について
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション / 統計とはなにか	
第2回	統計を活用することの利点	
第3回	統計を活用することの注意点	
第4回	学修のポイント1 ヒストグラムについて	
第5回	平均値、中央値、最頻値について	
第6回	学修のポイント3 標準偏差の利用方法について	
第7回	学修のポイント4 相関について	
第8回	学修のポイント2 質的変数と量的変数について	
第9回	学修のポイント5 正規分布について	
第10回	学修のポイント6 偏差値について	
第11回	有意性の判断(仮説検定)	
第12回	回帰と予測	
第13回	分析方法	
第14回	期末試験対策	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点 持ち込み可。論述式
		30点 授業内課題。
	授業内評価	
備考	提出物の締切は厳守すること。遅れた日数に応じて減点。 授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁。 無断の座席移動も禁止。	

(講義)	科目名: 福祉と教育	講師: 山田哲史
科目概要・目標	これから時代に求められるのは、正解が一つではない問題を考え、課題探求できる分析力と思考力を備えた人材を教育することである。福祉の現場においても、突然生じる問題を的確に発見して捉え、福祉を必要とする人に対して、その一人ひとりのニーズに応えて、問題を解決していくことが望まれる。そのためには、これまでわが国で主流とされてきた、一方通行型、知識注入型の教育方法を改め、学生が主体となって学修に取り組める学修環境を構成していかねばならない。福祉の時代に向けて真に必要な諸能力は何かを分析し、21世紀に求められる福祉人のあり方について考察する。	
教科書	東京福祉大学編『新・社会福祉要説』(ミネルヴァ書房)、東京福祉大学編『教職科目要説－初等教育編』(ミネルヴァ書房)、東京福祉大学編『教職科目要説－中等教育編』(ミネルヴァ書房)	
提出課題	レポート設題	【設題1】「福祉と教育」を学ぶ意義について述べよ。
	学修のポイント1	日本で行われている教育方法の現状について
	学修のポイント2	これからの大学教育について
	学修のポイント3	教師の意識について
	学修のポイント4	バイスティックの7つの原則について
	学修のポイント5	これからの社会福祉と福祉教育について
	学修のポイント6	上記5つ以外の内容で、「福祉と教育」について興味や関心を持ったことについてまとめよ。
期末試験	(授業時に指示します。)	
回数	授業内容	
第1回	これからの社会福祉と福祉教育について(1)	
第2回	これからの社会福祉と福祉教育について(2)	
第3回	「福祉と教育」を学ぶ意義について(1)	
第4回	「福祉と教育」を学ぶ意義について(2)	
第5回	「福祉と教育」を学ぶ意義について(3)	
第6回	「福祉と教育」を学ぶ意義について(4)	
第7回	日本で行われている教育方法の現状について	
第8回	これからの大学教育について	
第9回	バイスティックの7つの原則について(1)	
第10回	バイスティックの7つの原則について(2)	
第11回	教師の意識について(1)	
第12回	教師の意識について(2)	
第13回	「福祉と教育」をめぐって(1)	
第14回	「福祉と教育」をめぐって(2)	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 持込み許可物件:指定の教科書、自筆のノート、授業時に配布のプリント
	授業内評価	20点 授業中態度:携帯、居眠り、私語、飲食は厳禁
		20点 課題提出状況
備考	教育の効果を高めるためにも、授業には集中力を持続して積極的に取り組むようにしてください。授業中の携帯電話の使用、居眠り、飲食や私語は禁止します。これらのルールを守ることができない学生に対しては不合格とすることがありますので注意してください。	

(講義)	科目名:生活の中の福祉	講師: 横山由里
科目概要・目標	近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会で必要な生活の中の福祉とは何か、その考え方や対象となる様々な人々に必要な福祉にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。	
教科書	山縣文治・岡田忠克編『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房。	
提出課題	<p>レポート設題 【設題1】少子高齢化と福祉についてまとめ、今後の福祉のあり方について述べよ。</p> <p>学修のポイント1 ライフサイクルと福祉について 学修のポイント2 福祉の捉え方と援助について 学修のポイント3 ナショナルミニマムについて 学修のポイント4 ノーマライゼーションについて 学修のポイント5 障がい者と福祉について 学修のポイント6 低所得者と福祉について</p>	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション	
第2回	学修のポイント①ライフサイクルと福祉について	
第3回	学修のポイント④ノーマライゼーションについて1	
第4回	学修のポイント④ノーマライゼーションについて2	
第5回	少子高齢化と福祉①	
第6回	少子高齢化と福祉②	
第7回	学修のポイント③ナショナルミニマムについて	
第8回	学修のポイント②福祉の捉え方と援助について1	
第9回	学修のポイント②福祉の捉え方と援助について2	
第10回	学修のポイント⑥低所得者と福祉について	
第11回	学修のポイント⑤障がい者と福祉について	
第12回	さまざまな福祉サービス	
第13回	さまざまな福祉施設①	
第14回	さまざまな福祉施設②	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	20点
		30点 課題提出期限が遅れたら減点 1回5点
	授業内評価	20点 積極的な授業態度
備考	積極的に頑張りましょう。 参考文献: 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。	

(実習)	科目名:地域コミュニケーションワーク		講師:山田 哲史
科目概要・目標	本科目は、問題発見能力、問題解決能力を実践を通して深めていくことを目的としている。学生ひとり一人が目的意識を持ち、互いに支え合いながら課題解決に取り組むことで学生間の意思疎通を図り、コミュニケーション能力を高めることを期待する。		
教科書	適宜配布		
期末試験	授業時に通知する。		
回数	授業内容		
第1回	心の元気づくりについて		
第2回	レクリエーション支援におけるホスピタリティについて		
第3回	人が物事に夢中になる仕組みについて		
第4回	活動そのものの楽しさについて		
第5回	達成感からもたらされる楽しさについて		
第6回	対象者との意思疎通を促進する方法について		
第7回	成功体験を楽しむ方法について		
第8回	対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法について		
第9回	アイスブレーキングについて		
第10回	アイスブレーキングが必要な場面について		
第11回	CSSプロセスについて		
第12回	プランの考案(1)		
第13回	プランの考案(2)		
第14回	プランの考案(3)		
第15回	プランの考案(4)		
第16回	期末試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	20点	持ち込み許可物件:授業時に配付の資料、自筆のノート等。論述式。
	授業内評価	30点	評価ポイント:授業内課題・発表内容 ※遅れた場合は減点・未提出は0点とする
		20点	評価ポイント:授業態度・学習意欲・積極性・忘れ物有無
備考	本授業は、ワークが中心となる為、進行状況によってはシラバスに変更が生じる可能性があります。より良いワークのためには受講生同士の協力が不可欠です。より良い学びとなるように自ら学ぼうとする姿勢を持って授業に臨んでください。授業形態によっては、授業内容を変更する可能性もあります。		

(実技)	科目名:情報処理基礎演習 I		講師: 高橋直子
科目概要・目標	Wordを使って、文字入力の練習といろいろな文書作成およびグラフィカルな文書を作成できるようにする。		
教科書	なし(毎回授業で使用するプリントを配布する)		
期末試験	実技試験(1枚の文書を作成し保存する。)		
回数	授業内容		
第1回	簡単な文書を作成		
第2回	定型文書の作成		
第3回	レポートや報告書の作成		
第4回	復習		
第5回	表作成の練習		
第6回	表のある文書の作成		
第7回	すこし複雑な表のある文書の作成		
第8回	画像など利用した文書の作成		
第9回	図形など利用した文書の作成		
第10回	簡単な地図のある文書の作成		
第11回	SmartArtなど利用した文書の作成		
第12回	縦書き文書の作成		
第13回	横置き文書の作成		
第14回	復習		
第15回	復習		
第16回	期末試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点	
	授業内評価	30点	毎回授業で行う課題作成などを含めた授業態度
備考	飲食厳禁、私語厳禁、携帯電話などの使用禁止		

(講義)	科目名:専門研究 I		講師:花木元司
科目概要・目標	いろいろな年代や多くの人とかかわることを職業とする場合、人間の発達について学ぶことは必要不可欠の要因である。基本的知識である各発達段階の特徴を理解し、その過程を説明するさまざまな理論について学んでいく。さらに、人が生きていくうえでさまざまな困難を体験するが、その心理的な背景と対応の方法について考察を進めていく。これまでの研究によって得られた知見をもとに現代社会における「発達」について考える。		
参考文献	<p>【参考資料】</p> <p>①上田礼子「生涯人間発達学」 ②無藤隆・岡本祐子・大坪治彦「よくわかる発達心理学」</p>		
期末試験	後日発表		
回数	授業内容		
第1回	講義概要 この講義で学んでほしいこと、成長と発達		
第2回	発達の見方と主な発達理論(Erikson,Piaget,Freud)		
第3回	発達の見方と主な発達理論(比較行動学、学習理論)・個体と環境		
第4回	出生前発達と出生(胎内で聞こえる母親の声、新生児期の適応行動)		
第5回	乳児期の世界(大切なskinship・反射・微細運動)		
第6回	乳児期の世界(人見知り・移行対象・認知の発達)		
第7回	幼児期前期の世界(自分に目覚める・言語、情緒の発達)		
第8回	幼児期後期の心理と発達(ごっこ遊び・認知の発達・事故予防)		
第9回	幼児期後期の心理と発達(群れ遊び・情緒、社会性の発達)		
第10回	児童期の心理と発達(具体的操作・メタ認知)		
第11回	児童期の心理と発達(友達関係の特徴・自己制御・道徳性)		
第12回	青年期の心理と発達(価値観の特徴、男女の違い)		
第13回	成人期の心理発達(情緒と社会的成熟、認知発達、ライフスタイルの選択)		
第14回	成人期の中期・後期の特徴(柔軟な対応能力、同一性と自己概念の再構築)		
第15回	老後の知恵		
第16回	期末試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点	科学的に内容を理解できたか
		25点	授業態度(内容理解の深化と科学的根拠に基づいた発言)
	授業内評価	15点	学習資料の準備
備考	この講義を受け身で受講するのではなく、関係のある文献などへの关心も深め、科学的根拠に基づいた思考ができるようになってほしい。		

教育学科

教育学認定心理士コース

2年生

(講義)	科目名:教育法規	講師: 木内 正範
本科目では、幼稚園、小学校、中学校教諭等の教員を目指す入たちが教育法規に関する基礎的な知識を身につけ、教員採用選考試験問題を解けるようになること、そして教員となつた折には、その知識を用いて学校における法的な諸課題に対応できるようになることを目標とする。そのため以下の3つの到達目標を設定する。 1)教育法規を体系的に理解し、その主な内容について説明することができる。 2)教員や教員採用選考試験受験生にとって必要最低限の教育法規に関する基礎知識を理解し、重要な用語について説明することができる。 3)学校におけるさまざまな課題の中で、法的な観点から解決できる内容について根拠条文を明らかにして説明することができる (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり、特別支援教育にも深く携わってきた講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。		
教科書 山本豊『第四版 有権解釈に重きを置いた教育法規』学校図書		
レポート設題 【設題】教育公務員と一般の地方公務員との服務事項や研修に関する内容を述べよ。その際、同じところと異なるところについて整理して論述せよ。 (ポイント)県庁や市役所に勤務する地方公務員と公立学校に勤務する教育公務員との服務事項と研修の法的根拠(地方公務員法、教育公務員特例法)を比較し、その相違についてまとめる。		
学修のポイント1 学校教育における教育法規の役割や意義について論述せよ。(P.2)		
学修のポイント2 公立学校や私立学校における宗教教育や宗教的活動について法はどのように規定しているか、論述せよ。(P.206 15 条 P.218 50条)		
学修のポイント3 学童児童又は学齢生徒に対しては、懲戒としての停学を行うことはできない。一方、公立の小・中学校では性行不良行為を繰り返すことで他の児童・生徒の教育に妨げがあると認められるときには、出席停止を命ずることができるとの規定がある。それぞれ根拠条文と停学と出席停止の違いを述べよ。また性行不良による出席停止の課題について述べよ。(P.72~74)		
学修のポイント4 公立小学校の体育の授業である。その水泳指導中、担任の過失によって児童が水死してしまった。この場合、担任はどのような法的責任を負うか。また被害者側の請求を確実に補償するための規定についても論述せよ。(P.166)		
学修のポイント5 教科書の使用義務と補助教材について法はどのように規定しているか。裁判例にも触れながら論述せよ。(P.54~)(P.58)		
学修のポイント6 体罰と事実行為としての懲戒について述べよ。体罰を行った公立学校の教職員の法的責任について具体例を挙げて述べよ。(P.80~)(P.72)		
期末試験	設題は、事前に発表します。	
回数	授業内容	
第1回	自己紹介(進路希望等)レポート設題、学修ポイントの対応、 第1章「教育法規のしくみと学び方」(P.2)、ディス「4月の学級経営のポイント?」	
第2回	教育基本法(P.8~) ディスカッション「ほめ方、しかり方」	
第3回	学校教育法(P.20~) ディスカッション「学級の人間関係づくり対策?」	
第4回	校長と教諭の職務(P.38~) ディスカッション「朝と帰りの会のポイント?」	
第5回	教育課程の編成(P.50) ディスカッション「宿題の意義と対応」	
第6回	校則(P.66) ディスカッション「安全で楽しい教室環境づくり」	
第7回	教員の服務(P.82~) ディスカッション「保護者からの苦情対応」	
第8回	人権をめぐる動き(P.110) ディスカッション「障害がある子の就学支援は?」	
第9回	人権教育・人権啓発(P.126) ディスカッション「学級懇談会での給食の説明?」	
第10回	特別支援教育と法規(P.134~) ディスカッション「通常の学級における発達障害の子の対応」	
第11回	学校保健・安全と法規(P.150~) ディスカッション「障害がある子への対応?」	
第12回	児童福祉・男女共同参画と法規(P.168~) ディスカッション「保護者との信頼関係づくりをどう進めるか?」	
第13回	生涯学習社会と法規(P.182~) ディスカッション「公平な授業、行事を行うには?」	
第14回	図書館法(P.190~) ディスカッション「教職員集団の人間関係づくり」	
第15回	期末試験: 教科書等持ち込み可 60分間	
第16回	科目終了試験: 教科書等持ち込み不可 60分間	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	20点 課題の意味を理解し、現場の実態を踏まえた私見
		10点 ディスカッションでの発言内容(私見、具体性、建設的な意見等)
	授業内評価	20点 授業態度(意欲、質問、意見等) 20点 提出物(学修ポイント・レポート)
備考	授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。	

(講義)	科目名:特別活動の指導法	講師: 木内 正範
<p>特別活動は、生徒の自治的な能力や自主的な態度を育て、学力向上の基盤に必要な望ましい人間関係を築き、いじめ問題などに対する予防薦的な役割を果たすなど、生徒の成長に欠かせない教育活動である。そこで、特別活動の意義や目標を確認し、その背景となる理論を理解するとともに、実践的な指導の在り方を身につける。</p> <p>特別活動の方法原理や基本的な用語などの確認をしながら、体験的な学びを重視し、学級活動・ホームルーム活動を中心とした授業力等の理解と習得を図る。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特別活動の目標や内容、特質と教育課程における位置づけについて理解し、教育課程全体を意識して計画や指導を行うことができるようになる。 2. 特別活動における評価・改善活動の重要性を理解し、適切な評価・改善活動を実践できるようになる。 3. 特別活動の中核となる「学級活動・ホームルーム活動」について、その特質を理解した上で、指導案(展開案)を作成し、合意形成に向けた話し合い活動を指導できるようになる。 4. 特別活動における家庭、地域等との連携のあり方について理解し、指導に活かせるようになる。 <p>(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり、特別支援教育にも深く携わってきた講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>		
<p>教科書</p> <p>高橋哲夫、井田延夫、他『特別活動研究 第三版』教育出版</p>		
提出課題	<p>レポート設題</p> <p>【レポート設題】特別活動の歴史からみた特質について、小学校、中学校いずれかについてその変遷を概観するとともに、平成29年改訂学習指導要領の特別活動に関する「改訂の要点」を述べよ。</p>	
提出課題	学修のポイント1	特別活動の目標とその特質及び教育的意義(P.3~)
提出課題	学修のポイント2	教育課程の編成・実施と特別活動の充実(P.46~55)
提出課題	学修のポイント3	小学校学級活動における集団決定と自己決定(P.59~)
提出課題	学修のポイント4	中学校生徒会活動の目標・内容(P.64~)
提出課題	学修のポイント5	小学校クラブ活動の目標・内容と計画(P.69~)
提出課題	学修のポイント6	小学校学校行事の目標・内容と留意事項(P.71~)
期末試験	設題は、事前に発表します。	
回数	授業内容	
第1回	レポート、学修ポイント等の対応 6章 8 中・高の部活動(P.203~) ディスカッション「新しいクラスのスタートにおける担任の役割?」	
第2回	レポート等の対応 1章「特別活動とは何か」ディスカッション「運動会の1日、半日、計画」 1 内容構成と教育的意義 2 目標と基本的な性格(P.1~14)	
第3回	3 特別活動の歴史と特質 4 他の教育内容・方法との関連(P.14~44) ディスカッション「教職員の良好な人間関係づくり対策?」	
第4回	2章「教育課程の編成・実施と特別活動の授業時数」(P.46~55) 1 教育課程の意義と3要素 2 特別活動 3 授業時数 ディスカッション「子どものSOSチェック」	
第5回	3章「内容ごとの特質」(P.56~78) ディスカッション「学校内外の安全対策?」 1 学級活動 2 児童会 3 クラブ活動 4 学校行事	
第6回	4章「特別活動の評価」(P.79~86) 1 評価の意義 2 計画と方法 3 評価結果の活用 ディスカッション「学校行事(運動会、学芸会、文化祭、体育祭、キャンプ、宿泊訓練、修学旅行など)の意義とは」	
第7回	5章「特別活動の指導」(P.87~151) ディスカッション「清掃の時間の意義と分担」	
第8回	2 指導の実際(P.151~158) 1 指導原理の基本と形態や方法の工夫 2 指導上の留意事項 ディスカッション「部活動の意義と顧問の役割とは?」	
第9回	6章「特別活動を支え、充実、発展させるために」(P.159~167) 1 生徒指導の機能と生かし方 ディスカッション「クラブ活動の意義と顧問の役割」	
第10回	2 学級経営の機能と生かし方(P.168~176) ディスカッション「児童会・委員会活動の意義と顧問の役割とは?」	
第11回	3 特別活動を推進する指導体制(P.176~179) ディスカッション「学級活動の意義と担任の役割とは?」 4 体験的な活動のねらいとその展開(P.180~186)	
第12回	5 自己の生き方の指導をどう充実するか(P.186~194) ディスカッション「教員の勤務時間と私生活」	
第13回	6 特別活動を充実する研究・研修活動(P.195~197) ディスカッション「あなたの持ち味を生かした指導?」(面接)	
第14回	7 地域社会との連携(P.198~203) ディスカッション「漢字テストの結果、納得のいかないA君の対応?」	
第15回	期末試験: 教科書等持ち込み可 60分間	
第16回	科目終了試験: 教科書等持ち込み不可 60分間	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
成績評価	期末試験	20点 設題の意味を理解し、現場の実態を踏まえた私見
成績評価	授業内評価	10点 ディスカッションでの発言内容(私見、具体性、建設的な意見等)
成績評価	授業内評価	20点 授業態度(意欲、質問、意見等)
成績評価	授業内評価	20点 提出物(学修ポイント・レポート)
備考	授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。	

(講義)	科目名:国語	講師:松村久美子
科 目 概 要 ・ 目 標	<p>書写を含む国語(日本語)に関する基礎的・基本的知識理解を確かにするとともに、今日の国語国字問題や国語教育及び言語生活について考える力を育てる。 あわせて、各自の言語生活の向上と世界の言語のひとつとしての認識力を持って母国語としての日本語を尊重し、良くしようとする態度と実践力を養う。</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校での教職経験をもち、大学院では各教科の教育方法を学び、長年障害児療育・学習支援に携わってきた講師のもと、教育現場の実際を踏まえた実践的な知識を学ぶ。</p>	
教科書	金田一春彦『日本語 新版上下』岩波新書	
提出課題	<p>【設題1】身近に見られる日本語の表現や理解に関する疑問点・問題点を見つけ、その類例を集めるとともに、その原因と解決法について見解を述べよ。</p> <p><ポイント>1. 書写を含む国語(日本語)に関する日頃気にしていることを明確にすること 2. 国語に関することについて、母国語、公用語、音声、文字、文法、語彙、文体、方言、敬語、言語施策等広い視点からとらえ考えること。 3. 国語力の向上や日本語の尊重に関して自分なりの実践工夫を大切にすること</p>	
学修のポイント1	子どもの母国語・国語の習得の諸相について	
学修のポイント2	日本語の音声に関する基礎的知識と特徴について	
学修のポイント3	日本語の文法に関する基礎的知識と特徴について	
学修のポイント4	書写を含む日本語の文字及び表記法に関する基礎的知識と問題点について	
学修のポイント5	敬語と方言に関する基礎的知識と課題について	
学修のポイント6	日本語における国語国字問題について	
期末試験	小学校教育で子どもに育てるべき国語力とは	
回数	授業内容	
第1回	日本語の特徴 日本語は特異か平凡か 上～85	
第2回	日本語の音声に関する基礎的知識と特徴について 上87-115	
第3回	日本語の音声に関する基礎的知識と特徴について 上116-131	
第4回	日本語の文字及び表記法に関する基礎的知識と問題点下1-46	
第5回	6年生教材「迷う」 日本語の文法下46-96	
第6回	日本語の文法に関する基礎的知識と特徴について 下97-158	
第7回	日本語の文法に関する基礎的知識と特徴について 下159-263	
第8回	日本語における国語国字問題について	
第9回	問題点・疑問点の解決法	
第10回	敬語と方言に関する基礎的知識と課題について	
第11回	ひらがなの書き方 子どもの母国語・国語の習得の諸相について	
第12回	カタカナの基本(長音など) 正しい表記で書こう、誤用しやすい用語	
第13回	漢字の基本(筆順) 文章の基本的な書き方 重複表現	
第14回	実習令状などの手紙・ハガキの書き方	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点
	授業内評価	20点 教科書等の持ち物 提出物の期限厳守
		20点 授業態度 発言・発表
備考	レポートは学んだことをまとめた設題ではなく、自分で問題点・疑問点を見つけ、自分で資料を探し、原因や解決法を書きましょう	

(講義)	科目名:社会	講師: 山田 哲史																																		
科目概要・目標	小学校社会科の目標と内容について、小学校学習指導要領解説・社会編を基にして学修し、理解を深める。特に、今回の学習指導要領の改訂における小学校社会科の改訂のねらいと社会科の目標及び各学年の目標と指導内容の特色等について具体的に学修する。また、学び方や調べ方を身につける学習や体験的な学習、問題解決的な学習を一層重視する社会科学習のあり方について学修する。																																			
教科書	①北俊夫・加藤寿朗編『小学校新学習指導要領の展開 社会編』明治図書。 ②文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版。																																			
提出課題	レポート設題 【設題1】小学校学習指導要領社会の目標・内容の具体化を図る視点・方法について、教科書を根拠にしながら具体的に述べよ。 <ポイント>小学校社会科の目標・内容が具体化される場は授業である。そこで、学習指導要領に示された各学年の目標・内容のうち、どれか一つを取り上げ、その内容について児童が興味・関心をもつて主体的に取り組めるようにするための内容の具体化について述べる。特に内容の具体化を図る教材研究の仕方や、具体化した教材の作成・提示について着目したい。科目終了試験の各ポイントについて学修を進めた上で、レポート作成にとりかかると、より理解しやすい。																																			
学修のポイント1	小学校社会科の目標の特色と学年の目標の構造及び系統について																																			
学修のポイント2	小学校3年生の目標と内容の特色について																																			
学修のポイント3	小学校4年生の目標と内容の特色について																																			
学修のポイント4	小学校5年生の目標と内容の特色について																																			
学修のポイント5	小学校6年生の目標と内容の特色について																																			
学修のポイント6	指導計画の作成と内容の取扱いについて																																			
期末試験	(授業時に指示します。)																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>小学校社会科の目標の特色について</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>小学校社会科の学年の目標の構造及び系統について</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>指導計画の作成について</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>内容の取扱いについて</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>児童が興味・関心をもつて主体的に取り組むための内容を考える</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>小学校6年生の目標と内容の特色について</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>6学年の国際社会と日本の学習について</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>小学校4年生の目標と内容の特色について</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>小学校3年生の目標と内容の特色について</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>3・4学年の地域学習について</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>小学校5年生の目標と内容の特色について</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>5学年の国土学習について</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>5学年の産業学習について</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>社会科の学習に期待されていること</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>期末試験</td> </tr> <tr> <td>第16回</td> <td>科目終了試験</td> </tr> </tbody> </table>		回数	授業内容	第1回	小学校社会科の目標の特色について	第2回	小学校社会科の学年の目標の構造及び系統について	第3回	指導計画の作成について	第4回	内容の取扱いについて	第5回	児童が興味・関心をもつて主体的に取り組むための内容を考える	第6回	小学校6年生の目標と内容の特色について	第7回	6学年の国際社会と日本の学習について	第8回	小学校4年生の目標と内容の特色について	第9回	小学校3年生の目標と内容の特色について	第10回	3・4学年の地域学習について	第11回	小学校5年生の目標と内容の特色について	第12回	5学年の国土学習について	第13回	5学年の産業学習について	第14回	社会科の学習に期待されていること	第15回	期末試験	第16回	科目終了試験
回数	授業内容																																			
第1回	小学校社会科の目標の特色について																																			
第2回	小学校社会科の学年の目標の構造及び系統について																																			
第3回	指導計画の作成について																																			
第4回	内容の取扱いについて																																			
第5回	児童が興味・関心をもつて主体的に取り組むための内容を考える																																			
第6回	小学校6年生の目標と内容の特色について																																			
第7回	6学年の国際社会と日本の学習について																																			
第8回	小学校4年生の目標と内容の特色について																																			
第9回	小学校3年生の目標と内容の特色について																																			
第10回	3・4学年の地域学習について																																			
第11回	小学校5年生の目標と内容の特色について																																			
第12回	5学年の国土学習について																																			
第13回	5学年の産業学習について																																			
第14回	社会科の学習に期待されていること																																			
第15回	期末試験																																			
第16回	科目終了試験																																			
成績評価	<table border="1"> <tr> <td>出席率</td> <td>30点</td> <td>75%以上の出席を必須とする。</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>30点</td> <td>持ち込み許可物件:授業時に配布の資料、指定の教科書、自筆のノート</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">授業内評価</td><td>20点</td><td>授業中態度:携帯、居眠り、私語厳禁</td> </tr> <tr> <td>20点</td><td>課題提出状況</td> </tr> </table>		出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	期末試験	30点	持ち込み許可物件:授業時に配布の資料、指定の教科書、自筆のノート	授業内評価	20点	授業中態度:携帯、居眠り、私語厳禁	20点	課題提出状況																							
出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。																																		
期末試験	30点	持ち込み許可物件:授業時に配布の資料、指定の教科書、自筆のノート																																		
授業内評価	20点	授業中態度:携帯、居眠り、私語厳禁																																		
	20点	課題提出状況																																		
備考	教育の効果を高めるためにも、授業には集中力を持続して積極的に取り組むようにしてください。授業中の携帯電話の使用、居眠り、飲食や私語は禁止します。これらのルールを守ることができない学生に対しては不合格となりますので注意してください。																																			

(講義)	科目名:算数	講師: 松村久美子
科目概要・目標	<p>算数・数学科は、積み重ねの学修であるので、最も習得が難しい教科であることを認識することが必要である。同様に、指導も難しく、指導する段になって初めて、正確で広範な知識習得が必須であることに気づかされる。</p> <p>この科目を学ぶことにより、指導者が必ず習得しておかなければならない①学習指導要領の重点と概要、②算数・数学科の教育内容と教育方法について高い理解に到達し、初等数学の指導にあたるための基礎を習得することができる。</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校での教職経験をもち、大学院では各教科の教育方法を学び、長年障害児療育・学習支援に携わってきた講師のもと、教育現場の実際を踏まえた実践的な知識を学ぶ。</p>	
教科書	<p>①文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説算数編』日本文教出版社 ②土屋修・佐々木隆宏『算数教育の基礎がわかる本』学術図書出版社</p>	
提出課題	<p>【設題1】『学習指導要領』における数学的活動について、導入の経緯とその充実や内容に関して述べよ。 <ポイント>数学的活動を通して、主体的・対話的で深い学びを実現させるためには、どのような点に留意することが必要か考えること。</p>	
学修のポイント1	第1・2学年での数学的活動を通した学習活動について	
学修のポイント2	第3～6学年での数学的活動を通した学習活動について	
学修のポイント3	「数と計算」領域の指導内容について	
学修のポイント4	「図形」領域の指導内容について	
学修のポイント5	「測定」(1～3年)、「変化と関係」(4～6年)領域の指導内容について	
学修のポイント6	「データの活用」領域の指導の内容について	
期末試験	保育・幼児教育あるいは小学校教育で子どもに育てるべき算数力とは	
回数	授業内容	
第1回	算数科の目標①21②10数学的活動とは①23-29	
第2回	数学的活動の導入の経緯 ①71-72	
第3回	第1学年での数学的活動を通した学習活動について①76- 96-101	
第4回	第2学年での数学的活動を通した学習活動について①102- 127-133	
第5回	第3学年での数学的活動を通した学習活動について①134- 172-178	
第6回	第4学年での数学的活動を通した学習内容について①179- 224-231	
第7回	第5学年での数学的活動を通した学習活動について①232- 276-283	
第8回	第6学年での数学的活動を通した学習活動について①284- 314-321	
第9回	学習活動の見解 保②61 70 96 118 161 小②41-107-144-173-203- レポートCまとめ	
第10回	「数と計算」領域の指導内容について	
第11回	↓ ①42-49 ②104-105	
第12回	「図形」領域の指導内容について ①50-56 ②142-143	
第13回	「測定」「変化と対応」領域の指導内容について①61-66 ②200-202	
第14回	「データの活用」領域の活動内容について ①67-71 ②229-230	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点
	授業内評価	20点 教科書等の持ち物 提出物の期限遵守
		20点 授業態度 発言・発表
備考	ポイント・レポートでは、指定教科書の内容を理解した上で、教科書の内容を超えた創造的な数学的活動の授業構想がポイント・レポートに書き込まれることを期待します。	

(講義)	科目名:理科	講師: 奥村 一成
科目概要・目標	<p>理科とは、宇宙がどのようにできて現在の姿になったのか、生命はどのように誕生して進化してきたのか、ということを実験あるいは調査結果をもとに、科学的に検証していく学問である。理科は物理学、化学、生物学、地学に大きく4分野に分けられているが、この授業では明確な境界を定めずに、自然現象について総合的に学んでいく。そして、科学的な目で物事を判断する基礎能力を身につけることを目標とする。</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師の下、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>	
教科書	後藤卓也「新しい教養のための理科 応用編Ⅰ－生命と地球－」誠文堂新光社	
提出課題	レポート設題	【設題】生命の誕生から動物・植物への分化、および進化について述べよ。
	学修のポイント1	現在の大気は、どのように形成されたか述べよ。
	学修のポイント2	エコシステム(生態系:環境と生物のつながり)について述べよ。
	学修のポイント3	太陽系における地球型惑星と木星型惑星の成因を述べよ。
	学修のポイント4	地震は、どうして起こるのか述べよ。
	学修のポイント5	地球温暖化の原因と対策を述べよ。
	学修のポイント6	物質を構成している原子は、どのように形成されたか述べよ。
期末試験・スクーリング修了試験	後日授業中に告知する。	
回数	授業内容	
第1回	宇宙誕生	
第2回	科目終了試験対策	学修のポイント6 「物質を構成している原子は、どのように形成されたか述べよ。」
第3回	科目終了試験対策	学修のポイント3 「太陽系における地球型惑星と木星型惑星の成因を述べよ。」
第4回	レポート対策 「生命の誕生」	
第5回	レポート対策 「生命の進化」	
第6回	レポート対策 「動物・植物の分化」	
第7回	レポート作成(下書き)	
第8回	科目終了試験対策	学修のポイント1 「現在の大気は、どのように形成されたか述べよ。」
第9回	科目終了試験対策	学修のポイント5 「地球温暖化の原因と対策を述べよ。」
第10回	科目終了試験対策	学修のポイント4 「地震はどうして起こるのか述べよ。」
第11回	科目終了試験対策	学修のポイント2 「エコシステム(生態系:環境と生物のつながり)について述べよ。」
第12回	最近の科学的トピック解説	
第13回	最近の科学的トピック解説	
第14回	期末試験対策	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 持ち込み可 論述式
		20点 課題(レポート・学修のポイント) 期日厳守(提出期限に遅れた場合は、減点。)
	授業内評価	20点 誠実で積極的な授業態度を重視
	備考	レポートや学修のポイントの提出期限を守り、無遅刻・無欠席で頑張りぬいてください。

(実技)	科目名:図画工作Ⅱ	講師: 山田 大空
科 目 概 要 ・ 目 標	保育内容を展開する上で必要とされる、保育における造形活動の事例を例証・傍証して取り上げ、具体的な考察を行い、造形活動の題材系列や指導・援助に必要な個人の素養と、保育実践に必要な知識や技能を習得する。	
教科書	花村内哲二、他『保育内容 造形表現の指導』建帛社。	
提出課題	<p>レポート設題 【設題1】幼児の生き生きとした造形活動を促すための「指導者の役割」と「指導過程」のポイントを、制作の実体験を踏まえ具体例を交えながら述べよ。</p> <p>学修のポイント1 領域〈表現〉における造形活動の指導について</p> <p>学修のポイント2 幼児の成長発達と造形表現について</p> <p>学修のポイント3 指導計画の必要性とその意義について</p> <p>学修のポイント4 望ましい指導のあり方について</p> <p>学修のポイント5 指導の過程(指導の段階)について</p> <p>学修のポイント6 造形表現と材料・用具について</p>	
期末試験	実技試験(内容は後日発表)	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション・【座学】学修ポイント作成指導	
第2回	【共同作品】空き箱の街	
第3回	【紙の造形】こいのぼり	
第4回	【座学】レポート作成指導	
第5回	【紙の造形】幾何学立体	
第6回	【木工】虫を作ろう	
第7回	【木工】木つ端の塔	
第8回	【廃材工作】太鼓	
第9回	【廃材工作】コマ	
第10回	【廃材工作】木箱の街	
第11回	【粘土】色粘土遊び	
第12回	【粘土】粘土のヘビ	
第13回	【粘土】粘土のカタツムリ	
第14回	【空間作品】室内の木	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	15点 実技試験
		40点 作品課題
	授業内評価	15点 レポート
備考		

(実験)	科目名:心理学実験	講師: 木村 洋太
科目概要・目標		
	本科目では、心理学における実験法の意義と方法をよく理解した上で、実験計画の基本的な枠組みを具体的な実験研究から学んでいく。様々な研究を批判的に考えてみたり、実際に実験の実施もしていく。また、質問紙をベースにした実験・調査研究についても、実際に質問紙を作りながら学んでいく。このように、様々な心理分野の実験の立案、批判、実施を通して、統計に関する基礎的な知識も得し、人間行動の問題の解決方法を探る。	
教科書	大山正、他『新心理学ライブラリ8 実験心理学への招待』 サイエンス社 2012年 参考文献:三浦麻子監修『なるほど! 心理学実験法』なるほど! 心理学研究法』北大路書房 2017年	
提出課題	レポート課題1	心理学実験法についてまとめ、自分の問題意識に沿った実験のテーマや方法について考察せよ
	レポート課題2	日常生活や社会問題に貢献する実験心理学研究について考察せよ
	学修のポイント1	グループ比較デザインと一事例研究について考察せよ
	学修のポイント2	実験の利点と欠点について
	学修のポイント3	感觉・知覚の一般的特性と、形やパターンの知覚について
	学修のポイント4	記憶における符号化と検索について（関連する実験も含めて）
	学修のポイント5	外発的動機づけと内発的動機づけについて（関連する実験も含めて）
	学修のポイント6	学習の正負の転移と、学習の構えについて（関連する実験も含めて）
期末試験	詳細は後日に決定する	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション 「研究」「実験」とは何か 研究の骨組みを理解しよう	
第2回		
第3回	準実験とは何か 研究を批判する力、論理的な考え方を手に入れよう。実際の研究から。	
第4回		
第5回		
第6回	人の心の機能について知りたいことを実験に落とし込むには	
第7回		
第8回	まとめ・レポート作成	
第9回	動機づけの研究について	
第10回	質問紙調査の実施	
第11回	学習心理研究について	
第12回	学習心理学研究の紹介と実験の実施	
第13回		
第14回	日常生活の人の営みを説明し、社会に役立つ研究とは何か	
第15回		
第16回	日常生活の人の営みを説明し、社会に役立つ研究とは何か	
第17回		
第18回	まとめ・レポート作成	
第19回	社会心理研究について	
第20回	社会心理実験の実施	
第21回	知覚の特性について	
第22回	錯視実験の紹介と実験の実施	
第23回	記憶研究について	
第24回	記憶実験の紹介と実験の実施	
第25回	質問紙研究を行うには	
第26回	信頼性と妥当性の理解	
第27回	質問紙作成とディスクッション	
第28回		
第29回	質問紙の実施の項目分析	
第30回		
第31回	期末試験	
第32回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	20点 論述式。持ち込み可。
	授業内評価	50点 授業態度、グループ討議などの取り組み態度、レポート課題への取り組み(期限厳守、添削からの修正努力)などを総合的に評価す
備考	毎週水曜日、2コマ連続開講です。実際の実験を読んでの内容の教え合い、プレゼン作成、発表、論文読解、実験実施なども行います。本授業は、実験計画立案や発表、実際の実験実施も行うため、進行状況によってはシラバスに変更が生じる場合があります。より良い実験の環境の設定には受講生同士の協力が不可欠です。欠席するとデータが取れなかったり、次回の進度に周りを巻き込んでしまう可能性があります。そのため、体調管理には気をつけていつも以上に出席に力を注いでください。	

(実技)	科目名:音楽実技 I C	講師: 樋上 莊一		
授業概要・目標	<p>音楽の基礎的知識を正しく身につけることを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 楽譜に関する基本的知識を正確に身につけ、楽譜を読む能力を養う。 2. バイエルを中心として、保育活動に必要なピアノ演奏技能を、初歩から学ぶ。 2. 幼児歌曲の指導能力を身に付けるため、歌うことなど、基礎技能に習熟するための準備を始める。 			
教科書・資料	<p>*標準バイエルピアノ教則本 *こどものうた名曲アルバム</p>			
設題	中間テスト	*楽譜は見てよい	第1回 バイエル No.55, 60	
			第2回 バイエル No.65, 66	
期末試験	期末試験		第3回 幼児歌曲の弾き歌い(2曲準備する)	
			第4回 伴奏付け(コード伴奏/2曲準備する)	
回数	授業内容、練習及び合格目標			
	第1回	<p>*ガイダンス(楽器の扱い方、授業の進め方の確認) *バイエル No.55, 60 *幼児歌曲</p>		
		<p>*バイエル No.55, 60 *幼児歌曲</p>		
	第2回	<p>*バイエル No.55, 60 *幼児歌曲</p>		
	第3回	<p>*第1回中間テスト(バイエル No.55, 60) *バイエル No.65</p>		
	第4回	<p>*バイエル No.65, 66 *幼児歌曲</p>		
	第5回	<p>*バイエル No.65, 66 *幼児歌曲</p>		
	第6回	<p>*第2回中間テスト(バイエル No.65, 66) *幼児歌曲 *バイエル No.73</p>		
	第7回	<p>*幼児歌曲</p>		
	第8回	<p>*コードネームについて *幼児歌曲</p>		
	第9回	<p>*第3回中間テスト(幼児歌曲 2曲)</p>		
	第10回	<p>*コードネームについて *幼児歌曲</p>		
	第11回	<p>*コードネームについて *幼児歌曲</p>		
	第12回	<p>*第4回中間テスト(コード伴奏 2曲) *バイエル No.75</p>		
成績評価	第13回	<p>*期末試験準備 (バイエル No.75, 幼児歌曲 2曲)</p>		
	第14回	<p>*期末試験準備 (バイエル No.75, 幼児歌曲 2曲)</p>		
	第15回	<p>*第1回 期末試験 (バイエル No.75)</p>		
	第16回	<p>*第2回 期末試験 (幼児歌曲 2曲)</p>		
成績評価	出席率	30点	75% 以上出席すること。出席不足の場合は再履修とする。	
	中間テスト	20点	4(5-1)点×2(バイエル), 5点×2(幼児歌曲)	
	期末テスト	20点	8(10-2)点(バイエル) 10点(幼児歌曲 2曲)	
	配点曲	30点	14点 バイエル : (2点×4) 55, 60, 65, 75 / (3点×2) 66, 73	
			16点(2点×8) 幼児歌曲 5曲 / 伴奏付け(コード伴奏) 3曲	
備考		<p>*各テストの日程・課題は、授業の進度等により、変更される場合がある。 *大学スクーリング修了試験課題:バイエル 18, 19, 40, 49, 52</p>		

教育学科

教育学認定心理士コース

3 年生

(講義)	科目名:特別ニーズ教育論	講師:花木元司
科目概要・目標	<p>障害の有無に関わらず特別の教育的ニーズのある児童を理解するために、(1)インクルーシブ教育の理念とシステム構築の具体化の模索、(2)わが国の特別支援教育の理念、制度及び展開、(3)特別支援学校や特別支援学級、通級による指導、地域連携支援などの特別支援教育の各形態の現状と課題、についてそれぞれ講述する。</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、特別支援学校で障害児の教育にあたってきた講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>	
	<p>参考文献</p> <p>【教科書】玉村公二彦、他『新版 キーワードブック 特別支援教育』クリエイツかもがわ。</p> <p>【参考資料】石部元雄・上田征三・高橋実・柳本雄次編 「よくわかる障害児教育」ミネルヴァ書房</p>	
提出課題	<p>レポート設題</p> <p>【設題1】現代の学校は、発達障害・母国語・貧困などの問題への様々な教育的ニーズに対応しなければならない。現在の学校教育が抱える問題について、インクルーシブ教育の視点から整理し、その解決についてあなたの考える方策を述べよ。</p> <p>学修のポイント1 インクルーシブ教育の理念について</p> <p>学修のポイント2 特別支援教育とインクルーシブ教育について</p> <p>学修のポイント3 障害の理解について</p> <p>学修のポイント4 特別支援学校の学習指導要領と教育課程について</p> <p>学修のポイント5 障害児の教育課程について</p> <p>学修のポイント6 特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりについて</p>	
	期末試験	講義の中で発表する。
回数	授業内容	
第1回	インクルーシブ教育とは	
第2回	インクルーシブ教育の理念について ポイント①	
第3回	現在の特別支援教育の現状と課題	
第4回	特別支援教育とインクルーシブ教育について ポイント②	
第5回	我が国の障害児教育	
第6回	特別支援教育の歴史	
第7回	障害の理解について 視覚障害・聴覚障害 ポイント③	
第8回	障害の理解について 知的障害・肢体不自由・病弱 ポイント③	
第9回	障害の理解について 重度重複障害児 ポイント③	
第10回	障害の理解について 学習障害(読み書き障害)・ADHD ポイント③	
第11回	障害の理解について 自閉症(ASD) ポイント③	
第12回	特別支援学校の学習指導要領と教育課程について ポイント④	
第13回	障害児の教育課程について ポイント⑤	
第14回	特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり ポイント⑥	
第15回	期末試験	
第16回	科目修了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 的確に課題の意図を捉えているか
	授業内評価	20点 積極的に授業に臨んだか
		20点 提出物(期限内に提出できたか)
備考	講義の内容を理解することのみに終始するのではなく、積極的に障害児・外国人などとのかかわりの機会を持ち、自分の感性で感じ取る努力をすること。	

(講義)	科目名: 生活	講師: 小河直子												
科目概要・目標	<p>幼児期から児童期へのスムーズな活動の移行を意図して、教科「生活」が設定された。「生活」では、幼児からの連續を踏まえて、具体的な活動や体験を通して自分と身近な環境とのかかわりを大切にしながら実感的に学んで知的な気づきを深めたり、自分自身や自分の生活について考えたり、基本的な生活習慣を身につけたりする。したがって、本科目では、「生活」の趣旨や目標および内容について学ぶ際に、幼児保育との関連を重視する。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校で教員として学校教育にあたった講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>													
教科書	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 生活編													
提出課題	<p>レポート設題 【設題1】幼児保育の基本と、教科「生活」の目標や内容との関連や連続について具体的に考察して述べよ。</p> <p>【ポイント】 「生活」は子どもの実感を伴った気づきを重視する。したがって、子どもの身近な環境との情緒的なかかわりが学びの第一歩となる。子どもの心と頭と身体活動が一体となった学びの姿を見出すようにすること。</p> <table border="1"> <tr> <td>学修のポイント1</td><td>教科「生活」の内容と特色について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント2</td><td>目標や内容が2学年まとめて示されることについて</td></tr> <tr> <td>学修のポイント3</td><td>幼児の集団保育と「生活」の基本的な生活習慣を重視する。事の関連について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント4</td><td>幼児の「探検遊び」と「生活」の学習との関連について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント5</td><td>「生活」と他教科等の学習との関連について</td></tr> <tr> <td>学修のポイント6</td><td>「生活」の特質と気付きの質を高める事の関連について</td></tr> </table>		学修のポイント1	教科「生活」の内容と特色について	学修のポイント2	目標や内容が2学年まとめて示されることについて	学修のポイント3	幼児の集団保育と「生活」の基本的な生活習慣を重視する。事の関連について	学修のポイント4	幼児の「探検遊び」と「生活」の学習との関連について	学修のポイント5	「生活」と他教科等の学習との関連について	学修のポイント6	「生活」の特質と気付きの質を高める事の関連について
学修のポイント1	教科「生活」の内容と特色について													
学修のポイント2	目標や内容が2学年まとめて示されることについて													
学修のポイント3	幼児の集団保育と「生活」の基本的な生活習慣を重視する。事の関連について													
学修のポイント4	幼児の「探検遊び」と「生活」の学習との関連について													
学修のポイント5	「生活」と他教科等の学習との関連について													
学修のポイント6	「生活」の特質と気付きの質を高める事の関連について													
期末試験	後日発表													
回数	授業内容													
第1回	オリエンテーション・シラバス・レポートの課題について理解する。自己紹介ゲームを通して生活の特質を知る。文字を書くことについて													
第2回	生活科の内容の特色について教科目標に触れながら理解する。学修のポイント①文字遊び3層の内容構成を考える													
第3回	幼小の連携の重要性について知り、幼児教育と生活科の共通する点を「生活」内容と特質を踏まえて考察する。													
第4回	スタートカリキュラム2 アサガオの栽培、種の観察と種蒔													
第5回	学修ポイント④なつだあそぼうの単元について													
第6回	学修ポイント⑥幼児の「ごっこ遊び」と「生活」の学習との関連について													
第7回	学修ポイント③幼児の「ごっこ遊び」と「生活」学習との関連について													
第8回	スタートカリキュラムの役割生活科の教科書を通して													
第9回	学校探検の役割と意義・自分の成長についての実際について													
第10回	幼児の「ごっこ遊び」と「生活」学習との関連について													
第11回	学修ポイント②目標や内容が2学年まとめて示されることについて													
第12回	学修ポイント⑤生活科と他教科等のつながりについて考える。													
第13回	学校の施設と幼児教育の施設を較べる。振り返りシートをまとめる													
第14回	まとめとテスト対策													
第15回	期末試験													
第16回	科目終了試験													
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。												
	期末試験	30点 課題意識を持ち分かりやすく論述できたか。												
	授業内評価	20点 レポート・学修ポイントの提出期限を守れたか。												
		20点 積極的に授業に参加できた。												
備考	実習に必要なハサミのりは常時持ってくる。													

(講義)	科目名:家庭	講師: 浅井恭子
科目概要・目標	<p>小学校における「家庭科」は、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、家庭生活に焦点を当て、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識を身に付け、家庭の一員として生活を工夫しようとする実践的な態度を育てることを目標としている。本科目では、小学校の「家庭科」の授業を展開する上で必要となる、学習指導の要点や留意点、題材構成のあり方などについて学修する。</p>	
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 家庭編』東洋館出版社	
提出課題	<p>レポート設題 家庭科における題材・教材選びの留意点と具体的な学習展開について述べよ。</p> <p>学修のポイント1 A 「家族・家庭生活」に関する内容と指導上の留意点について</p> <p>学修のポイント2 B 「衣食住の生活」(1)食事の役割(2)調理の基礎(3)栄養を考えた食事の内容と指導上の留意点について</p> <p>学修のポイント3 B 「衣食住の生活」(4)衣服の着用と手入れ(5)生活を豊かにするための布を用いた製作の内容と指導上の留意点について</p> <p>学修のポイント4 C 「消費生活・環境」の内容と指導上の留意点について</p> <p>学修のポイント5 実習指導を行う際に配慮すべき点について</p> <p>学修のポイント6 わが国の伝統的食文化である「米飯及びみそ汁の調理」の指導上の留意点について</p>	
期末試験	家庭科で「食育」に取り組む際のポイントについて考察しなさい。(別紙資料参考のこと)	
回数	授業内容	
第1回	シラバスの説明及び授業に関する諸注意、教材確認、第1章読み合わせ	
第2回	設題1: 第2章第1節～第2章 目標及び内容	
第3回	設題1: 第2章第3節 学習内容A～Cのをまとめる	
第4回	設題1: 同上	
第5回	設題:A～Cの学習内容から題材・教材を取り上げ学習展開をまとめる	
第6回	学習のポイント4:「消費生活・環境」の内容と指導上の留意点について	
第7回	学修のポイント5: 実習指導を行う際に配慮すべき点について	
第8回	学修のポイント6: 我が国の伝統的日常食である「米飯及びみそ汁の調理」の指導上の留意点について	
第9回	学習のポイント1～3について学習する	
第10回	家庭科の基礎知識: 食物学	
第11回	家庭科の基礎知識: 被服学	
第12回	家庭科の基礎知識: 住居学	
第13回	教員採用試験過去問	
第14回	実技指導	
第15回	期末試験 (シラバスに表記しております)	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 持ち込み可(1000字以上)
		10点 提出物(設題・学習のポイントなどの提出期限重視)
	授業内評価	10点 実習作品(被服作品)
		20点 授業態度(授業に取り組む姿勢)
備考	①携帯電話等の使用禁止 ②私語は慎む ③居眠り禁止 ④飲食は禁止 ⑤配布資料は大切に	

(講義)	科目名 : 体育科指導法	講師 : 山口 榮三
科目概要・目標		
	体育を指導する上での基本的な知識・技能を身につけ、各領域の教材づくりと指導のポイントについて学習する。 スクーリングは実技中心の授業であり、体育の模擬授業形式で授業を進める。 部分的には講義やディスカッション形式で授業を行う。	
教科書 参考文献	高橋建夫『新版 体育科教育学入門』大修館書店 小谷川元一『教師と親の「共育」で防ぐいじめ・学級崩壊』大修館書店	
提出課題	レポート設題 【設題1】体育学修のポイントを整理し、具体的な事例をもとにより良い体育授業について述べよ。 <ポイント>次の点を踏まえて述べること。 ①「わかる」「できる」「かかわる」が両立する体育授業とは何か把握する。 ②体育の特性を整理し、人間関係構築のために体育科の果たす役割を理解する。 ③子どもが伸びる具体的な教材を示し、授業のポイントを整理する。 学修のポイント 1 体育とは子どもたちにどのような影響を与える教科なのか 2 人間関係を構築する体育学習とはどのようなものか 3 体育の教材づくりについて、具体的な事例をもとに述べよ。 4 体育科学習指導案作成上の留意点について 5 いじめ・学級崩壊を防ぐために体育学習が果たす役割について 6 体育の授業場面において教師が特に配慮すべきことについて	
期末試験	(後日連絡します)上記の科目終了試験1~3の設題から1つ	
回数	授業内容	
第1回	体育科の特性及び目標整理し、体育科とはどのような教科なのかについて理解を深める。	
第2回	体育の学習主体の子どもの理解	
第3回	体育の領域と単元構成について教科書をもとに整理する。	
第4回	典型教材を作成する。(資料等を参考にしながら、児童に学習させたい教材を考案する。)	
第5回	人間関係を構築する体育学習について教科書等をもとに整理する。 (希薄な人間関係の社会背景についても考察する)	
第6回	いじめ・学級崩壊を防ぐために体育学習が果たす役割について、参考書の具体的な事例などをもとに整理する。	
第7回	体育学習において教師が特に配慮すべきことについて、自身の経験をもとにまとめる。(安全面の配慮は必ずおさえる)	
第8回	体育科学習指導案の作成のポイントについて参考書の具体事例などをもとに整理する。	
第9回	体育学習指導案作成「体つくり運動系教材」	
第10回	体育学習指導案作成「器械運動系教材」	
第11回	体育学習指導案作成「ボール運動系教材」	
第12回	体育学習指導案作成「保健学習系教材」	
第13回	体育学習指導案作成「陸上運動系教材」	
第14回	体育学習指導案作成(「水泳系教材」「表現運動系教材」から一つを選んで)	
第15回	期末試験	
第16回	科目修了試験	
成績評価	出席率	30点
	期末試験	30点
	レポート	20点
	実技	10点
	授業態度	10点
備考	授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。	
	遅刻は15分まで。その後は欠席となります。遅刻3回で欠席1回。	

(講義)	科目名:教育実習指導(初等)	講師:奥村一成											
科目概要・目標	<p>教育実習は、大学で習得した知識や理論を、幼稚園および小学校で実際に体験することにより、教育の理解を深め、実践力と教師の使命感を身につけ、教育職としての資質を向上させることを目的とする。</p> <p>本授業では、実習の目的達成のための基礎知識や心構えを身につける。具体的には管理運営の理解(教育課程の管理、事務・教務、教育活動一般)、幼児および児童の発達と理解、教材研究、指導の方法、学級経営などについて講義や事例検討を通して学ぶ。</p> <p>また、教育実習における日誌や個人記録の取り方を体得し、このことを通して幼稚園および小学校教育の実際や各自の教師としての能力・適性について認識を深める。</p> <p>学生は実習において、幼児および児童との生活や遊び、学習を中心とする様々な教育展開の方法を観察・実習体験し、課題や問題点を細部にわたって反省評価し、指導教師に指導・助言を受ける。その際、幼児および児童の一人ひとりの発達の状況や、家庭との連携の必要とその方法についても認識を広げる。</p> <p>(実務経験を有する講師による授業の補足)</p> <p>当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>												
参考文献	<p>【教科書】 「教育実習(初等)の手引き」</p> <p>【参考資料】 ①平成29年告示小学校学習指導要領対応「小学校教育実習ガイド」 ②文科省「小学校学習指導要領解説」</p>												
期末試験	授業の中で指示する。												
回数	授業内容												
第1回	講義概要、教育実習の意味 実習に向けての自己課題												
第2回	子どもの理解と援助・支援技術の理解Ⅰ 教育環境と子どもの実態												
第3回	子どもの理解と援助・支援技術の理解Ⅱ 教育環境と子どもの実態												
第4回	実習に必要な心構え												
第5回	指導案、記入に必要な事項												
第6回	子どもの活動と教師の援助、支援												
第7回	指導案一枚の中の関連												
第8回	指導案の作成と分析Ⅰ 題材、活動内容等の記入												
第9回	指導案の作成と分析Ⅱ 資料の収集、模擬授業の内容精査												
第10回	指導案の作成と分析Ⅲ 援助、支援などの工夫												
第11回	模擬授業の実際 その1												
第12回	模擬授業の実際 その2												
第13回	子どもの理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察 その1												
第14回	子どもの理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察 その2												
第15回	目指す授業と自己課題の再設定												
第16回	まとめ 期末試験												
成績評価	<table border="1"> <tr> <td>出席率</td> <td>30点</td> <td>75%以上の出席を必須とする。</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>30点</td> <td>自分の課題意識が持てたかどうか</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">授業内評価</td> <td>20点</td> <td>授業態度</td> </tr> <tr> <td>20点</td> <td>提出物</td> </tr> </table>		出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	期末試験	30点	自分の課題意識が持てたかどうか	授業内評価	20点	授業態度	20点	提出物
出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。											
期末試験	30点	自分の課題意識が持てたかどうか											
授業内評価	20点	授業態度											
	20点	提出物											
備考	実習を前にした大切な授業であるという意識をもち、積極的な態度で学修して欲しいと願っています。												

(演習)	科目名:専門実技 I	講師:松村久美子
科目概要・目標	事前研究会での意見交換・計画の見直し・教材づくり・実践授業・省察・授業改善と、実技を通して、模倣に陥らない創造的な実践力を高めていく。加えて教育実習の心構えを知ったり、教採に対応できる力を培う。	
教科書	配布プリント	
期末試験	実践を通しての自身への気付きや試行錯誤、工夫等を具体的に書き、教師の資質能力を培うためにこれからすべきことを具体的に述べよ。	
回数	授業内容	
第1回	算数指導案の事前研究会の説明 事前研究会について	
第2回	事前研究会① 教育実習の準備	
第3回	事前研究会② 初日の迎え方	
第4回	事前研究会③ 研究授業の準備と心得	
第5回	事前研究会④ 子供のやる気を喚起する授業	
第6回	事前研究会⑤ 発問と指名	
第7回	教材づくり ワークシートづくり ノート指導・机間指導	
第8回	実践授業① (教採問題)	
第9回	実践授業② (教採問題)	
第10回	実践授業③ (教採問題)	
第11回	実践授業④ (教採問題)	
第12回	実践授業⑤ (教採問題)	
第13回	特別な支援が必要な子どもへの関わり 授業	
第14回	特別な支援が必要な子どもへの関わり 教材づくり	
第15回	特別な支援が必要な子どもへの関わり 教材づくり	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点
		20点 授業への構え 授業態度
	授業内評価	20点 自己改善 自己指導力
備考	計画ありきではなく、受講生の実態に応じる。例えば、適宜 愛知・名古屋・三重の教採過去問などを用い解法や学習方法を共有する。	

(講義)	科目名:教職教養演習Ⅱ		講師:山田哲史
科目概要・目標	新しい将来受験することとなる小学校教員採用試験を想定しながら、専門教科(小学校全科)のうち、「社会」に関する内容について問題演習を通して理解の幅を広げていきたい。		
教科書		『教員採用試験対策問題集専門教科小学校全科』(必要に応じて資料を配付します)	
参考書		『教員採用試験対策参考書専門教科小学校全科』(必要に応じて資料を配付します)	
回数	授業日	授業内容	
第1回	4/14(金)	オリエンテーション/問題演習①	
第2回	4/21(金)	問題演習②	
第3回	5/12(金)	問題演習③	
第4回	5/19(金)	問題演習④	
第5回	5/26(金)	問題演習⑤	
第6回	6/2(金)	問題演習⑥	
第7回	6/9(金)	問題演習⑦	
第8回	6/16(金)	問題演習⑧	
第9回	6/23(金)	問題演習⑨	
第10回	6/30(金)	問題演習⑩	
第11回	7/7(金)	問題演習⑪	
第12回	7/14(金)	問題演習⑫	
第13回	7/21(金)	問題演習⑬	
第14回	8/25(金)	問題演習⑭	
第15回	9/1(金)	問題演習⑮	
第16回	9/8(金)	期末試験	
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	授業内評価	30点	期末テスト
		40点	授業態度
備考		授業内容は変更になる場合があります。	

(講義)	科目名: 心理的アセスメント	講師: 内山 世璃奈
科目概要・目標	事例理解のために、性格テストや知能検査など各種の心理検査がどのように役立つかを知り、心理的アセスメントの目的及び倫理、心理的アセスメントの方法(観察、面接及び心理検査)、適切な記録及び報告について学修し、各種の心理検査の基本となる考え方について理解を深める。	
教科書	渡部洋 「心理検査法入門」福村出版、2016	
提出課題	<p>レポート設題</p> <p>【設題1】以下の6種の心理検査の中から、好きなものを1種選択し、選択した心理検査について、その特徴を述べよ。 「ウェクスター式知能検査」「Y-G性格検査」「ティラー不安検査」「VPI職業興味検査」「新版K式発達検査」「ロールシャッハテスト」</p> <p>【設題2】以下の6種の心理検査の中から、【設題1】で選択したもの以外で好きなものを1種選択し、選択した心理検査について、その特徴を述べよ。 「ウェクスター式知能検査」「Y-G性格検査」「ティラー不安検査」「VPI職業興味検査」「新版K式発達検査」「ロールシャッハテスト」</p>	
学修のポイント1	信頼性について	
学修のポイント2	妥当性について	
学修のポイント3	個別式検査の長所と短所について	
学修のポイント4	質問紙法の長所と短所について	
学修のポイント5	投影法の長所と短所について	
学修のポイント6	作業検査法の長所と短所について	
期末試験	後日発表	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション／GP③、R1、R2	
第2回	GP④ 質問紙法について GP③(1000字作成)	
第3回	レポート設題①②「ウェクスター式知能検査」について	
第4回	レポート設題①②「Y-G性格検査」について 概要説明・実施 GP④作成	
第5回	レポート設題「Y-G性格検査」について 検査結果・考察・まとめ	
第6回	レポート設題①②「VPI職業興味検査」について 概要説明・実施	
第7回	R1 作成	
第8回	学修のポイント⑤(1000字作成)	
第9回	ティラー不安検査 概要説明・実施・考察	
第10回	「ロールシャッハテスト」について 概要説明	
第11回	学修のポイント⑥「クレペリン作業検査」	
第12回	クレペリン作業検査実施	
第13回	クレペリン作業検査実施・考察・まとめ	
第14回	期末試験対策	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点 指定の用紙のみ持ち込み可 論述式(自分の意見や考えが述べられているか)
	授業内評価	30点 ①提出期限を守っているか ②下記のことを守れているか
備考	<p>授業には積極的に参加し、理解し考えようとする力・姿勢を身につけてください。</p> <p>授業中の居眠り、私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁です。</p> <p>何度も注意しても直らない場合(指定座席に座っていない場合も)は、受講は認めず退出していただきます。</p>	

(実技)	科目名:レクリエーションワーク	講師: 山口 榮三
科目概要・目標	社会福祉の援助技術に関わる課題としてのレクリエーションについて学修する。まず、ライフステージ(幼児・児童・青年・老年・障害者)に対応したレクリエーション援助の意義について理解する。そして、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション援助の技術(個別・グループ・環境)を、実践を通して身につける。	
教科書・資料	①レクリエーション支援の理論と方法 楽しさをとおした心の元気づくり 公益財団法人日本レクリエーション協会 レクリエーション・インストラクターテキスト ②各種レク財冊子 ③県内実施の事業	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション・レクリエーション支援とは/現場実習について 実技体験	
第2回	レクリエーション支援の展開方法(1) 個別及び集団レクリエーション支援方法とその実践	
第3回	アイスブレーキングゲーム支援の実際(1) 実技体験	
第4回	アイスブレーキングゲーム支援の実際(2) 実技体験	
第5回	レクリエーション支援実習1	
第6回	レクリエーション支援実習2	
第7回	レクリエーション支援実習3	
第8回	レクリエーション支援実習4	
第9回	レクリエーション支援実習5	
第10回	レクリエーション支援実習6	
第11回	レクリエーション支援実習7	
第12回	レクリエーション支援実習8	
第13回	レクリエーション支援実習9	
第14回	レクリエーション支援実習10	
第15回	期末試験	
第16回	まとめ	
成績評価	出席率	30点
	期末試験	30点 持ち込み:可 論述式
	課題提出	30点 支援計画案の提出及びその内容で評価します。
	授業態度	10点 本学園におけるルール、マナーにそって、授業を受けていたかどうかで判断します。
備考	授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。	

(実技)	科目名:情報処理基礎演習Ⅲ		講師: 高橋直子
科目概要・目標	<p>パワーポイントの使い方を学習する。 特に、図を用いて表現することを学習する。</p>		
教科書	なし(毎回授業で使用するプリントを配布する)		
期末試験	実技試験(パワーポイントで1つの資料を作成し保存する。)		
回数	授業内容		
第1回	パワーポイントの基本		
第2回	いろいろなスライドの作成		
第3回	効果(画面切り替え、アニメーションなど)の利用		
第4回	リンク機能の利用		
第5回	グラフのスライドの作成		
第6回	グラフィカルな機能を使ったスライドの作成		
第7回	図解のパターンを理解するスライドの作成		
第8回	マスターの利用		
第9回	図解の復習		
第10回	複雑な図解のスライドの作成		
第11回	自由にアレンジしたスライドの作成		
第12回	話の流れを考える		
第13回	資料を作る		
第14回	復習		
第15回	復習		
第16回	期末試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点	
	授業内評価	30点	毎回授業で行う課題作成などを含めた授業態度
備考	飲食厳禁、私語厳禁、携帯電話などの使用禁止		

(講義)	科目名:教養基礎演習Ⅱ	講師: 室山俊浩
科目概要・目標	本科目では、広く基礎科目を学習することにより、大学卒業程度の深い教養を身につけ、公務員および一般の就職対策や大学院入試などに対応できる、一般教養の学力をつけることをめざす。教養試験の類型は、多くの地方自治体・施設等における採用試験に取り入れられているため、福祉・保育・教育関連の資格職、公務員や地方上級公務員試験対策はもとより、一般の就職採用試験対策にも効果的である。また幅広い教養を身につけられることから、就職以外の進路を考えている学生にとっても有効である。	
教科書	東京アカデミー『セサミノート②一般教養』	
提出課題	<p>レポート設題 【設題1】環境問題と環境保護のための取り組みについて述べよ。</p> <p>学修のポイント1 次の出来事を年代順に並べ替え、どのような出来事が簡単に説明せよ。 (a.南北ベトナムの統一、b.ベルリンの壁の崩壊、c.湾岸戦争、d.昭和天皇の崩御、e.沖縄返還)</p> <p>学修のポイント2 東京が4月3日の午後8時のとき、サンフランシスコ(西経120度)は何日の何時か。理由も説明せよ。</p> <p>学修のポイント3 AB型とAB型の両親から産まれる子どものもつ血液型の確率を血液型ごとに求めなさい。理由も説明する事。</p> <p>学修のポイント4 日本の四季の天気の特徴を説明せよ。</p> <p>学修のポイント5 高さ19.6mからボールを水平に初速度20m/sで投げた時、ボールが地面に着くのは何秒後か。また、ボールは水平方向に何m進むか。それぞれ説明せよ。ただし、重力加速度を9.8m/s²とする。</p> <p>学修のポイント6 「世界遺産」とは何か説明せよ。また、世界遺産リストに登録されている日本の文化遺産と自然遺産の主なもの1点ずつ取り上げて紹介せよ。さらに、「無形文化遺産」についても説明し、日本の例を1点紹介せよ。</p>	
期末試験	後日発表する	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション / 環境問題について	
第2回	環境保護のための取り組みについて	
第3回	環境問題にどのように取り組むべきか	
第4回	学修のポイント1	
第5回	学修のポイント2	
第6回	学修のポイント3	
第7回	学修のポイント4	
第8回	学修のポイント5	
第9回	学修のポイント6	
第10回	問題演習	
第11回	問題演習	
第12回	問題演習	
第13回	問題演習	
第14回	問題演習	
第15回	期末試験	
第16回	科目終了試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点 持ち込み可 論述式
		30点 提出物・授業内課題など
	授業内評価	
備考	提出物の締切は厳守すること。期限を守れなかった場合は謝罪文を添付して提出すること。授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁。無断の座席移動も禁止。	

(実技)	科目名:音楽実技ⅡB	講師: 花井 淑
科目概要・目標	教育の現場で児童が生き生きと生活し、友達と仲良く遊んだり、仲間を思いやる心を育てる事が出来る環境を音楽を通してつくり、また、児童が安心して学校での生活が楽しく出来るようにするため、児童の成長に即した音楽を提供出来るように学ぶ。そのため、学生各人は自分の音楽の素養と技量が身に付くように、基礎的な事柄から高度の技術（ペダリング等）をピアノや声楽の練習によって学ぶ。	
教科書・資料	バイエルピアノ教則本、わかりやすい音楽表現入門、こどものうた大百科、クラシックピアノ曲の楽譜、等	
回数	授業内容	
第1回	ガイダンス（楽器の扱い方、教室でのマナー、授業の進め方、進度調べ、等） 皆が知っている童謡を大きな声で楽しく歌う。 バイエル100 弾き歌い① こどもの歌：山の音楽家	
第2回	バイエル100 弹き歌い①（大学指定曲） こどもの歌：おもちゃのチャチャチャ (個人の進度を考える。バイエル終了者はソナチネなどから選曲する。)	
第3回	バイエル100 弹き歌い② こどもの歌：線路は続くよどこまでも	
第4回	〔中間試験：バイエル100、弾き歌い①②〕 (進度が達していない学生は別の曲を指定する。)	
第5回	バイエル102 弹き歌い③（大学指定曲） こどもの歌：ふしぎなポケット	
第6回	バイエル102 弹き歌い③（大学指定曲） こどもの歌：あめありぐまのこ	
第7回	バイエル・幼児曲 個別指導① (指定された曲がマスターできた学生は上級に進む)	
第8回	バイエル・幼児曲 個別指導②	
第9回	バイエル102 弹き歌い③（大学指定曲） こどもの歌：さんぽ	
第10回	〔中間試験：バイエル102、弾き歌い③〕 バイエル1曲、弾き歌い1曲	
第11回	バイエル104 弹き歌い④ こどもの歌：とんぼのめがね	
第12回	バイエル104 弹き歌い④ こどもの歌：うみ	
第13回	バイエル104 弹き歌い④ こどもの歌：手のひらを太陽に	
第14回	バイエル104 弹き歌い④ こどもの歌：大きな古時計	
第15回	まとめ（バイエル80・88・93が合格していなければ、そちらを優先して練習する。）	
第16回	期末試験 ※ 試験の内容は後日発表	
成績評価	出席率	30点 75%以上出席すること。出席不足の場合は再履修とする。
	期末試験	10点 課題曲を変更して安易な曲にする場合は点数は70%とする。
	中間試験	20点 : 10点×2回 課題曲を変更して安易な曲にする場合は70%とする。
	バイエル	15点 : 5点×3曲 指定以外の番号は5曲以上とする。
	弾き歌い	20点 : 5点×4曲
	発表	5点 合格した都度みんなの前で演奏する。
備考	単位取得にあたり、上記のバイエル番号は最低ラインで、終了した学生はさらに上級を目指すように。 弾き歌いは、教科書、または他楽譜より4曲とし、その内2曲は大学指定の曲(未合格のもの)。 忘れ物については減点とする(1回1点減点)。	

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者	
人間関係とコミュニケーション		講義	吉岡 英雄	
授業の回数		時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15		30 (2)	1年(前期)	必修
[授業の目的・ねらい] 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。				
[授業全体の内容の概要] 人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解する内容とする。				
[授業終了時の達成課題(達成目標)] ・人間関係の形成について理解できる。 ・コミュニケーションの基礎について理解できる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
回数	テーマ	内 容	授業方法	
1	人間と人間関係①	人間らしさのはじまり、自分と他者の理解	講義・演習	
2	人間と人間関係②	発達心理学からみた人間関係	講義・演習	
3	人間と人間関係③	社会心理学からみた人間関係	講義・演習	
4	人間と人間関係④	人間関係とストレス	講義・演習	
5	コミュニケーションの基礎①	コミュニケーションの概念	講義・演習	
6	コミュニケーションの基礎②	コミュニケーションの基本構造	講義・演習	
7	コミュニケーションの基礎③	コミュニケーションの手段	講義・演習	
8	コミュニケーションの基礎④	対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション	講義・演習	
9	コミュニケーションの基礎⑤	対人援助における基本的態度	講義・演習	
10	コミュニケーションの基礎⑥	援助的人間関係	講義・演習	
11	コミュニケーションの基礎⑦	バイステックの7原則	講義・演習	
12	コミュニケーションの基礎⑧	組織の条件とコミュニケーションの特徴	講義・演習	
13	コミュニケーションの基礎⑨	組織における情報の流れ	講義・演習	
14	コミュニケーションの基礎⑩	組織において求められるコミュニケーション	講義・演習	
15	まとめと復習	これまでの授業のまとめ	講義	
16	科目終了試験			
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座1 『人間の理解』		
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		授業の取り組み: 20点、試験: 80点		

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者
人間関係とコミュニケーション		講義	吉岡 英雄
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (2)	2年(前期)	必修
[授業の目的・ねらい]			
介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。			
[授業全体の内容の概要]			
介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用等の人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォローワーシップ等、チーム運営の基本を理解する内容とする。			
[授業終了時の達成課題(達成目標)]			
<ul style="list-style-type: none"> ・組織の運営管理、人材管理について理解できる。 ・チーム運営の基本を理解できる。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	チームマネジメント①	ヒューマンサービスとしての介護サービス	講義・演習
2	チームマネジメント②	介護現場で求められるチームマネジメント	講義・演習
3	チームマネジメント③	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み	講義・演習
4	チームマネジメント④	ケアを開拓するために必要なチームとその取り組み	講義・演習
5	チームマネジメント⑤	チームでケアを開拓するためのマネジメント	講義・演習
6	チームマネジメント⑥	チームの力を最大化するためのマネジメント	講義・演習
7	チームマネジメント⑦	介護福祉職のキャリアと求められる実践力	講義・演習
8	チームマネジメント⑧	介護福祉職としてのキャリアデザイン	講義・演習
9	チームマネジメント⑨	介護福祉職のキャリア支援・開発	講義・演習
10	チームマネジメント⑩	自己研鑽に必要な姿勢	講義・演習
11	チームマネジメント⑪	スーパービジョンの機能	講義・演習
12	チームマネジメント⑫	介護サービスを支える組織の構造	講義・演習
13	チームマネジメント⑬	介護サービスを支える組織の機能と役割	講義・演習
14	チームマネジメント⑭	介護サービスを支える組織の管理	講義・演習
15	まとめと復習	これまでの授業のまとめ	講義
16	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座1 『人間の理解』	
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		授業の取り組み: 20点、試験: 80点	

授業概要

科目名		授業の種類		授業担当者
社会の理解Ⅰ		講義		岩切 英隆
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択	
15	30(2)	1年(前期)	必修	

〔授業の目的・ねらい〕

個人や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉えるとともに、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。また、日本の社会保障のしくみや高齢者福祉の制度についても習得する学習とする。

〔授業全体の内容の概要〕

個人・家族・地域・社会のしくみや地域共生社会・地域包括ケアの考え方、その実現のための制度や施策を理解するための内容とする。また、社会保障制度や高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、その現状と課題も捉える内容とする。

〔授業終了時の達成課題(達成目標)〕

- ・個人、家族、地域、社会のしくみと地域共生社会、地域包括ケアのしくみについて理解できる。
- ・社会保障制度の基本的なしくみや考え方について理解できる。
- ・高齢者福祉制度の中心となる介護保険制度の内容について理解できる。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

回数	テーマ	内 容	授業方法
1	社会と生活のしくみ①	生活の基本機能、ライフスタイルの変化	講義・演習
2	社会と生活のしくみ②	家族・社会・組織の機能と役割	講義・演習
3	社会と生活のしくみ③	地域・地域社会、地域社会における生活支援	講義・演習
4	地域共生社会の実現に向けた制度や施策①	地域福祉の発展	講義・演習
5	地域共生社会の実現に向けた制度や施策②	地域共生社会	講義・演習
6	地域共生社会の実現に向けた制度や施策③	地域包括ケア	講義・演習
7	社会保障制度①	社会保障の基本的な考え方	講義・演習
8	社会保障制度②	社会保障制度の発達	講義・演習
9	社会保障制度③	社会保障制度のしくみ	講義・演習
10	社会保障制度④	現代社会と社会保障制度	講義・演習
11	高齢者福祉と介護保険制度①	高齢者保健福祉の動向	講義・演習
12	高齢者福祉と介護保険制度②	高齢者保健福祉に関する法体系	講義・演習
13	高齢者福祉と介護保険制度③	介護保険制度1	講義・演習
14	高齢者福祉と介護保険制度④	介護保険制度2	講義・演習
15	復習とまとめ	これまでの授業のまとめ	講義
16	科目終了試験		
使用テキスト		中央法規 最新・介護福祉士養成講座2 『社会の理解』	
参考文献			
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		授業の取り組み: 20点 試験: 80点	

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者	
介護の基本 I		講義	五條 幸	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択	
30	60 (4)	1年(前期)	必修	
[授業の目的・ねらい] 介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉専門職としての能力と態度を養うための学習とする。				
[授業全体の内容の概要] 複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の理念を理解するための内容とする。また、介護予防や看取り、災害時における介護福祉士の役割と機能についても理解するための内容とする。				
[授業終了時の達成課題(達成目標)] <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉の基本となる理念や介護福祉士の倫理について理解できる。 ・介護福祉士の役割と機能について理解できる。 				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
回数	テーマ	内 容	授業方法	
1	介護福祉とは①	身近になった介護と介護サービス	講義・演習	
2	介護福祉とは②	介護問題に対応した社会福祉政策の歴史	講義・演習	
3	介護福祉とは③	専門職による介護が誕生した社会的な背景	講義・演習	
4	介護の概念の変遷①	1970年代：介護サービスの量的拡充	講義・演習	
5	介護の概念の変遷②	1980年代：介護サービスの質的向上	講義・演習	
6	介護の概念の変遷③	1990年代：介護実践における基本概念の整理	講義・演習	
7	介護の概念の変遷④	2000年以降：介護サービスの基本的枠組みの整備等	講義・演習	
8	介護福祉の基本理念①	介護福祉の理念	講義・演習	
9	介護福祉の基本理念②	尊厳を支える介護(ノーマライゼーション)	講義・演習	
10	介護福祉の基本理念③	尊厳を支える介護(QOL)	講義・演習	
11	介護福祉の基本理念④	自立を支える介護(自己決定権)	講義・演習	
12	介護福祉の基本理念⑤	自立を支える介護(利用者主体の生活支援)	講義・演習	
13	介護福祉士の役割と機能①	地域包括ケアシステム	講義・演習	
14	介護福祉士の役割と機能②	介護予防	講義・演習	
15	介護福祉士の役割と機能③	医療的ケア	講義・演習	
16	介護福祉士の役割と機能④	人生の最終段階の支援	講義・演習	
17	介護福祉士の役割と機能⑤	災害時の支援	講義・演習	
18	社会福祉士及び介護福祉士法①	社会福祉士及び介護福祉士法の内容	講義・演習	
19	社会福祉士及び介護福祉士法②	社会福祉士及び介護福祉士法に関連する諸規定	講義・演習	
20	介護福祉士養成カリキュラムの変遷①	介護福祉養成教育の始まり	講義・演習	

2 1	介護福祉士養成カリキュラムの変遷②	社会福祉専門職に求められる役割の拡大	講義・演習
2 2	介護福祉士養成カリキュラムの変遷③	チームリーダーとしての介護福祉士への期待	講義・演習
2 3	介護福祉士を支える団体①	日本介護福祉士会・日本介護福祉士養成施設協会	講義・演習
2 4	介護福祉士を支える団体②	日本介護福祉士学会・日本介護福祉教育学会	講義・演習
2 5	介護福祉士の倫理①	介護実践における倫理	講義・演習
2 6	介護福祉士の倫理②	倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応	講義・演習
2 7	介護福祉士の倫理③	日本介護福祉士会倫理綱領	講義・演習
2 8	他の専門職の倫理①	他の専門職の倫理（社会福祉士など）	講義・演習
2 9	他の専門職の倫理②	他の専門職の倫理（医師・看護師など）	講義・演習
3 0	復習とまとめ	これまでの授業のまとめ	講義
3 1	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献	中央法規 最新・介護福祉士養成講座3 『介護の基本 I』		
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)	授業の取り組み：20点、試験：80点		
<p>実務経験のある教員による授業科目の場合) どのような経験を持ち、どのような授業を行うか</p> <p>障害者福祉、高齢者福祉の現場で介護スタッフとして利用者と関わり、管理者としてスタッフ教育をしてきました。介護福祉士としての基本的な考え方や職業倫理を、これまでの実体験やエピソードを基にした例示や事例検討を交えて、具体的な場面をイメージし、考えながら理解する授業を行います。</p>			

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者				
介護の基本Ⅲ		講義	五條 幸				
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択				
15	30 (2)	2年(前期)	必修				
[授業の目的・ねらい]							
介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、介護サービスや地域連携等、フォーマル・インフォーマルな支援を理解するための学習とする。							
[授業全体の内容の概要]							
多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解する内容とする。							
[授業終了時の達成課題(達成目標)]							
<ul style="list-style-type: none"> ・フォーマルサービス、インフォーマルサービスについて理解できる。 ・他職種連携や協働の必要性、そのために必要な能力について理解できる。 							
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]							
回数	テーマ	内 容	授業方法				
1	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ①	高齢者のためのフォーマルサービスの概要	講義・演習				
2	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ②	障害者のためのフォーマルサービスの概要	講義・演習				
3	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ③	フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係	講義・演習				
4	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ④	インフォーマルサービスの種類・提供者	講義・演習				
5	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ⑤	地域連携の意義と目的	講義・演習				
6	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ⑥	地域連携に関わる機関の理解	講義・演習				
7	協働する他職種の機能と役割①	他職種連携・協働とは、その必要性	講義・演習				
8	協働する他職種の機能と役割②	介護実践の場で他職種連携・協働が必要とされる意味	講義・演習				
9	協働する他職種の機能と役割③	他職種連携・協働のためのチームづくり	講義・演習				
10	協働する他職種の機能と役割④	他職種連携・協働に求められるコミュニケーション能力	講義・演習				
11	協働する他職種の機能と役割⑤	福祉職の役割と機能(社会福祉士・介護支援専門員)	講義・演習				
12	協働する他職種の機能と役割⑥	保健・医療職の役割と機能1(医師・看護師等)	講義・演習				
13	協働する他職種の機能と役割⑦	保健・医療職の役割と機能2(リハビリ職等)	講義・演習				
14	協働する他職種の機能と役割⑧	他職種連携・協働の実際	講義・演習				
15	復習とまとめ	これまでの授業のまとめ	講義				
16	科目終了試験						
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座4 『介護の基本II』					
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		出席: 20点、授業態度及び提出物: 40点、試験: 40点					
実務経験のある教員による授業科目の場合) どのような経験を持ち、どのような授業を行うか							
障害者福祉、高齢者福祉の現場の介護スタッフ、小規模多機能型居宅介護や認知症対応型グループホームの管理者として経験を積んできました。地域との連携や地域福祉の開発など、現在の制度とこれまで見てきた実際の地域の状況とその狭間に存在する利用者の生活について、多職種協働の重要性とあり方について、実体験のエピソード等を基にした例示や事例検討を交えて、具体的な場面をイメージし、考えながら理解する授業を行います。							

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者	
介護の基本IV		講義	浅井 恒子	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択	
15	30 (2)	1年(前期)	必須	
[授業の目的・ねらい]				
介護を必要とする人たちが、どのような状況でもその人らしい生活を送れることを支援する専門職として、「生活」についての基本的な理解を深めるための学習とする。				
[授業全体の内容の概要]				
介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを理解する内容とする。				
[授業終了時の達成課題(達成目標)]				
・生活を構成する重要な要素について理解できる。 ・介護福祉を必要とする人たちの生活ニーズやその多様性について理解できる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
回数	テーマ	内 容	授業方法	
1	介護福祉を必要とする人の理解①	生活とは何か	講義	
2	同上②	生活にとっての要素	講義	
3	同上③	生活の特性	講義	
4	同上④	介護福祉を必要とする高齢者の暮らし	講義	
5	同上⑤	介護福祉を必要とする障害者の暮らし	講義	
6	同上⑥	「その人らしさ」とは何か	講義	
7	同上⑦	「その人らしさ」の介護福祉における活用	講義	
8	同上⑧	「生活ニーズ」の理解	講義	
9	同上⑨	「生活のしづらさ」に対する支援	講義	
10	食事支援(食生活)①	食生活指針、栄養素と老化現象に対応する食事について理解する(咀嚼・嚥下等)	講義・演習	
11	同上②	食品の特性、食品の加工と保存を理解する	講義・演習	
12	同上③	色々な加工食品(種類、食品の表示、安全性)を知る	講義・演習	
13	被服支援(衣生活)①	様々な繊維を知り取り扱いを理解する。管理について知る	講義・演習	
14	同上②	高齢者・障害者の被服を考える。(ユニバーサルデザイン)	講義・演習	
15	住宅の支援(室内整備)	暮らしを理解する(住環境の適正・バリアフリーの住宅等)	講義・演習	
16	科目終了試験			
使用テキスト		中央法規 最新・介護福祉士養成講座第4『介護の基本II』		
参考文献				
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		原則として毎回の授業のワークシートの提出状況を重視する。また出席率、授業参加態度及び確認テストも含めて評価基準とする。		

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者	
介護の基本Ⅴ		講義	杉野 潤也	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択	
15	30(2)	2年(前期)	必修	
[授業の目的・ねらい]				
介護を必要とする人の意思決定を支えるための方法や、自立支援とリハビリテーションの基本的な考え方について理解するとともに、リハビリテーションの中での介護福祉士の役割についても理解する学習とする。				
[授業全体の内容の概要]				
ICF の視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から、個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解する内容とする。				
[授業終了時の達成課題(達成目標)]				
<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援におけるエンパワメントと ICF の意義について理解できる。 ・リハビリテーションの中での介護福祉士の役割について理解できる。 				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
回数	テーマ	内 容	授業方法	
1	自立に向けた介護のあり方①	自立支援とは	講義	
2	自立に向けた介護のあり方②	自立支援とエンパワメントの考え方	講義	
3	自立に向けた介護のあり方③	自立支援と ICF の考え方	講義	
4	自立に向けた介護のあり方④	介護における ICF のとらえ方	講義	
5	自立に向けた介護のあり方⑤	リハビリテーションとは	講義	
6	自立に向けた介護のあり方⑥	リハビリテーションの実際	講義	
7	自立に向けた介護のあり方⑦	リハビリテーションにおける障害の理解と評価	講義	
8	自立に向けた介護のあり方⑧	リハビリテーションにおける自立のとらえ方	講義	
9	自立に向けた介護のあり方⑨	リハビリテーションにおける介護福祉士の役割	講義	
10	自立に向けた介護のあり方⑩	介護予防の概要	講義	
11	自立に向けた介護のあり方⑪	介護予防の種類と特徴	講義	
12	自立に向けた介護のあり方⑫	高齢者の身体特性と介護予防	講義	
13	自立に向けた介護のあり方⑬	介護予防の実際	講義	
14	自立に向けた介護のあり方⑭	自立支援と介護予防	講義	
15	自立に向けた介護のあり方⑮	介護予防における介護福祉士の役割	講義	
16	科目終了試験			
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座3 『介護の基本Ⅰ』 配布資料		
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		授業の取り組み: 20点、試験: 80点		

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者
コミュニケーション技術II		講義	稻垣 晴久
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (2)	1年(前期)	必修
[授業の目的・ねらい]			
対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。			
[授業全体の内容の概要]			
介護サービスの利用者やその家族の意思決定を支援するための基本的なコミュニケーション技術を習得する内容とする。また、介護実践における情報の共有化を図るための方法や情報の管理についても学ぶ内容とする。			
[授業終了時の達成課題(達成目標)]			
<ul style="list-style-type: none"> ・介護における利用者やその家族との関係構築や意思決定をするためのコミュニケーションの基本について理解できる。 ・介護におけるチームのコミュニケーションについて理解できる。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	介護を必要とする人とのコミュニケーション①	介護におけるコミュニケーションとは	講義・演習
2	同上②	介護におけるコミュニケーションの対象	講義・演習
3	同上③	援助関係とコミュニケーション	講義・演習
4	同上④	コミュニケーション態度に関する基本技術	講義・演習
5	同上⑤	目的別のコミュニケーション技術	講義・演習
6	同上⑥	集団におけるコミュニケーション技術	講義・演習
7	介護における家族とのコミュニケーション①	家族との関係づくり	講義・演習
8	同上②	家族への助言・指導・調整	講義・演習
9	同上③	家族関係と介護ストレスへの対応	講義・演習
10	介護におけるチームのコミュニケーション①	チームのコミュニケーションとは	講義・演習
11	同上②	報告・連絡・相談の技術	講義・演習
12	同上③	記録の技術	講義・演習
13	同上④	情報の活用と管理	講義・演習
14	復習とまとめ	これまでの授業のまとめ	講義
15	科目終了試験		
使用テキスト		中央法規 最新・介護福祉士養成講座5『コミュニケーション技術』	
参考文献			
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		授業の取り組み: 20点、試験: 80点	

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者	
生活支援技術Ⅱ		講義	浅井 恭子	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択	
30	60(4)	2年(前期)	必須	
[授業の目的・ねらい]				
尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。				
[授業全体の内容の概要]				
生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための基礎的な知識・技術を習得する内容とする。				
[授業終了時の達成課題(達成目標)]				
<ul style="list-style-type: none"> ・自立に向けた家事支援の基礎的な知識について理解できる。 ・対象者個々の状態に応じた家事支援の方法について理解できる。 				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
回数	テーマ	内 容	授業方法	
1	自立に向けた家事の介護①	自立生活を支える家事	講義	
2	同上②	自立した家事の一連の流れ	講義	
3	同上③	自立に向けた家事の介護をするために介護福祉職がすべきこと	講義	
4	同上④	調理の介護	講義	
5	同上⑤	食生活の基本知識	講義	
6	同上⑥	調理の基礎	講義	
7	同上⑦	洗濯	講義	
8	同上⑧	そうじ・ごみ捨ての介助	講義	
9	同上⑨	裁縫(衣類の補修)	講義	
10	同上⑩	衣類・寝具の衛生管理	講義	
11	同上⑪	買い物	講義	
12	同上⑫	家庭経営、家計の管理	講義	
13	同上⑬	家事の介護における多職種連携の必要性	講義	
14	同上⑭	家事の介護における多職種連携の必要性(在宅の場合)	講義	
15	同上⑮	家事の介護における多職種連携の必要性(施設の場合)	講義	
16	調理の基礎①	調理計画案の作成(高齢者の1段階の朝・昼・夜)	講義・演習	
17	同上②	調理計画案の作成(高齢者の3段階の朝・昼・夜)	講義・演習	
18	同上③	簡単な調理(だしの取り方を中心)に	実習	
19	同上④	2段階の献立について調理実習	実習	
20	被服生活の基本知識①	被服材料の種類と性能	講義	
21	同上②	被服材料の吸水・燃焼実験	講義・実験	
22	同上③	被服管理(衣服や寝具の手入れ、汚れ、洗濯方法等)	講義	

2 3	同上④	洗濯の種類と洗剤の種類	講義
2 4	同上⑤	しみ抜きの実習	実習
2 5	同上⑥	被服実習（刺し子の技術を使った作品作り）1	実習
2 6	同上⑦	被服実習（刺し子の技術を使った作品作り）2	実習
2 7	同上⑧	被服実習（刺し子の技術を使った作品作り）3	実習
2 8	同上⑨	被服実習（刺し子の技術を使った作品作り）4	実習
2 9	住空間の環境整備	室内環境の整備（掃除・ごみ問題・カビ・結露・道具等）	講義
3 0	まとめと復習	これまでの授業のまとめ	講義
3 1	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献	中央法規 最新・介護福祉士養成講座6 『生活支援技術Ⅰ』		
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)	原則として毎時間の授業のワークシートの提出状況を重視する。また、出席率、授業参加態度及び確認テストも含めて評価基準とする。		

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅲ		講義・演習	平手 裕三
授業の回数		時間数(単位数)	配当学年・時期
60		120(4)	1年(通年)
必修・選択			
必修			

[授業の目的・ねらい]

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。

[授業全体の内容の概要]

○対象者の能力を活用・發揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠について説明できる能力を身につける。

○健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援につながる内容とする。

○終末期の経過に沿った支援やチームケアの実践について理解する内容とする。

○介護ロボットを含め、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を習得する内容とする。

[授業終了時の達成課題(達成目標)]

- ・対象者の能力を活用し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識と技術を身につける。

- ・対象者の能力に応じて福祉用具を活用するための知識や技術を身につける。

- ・終末期ケアにおける支援の内容や方法について理解できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

回数	テーマ	内 容	授業方法
1	オリエンテーション	今後の授業についての説明等	講義
2	休息・睡眠の介護①	休息・睡眠環境を整える	講義
3	休息・睡眠の介護②	休息・睡眠の介護、休息・睡眠における多職種連携の必要性	講義
4	休息・睡眠の介護③	ベッドメーキング(リネン、シーツのたたみ方)	演習
5	自立に向けた移動の介護①	自立した移動とは、自立に向けた移動・移乗の介護1(ボディメカニクス)	講義
6	自立に向けた移動の介護②	自立に向けた移動・移乗の介護2(ボディメカニクス)	演習
7	自立に向けた移動の介護③	自立に向けた移動の介護をするために介護福祉職がすべきこと	講義
8	休息・睡眠の介護④	ベッドメーキング1(ベッド頭元三角)	演習
9	福祉用具の意義と活用	生活支援における福祉用具の重要性、福祉用具の種類	講義
10	休息・睡眠の介護⑤	ベッドメーキング2(ベッド足元)	演習
11	自立に向けた移動の介護④	自立に向けた移動・移乗の介護3(安楽体位)	講義
12	休息・睡眠の介護⑥	ベッドメーキング3(シーツ清掃)	演習
13	自立に向けた身じたくの介護①	自立した身じたくとは、自立に向けた身じたくの介護をするために介護福祉職がすべきこと	講義
14	休息・睡眠の介護⑦	ベッドメーキング4(シーツ交換)	演習

1 5	自立に向けた移動の介護⑤	自立に向けた移動・移乗の介護 4 (歩行の介助)	講義
1 6	自立に向けた移動の介護⑥	自立に向けた移動・移乗の介護 5 (歩行の介助)	演習
1 7	自立に向けた移動の介護⑦	自立に向けた移動・移乗の介護 6 (車いす点検)	演習
1 8	自立に向けた移動の介護⑧	自立に向けた移動・移乗の介護 7 (車いす外出)	演習
1 9	自立に向けた移動の介護⑨	自立に向けた移動・移乗の介護 8 (上方移動)	演習
2 0	自立に向けた移動の介護⑩	自立に向けた移動・移乗の介護 9 (水平移動)	演習
2 1	自立に向けた移動の介護⑪	自立に向けた移動・移乗の介護 10 (対面法、背面法)	演習
2 2	自立に向けた移動の介護⑫	自立に向けた移動・移乗の介護 11 (仰臥位から端座位)	演習
2 3	自立に向けた身じたくの介護②	自立に向けた身じたくの介護 1 (口腔ケア)	講義
2 4	自立に向けた移動の介護⑬	自立に向けた移動・移乗の介護 12 (端座位から立位)	演習
2 5	自立に向けた食事の介護①	食事の意義と目的	講義
2 6	自立に向けた移動の介護⑭	自立に向けた移動・移乗の介護 13 (ベッドから車いす)	演習
2 7	自立に向けた食事の介護②	自立に向けた食事の介護 1 (誤嚥予防のための支援)	講義
2 8	自立に向けた食事の介護③	自立に向けた食事の介護 2 (配膳、姿勢)	演習
2 9	アセスメント①	アセスメントとは	講義
3 0	自立に向けた食事の介護④	自立に向けた食事の介護 3 (全介助)	演習
3 1	科目終了試験 (前期分)		
3 2	自立に向けた身じたくの介護③	自立に向けた身じたくの介護 2 (衣服の着脱 (前開き、かぶり一部介助))	演習
3 3	自立に向けた身じたくの介護④	自立に向けた身じたくの介護 3 (衣服の着脱 (臥床一部介助・全介助))	演習
3 4	自立に向けた入浴・清潔保持の介護①	自立した入浴・清潔保持とは	講義
3 5	自立に向けた身じたくの介護⑤	自立に向けた身じたくの介護 4 (衣服の着脱 (浴衣全介助))	演習
3 6	自立に向けた身じたくの介護⑥	自立に向けた身じたくの介護 5 (髭剃り、爪切り)	講義
3 7	自立に向けた入浴・清潔保持の介護②	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 1 (足浴)	演習
3 8	自立に向けた入浴・清潔保持の介護③	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 2 (部位の清潔)	講義
3 9	自立に向けた入浴・清潔保持の介護④	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 3 (足浴)	演習

4 0	休息・睡眠の介護⑧	休息・睡眠とは、休息・睡眠の効果	講義
4 1	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑤	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 4 (洗髪)	演習
4 2	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑥	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 5 (全身清拭)	演習
4 3	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑦	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 6 (入浴(一般浴、機械浴))	演習
4 4	休息・睡眠の介護⑨	休息・睡眠の介護 1 (安楽、罨法)	講義
4 5	休息・睡眠の介護⑩	休息・睡眠の介護 2 (罨法)	演習
4 6	休息・睡眠の介護⑪	休息・睡眠の介護 3 (安楽な体位)	演習
4 7	アセスメント②	バイタルチェック	講義
4 8	自立に向けた移動の介護⑯	自立に向けた移動・移乗の介護 1 4 (機能訓練)	講義
4 9	自立に向けた移動の介護⑯	自立に向けた移動・移乗の介護 1 5 (機能訓練)	演習
5 0	自立に向けた移動の介護⑰	自立に向けた移動・移乗の介護 1 6 (スライディングマット、移動式リフト)	演習
5 1	自立に向けた排泄の介護①	自立した排泄とは	講義
5 2	自立に向けた排泄の介護②	自立に向けた排泄の介護 1 (トイレ誘導(ポータブルトイレ))	演習
5 3	自立に向けた排泄の介護③	自立に向けた排泄の介護 2 (失禁への対応)	講義
5 4	自立に向けた排泄の介護④	自立に向けた排泄の介護 3 (仰臥位便器、尿器)	演習
5 5	自立に向けた排泄の介護⑤	自立に向けた排泄の介護 4 (紙おむつ、陰部洗浄)	演習
5 6	自立に向けた排泄の介護⑥	自立に向けた排泄の介護 5 (布おむつ(準備~片付け))	演習
5 7	人生の最終段階における介護①	人生の最終段階の意義と介護の役割	講義
5 8	人生の最終段階における介護②	人生の最終段階における介護 (エンゼルケア)	演習
5 9	緊急時・災害時の介護①	応急手当、被災地で活動する際の心構え	講義
6 0	緊急時・災害時の介護②	応急手当、事故予防	演習
6 1	これまでの授業のまとめ	生活支援技術のまとめ	講義
6 2	科目終了試験(後期分)		
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座 6『生活支援技術Ⅰ』、最新・介護福祉士養成講座 7『生活支援技術Ⅱ』	
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		試験：100%	

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者
生活支援技術IV		講義	寺田 ひとみ
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30	60 (2)	2年(前期)	必修
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。			
[授業全体の内容の概要] 利用者のさまざまな状態・状況に応じた生活支援技術について知識と技術を身につける。			
[授業終了時の達成課題(達成目標)] ・さまざまな状態・状況にある利用者の介護について理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは	介護福祉士の行う生活支援、多職種連携のなかでの介護福祉士の役割	講義
2	生活支援の理解①(内部障害)	心臓機能障害に応じた介護	講義
3	同上	呼吸器機能障害に応じた介護	講義
4	同上	腎臓機能障害に応じた介護	講義
5	同上	膀胱・直腸機能障害に応じた介護	講義
6	同上	小腸機能障害に応じた介護	講義
7	同上	HIVによる免疫機能障害に応じた介護	講義
8	同上	肝臓機能障害に応じた介護	講義
9	生活支援の理解②(難病)	筋萎縮性側索硬化症に応じた介護	講義
10	同上	パーキンソン病に応じた介護	講義
11	同上	悪性関節リウマチに応じた介護	講義
12	同上	筋ジストロフィー症に応じた介護	講義
13	生活支援の理解③(視覚障害)	視覚障害に応じた介護	講義
14	生活支援の理解④(聴覚・言語障害)	聴覚・言語障害に応じた介護	講義
15	復習とまとめ	これまでの授業のまとめ	講義
16	生活支援の理解⑤(肢体不自由)	肢体不自由に応じた介護1(肢体不自由の理解)	講義
17	同上	肢体不自由に応じた介護2(観察の視点、支援の展開)	講義
18	生活支援の理解⑥(重症心身障害)	重症心身障害に応じた介護1(重症心身障害の理解)	講義
19	同上	重症心身障害に応じた介護2(観察の視点、支援の展開)	講義
20	生活支援の理解⑦(知的障害)	知的障害に応じた介護1(知的障害の理解)	講義
21	同上	知的障害に応じた介護2(観察の視点、支援の展開)	講義

2 2	生活支援の理解⑧（精神障害）	精神障害に応じた介護1（統合失調症の理解）	講義
2 3	同上	精神障害に応じた介護2（気分障害の理解）	講義
2 4	同上	精神障害に応じた介護3（観察の視点、支援の展開）	講義
2 5	生活支援の理解⑨（高次脳機能障害）	高次脳機能障害に応じた介護1（高次脳機能障害の理解）	講義
2 6	同上	高次脳機能障害に応じた介護2（観察の視点、支援の展開）	講義
2 7	生活支援の理解⑩（発達障害）	発達障害に応じた介護1（発達障害の理解）	講義
2 8	同上	発達障害に応じた介護2（観察の視点、支援の展開）	講義
2 9	事例検討	動画を用いた事例検討	講義
3 0	復習とまとめ	これまでの授業のまとめ	講義
3 1	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座8 『生活支援技術III』	
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		試験 100%	
実務経験のある教員による授業科目の場合) どのような経験を持ち、どのような授業を行うか 特別養護老人ホームにて勤務し、高齢者介護に従事してきました。その経験を活かし、障害や疾病のある人の医学的・心理的側面や生活上の困りごとを学び、介護福祉士として具体的な支援内容・支援方法について実技を交えながら授業を実施します。			

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者	
生活支援技術V		講義	松本 拓希・土岐たつ子	
授業の回数		時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
16		30 (2)	1年(前期)	必修
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。				
[授業全体の内容の概要] 聴覚言語障害のある人の理解、手話の基本的な知識と技術、視覚障害のある人の理解、点字の基本的な知識と技術について理解する。				
[授業終了時の達成課題(達成目標)] ・感覚機能が低下している人の自立に向けた日常生活について理解できる。 ・コミュニケーション手段のひとつである手話、点字を用いて簡単なコミュニケーションを取ることができる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
回数	テーマ	内 容	授業方法	
1	生活支援の理解①(聴覚障害の基礎知識)	手話の歴史、自己紹介の方法	講義・演習	
2	生活支援の理解②(手話の基礎知識)	あいさつを交わし、困ったときの対応を学ぶ	講義・演習	
3	同上	スケジュールを伝える(数字や時間を覚える)	講義・演習	
4	同上	趣味を伝える(趣味や好きなことを伝える)	講義・演習	
5	同上	場所を伝える(行きたい場所を伝える)	講義・演習	
6	同上	休日の過ごし方を伝える(天気、目的地を伝える)	講義・演習	
7	同上	買い物の仕方(お金、購入品について覚える)	講義・演習	
8	科目終了試験			
9	生活支援の理解③(視覚障害の基礎知識)	生活の場で見かける視覚障害者用の用具、設備、制度等 点字の由来と点字器 点字の五十音の仕組み	講義・演習	
10	生活支援の理解④(点字の基礎知識)	濁音と半濁音、長音と促音	講義・演習	
11	同上	拗音と拗濁音・半拗濁音、特殊音、点字の仮名遣い	講義・演習	
12	同上	数字、アルファベット	講義・演習	
13	同上	分かち書き(1)正確な文章の読み下し 記号・符号 タックペーパーを使う…自分の名前と住所を点訳して貼る	講義・演習	
14	同上	分かち書き(2)文法に基づく文章の区切り方その他のルール 凸面の読みの練習(実際に街で使われているもの)	講義・演習	
15	同上	街(主に駅)で使われている点字の読み(校外授業) 校内の自販機、エレベーターに点字の表示をする。	講義・演習	
16	科目終了試験			
使用テキスト 参考文献		手話:市民向け手話学習テキスト編集委員会『今すぐはじめる手話テキスト 聴さんと学ぼう!』 点字:全国視覚障害者情報提供施設協会『初めての点訳』		
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		手話:実技と筆記で総合的に評価する 点字:実技と筆記(持ち込み可)で総合的に評価する		

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者				
介護過程Ⅰ		講義	寺田 ひとみ				
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択				
15	30(2)	1年(前期)	必修				
[授業の目的・ねらい]							
本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。							
[授業全体の内容の概要]							
介護実践における介護過程の意義の理解を踏まえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解する内容とする。							
[授業終了時の達成課題(達成目標)]							
・介護過程の意義、介護過程の展開について理解できる。							
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]							
回数	テーマ	内 容	授業方法				
1	介護過程の意義と目的 ①	介護過程の意義と目的、介護過程と ICF	講義・演習				
2	同上②	生活支援における介護過程の必要性	講義・演習				
3	介護過程の基礎的理解 ①	介護過程の展開	講義・演習				
4	同上②(アセスメント)	情報収集の意義	講義・演習				
5	同上③(アセスメント)	アセスメントと情報収集	講義・演習				
6	同上④(アセスメント)	情報収集の方法(ICF モデルの活用)	講義・演習				
7	同上⑤(解釈・関連づけ・統合化)	情報の解釈・関連づけ・統合化	講義・演習				
8	同上⑥(解釈・関連づけ・統合化)	生活課題の明確化とは	講義・演習				
9	同上⑦(介護計画の立案)	介護計画とは	講義・演習				
10	同上⑧(介護計画の立案)	介護目標の設定	講義・演習				
11	同上⑨(介護計画の立案)	具体的な支援内容・支援方法の決定	講義・演習				
12	同上⑩(介護の実施)	介護の実施における留意点	講義・演習				
13	同上⑪(介護の実施)	実施の記録	講義・演習				
14	同上⑫(評価)	評価の意義と目的	講義・演習				
15	同上⑬(評価)	評価の内容と方法	講義・演習				
16	科目終了試験						
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座9 『介護過程』					
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		科目修了試験、授業態度、提出物、出欠状況などから総合的に評価する					
実務経験のある教員による授業科目の場合) どのような経験を持ち、どのような授業を行うか							
利用者に关心を寄せて、利用者がどのようにして生活しているのか、今後どのように生活していくのか、その人について深く知ることは重要です。利用者の「よりよい生活」「よりよい人生」を実現するために、専門的な知識・技術を活用し客観的で科学的な思考過程を通して、事例を提示しディスカッションをとり入れながら授業を行います。							

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者
介護過程Ⅲ		講義	五條 幸
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30(2)	2年(前期)	必修
[授業の目的・ねらい]			
本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。			
[授業全体の内容の概要]			
介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解する内容とする。			
[授業終了時の達成課題(達成目標)]			
・介護過程とケアマネジメントの関係性やチームアプローチについて理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	介護過程とチームアプローチ①	ケアマネジメントの全体像	講義・演習
2	同上②	介護過程とケアマネジメントの関係性	講義・演習
3	同上③	ケアプランと個別援助計画の関係性	講義・演習
4	同上④	チームアプローチの意義	講義・演習
5	同上⑤	チームアプローチの実際	講義・演習
6	同上⑥	チームアプローチにおける介護福祉士の役割	講義・演習
7	利用者の生活と介護過程の展開①	事例1 グループワーク	講義・演習
8	同上	同上	講義・演習
9	利用者の生活と介護過程の展開②	事例2 グループワーク	講義・演習
10	同上	同上	講義・演習
11	利用者の生活と介護過程の展開③	事例3 グループワーク	講義・演習
12	同上	同上	講義・演習
13	利用者の生活と介護過程の展開④	事例4 グループワーク	講義・演習
14	同上	同上	講義・演習
15	まとめと復習	これまでの授業のまとめ	講義
16	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座9 『介護過程』	
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		科目終了試験、授業態度、提出物、出欠状況などから総合的に評価する	

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者	
介護総合演習Ⅰ		講義	寺田 ひとみ	
授業の回数		時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15		30(1)	1年(前期)	必修
[授業の目的・ねらい] 実習の教育効果を上げるために、実習前の介護技術の確認やオリエンテーションなど、実習に必要な知識や技術について学習させ、また、実習の進め方、学生としてのマナーなど、実習に必要な事柄を習得する学習とする。				
[授業全体の内容の概要] 実習の効果を上げるために、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながる内容とする。				
[授業終了時の達成課題(達成目標)] <ul style="list-style-type: none"> ・介護実習の目的・目標、実習方法、注意事項について理解できる。 ・介護実習にふさわしい、学生らしい容姿・服装・態度が身についている。 				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
回数	テーマ	内 容	授業方法	
1	オリエンテーション 介護実習の意義と目的	2年間の実習の流れ、実習配属調査 介護実践に必要な価値・倫理・知識・技術の統合について	講義	
2	実習の心構え①	施設見学の説明	講義	
3	実習の心構え②	施設見学時のマナー 施設見学の事前学習	講義	
4	介護実習施設の概要①	特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・障害者支援施設 など	講義	
5	同上	同上	講義	
6	介護実習Ⅰの意義と目的	介護実習の意義、介護実習の目的の理解、記録の種類と目的	講義	
7	実習事前準備①	実習の目的、目的に沿ったテーマと自己アピールの作成	講義	
8	実習事前準備②	実習記録の目的と意義、実習記録の書き方と手順・表現方法 1	講義	
9	実習事前準備③	実習記録の書き方と手順・表現方法 2、グループにおける点検	講義	
10	介護実習施設の概要②	施設見学の内容発表	講義	
11	同上	同上	講義	
12	介護実習Ⅰの実習計画	実習計画表の作成、カンファレンスとスーパービジョン	講義	
13	カンファレンス	カンファレンスの目的・準備・実施	講義・演習	
14	同上	同上	講義・演習	
15	科目終了試験			
16	総括・実習の心構え③	実習前・中・後の諸注意と連絡事項	講義	
使用テキスト・参考文献		(株)みらい『ワークで学ぶ 介護実習・介護総合演習』 実習の手引き		
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		出席率及び授業態度にて総合評価		

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者
介護総合演習Ⅲ		講義	寺田 ひとみ
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (1)	2年(前期)	必修

[授業の目的・ねらい]

介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。

[授業全体の内容の概要]

実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養う内容とする。

[授業終了時の達成課題(達成目標)]

- 前回実習の取り組みを振り返り、次回実習における自己の課題に気づくことができる。
- 介護実習の目的・目標、実習方法、注意事項について理解できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

回数	テーマ	内 容	授業方法
1	実習Ⅲのまとめ オリエンテーション	実習Ⅲの取り組みを振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつける 実習Ⅳまでの予定	講義
2	グループホームについて	グループホームの概要・特性	講義
3	小規模多機能型居宅介護について	小規模多機能型居宅介護の概要・特性	講義
4	リスクマネジメント	介護事故とは、事故の予防	講義
5	ターミナルケア	ターミナルケアとは、介護者のポイント	講義
6	実習Ⅳの目的と目標①	実習Ⅳの目的・目標1	講義
7	同上②	実習Ⅳの目的・目標2、テーマ・自己アピールの作成	講義
8	実習準備①	実習Ⅳにおけるテーマの書き方、自己アピールの書き方、自己課題について	講義
9	実習準備②	誓約書、施設評価表、実習定期券の申込み、実習簿の作成	講義
10	介護過程の展開① (実習Ⅲの担当事例)	フェイスシートの修正	講義
11	同上②	情報のアセスメントと課題抽出、ニーズの理解、目標設定	講義
12	同上③	介護計画の立案、評価	講義
13	同上④	事例検討(情報収集～評価)	講義・演習
14	同上⑤	同上	講義・演習
15	カンファレンス準備	模擬カンファレンスの実施・評価	講義・演習
16	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献		(株)みらい『ワークで学ぶ 介護実習・介護総合演習』 実習の手引き	
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		出席率及び授業態度にて総合評価	

介護実習計画

実習区分	実習の名称	実習内容	日数	時間	実習の目的	実習の目標	実施学年	担当
介護実習Ⅰ	介護実習Ⅰ	見学実習 ・老人福祉施設見学	1	8	老人福祉施設の見学実習をすることにより、介護を必要とする人々への関心と理解を深め、介護福祉士の役割について考える。	①介護を必要とする人々が生活する施設の概要を理解することができる。 ②施設行事への参加を通して、利用者との人間的のかかわりを深め、利用者の日常生活や思いに對して関心を持つことができる。 ③見学やふれあいを通して、期待される介護福祉士像を考えることができる。	1年前期	寺田 鈴木 五條
		施設実習 (2週間、5日／週)	10	80	介護過程の実践的展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。	①利用者とのコミュニケーションを通して、相手を理解し観察することができる。 ②コミュニケーション技法を用いて、関係の成立・発展について理解することができる。 ③利用者の生活を理解し、利用者の生活ニーズと介護の必要性を考えることができる。 ④生活支援技術の基礎を習得することができる ⑤施設の概要、利用者の状況、職員の役割が理解できる。	1年前期	寺田 鈴木 五條 平手 渡邊 伊藤
		小計	11	88				
介護実習Ⅱ	介護実習Ⅱ	デイサービス グループホーム実習 体験実習	2 3 1	16 24 8	対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。	①利用者の生活の場である多様な介護現場の特徴が理解できる。 ②生活に根ざした利用者の多様なニーズについて考えることができる。 ③多様な施設・事業所の役割、在宅サービスを理解し、地域福祉について考えることができる。	1年後期 ～ 2年後期	寺田 鈴木 五條
		小計	6	48				
介護実習Ⅱ	介護実習Ⅲ	施設実習 (4週間、5日／週)	20	160	介護過程の実践的展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。 多職種との協働の中で介護福祉士としての役割を理解するとともに、ケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。	①利用者の個別性を理解し、必要な介護について理解することができる。 ②利用者の状況にあわせた生活支援技術を実践する基礎を習得することができる。 ③介護過程を展開する基礎を習得することができる。(情報収集、アセスメント、計画立案、実施、評価) ④利用者の尊厳の保持とプライバシーの重要性、利用者本位について理解することができる。	1年後期	寺田 鈴木 五條 平手 渡邊 伊藤
		小計	20	160				
介護実習Ⅳ	介護実習Ⅳ	施設実習 (4週間、5日／週)	20	160	介護過程の実践的展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。 多職種との協働の中で介護福祉士としての役割を理解するとともに、ケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。	①利用者を理解し、生活リズムや個別性に応じた生活支援のあり方を理解することができる。 ②利用者の個別性にあわせた介護過程の展開ができる。(情報収集、アセスメント、計画立案、実施、評価、修正) ③ターミナルケアの理解を深めることができる。 ④多職種協働について学び、チームの一員として介護を遂行する能力を高めることができる。 ⑤利用者の尊厳と自立について学び、介護福祉士としての倫理観、介護觀を持つことができる。 ⑥介護福祉士を目指すものとして専門性のあり方が理解できる。	2年前期	寺田 鈴木 五條 平手 渡邊 伊藤
		小計	20	160				
		総計	57	456				

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者
発達と老化の理解 I		講義	鈴木 陽子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30(2)	2年(前期)	必修
[授業の目的・ねらい]			
人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的变化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。			
[授業全体の内容の概要]			
人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクルの各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題について理解する内容とする。また老化に伴う心理的・社会的な変化や健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を理解する内容とする。			
[授業終了時の達成課題(達成目標)]			
<ul style="list-style-type: none"> ・人間の成長と発達についての基礎的理解ができる。 ・老年期の特徴と発達課題について理解できる。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	人間の成長と発達の基礎的理解①	成長・発達の考え方	講義・討論
2	同上②	成長・発達の原則・法則	講義・討論
3	同上③	成長・発達に影響する要因	講義・討論
4	同上④	発達理論	講義・討論
5	同上⑤	発達段階と発達課題	講義・討論
6	同上⑥	心理的機能の発達	講義・討論
7	同上⑦	社会的機能の発達	講義・討論
8	老化に伴うこころとからだの変化と生活①	老年期の定義	講義・討論
9	同上②	老化とは	講義・討論
10	同上③	老年期の発達課題	講義・討論
11	同上④	老年期をめぐる今日的課題	講義・討論
12	同上⑤	老化に伴う心理的な変化と生活への影響	講義・討論
13	同上⑥	老化に伴う社会的な変化と生活への影響	講義・討論
14	同上⑦	サクセスフルエイジング	講義・討論
15	復習とまとめ	これまでの授業のまとめ、試験対策	講義・討論
16	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座 12 『発達と老化の理解』	
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		授業評価: 50% 科目終了試験: 50%	

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者		
発達と老化の理解II		講義	鈴木 陽子		
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択		
15	30(2)	2年(前期)	必修		
[授業の目的・ねらい]					
人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的变化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。					
[授業全体の内容の概要]					
老化に伴う身体的变化や高齢者に多く見られる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を理解する内容とする。					
[授業終了時の達成課題(達成目標)]					
<ul style="list-style-type: none"> ・老化に伴うからだの变化について理解できる。 ・高齢者に多い疾患やその症状、疾患の特徴について理解できる。 					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回数	テーマ	内 容	授業方法		
1	人間の成長と発達の基礎的理解	身体的機能の成長と発達	講義		
2	老化に伴うこころとからだの変化と生活	老化に伴う身体的な変化と生活への影響	講義		
3	高齢者と健康①	高齢者の症状・疾患の特徴	講義		
4	同上②	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点1(骨格系・筋系)	講義		
5	同上③	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点2(脳・神経系)	講義		
6	同上④	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点3(皮膚・感覚器系)	講義		
7	同上⑤	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点4(循環器系、呼吸器系)	講義		
8	同上⑥	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点5(消化器系、腎・泌尿器系)	講義		
9	同上⑦	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点6(内分泌系・代謝系)	講義		
10	同上⑧	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点7(歯・口腔疾患)	講義		
11	同上⑨	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点8(悪性新生物)	講義		
12	同上⑩	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点9(感染症)	講義		
13	同上⑪	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点10(精神疾患)	講義		
14	同上⑫	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点11(その他の疾患)	講義		
15	復習とまとめ	これまでの授業のまとめ	講義		
16	科目終了試験				
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座12 『発達と老化の理解』			
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		科目修了試験: 100%			
実務経験のある教員による授業科目の場合) どのような経験を持ち、どのような授業を行うか					
病院勤務の時に、末期がんの高齢者が突然吐血し、救急車で搬送されるということがありました。特に高齢者は本人の症状が正確に言えないことが多々あるために、いつもと様子が違うことにも気づくことが大切であると教えます。高齢者に多い疾患の観察ポイント、症状、介護上で気を付けなければいけないことなどを教えていきます。					

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者
認知症の理解III		講義	伊藤 晶子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30(2)	2年(前期)	必修

[授業の目的・ねらい]

認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。

[授業全体の内容の概要]

○認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につながる内容とする。

○認知症の人を地域で支えるサポート体制や、多職種連携による支援の基礎的な知識を理解する内容とする。

○認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の介護力に応じた支援につながる内容とする。

[授業終了時の達成課題(達成目標)]

○本人主体の理念に基づいた認知症ケアについて理解できる。

○多職種連携・協働による支援、家族の介護力に応じた支援について理解できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

回数	テーマ	内 容	授業方法
1	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア①	パーソン・センタード・ケア	講義
2	同上②	コミュニケーションの基本的な理解	講義
3	同上③	認知症の人とのコミュニケーション	講義
4	同上④	認知症ケア1(食事、排泄)	講義
5	同上⑤	認知症ケア2(入浴、清潔保持)	講義
6	同上⑥	認知症ケア3(休息と睡眠)	講義
7	同上⑦	認知症ケア4(活動、生きがい)	講義
8	同上⑧	認知症の人へのさまざまなアプローチ	講義
9	同上⑨	認知症の人の終末期医療と介護	講義
10	同上⑩	環境づくり	講義
11	家族への支援①	認知症の人の家族を支える視点	講義
12	同上②	認知症の人の家族へのレスパイトケア	講義
13	連携と協働①	認知症の人の地域生活支援	講義
14	同上②	多職種連携と協働	講義
15	復習とまとめ	これまでの授業のまとめ	講義
16	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座13 『認知症の理解』	
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		科目修了試験: 100%	

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者
障害の理解Ⅰ		講義	鈴木 陽子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (2)	2年(前期)	必修

[授業の目的・ねらい]

障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。

[授業全体の内容の概要]

- 障害のある人の生活を支援する観点から、障害の概念や特性の基礎的な知識を理解する。
- 心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解する。
- 障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を理解する。
- 障害のある人を支える家族の課題や、介護力等に応じた支援について理解する。

[授業終了時の達成課題(達成目標)]

- 障害の基礎的理解ができる。
- 障害のある人の生活を支援するための多職種連携と協働、家族への支援について理解できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

回数	テーマ	内 容	授業方法
1	障害の基礎的理解①	障害の概念	講義
2	同上②	障害者福祉の基本理念1(ノーマライゼーション・リハビリテーション等)	講義
3	同上③	障害者福祉の基本理念2(インクルージョン・エンパワメント等)	講義
4	障害の心理的側面の基礎的理解①	人間の欲求	講義
5	同上②	適応機制	講義
6	同上③	障害受容の過程	講義
7	同上④	心理的支援の方法	講義
8	連携と協働①	地域のサポート体制	講義
9	同上②	障害福祉サービスの提供のしくみ	講義
10	同上③	相談支援事業所等との連携	講義
11	同上④	地域生活支援拠点との連携	講義
12	家族への支援①	家族に障害のある人がいるということ	講義
13	同上②	障害のある人の家族への支援	講義
14	同上③	家族の介護力をふまえた支援	講義
15	復習とまとめ	これまでの授業のまとめ	講義
16	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座14 『障害の理解』	
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		試験: 80%、授業の取り組み: 20%	

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみⅡ		講義	新崎 章
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30	60(4)	1年(前期)	必修
[授業の目的・ねらい]			
介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。			
[授業全体の内容の概要]			
介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する内容とする。			
[授業終了時の達成課題(達成目標)]			
・からだの構造とはたらき及び機能障害について理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	からだのしくみの理解①	各部位の名称、細胞、組織、器官、器官系	講義
2	同上②	骨格・骨格筋系	講義
3	同上③	神経系1	講義
4	同上④	神経系2	講義
5	同上⑤	血液系	講義
6	同上⑥	呼吸器系	講義
7	同上⑦	循環器系1	講義
8	同上⑧	循環器系2	講義
9	同上⑨	消化器系と便の排泄1	講義
10	同上⑩	消化器系と便の排泄2	講義
11	同上⑪	泌尿器系と尿の排泄1	講義
12	同上⑫	泌尿器系と尿の排泄2	講義
13	同上⑬	内分泌系	講義
14	同上⑭	復習(身体各系統の解剖とはたらきについて)	講義
15	まとめ	中間まとめ、評価	
16	同上⑮	感覚器系	講義
17	同上⑯	生殖器系、免疫系	講義
18	同上⑰	老化現象と骨粗鬆症	講義
19	同上⑱	呼吸器系疾患(肺炎、喘息、結核、肺癌)	講義
20	同上⑲	循環器系疾患(虚血性心疾患、高血圧、動脈性疾患)	講義
21	同上⑳	泌尿器科系疾患(感染症、前立腺肥大、腎炎、腎細胞癌)	講義
22	同上㉑	消化器系疾患(胃・十二指腸潰瘍、肝炎、肝硬変)	講義
23	同上㉒	腫瘍の特徴、消化器癌(胃癌、大腸癌、肝癌、胰癌)	講義

2 4	同上㉓	神経・筋疾患1 (脳血管障害、パーキンソン病)	講義
2 5	同上㉔	神経・筋疾患2 (頭部外傷、ALS、筋ジストロフィー)	講義
2 6	同上㉕	内分泌疾患、代謝性疾患	講義
2 7	同上㉖	感染症の分類と重症感染症	講義
2 8	同上㉗	血液疾患、膠原病	講義
2 9	同上㉘	復習 (身体の主な疾患について)	講義
3 0	まとめ	これまでの授業のまとめ、総合評価	講義
3 1	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座 1 1 『こころとからだのしくみ』 配布資料	
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		試験及び出席率、授業態度にて総合的に評価する	

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみIII		講義	鈴木 陽子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30(2)	1年(前期)	必修
[授業の目的・ねらい]			
介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。			
[授業全体の内容の概要]			
生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する内容とする。また、人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する内容とする。			
[授業終了時の達成課題(達成目標)]			
・身じたく、移動、食事、入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみが理解できる。 ・人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみについて理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	移動に関連したこころとからだのしくみ①	移動のしくみ、心身の機能低下が移動に及ぼす影響	講義
2	同上②	変化の気づきと対応	講義
3	身じたくに関連したこころとからだのしくみ①	身じたくのしくみ、心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響	講義
4	同上②	変化の気づきと対応	講義
5	食事に関連したこころとからだのしくみ①	食事のしくみ、心身の機能低下が食事に及ぼす影響	講義
6	同上②	変化の気づきと対応	講義
7	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ①	入浴・清潔保持のしくみ、心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響	講義
8	同上②	変化の気づきと対応	講義
9	排泄に関連したこころとからだのしくみ①	排泄のしくみ、心身の機能低下が排泄に及ぼす影響	講義
10	同上②	変化の気づきと対応	講義
11	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ①	休息・睡眠のしくみ、心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響	講義
12	同上②	変化の気づきと対応	講義
13	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ①	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方、「死」に対するこころの理解	講義
14	同上②	終末期から危篤状態・死後のからだの理解、終末期における医療職との連携	講義
15	復習とまとめ	これまでの授業のまとめ	講義
16	科目終了試験		
使用テキスト		中央法規 最新・介護福祉士養成講座11 『こころとからだのしくみ』	
参考文献			
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		科目終了試験: 100%	

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者		
医療的ケア演習		演習	鈴木 陽子		
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択		
8	10	2年(前期)	必修		
[授業の目的・ねらい]					
医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な技術を習得する学習とする。					
[授業全体の内容の概要]					
安全な喀痰吸引・経管栄養の実施のための確実な手技を習得する内容とする。					
[授業終了時の達成課題(達成目標)]					
介護福祉士に求められる安全な喀痰吸引・経管栄養の手技を身につけることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回数	テーマ	内 容	授業方法		
1	経管栄養の実施手順(演習)①	教員によるデモンストレーションの見学、各自実施	演習		
2	同上②	3~4人を一組として実技演習(5回以上)	演習		
3	同上③	3~4人を一組として実技試験(10回以上)	演習		
4	実技試験	連続3回合格したら終了			
5	喀痰吸引の実施手順(演習)①	教員によるデモンストレーションの見学、各自実施	演習		
6	同上②	3~4人を一組として実技演習(5回以上)	演習		
7	同上③	3~4人を一組として実技試験(10回以上)	演習		
8	実技試験	連続3回合格したら終了			
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座15 『医療的ケア』			
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		授業態度・試験をもとに総合的に評価する			
実務経験のある教員による授業科目の場合) どのような経験を持ち、どのような授業を行うか					
看護師として病院勤務をしてきた経験により医療的ケアの重要性を身に付けてきました。法令改正により介護福祉士でも医療的ケアができるようになり、安全、的確かつ確実な方法を身に付ける指導を行っていきます。人の命に関わる重要な項目であるためにデモンストレーションから慎重な授業を行います。					

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者
レクリエーション実技		実技	山口 榮三
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (1)	2年(前期)	必修

[授業の目的・ねらい]

- 福祉レクの考え方・歩みを学ぶ。
- 福祉レクの展開状況を学ぶ。
- 福祉レクの企画手法・援助技術を身につける。

[授業全体の内容の概要]

福祉レクの支援計画の立案と支援実践ができるように、福祉レクリエーション（以下「福祉レク」）を支える思想、またそれが発展してきた歩みを振り返り福祉レクの具体的な内容とそれが社会福祉の諸領域でどのように展開されているかを学ぶ。そして、福祉レク援助が何を目指して行われるのか、その全体像を理解し、福祉レク援助者としての支援計画立案手法を学ぶ。

[授業終了時の達成課題（達成目標）]

- ・福祉レクの考え方・歩みを簡潔に発表・説明ができる。
- ・福祉レクの展開状況を簡潔に発表・説明ができる。
- ・福祉レクの企画・支援ができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

回数	テーマ	内 容	授業方法
1	福祉レクの意義	福祉レクの意義とその活動の理解及び実技種目の受講方法説明	講義・実技
2	福祉レク援助の実際	援助をリードする際の、声の強弱、立ち位置、説明方法のポイントについて実践を通して考え、学ぶ。	講義・実技
3	レクリエーションの持つセラピューティック（治療的）な効果	体の機能が低下した高齢者にとって、風船や柔らかいボールなどは安全で手軽に使える用具である。	講義・実技
4	福祉レク支援の展開と方法①	各自ゲームの企画をする。	講義・実技
5	福祉レク支援の展開と方法②	ゲーム支援の実践	実技（支援実習）
6	福祉レク支援の展開と方法③	ゲーム支援の実践（一人ひとりが支援をする）	実技（支援実習）
7	福祉レク支援の展開と方法④	ゲーム支援の実践	グループワーク (共同学修)
8	福祉レク支援の展開と方法⑤	ゲーム支援の実践	グループワーク (共同学修)
9	小集団での共同学修①ウォーク・ラリーの企画	チームで共同してウォーク・ラリーの企画を行う。コースの下見を行う。	グループワーク (共同学修)
10	小集団での共同学修②ウォーク・ラリーのコース図作成	ウォーク・ラリーコース図作成方法を学ぶ。	グループワーク (共同学修)
11	小集団での共同学修③ウォーク・ラリー体験	他グループ作成のコース図でウォーク・ラリー体験をする。	講義・実技
12	小集団での共同学修④ウォーク・ラリーの評価	各チームで企画実践したウォーク・ラリー企画の評価を行う。	実技
13	福祉レクプログラム開発①	イベント企画に必要なA-PIEプロセスについて事例を通して学び、グループ作業のスタートとする。	講義と共同学修
14	福祉レクプログラム開発②	グループで養護老人ホームの誕生日会でのプログラムを企画する。柔軟な発想と創造で楽しい企画づくり。	企画書作成共同学修

15	発表	グループごとに、養護老人ホームの誕生日会プログラムの発表を行い、全員で議論（話し合い）する。	発表・議論（話し合い）
16	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献		楽しさをとおして心の元気づくり・レクリエーション支援の理論と方法 公益財団法人日本レクリエーション協会 講師が用意するプリント	
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		<p>A（優）の目安：90点、B（良）の目安：70点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習した内容の理解度。 ・自身の見解を論理的な文章で論じている。 ・発表が論理的である。 ・能動的な受講態度であること。（積極的で、ポイントを的確に理解した発言、発表等） ・発表、発言等に創造性、独自性がみられる。 	

令和5年度 前期

日本語学科用

科目名:会話	講師:吉田美樹	対象学年	
		2年	
		日本語B学科(Ⅰ・Ⅱ共通)	
①進学を希望する学生が入学試験の面接を受けるときに必要な基本的なことを準備し、自信を持って面接に臨めるようにする。 ②ロジカルトレーニング中級を使って、「読解力」「発想力」「表現力」を身に付けることを目指す。			
教科書	日本語ロジカルトレーニング中級(アルク) 進学する留学生のための面接(JDC)		
期末試験			
授業計画	回数	授業内容	備考
	第1回	面接チェックシート 進学する留学生のための面接第1章1、2 日本語ロジカルトレーニング中級第1章ー1、2	通常授業(講義)
	第2回	面接チェックシート 進学する留学生のための面接第1章3、4、5 日本語ロジカルトレーニング中級第1章ー3、4	通常授業(講義)
	第3回	面接チェックシート 進学する留学生のための面接第2章1、2 日本語ロジカルトレーニング中級第2章ー1	通常授業(講義)
	第4回	面接チェックシート 進学する留学生のための面接第2章3、4 日本語ロジカルトレーニング中級第2章ー2	通常授業(講義)
	第5回	面接チェックシート 進学する留学生のための面接第2章5 日本語ロジカルトレーニング中級第2章ー3	通常授業(講義)
	第6回	面接チェックシート 進学する留学生のための面接第3章1、2 日本語ロジカルトレーニング中級第2章ー4	通常授業(講義)
	第7回	面接チェックシート 進学する留学生のための面接第3章3、4 日本語ロジカルトレーニング中級第2章ー5	通常授業(講義)
	第8回	面接チェックシート 進学する留学生のための面接第3章5 日本語ロジカルトレーニング中級第2章ー6	通常授業(講義)
	第9回	面接チェックシート 進学する留学生のための面接第4章1、1ー1～2 日本語ロジカルトレーニング中級第2章ー7	通常授業(講義)
	第10回	面接チェックシート 進学する留学生のための面接第4章1、1ー3～4 日本語ロジカルトレーニング中級第2章ー8	通常授業(講義)
	第11回	面接チェックシート 進学する留学生のための面接第4章2、2ー1～2 日本語ロジカルトレーニング中級第2章ー9	通常授業(講義)
	第12回	面接チェックシート 進学する留学生のための面接第4章3、3ー1～2 日本語ロジカルトレーニング中級第2章ー10	通常授業(講義)
	第13回	面接チェックシート 進学する留学生のための面接第4章3、3ー3～4 日本語ロジカルトレーニング中級第3章ー1	通常授業(講義)
	第14回	面接チェックシート 進学する留学生のための面接第4章3、3ー5～6 日本語ロジカルトレーニング中級第3章ー2	通常授業(講義)
	第15回	面接チェックシート 進学する留学生のための面接第5章1～3 日本語ロジカルトレーニング中級第3章ー3	通常授業(講義)
	第16回	面接チェックシート 進学する留学生のための面接第5章4～6 日本語ロジカルトレーニング中級第3章ー4	通常授業(講義)
	第17回	面接チェックシート 進学する留学生のための面接第5章7～9 日本語ロジカルトレーニング中級第3章ー5	通常授業(講義)
	第18回	面接チェックシート 進学する留学生のための面接第5章10～12 日本語ロジカルトレーニング中級第3章ー6	通常授業(講義)
	第19回	面接チェックシート 進学する留学生のための面接第5章13～16 日本語ロジカルトレーニング中級第3章ー7	通常授業(講義)
	第20回	前期期末試験	
成績評価	出席率	20点	85%以上の出席を必須とする。3回の遅刻で1回の欠席とする。
	期末試験	50点	筆記試験
	授業内評価	10点	授業態度
		20点	授業中の発表等の評価(10点)・提出物(10点)
備考	面接チェックシート(吉田作成) 使用		

令和5年度前期

日本語学科用

科目名:漢字		講師:上西 直子	対象学年 1年 日本語B学科(Ⅰ・Ⅱ共通)		
到科 達目 標要	(前半)漢字の成り立ちや書き方、基本的な漢字を基礎から勉強し、200字程度の漢字を文章の中で理解し書けるようになる。 (後半)既知の言葉や文脈の中で学習しながら書ける漢字と認識できる漢字を増やし、 400字程度の漢字を文章の中で理解し書けるようになる。				
教科書	『みんなの日本語 初級I・II 第2版 漢字練習帳』(スリーエーネットワーク)				
期末試験					
授業 計画	授業内容				
	回数	学習課	漢字練習帳	小テスト	備考
	第1回	数・1・2課	導入・書き順の練習・読み練習		通常授業(講義)
	第2回	3・4課	導入・書き順の練習・読み練習	数・1・2課	通常授業(講義)
	第3回	5・6課	導入・書き順の練習・読み練習	3・4課	通常授業(講義)
	第4回	P.23～26	復習テスト1 導入・練習	5・6課	通常授業(講義)
	第5回	7・8課	導入・書き順の練習・読み練習		通常授業(講義)
	第6回	9・10課	導入・書き順の練習・読み練習	7・8課	通常授業(講義)
	第7回	試験	復習テスト1 確認試験		通常授業(試験)
	第8回	11・12課	導入・書き順の練習・読み練習	9・10課	通常授業(講義)
	第9回	P.45～48	復習テスト2 導入・練習	11・12課	通常授業(講義)
	第10回	13・14課	導入・書き順の練習・読み練習		通常授業(講義)
	第11回	15・16課	導入・書き順の練習・読み練習	13・14課	通常授業(講義)
	第12回	試験	復習テスト2 確認試験		通常授業(試験)
	第13回	17・18課	導入・書き順の練習・読み練習	15・16課	通常授業(講義)
	第14回	P.67～70	復習テスト3 導入・練習	17・18課	通常授業(講義)
	第15回	19・20課	導入・書き順の練習・読み練習		通常授業(講義)
	第16回	21・22課	導入・書き順の練習・読み練習	19・20課	通常授業(講義)
	第17回	23・24課	導入・書き順の練習・読み練習	21・22課	通常授業(講義)
	第18回	試験	復習テスト3 確認試験		通常授業(試験)
	第19回	25課	導入・書き順の練習・読み練習	23・24課	通常授業(講義)
	第20回	P.95～102	復習テスト4 導入・練習 総復習	25課	通常授業(講義)
	第21回	試験	前期期末試験		通常授業(講義)
成績評価	出席率	20点	85%以上の出席を必須とする。3回の遅刻で1回の欠席とする。		
	期末試験	50点	筆記試験		
	授業内評価	10点	授業態度		
		20点	授業内で行った小テストの評価(20点)		
備考					

令和5年度 前期

日本語学科用

科目名:作文		講師:小野康子	対象学年 1年 日本語B学科(I・II共通)
到科 項目 目標要 求	<p>①原稿用紙の使い方を理解し、簡単な自己紹介文や自分の国、趣味などの身近な話題について、既習漢字を使いながら短い文章が書けるようになる。</p> <p>②自身の体験などについて、文章に感想や意見を交えながら、構成を組み立て、書けるようになる。</p>		
教科書	『みんなの日本語初級 第2版 やさしい作文』(スリーエーネットワーク)		
期末試験	原稿用紙の使い方の問題と、授業中に練習した作文の応用問題が出ます。		受験日: 9月 22日
授業 計画	回数	授業内容	備考
	第1回	原稿用紙の使い方の理解	通常授業(講義)
	第2回	【基礎編】ユニット1 「自己紹介」下書き、原稿用紙の使い方の復習	通常授業(講義)
	第3回	【基礎編】ユニット1 「自己紹介」清書、FB	通常授業(講義)
	第4回	【基礎編】ユニット4 「わたしの家族」下書き	通常授業(講義)
	第5回	【基礎編】ユニット4 「わたしの家族」清書、FB	通常授業(講義)
	第6回	【基礎編】ユニット2 「わたしの部屋」下書き	通常授業(講義)
	第7回	【基礎編】ユニット2 「わたしの部屋」清書、FB	通常授業(講義)
	第8回	七夕の紹介、短冊アクティビティ	通常授業(講義)
	第9回	【基礎編】ユニット3 「わたしの国・町」下書き	通常授業(講義)
	第10回	【基礎編】ユニット3 「わたしの国・町」清書、FB	通常授業(講義)
	第11回	【基礎編】 「夏休み」下書き	通常授業(講義)
	第12回	【基礎編】 「夏休み」清書、FB	通常授業(講義)
	第13回	【基礎編】ユニット5 「週末」下書き	通常授業(講義)
	第14回	【基礎編】ユニット5 「週末」清書、FB	通常授業(講義)
	第15回	留学生川柳の紹介、練習、下書き	通常授業(講義)
	第16回	留学生川柳の清書、学内投票準備	通常授業(講義)
	第17回	【基礎編】ユニット7 「プレゼント」下書き	通常授業(講義)
	第18回	【基礎編】ユニット7 「プレゼント」清書、FB	通常授業(講義)
	第19回	前期期末試験 練習	通常授業(講義)
	第20回	前期期末試験	
成績評価	出席率	20点	85%以上の出席を必須とする。3回の遅刻で1回の欠席とする。
	期末試験	50点	筆記試験
	授業内評価	10点	授業態度
		20点	授業内で行った作文の評価(20点)
	備考		

令和5年度 前期

日本語学科用

科目名:作文		講師:小野康子	対象学年 2年 日本語B学科(I・II共通)
到科 達目 目標要 標要	①提示されたテーマについて作文を書き、「書く」力の強化を目指す。 ②テーマに対するアイディアをクラスで共有し、柔軟に考える力を養う。 ③アイディアを論理的に説明するための構成力や表現力を鍛える。 ④試験に対応できるように、短時間で内容をまとめる能力を身につける。		
教科書	日本留学試験 速攻トレーニング 記述(アルク) 学ぼう! ほんご 作文練習帳 中級(専門教育出版)		
期末試験			
授業 計画	回数	授業内容	備考
	第1回	「家族や友達に連絡するなら、メールか電話か」FB、二項対立①「外国语の勉強するなら、その国か自分の国か」アイディア出し、下書き	通常授業(講義)
	第2回	二項対立①「外国语の勉強するなら、その国か自分の国か」清書	通常授業(講義)
	第3回	FB、二項対立②「病気の時、薬を飲むかできるだけ飲まないか」アイディア出し、下書き	通常授業(講義)
	第4回	二項対立②「病気の時、薬を飲むかできるだけ飲まないか」清書	通常授業(講義)
	第5回	FB、二項対立③「旅行する時、多くの場所を回るか、一箇所でゆっくりするか」アイディア出し、下書き	通常授業(講義)
	第6回	二項対立③「旅行する時、多くの場所を回るか、一箇所でゆっくりするか」清書	通常授業(講義)
	第7回	FB、予測①「手紙や葉書を書く人はいなくなると思うか」アイディア出し、下書き	通常授業(講義)
	第8回	予測①「手紙や葉書を書く人はいなくなると思うか」清書	通常授業(講義)
	第9回	FB、予測②「地球上のごみが増えることでどのような問題が起こるか」アイディア出し、下書き	通常授業(講義)
	第10回	予測②「地球上のごみが増えることでどのような問題が起こるか」清書	通常授業(講義)
	第11回	FB、予測③「人間の寿命が更に延びるとすると私達人間に将来どのような問題が起きるか。」アイディア出し、下書き	通常授業(講義)
	第12回	予測③「人間の寿命が更に延びるとすると私達人間に将来どのような問題が起きるか。」清書	通常授業(講義)
	第13回	FB、問題解決①「少子化問題について」アイディア出し、下書き	通常授業(講義)
	第14回	問題解決①「少子化問題について」清書	通常授業(講義)
	第15回	FB、問題解決②「未婚化・晚婚化が進んでいる状況について」アイディア出し、下書き	通常授業(講義)
	第16回	問題解決②「未婚化・晚婚化が進んでいる状況について」清書	通常授業(講義)
	第17回	川柳 アイディア出し、下書き	通常授業(講義)
	第18回	川柳清書	通常授業(講義)
	第19回	川柳発表、応募	通常授業(講義)
	第20回	期末試験練習	通常授業(講義)
	第21回	前期 期末試験	
成績 評価	出席率	20点	85%以上の出席を必須とする。3回の遅刻で1回の欠席とする。
	期末試験	50点	筆記試験
	授業内評価	10点	授業態度
		20点	授業内で行った作文の評価(20点)
備考			

令和5年度 前期

日本語学科用

到科 達目 標要	科目名:聴解①	講師:松井 美穂・吉田美樹	対象学年	
			2年	
			日本語B学科(I・II共通)	
<p>①N3の文法を使った問題をたくさん解いて、慣れるようにします。 ②日常的な会話が聞き取れるようにします。 ③中級の聴解・聽読解問題に挑戦します。</p>				
教科書	日本語総まとめN3聴解(アスク出版) 聴くトレーニング聴解・聽読解 基礎編(スリーエーネットワーク)			
期末試験	授業で習った問題から作成します。		受験日: 9月 15日	
授業 計画	回数	授業内容	備考	
	第1回	総まとめN3聴解 第3章2,3 聽くトレーニング基礎編	通常授業(講義)	
	第2回	総まとめN3聴解 第3章4,5 聽くトレーニング基礎編	通常授業(講義)	
	第3回	総まとめN3聴解 第3章6 聽くトレーニング基礎編	通常授業(講義)	
	第4回	総まとめN3聴解 第4章1,2 聽くトレーニング基礎編	通常授業(講義)	
	第5回	総まとめN3聴解 第4章3,4 聽くトレーニング基礎編	通常授業(講義)	
	第6回	総まとめN3聴解 第4章5 聽くトレーニング基礎編	通常授業(講義)	
	第7回	総まとめN3聴解 まとめ問題 聽くトレーニング基礎編	通常授業(講義)	
	第8回	ニュースの日本語 1課 聽くトレーニング応用編	通常授業(講義)	
	第9回	ニュースの日本語 2課 聽くトレーニング応用編	通常授業(講義)	
	第10回	ニュースの日本語 3課 聽くトレーニング応用編	通常授業(講義)	
	第11回	ニュースの日本語 4課 聽くトレーニング応用編	通常授業(講義)	
	第12回	ニュースの日本語 5課 聽くトレーニング応用編	通常授業(講義)	
	第13回	ニュースの日本語 6課 聽くトレーニング応用編	通常授業(講義)	
	第14回	ニュースの日本語 7課 聽くトレーニング応用編	通常授業(講義)	
	第15回	ニュースの日本語 8課 聽くトレーニング応用編	通常授業(講義)	
	第16回	ニュースの日本語 9課 聽くトレーニング応用編	通常授業(講義)	
	第17回	試験前の復習	通常授業(講義)	
	第18回	前期 期末試験		
成績 評価	出席率	20点	85%以上の出席を必須とする。3回の遅刻で1回の欠席とする。	
	期末試験	50点	筆記試験	
	授業内評価	10点	授業態度	
		20点	小テストの点数(10点)・授業の理解度(10点)	
備考		【その他の使用教科書】 聴くトレーニング聴解・聽読解 応用編(スリーエーネットワーク) 中級からはじめる ニュースの日本語 聴解40(スリーエーネットワーク)		

令和5年度 前期

日本語学科用

科目名:聴解②	講師:村松喜久子・沈佳琦 小数賀友子	対象学年	
		2年	
		日本語B学科(Ⅰ・Ⅱ共通)	
到科達目標要 ①よく似た音の聞き分ける力を向上させる ②自然な文脈がある会話を聞き、内容を把握する力を伸ばす ③日本文化や日本人の生活への関心を深める ④日本語の文章の組み立て方や話の進め方を聴き取る			
教科書	まるごと 日本のことばと文化初級1A2かつどう(三修社) 新 毎日の聞きとり50日上(凡人社)		
期末試験	にほんご能力試験の問題を使用します	受験日: 9月 15日	
授業計画	回数	授業内容	備考
	第1回	「まるごと」12か① 「新毎日の聞きとり50日上」1もしもし	通常授業(講義)
	第2回	「まるごと」12か② 「新毎日の聞きとり50日上」2旗のデザイン	通常授業(講義)
	第3回	「まるごと」12か③ 「新毎日の聞きとり50日上」3海からの便り	通常授業(講義)
	第4回	「まるごと」13か① 「新毎日の聞きとり50日上」4カラスのカーチちゃん	通常授業(講義)
	第5回	「まるごと」13か② 「新毎日の聞きとり50日上」5たためるピアノ	通常授業(講義)
	第6回	「まるごと」13か③ 「新毎日の聞きとり50日上」6日本人と果物	通常授業(講義)
	第7回	「まるごと」13か④ 「新毎日の聞きとり50日上」7待つ時間・待たせる時間	通常授業(講義)
	第8回	「まるごと」14か① 「新毎日の聞きとり50日上」8震度3	通常授業(講義)
	第9回	「まるごと」14か② 「新毎日の聞きとり50日上」9世界の人口	通常授業(講義)
	第10回	「まるごと」14か③ 「新毎日の聞きとり50日上」10牛丼の作り方	通常授業(講義)
	第11回	「まるごと」14か④ 「新毎日の聞きとり50日上」11ドライアイ	通常授業(講義)
	第12回	「まるごと」15か① 「新毎日の聞きとり50日上」12日本の地方都市	通常授業(講義)
	第13回	「まるごと」15か② 「新毎日の聞きとり50日上」13横断歩道	通常授業(講義)
	第14回	「まるごと」15か③ 「新毎日の聞きとり50日上」14弁当の日	通常授業(講義)
	第15回	「まるごと」15か④ 「新毎日の聞きとり50日上」15コンビニ図書館	通常授業(講義)
	第16回	「まるごと」16か① 「新毎日の聞きとり50日上」16右回りの時計	通常授業(講義)
	第17回	前期期末試験	
成績評価	出席率	20点	85%以上の出席を必須とする。3回の遅刻で1回の欠席とする。
	期末試験	50点	筆記試験
	授業内評価	10点	授業態度
		20点	授業内で行ったテストの点数(10点)・提出物(10点)
備考		5分でできる にほんご音の聞きわけトレーニング(スリーエーネットワーク)	

科目名:聴解/会話		講師:松井美穂・吉田美樹 斎藤広美	対象学年 1年 日本語B学科(Ⅰ・Ⅱ共通)				
到科 達目 標要	①初級の基本的な文型や語彙を使って話された、ゆっくりの発話を聞き、理解できるようになる。 ②正確な発音、発声を学習し、初級前半の基本的な文型と語彙を使って、学校生活や日常生活において遭遇する場面で必要なコミュニケーションができるようになる。 ③初級後半レベルの文型と語彙を使って、学校生活や日常生活において必要な説明、意見交換、相談などのやりとりができるようになる。						
教科書	『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 聴解タスク25』(スリーエーネットワーク) 『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ 第2版本冊』(スリーエーネットワーク) 『まるごと日本のことばと文化 初級1A2 かつどう』(三修社) 『まるごと日本のことばと文化 入門A1』(三修社) 『考える・理解する・伝える力が身につく 日本語ロジカルトレーニング初級』(アルク)						
期末試験							
授業 計画	回数	授業内容			備考		
	本冊練習C	ロジカルトレーニング	まるごと日本のことばと文化 入門A1	聴解タスク25	その他		
	L14, 15				通常授業(講義)		
			22~30	L14	本冊会話部分CD⇒シャドーイング練習		
			P.32~50	L15	本冊会話部分CD⇒シャドーイング練習		
	L16		P52~55		通常授業(講義)		
	L17		p.56~65		通常授業(講義)		
				L16, 17	本冊会話部分CD⇒シャドーイング練習		
	L18, 19		P.66~70		通常授業(講義)		
				L18, 19	本冊会話部分CD⇒シャドーイング練習		
	L20		P.74~82		通常授業(講義)		
			P.83~92	L20	本冊会話部分CD⇒シャドーイング練習		
	L21		P.94~102		通常授業(講義)		
			P.104~107	L21	本冊会話部分CD⇒シャドーイング練習		
	L22		P.108~113		通常授業(講義)		
			まるごと日本のことばと文化 初級1A2かつどう	L22	本冊会話部分CD⇒シャドーイング練習		
	L23		P.22~31		通常授業(講義)		
				L23	本冊会話部分CD⇒シャドーイング練習		
	L24		P.34~45		通常授業(講義)		
			~P.53	L24	本冊会話部分CD⇒シャドーイング練習		
	L25		P.54~60		通常授業(講義)		
			P.62~67	L25	本冊会話部分CD⇒シャドーイング練習		
	第21回	総復習	P.68~79		通常授業(講義)		
					みんなの日本語初級Ⅰ 総復習		
	L26	第1章 1			通常授業(講義)		
			P.80~85	L26	本冊会話部分CD⇒シャドーイング練習		
	L27	第1章 2			通常授業(講義)		
			P.90~95	L27	本冊会話部分CD⇒シャドーイング練習		
	L28	第1章 3			通常授業(講義)		
			P.96~109	L28	本冊会話部分CD⇒シャドーイング練習		
	L29	第2章 1			通常授業(講義)		
			P.110~114	L29	本冊会話部分CD⇒シャドーイング練習		
	L30	第2章 2前半			通常授業(講義)		
			P.115~119	L30	本冊会話部分CD⇒シャドーイング練習		
	第33回	期末試験復習	第2章 2後半		通常授業(講義)		
			P.120~125	期末試験復習	通常授業(講義)		
	第34回	試験	前期期末試験		通常授業(試験)		
成績 評価	出席率	85%以上の出席を必須とする。3回の遅刻で1回の欠席とする。					
	期末試験	筆記試験・会話試験					
	授業態度						
	授業内で行った小試験の評価(20点)						
備考							

令和5年度 前期

日本語学科用

科目名: 読解		講師: 上西直子	
		対象学年 2年 日本語B学科(Ⅰ・Ⅱ共通)	
到科達目標要 ①日本社会や文化などに幅広く触れる ②やや長めの文章に慣れ、その内容を理解する ③知らない言葉があつても、おおよその見当がつけられる ④文章を読むだけでなく、筆者の主張について考える ⑤まとまった文章をある程度のスピードで読んで理解する			
教科書 読解厳選テーマ25 (凡人社)			
期末試験		受験日: 9月19日	
授業計画	回数	授業内容	
	第1回	1-01 日本の生活①	
	第2回	1-02 ラジオ体操 1-03 今年の漢字	
	第3回	1-04 イノシシやシカを食べよう 1-05 ようこそ不人気県へ	
	第4回	1-06 日本の生活② 1-07 ハジビロコウ	
	第5回	1-08 ピブリオ・バトル 1-09 今どきの女子高校生	
	第6回	1-10 デートのお金はだれが出す? 1-11 日本の生活③	
	第7回	1-12 「親切な店員さん」 1-13 コミックマーケット	
	第8回	1-14 変化を続けるバレンタインデー 1-15 化粧の力	
	第9回	1-16 日本の生活④ 1-17 本当の忍者	
	第10回	1-18 握り寿司、しょう油のつけ方は? 1-19 くまモン-がんばれ熊本	
	第11回	1-20 人間にしかできない仕事 1-21 日本の生活⑤	
	第12回	1-22 北枕は縁起が悪い 1-23 マスク依存症	
	第13回	1-24 飲みニケーション 1-25 「この電車にはご乗車できません」	
	第14回	2-01 シンデレラ 2-02 ネコはネコにかえる	
	第15回	2-03 ツアルツアーナムジル 2-04 花咲かじいさん	
	第16回	2-05 野口英世 3-014 コマ漫画「豆柴くん」 3-02 宝物を探せ!	
	第17回	3-03 カタカナ・クロスワード 3-04 荷物を受け取る 3-05 詩を読む	
	第18回	前期期末試験	
成績評価	出席率	20点	85%以上の出席を必須とする。3回の遅刻で1回の欠席とする。
	期末試験	50点	筆記試験
	授業内評価	10点	授業態度
		20点	授業中の発表等の評価(10点)・提出物(10点)
備考			

令和5年度 前期

日本語学科用

科目名:文型①		講師:後藤桂子・林奈美 音成佐矢子	対象学年 2年 日本語B学科(I・II共通)
到科 達目 標要	①中文程度の文章が読めるようになる。 ②N3文型の例文や練習問題にたくさん触れることで、文型の定着をはかる。 ③語彙力を身につける。 ④「習うより慣れる」ことで表現を身につける。		
教科書	『中級へ行こう 日本語の文型と表現55 第2版』(スリーエーネットワーク) 『日本語総まとめN3文法』(アスク)		
期末試験			
授業 計画	回数	授業内容	備考
授業 計画	第1回	中級へ行こう 9課①(新出語彙・学習項目)	通常授業(講義)
	第2回	中級へ行こう 9課②(学習項目)	通常授業(講義)
	第3回	中級へ行こう 9課③(学習項目・本文・本文QA・チェックシート)	通常授業(講義)
	第4回	中級へ行こう 9課④(聴解タスクシート・漢字・音読) 10課①(新出語)	通常授業(講義)
	第5回	中級へ行こう 10課②(学習項目)	通常授業(講義)
	第6回	中級へ行こう 10課③(学習項目)	通常授業(講義)
	第7回	中級へ行こう 10課④(本文・本文QA・チェックシート・聴解タスクシート・漢字・音読)	通常授業(講義)
	第8回	中級へ行こう 総合練習問題	通常授業(講義)
	第9回	総まとめ 第6週1日目、2日目-①	通常授業(講義)
	第10回	総まとめ 第6週2日目-②、3日目	通常授業(講義)
	第11回	総まとめ 第6週4日目、5日目-①	通常授業(講義)
	第12回	総まとめ 第6週5日目-②、6日目	通常授業(講義)
	第13回	総まとめ 第6週7日目FB、第5週1日目	通常授業(講義)
	第14回	総まとめ 第5週目2日目、3週目-①	通常授業(講義)
	第15回	総まとめ 第5週3日目-②、4日目	通常授業(講義)
	第16回	総まとめ 第5週5週目、6日目-①	通常授業(講義)
	第17回	総まとめ 第5週6日目-②、第4週1日目	通常授業(講義)
	第18回	総まとめ 第5週7日目FB、第4週2日目	通常授業(講義)
	第19回	総まとめ 第4週3日目、4日目-①	通常授業(講義)
	第20回	総まとめ 第4週4日目-②、5日目	通常授業(講義)
	第21回	総まとめ 第4週6日目、7日目	通常授業(講義)
	第22回	前期期末試験	
成績 評価	出席率	20点	85%以上の出席を必須とする。3回の遅刻で1回の欠席とする。
	期末試験	50点	筆記試験
	授業内評価	10点	授業態度
		20点	授業内で行ったテストの点数(10点)・提出物(10点)
備考			

令和5年度 前期

日本語学科用

科目名:文型②	講師:村松喜久子・矢島美香	対象学年	
		2年	
		日本語B学科(I・II共通)	
到科達目標要 ①N3レベルの文法項目を形や接続が似ている文型と一緒に学ぶ ②1日に3~4つの文法項目を学ぶ ③翌週に既習項目を使い短文作りをしながら理解度を確認しつつ授業を進める ④各ユニットの7回目は日本語能力試験形式の実践問題を行い試験問題に慣れる			
教科書	『日本語総まとめN3文法』(アスク)		
期末試験		受験日: 9月 22日	
授業計画	回数	授業内容	備考
	第1回	1w:1日目(P14 受身 / P15 使役+てください)、2日目(P16 Vないと)	通常授業(講義)
	第2回	1w:2日目(P16 Vちやう/ P17 Vとく)、3日目(P18 ~みたい・らしい/ P19 ~っぽい)	通常授業(講義)
	第3回	1w:4日目(P20・P21 ~ように)、5日目(P22 ~ように)	通常授業(講義)
	第4回	1w:5日目(P23 ~ように)、6日目(P24・25 Vよう)	通常授業(講義)
	第5回	2w:1日目(P30 ~ばかり・だけしか・さえ/ P31 こそ)、2日目(P32 ~に関して・について)	通常授業(講義)
	第6回	2w:2日目(P32 Nによれば/ P33 Nによって)、3日目(P34 ~さ・み・こと/ P35 ~の)	通常授業(講義)
	第7回	2w:4日目(P36・P37 ~といいう)、5日目(P38 ~といいう)	通常授業(講義)
	第8回	2w:5日目(P39 ~といっても)、6日目(P40 Vでごらん・Vよう・V命令&禁止と/ P41 Vてくれ)	通常授業(講義)
	第9回	3w:1日目(P46 ~ても/ P47 Vすに)、2日目(P48 ~として・にしては)	通常授業(講義)
	第10回	3w:2日目(P48 ~にしても/ P49 ~としたら)、3日目(P50 ~つもり・はず・べき/ P51 Vたもの)	通常授業(講義)
	第11回	3w:4日目(P52 ~ついでに・たびに・たとん/ P53 ~最中に)、5日目(P54 ~まま・っぽなし)	通常授業(講義)
	第12回	3w:5日目(P54 ~とおり/ P55 Nきり)、6日目(P56 ~がる・Vでほしい/ P57 ~ふりをする)	通常授業(講義)
	第13回	JLPT N3文法問題練習1	通常授業(講義)
	第14回	JLPT N3文法問題練習2	通常授業(講義)
	第15回	JLPT N3文法問題練習3	通常授業(講義)
	第16回	JLPT N3文法問題練習4	通常授業(講義)
	第17回	JLPT N3文法問題練習5	通常授業(講義)
	第18回	JLPT N3文法問題練習6	通常授業(講義)
	第19回	前期期末試験	
成績評価	出席率	20点	85%以上の出席を必須とする。3回の遅刻で1回の欠席とする。
	期末試験	50点	筆記試験
	授業内評価	10点	授業態度
		20点	授業内で行ったテストの点数(10点)・提出物(10点)
備考			

令和5年度前期4~5月

日本語学科用

科目名:文型				講師:林奈美・後藤桂子・音成佐矢子 小数賀友子・村松喜久子・ 矢島美香・村上幸子	対象学年	
					1年	
					日本語B学科(I・II共通)	
到科達目標要		①正確な文字表記、発音、発声、挨拶等の定型文の定着や簡単な日常会話及び日本語構文の習得を中心に、四技能(読む・聞く・話す・書く)のバランスが取れた基礎日本語力の養成を目指す。人物や、趣味、好き嫌いなどについて、単純な紹介ができるようになる。 ②基礎的な文法項目において文章の読み書きや聞き取り能力の習得を中心に、四技能(読む・聞く・話す・書く)のバランスが取れた理解力、運用力の養成を目指す。日常的な場面で、相手の簡単な要求を聞いたり、自分の意見を伝えたりすることができるようになる。				
教科書		『みんなの日本語初級 I・II 第2版本冊』(スリーエーネットワーク) 『みんなの日本語初級 I・II 第2版標準問題集』(スリーエーネットワーク) 『みんなの日本語初級 I・II 第2版文型練習帳』(スリーエーネットワーク) 『みんなの日本語初級 I・II 第2版翻訳・文法解説』(スリーエーネットワーク)				
期末試験				受験日: 9月 19日		
授業計画	回数	授業内容				
		学習課	本冊A練習+その他	本冊B練習	文型練習帳	
	第1回	L14	新出語彙		動詞のグループ分け、て形活用練習	
	第2回	L14	A1-3	B1-5	動詞のグループ分け、て形活用練習	
	第3回	L14	A4	B6-7	P. 68	
	第4回	L14	課末問題		本冊C(P. 106~109)、標準問題集宿題	
	第5回	L14	課末試験			
	第6回	L15	新出語彙、A1-2	B1-3	P. 70	
	第7回	L15	A3-4	B4-6		
	第8回	L15	課末問題		P. 71、72、標準問題集宿題	
	第9回	L15	課末試験			
	第10回	L16	新出語彙、A1-2	B1-4	P. 74#2 復習D宿題	
	第11回	L16	A3-4	B5-8	P. 74#3, 76, 77	
	第12回	L16	課末問題 復習Dの宿題FB		標準問題集宿題	
	第13回	L16	課末試験			
	第14回	L17	新出語彙、A1-2	B1-2	P. 79、81 ない形導入活用練習	
	第15回	L17	A3-4	B3-7	P. 82(宿題表現)	
	第16回	L17	A5、課末問題	B8	P. 84 標準問題集宿題	
	第17回	L17	課末試験			
	第18回	L18	新出語彙、A1-2	B1-3	P. 86、88#4 標準問題集宿題(P. 37~40)	
	第19回	L18	A3-4	B4-6	P. 89#5、90 C-2	
	第20回	L18	A5	B7-8	P. 89、91	
	第21回	L19	課末問題、L19新出語彙		標準問題集宿題	
	第22回	L18	課末試験			
成績評価	出席率	20点	85%以上の出席を必須とする。3回の遅刻で1回の欠席とする。			
	期末試験	50点	筆記試験			
	授業内評価	10点	授業態度			
		20点	授業内で行った課末試験の評価(20点)			
備考						

令和5年度前期6月

日本語学科用

科目名:文型 到科 目概 要	講師:林奈美・後藤桂子・音成佐矢子 小坂賀友子・村松喜久子・ 矢島美香・村上幸子	対象学年					
		1年					
		日本語B学科(I・II共通)					
①正確な文字表記、発音、発声、挨拶等の定型文の定着や簡単な日常会話及び日本語構文の習得を中心に、四技能(読む・聞く・話す・書く)のバランスが取れた基礎日本語力の養成を目指す。人物や、趣味、好き嫌いなどについて、単純な紹介ができるようとする。 ②基礎的な文法項目において文章の読み書きや聞き取り能力の習得を中心に、四技能(読む・聞く・話す・書く)のバランスが取れた理解力、運用力の養成を目指す。日常的な場面で、相手の簡単な要求を聞いたり、自分の意見を伝えたりすることができるようとする。							
教科書	『みんなの日本語初級 I・II 第2版本冊』(スリーエーネットワーク) 『みんなの日本語初級 I・II 第2版標準問題集』(スリーエーネットワーク) 『みんなの日本語初級 I・II 第2版文型練習帳』(スリーエーネットワーク) 『みんなの日本語初級 I・II 第2版翻訳・文法解説』(スリーエーネットワーク)						
期末試験		受験日: 9月 19日					
授業 計 画	回数	授業内容					備考
学習課	本冊A練習+その他	本冊B練習	文型練習帳	その他			
第1回	L19	新出語彙、A1—2	B1—2	P. 93, 94 #3			通常授業(講義)
第2回	L19	A3—4	B3—5	P. 94 #4	「～たり～たり」の後件変換練習		通常授業(講義)
第3回	L19	課末問題		P. 96	標準問題集宿題		通常授業(講義)
第4回	復習	復習E		P. 97~100			通常授業(講義)
第5回	L19	課末試験					通常授業(試験)
第6回	L20	新出語彙		P. 101, 102	丁寧、普通の概念と普通体の練習		通常授業(講義)
第7回	L20	A1—2前半 (普通体導入練習)	B1—4	P. 103			通常授業(講義)
第8回	L20	A2後半(疑問形～)	B5—8	P. 104			通常授業(講義)
第9回	L20	後続句の普通体		P. 105, 107			通常授業(講義)
第10回	L20	課末問題 L21 新出語彙			標準問題集宿題		通常授業(講義)
第11回	L20	課末試験					通常授業(試験)
第12回	L21	A1—2	B1—5	P. 109			通常授業(講義)
第13回	L21	A3—4	B6—8	P. 110			通常授業(講義)
第14回	L21	(副詞の整理) →課末問題		P. 111, 112	標準問題集宿題		通常授業(講義)
第15回	L21	課末試験					通常授業(試験)
第16回	L22	新出語彙、A1—2	B1—3	P. 115			通常授業(講義)
第17回	L22	A3—6	B4—8	P. 113, 114			通常授業(講義)
第18回	L22	課末問題		P. 117, 118	標準問題集宿題		通常授業(講義)
第19回	L22	課末試験					通常授業(試験)
第20回	L23	新出語彙、A1—2	B1—2	P. 119			通常授業(講義)
第21回	L23	A3—4	B3—6	P. 120			通常授業(講義)
第22回	L23	課末問題		P. 125	標準問題集、復習F宿題		通常授業(講義)
第23回	L23	道案内の練習 復習FのFB		P. 122~124			通常授業(講義)
第24回	L23	課末試験					通常授業(試験)
成績 評価 基準	出席率	20点	85%以上の出席を必須とする。3回の遅刻で1回の欠席とする。				
	期末試験	50点	筆記試験				
	授業内評価	10点	授業態度				
		20点	授業内で行った課末試験の評価(20点)				
備考							

科目名:文型		講師:林奈美・後藤桂子・音成佐矢子 小数賀友子・村松喜久子・ 矢島美香・村上幸子		対象学年			
				1年			
				日本語B学科(I・II共通)			
到科 達成 目標要 求		①正確な文字表記、発音、発声、挨拶等の定型文の定着や簡単な日常会話及び日本語構文の習得を中心に、四技能(読む・聞く・話す・書く)のバランスが取れた基礎日本語力の養成を目指す。人物や、趣味、好き嫌いなどについて、単純な紹介ができるようにする。 ②基礎的な文法項目において文章の読み書きや聞き取り能力の習得を中心に、四技能(読む・聞く・話す・書く)のバランスが取れた理解力、運用力の養成を目指す。日常的な場面で、相手の簡単な要求を聞いたり、自分の意見を伝えたりすることができるようとする。					
教科書		『みんなの日本語初級 I・II 第2版本冊』(スリーエーネットワーク) 『みんなの日本語初級 I・II 第2版標準問題集』(スリーエーネットワーク) 『みんなの日本語初級 I・II 第2版文型練習帳』(スリーエーネットワーク) 『みんなの日本語初級 I・II 第2版翻訳・文法解説』(スリーエーネットワーク)					
期末試験							
授業 計画	回数	授業内容				備考	
		学習課	本冊A練習+その他	本冊B練習	文型練習帳		
	第1回	L24	新出語彙 A1-2	B1-2	P. 126		通常授業(講義)
	第2回	L24	A3-5	B3-7	P. 127	助詞が変わる特別な動詞について 導入練習	通常授業(講義)
	第3回	L24	課末問題		P. 129, 130	標準問題集宿題	通常授業(講義)
	第4回	L24	課末試験				通常授業(試験)
	第5回	L25	新出語彙 A1-2	B1-3	P. 131(たら)		通常授業(講義)
	第6回	L25	A3-4	B4-7	P. 131(ても)		通常授業(講義)
	第7回	L25	課末問題		P. 132, 134	標準問題集宿題	通常授業(講義)
	第8回	L25	課末試験				通常授業(試験)
	第9回	復習	本冊P220~223(G)			P.224~227宿題	通常授業(講義)
	第10回	復習	本冊P224~227 (練習G宿題FB)		P.135~138	活用・副詞の総復習	通常授業(講義)
	第11回	復習	P.135~138(宿題FB)			助詞接続の総復習 標準問題集P.57~60	通常授業(講義)
	第12回	復習	P.57~60(宿題FB)				通常授業(講義)
	第13回	復習	標問 P.61~64				通常授業(講義)
	第14回	確認 試験	1~25課 250点復習テスト①実施+FB(答え合わせ)				通常授業(試験)
	第15回	確認 試験	1~25課 250点復習テスト②実施+FB(答え合わせ)				通常授業(試験)
	第16回	確認 試験	1~25課 250点復習テスト③実施+FB(答え合わせ)				通常授業(試験)
	第17回	L26	新出語彙、A1、A2	B1	P. 2	普通形復習	通常授業(講義)
	第18回	L26	A2-3 (疑問詞+んですか)	B2-4	P. 3(26課3)、4		通常授業(講義)
	第19回	L26	A4-6	B5-7	P. 5		通常授業(講義)
	第20回	L26	課末問題		P. 6	標準問題集宿題	通常授業(講義)
成績 評価	出席率	20点	85%以上の出席を必須とする。3回の遅刻で1回の欠席とする。				
	期末試験	50点	筆記試験				
	授業内評価	10点	授業態度				
		20点	授業内で行った課末試験の評価(20点)				
備考							

科目名:文型		講師:林奈美・後藤桂子・音成佐矢子 小畠賀友子・村松喜久子・ 矢島美香・村上幸子		対象学年 1年 日本語B学科(Ⅰ・Ⅱ共通)		
到科 達目 目標 要 教科書	①正確な文字表記、発音、発声、挨拶等の定型文の定着や簡単な日常会話及び日本語構文の習得を中心に、四技能(読む・聞く・話す・書く)のバランスが取れた基礎日本語力の養成を目指す。人物や、趣味、好き嫌いなどについて、単純な紹介ができるようとする。 ②基礎的な文法項目において文章の読み書きや聞き取り能力の習得を中心に、四技能(読む・聞く・話す・書く)のバランスが取れた理解力、運用力の養成を目指す。日常的な場面で、相手の簡単な要求を聞いたり、自分の意見を伝えたりすることができるようとする。					
『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ 第2版本冊』(スリーエーネットワーク)						
『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ 第2版標準問題集』(スリーエーネットワーク)						
『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ 第2版文型練習帳』(スリーエーネットワーク)						
『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ 第2版翻訳・文法解説』(スリーエーネットワーク)						
期末試験				受験日: 9月 19日		
授業 計 画	回数	授業内容				備考
学習課	本冊A練習+その他	本冊B練習	文型練習帳	その他		
第1回	L26	課末試験			通常授業(試験)	
第2回	L27	新出語彙、A1-2	B1-3	P. 8, 10(27課4)	通常授業(講義)	
第3回	L27	A3-5	B4-6	P.11(27課7)	通常授業(講義)	
第4回	L27	A6、課末問題	B7	P. 13	標準問題集宿題	
第5回	L27	課末試験			通常授業(試験)	
第6回	L28	新出語彙、A1-2	B1-3	P. 14	通常授業(講義)	
第7回	L28	A3-4	B4-5	P. 15	※「それで」の使い方、「それに」との違い確認(C-2)	
第8回	L28	A5、課末問題	B6	P. 17(28課5)	標準問題集宿題	
第9回	L28/29	L29 新出語彙		P. 18, 19 ⇒21(29課2)	通常授業(講義)	
第10回	L28	課末試験			通常授業(試験)	
第11回	L29	A1-2	B1-3	P. 20, 21	自動詞他動詞の導入練習	
第12回	L29	A3-4	B4-7	P. 22⇒23	通常授業(講義)	
第13回	L29	課末問題		P. 24, 25	標準問題集宿題	
第14回	L29	課末試験			通常授業(試験)	
第15回	L30	新出語彙、A1-2	B1-2	P. 26, 28	通常授業(講義)	
第16回	L30	A3-4	B3-5	P. 27	通常授業(講義)	
第17回	L30	A5	B6	P. 29, 30, 31	自動詞他動詞復習	
第18回	L30	課末問題 本冊H (P.42~43)			標準問題集宿題	
第19回	L30	課末試験			通常授業(試験)	
第20回	L31	新出語彙、A1-2	B1	P. 33, 35	通常授業(講義)	
第21回	L31	A3-5	B2-6	P. 38	通常授業(講義)	
第22回	L31	A6、課末問題	B7-8	P. 40	標準問題集宿題	
第23回	L31	課末試験			通常授業(試験)	
第24回	復習	前期期末試験復習			通常授業(講義)	
第25回	試験	前期期末試験			通常授業(試験)	
成績評価	出席率	20点	85%以上の出席を必須とする。3回の遅刻で1回の欠席とする。			
	期末試験	50点	筆記試験			
	授業内評価	10点	授業態度			
		20点	授業内で行った課末試験の評価(20点)			
備考						

令和5年度 前期

日本語学科用

科目名: 文字語彙	講師: 斎藤広美	対象学年	
		2年	
		日本語B学科(Ⅰ・Ⅱ共通)	
到科 達目 目標要 標要	①テキストに沿って、N3レベルの語彙を習得する。 ②テーマ毎に習得した語彙の意味を理解し、読み書きできるようにする。 ③定期的にテストを実施し、語彙の定着を図る。 ④速読のテキストを使用し速く正確にたくさん読む力をつける。		
教科書	はじめての日本語能力試験N3単語2000(アスク) にほんご速読チャレンジ100(ユニコム)		
期末試験	はじめての日本語能力試験N3単語2000を使用します。	受験日: 9月 19日	
授業 計画	回数	授業内容	備考
	第1回	Chapter ①家族②友だちと知り合い にほんご速読100	通常授業(講義)
	第2回	③恋人④コミュニケーション にほんご速読100	通常授業(講義)
	第3回	⑤どんな人? Chapter2①時の表現 Chapter1復習	通常授業(講義)
	第4回	Chapter1まとめテスト にほんご速読100	通常授業(講義)
	第5回	Chapter ②食生活③料理の道具と材料 にほんご速読100	通常授業(講義)
	第6回	④料理の作り方⑤家事 Chapter2復習	通常授業(講義)
	第7回	Chapter2まとめテスト にほんご速読100	通常授業(講義)
	第8回	Chapter ①家②お金と銀行 にほんご速読100	通常授業(講義)
	第9回	③買い物④朝から夜まで にほんご速読100	通常授業(講義)
	第10回	⑤こんなことも Chapter4①町のようす Chapter3復習	通常授業(講義)
	第11回	Chapter3まとめテスト にほんご速読100	通常授業(講義)
	第12回	Chapter ②町を歩く③電車と新幹線 にほんご速読100	通常授業(講義)
	第13回	④バス⑤運転する Chapter4復習	通常授業(講義)
	第14回	Chapter4まとめテスト にほんご速読100	通常授業(講義)
	第15回	Chapter ①学校②勉強 にほんご速読100	通常授業(講義)
	第16回	③日本の大学④試験 にほんご速読100	通常授業(講義)
	第17回	⑤もっとがんばれ! 期末試験勉強	通常授業(講義)
	第18回	前期期末試験	
成績 評価	出席率	20点	85%以上の出席を必須とする。3回の遅刻で1回の欠席とする。
	期末試験	50点	筆記試験
	授業内評価	10点	授業態度
		20点	授業内で行ったテスト(N3単語2000)の点数(20点)
備考			

令和5年度 前期

日本語学科用

科目名:文法	講師:岩瀬 智子・後藤桂子	対象学年	
		2年	
		日本語B学科(Ⅰ・Ⅱ共通)	
到科 達目 標要	<p>①テキストに沿って日本語の基礎能力(「読む」・「聞く」・「話す」・「書く」)を総合的に底上げする。 ②中級レベルの語彙に慣れ、簡単な日本語で言い換えられるようになるよう、語彙力をつける。 ③N3レベルの文法表現を身に付け、状況別に使いこなせるようになる。 ④さまざまなテーマに沿った作文が、③の表現を使いながら書けるようになることを目指す。</p>		
教科書	『中級を学ぼう 日本語の文型と表現56』(スリーエーネットワーク)		
期末試験			
授業 計画	回数	授業内容	備考
	第1回	中級を学ぼう 第1課(とびら・語彙)	通常授業(講義)
	第2回	中級を学ぼう 第1課(小テスト・文型前半)	通常授業(講義)
	第3回	中級を学ぼう 第1課(小テスト・文型後半・内容確認・チェックシート)	通常授業(講義)
	第4回	中級を学ぼう 第1課(小テスト・プラスα・作文)	通常授業(講義)
	第5回	中級を学ぼう 第2課(小テスト・とびら・語彙)	通常授業(講義)
	第6回	中級を学ぼう 第2課(小テスト・文型前半)	通常授業(講義)
	第7回	中級を学ぼう 第2課(小テスト・文型後半・内容確認・チェックシート)	通常授業(講義)
	第8回	中級を学ぼう 第2課(小テスト・プラスα・作文)	通常授業(講義)
	第9回	中級を学ぼう 第3課(小テスト・とびら・語彙)	通常授業(講義)
	第10回	中級を学ぼう 第3課(小テスト・文型前半)	通常授業(講義)
	第11回	中級を学ぼう 第3課(小テスト・文型後半・内容確認・チェックシート)	通常授業(講義)
	第12回	中級を学ぼう 第3課(小テスト・プラスα・作文)	通常授業(講義)
	第13回	中級を学ぼう 第4課(小テスト・とびら・語彙)	通常授業(講義)
	第14回	中級を学ぼう 第4課(小テスト・文型前半)	通常授業(講義)
	第15回	中級を学ぼう 第4課(小テスト・文型後半・内容確認・チェックシート)	通常授業(講義)
	第16回	中級を学ぼう 第4課(小テスト・プラスα・作文)	通常授業(講義)
	第17回	中級を学ぼう 第5課(小テスト・とびら・語彙)	通常授業(講義)
	第18回	中級を学ぼう 第5課(小テスト・文型前半)	通常授業(講義)
	第19回	期末試験前 復習	通常授業(講義)
	第20回	中級を学ぼう 第5課(小テスト・文型後半・内容確認・チェックシート)	通常授業(講義)
	第21回	中級を学ぼう 第5課(小テスト・プラスα・作文)	通常授業(講義)
	第22回	前期期末試験	
成績 評価	出席率	20点	85%以上の出席を必須とする。3回の遅刻で1回の欠席とする。
	期末試験	50点	筆記試験
	授業内評価	10点	授業態度
		20点	授業内で行ったテストの点数(10点)・提出物(10点)
備考			